

2024年度  
シラバス

札幌大谷大学短期大学部

2024年度 札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部 シラバス目次

保育科対象科目

■必修科目・保育科教養科目

5014600初年次教育・情報リテラシー
5014701日本語コミュニケーション演習（口語表現）
5014801日本語コミュニケーション演習（文書表現）
5014900仏教と保育

■必修科目・保育科専門科目

5015000教育原理
5015100保育原理
5015200特別研究Ⅰ（音楽）
5015300特別研究Ⅰ（美術）
5015400特別研究Ⅰ（健康）
5015500特別研究Ⅰ（自然）
5015600特別研究Ⅰ（子育て支援・特別支援）
5015700保育者論

■選択科目・保育科教養科目

5015800環境科学
5015900社会人基礎
5016001情報処理
5016100日本国憲法
5016201英語（口語表現）
5016301英語（文書表現）
5016400体育理論
5016501体育実技

■選択科目・保育科専門科目

5016600社会福祉
5016700子ども家庭福祉
5016800社会的養護Ⅰ
5016901社会的養護Ⅱ
5017000乳児保育Ⅰ
5017002乳児保育Ⅱ
5017101乳児保育Ⅲ
5017200保育の心理学
5017300子どもの保健
5017400教育課程論
5017501子ども家庭支援論
5017601児童文学
5017700子ども家庭支援の心理学
5017800教育相談の基礎
5017900臨床心理学

5018001子どもの理解と援助
5018101保育内容総論
5018201保育音楽Ⅰ(浅沼先生)
5018301保育音楽Ⅱ(浅沼先生)
5018401保育音楽Ⅲ(江田先生)
5018409保育音楽Ⅲ(石橋先生)
5018410保育音楽Ⅲ(小杉先生)
5018501保育音楽Ⅳ(江田先生)
5018601特別支援教育と保育(理論)
5018701特別支援教育と保育(実践)
5018801総合表現
5018900保育美術
5019001子どもの食と栄養
5019100特別研究Ⅱ(音楽)
5019200特別研究Ⅱ(美術)
5019300特別研究Ⅱ(健康)
5019400特別研究Ⅱ(自然)
5019500特別研究Ⅱ(子育て支援・特別支援)
5019601幼児と環境
5019701幼児と健康
5019801幼児と言葉
5019901幼児と人間関係
5020001幼児と表現
5020101保育内容(言葉)
5020201保育内容(健康)
5020301保育内容(人間関係)
5020401保育内容(環境)
5020501保育内容(表現Ⅰ「音楽」)
5020601保育内容(表現Ⅱ「美術」)
5020700幼児教育の方法と技術
5020801子どもの健康と安全
5020901子育て支援
5021000保育・教職実践演習(幼)
5021101保育実習指導Ⅰ
5021201保育実習指導Ⅱ
5021300保育実習指導Ⅲ
5021400保育実習ⅠA
5021500保育実習ⅠB
5021600保育実習Ⅱ
5021700保育実習Ⅲ
5021801教育実習Ⅰ
5021900教育実習Ⅱ

専攻科保育専攻対象科目

■必修科目・専攻科保育専攻専門科目

X003500発達心理学特論Ⅰ
X003600発達心理学特論Ⅱ
X003700幼児教育課程特論

■選択科目・専攻科保育専攻専門科目

X003800障害児教育臨床
X003900保育健康特論
X004000教育相談特論
X004100子育て支援特論Ⅰ
X004200子育て支援特論Ⅱ
X004300表現法「音楽」
X004400表現法「美術」
X004500子どもと自然環境
X004600保育内容研究「音楽」
X004700保育内容研究「美術」
X004800保育内容研究「健康」
X004900保育内容研究「造形」
X005000保育内容研究「言葉」
X005100教育原理特論
X005200日本語表現法
X005300保育人間関係特論Ⅰ
X005400保育人間関係特論Ⅱ
X005500子どもの特別支援と精神保健
X005600保育環境特論
X005700保育音楽特論
X005800保育美術特論
X005900基礎ゼミナール
X006001修了研究
X006100幼稚園実習
X006200保育所実習
X006300施設実習

■選択科目・専攻科保育専攻専門関連科目

X006400仏教思想史特論Ⅰ
X006500仏教思想史特論Ⅱ
X006600実用英語
X006700情報処理演習
X006800職業論
X006900仏教文化史



授業科目	日本語コミュニケーション演習（口語表現）ab						
担当教員	藪 淳一	配当年次	1年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-LA 1205			ワケマド科目	
授業概要							
<p>保育者に必要な資質として、いま、コミュニケーション能力がますます求められています。職場の同僚や保護者との対話はもちろん、子どもを相手にする日々の保育そのものも、コミュニケーションです。授業では、「伝える」「聞く」というコミュニケーションの基本を学ぶとともに、特に「相手に伝わるように話す」口語表現に重点をおいた演習を行います。発声・発音の反復練習や実践的な演習を通じて、人前で話す経験を重ね、自分の思いや考えをしっかりと思考力と、相手にきちんと伝えるスピーチ力を身につけます。</p>							
到達目標							
<p>① コミュニケーションに関する基本的な知識と技術を知り、様々な場面で応用することができる。          ② 自分の思いや考えを相手に伝わるように理路整然と話すことができる。          ③ 人前で自信をもって話ができる。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>○ 1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。          2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。          3. 協調性：社会の様々な問題に関心に向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。          4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
授業内での発表		50%					
授業内試験		30%					
授業への態度		20%					
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』							
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験あり			
この科目は、元放送局社員で「話す」「伝える」ことに関する実務経験のある教員が実践的教育を行います。							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
日々のコミュニケーションにおいても、「話す」ことと「聞く」ことへの意識を高め、実践すること。発声練習、発音練習、滑舌練習を定期的に行うこと。「考える」習慣を身につけておくこと。				1時間程度/週			
受講時の注意事項							
積極的に声を出して、授業に参加してください。また、他者の話し方を学びの参考にするとともに、多様な意見に耳を傾けるようにしてください。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス、呼吸と発声	授業の概要説明。腹式呼吸の基本と正しい発声の仕方を学びます。
第2週	他人紹介	他人を紹介するワークを通して、人前で話す経験を積むとともに、クラスの仲を深めます。
第3週	発音練習、滑舌練習、アクセント	オリジナルの練習テキストを使い、発音練習、滑舌練習を繰り返します。アクセントの基本について学びます。
第4週	コミュニケーションの基本① 伝える・聞く	「伝える」ことと「聞く」ことの基本的スキルを、実践を通して身につけます。
第5週	コミュニケーションの基本② 非言語コミュニケーション	非言語コミュニケーションの重要性と活用法を学びます。
第6週	話し合いの実践① 意見を出す、意見聞く	グループでの実践を通して、話し合いを活性化するために必要なことを考えます。
第7週	話し合いの実践② 合意形成	グループでの実践を通して、多様な意見を出し合い折り合うことの大切さを学びます。
第8週	保育を伝える	保護者に保育を伝える場面を想定し、話し方のポイントを考えます。
第9週	朗読と素話	発声練習や滑舌練習を活かし、ストーリーを語る練習をします。
第10週	プレゼンテーションの基本	相手に伝わるプレゼンテーションの基本について学びます。
第11週	プレゼンテーション演習	与えられた情報をもとに簡単な原稿を作成し発表します。
第12週	動画で学ぶアロの話し方	プレゼンテーションの達人や有名な語りから、伝わる話し方のポイントについて考えます。
第13週	プレゼンテーション原稿作成	プレゼンテーションコンテストに向けた原稿を、各自作成します。
第14週	プレゼンテーションコンテスト	全員がプレゼンテーションを行い、思いや考えを伝える経験をします。
第15週	授業内試験（筆記）とまとめ	コミュニケーションに関する筆記試験を行い、最後に授業全体を振り返ります。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	日本語コミュニケーション演習（文書表現）						
担当教員	山田 千春	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-LA 1206			ワケマド科目	
授業概要							
① 文書で表現することにより、大学生・社会人として求められるコミュニケーション能力を身につける。 ② 論理的な文章を読むことで自分の考えを論理的に表現する方法を知り、表現力の向上を図る。"							
到達目標							
① 論理的な文章を読み、要約する力を身につける。 ② 様々な文章を読み、自分の思考を深め、意見や主張を述べることができる。 ③ 一つの主題に対して、対立する複数の主張を読み、自分の主張を論理的に文章で表現できる。"							
学科のディプロマ・ポリシー							
○ 1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。							
2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。							
3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。							
4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。							
成績評価方法・基準							
内容	割合 (%)	内容	割合 (%)				
課題提出（提出物の内容、提出期限を守れているか）	50%						
ニュースの発表、ブックトークの発表	20%						
レポート	30%						
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
「なし。授業内で適宜、資料を配付します。」							
参考書等							
「なし。授業内で指示します。」							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
日常的に読書したり、新聞記事に目を通すようにしてください。				1時間から2時間程度/週			
受講時の注意事項							
わからない語句がある場合必ず調べる習慣を身につけるようにしてください。授業内で課題のフィードバックを行う。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	シラバスを基に、授業内容の説明や評価方法を確認する。
第2週	文章読解の基本	新聞記事を読むことのメリットを考え、新聞記事を提示し感想文を書く。（提出）
第3週	文章読解の演習	感想文と意見文の違いを説明する。新聞記事を提示し、それを読んで意見文を書く。（提出）
第4週	文章要約の基本	文章の要約ポイントを説明し、練習問題に取り組む。
第5週	レジュメ、レポート、論文の違い	レジュメ、レポート、論文についてそれぞれの特徴を説明する。引用の仕方や引用文献の示し方を確認する。
第6週	課題文を読み、主張文を書く	提示した課題文を読み、それに対して主張文を作成する。（提出）
第7週	一つのテーマに関する異なる主張を読み、自分の主張文を書く①	文章構成と自らの主張を裏付ける具体例の書き方を説明する。一つのテーマに関する異なる主張を読み、自らの主張をまとめる。
第8週	一つのテーマに関する異なる主張を読み、自分の主張文を書く②	文章の構成を考えて、主張文を作成する。（提出）
第9週	ブックトーク、ブックレポートとは何か	ブックトーク、ブックレポートについて説明する。ブックレポートについては課題図書を提示する。
第10週	ブックトーク①	童話、昔話の中から好きなお話を選び、ブックトークの原稿を作成する。
第11週	ブックトーク②	グループ内でブックトークの発表を行い、相互評価をする。
第12週	ブックレポート①	課題図書の読解と要約文の作成をする。
第13週	ブックレポート②	課題図書の読解と要約文の作成をする。
第14週	ブックレポート③	課題図書の読解と要約文の作成をする。
第15週	ブックレポート④	考察・まとめの作成をする。（レポート提出）
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	仏教と保育						
担当教員	千葉 潤/宮本 浩尊	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-LA 1101			ワデマド科目	
授業概要							
<p>札幌大谷大学は、鎌倉時代の僧侶、親鸞聖人（1173-1263）の仏教思想（浄土真宗）を建学の精神に据える大学です。仏教は、今から2500年前のインドで誕生した宗教です。その思想は、アジア各地の文化に多大な影響を及ぼしました。日本文化の基礎にも、仏教の影響が色濃く認められます。札幌大谷大学は、この仏教思想を教育の基礎に置いています。この授業では、仏教思想の基礎を学ぶことを通して、仏教の思考法と、日本文化の背景を理解すると共に、札幌大谷大学で学ぶ意義について考えます。</p>							
到達目標							
<p>① 仏教の思考法を知り、生活の中で活用することができる。          ② 古典に触れることで、人類の教養を知ることができる。          ③ 日本文化の基底にある思想を知ることができる。          ④ 札幌大谷大学で学ぶ意義について考えることができる。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>○ 1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。          2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。          3. 協調性：社会の様々な問題に関心に向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。          4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
平常点（出席・課題の提出等）		50%					
授業内試験		50%					
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
「なし。授業内で適宜、資料を配布します。」							
参考書等							
なし。授業内で適宜、資料を配布します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無					実務経験あり		
この科目は、真宗大谷派僧侶として実務経験のある教員が実践的教育を行っています。							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
講義ノートの内容を整理して、復習ノートを作成すること。				2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
考える姿勢を身につける。単に「わからない」で終わらせるのではなく、「何がわからないのか」を考える習慣を身につけ、それを表現できるようにしてほしい。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							
この科目は主要授業科目です。							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	学長からのメッセージ動画を視聴する。授業の内容、目的、計画、評価方法の確認などを行う。
第2週	建学の精神について知る	札幌大谷大学の建学の精神を読み、その意味を考える。
第3週	仏教とは何か	仏教の基本的な思想について講義する。
第4週	仏教の誕生	仏教の開祖、釈尊の生涯について講義する。
第5週	大乘仏教の成立	大乘仏教の思想について講義する。
第6週	中国・朝鮮仏教史	中国・朝鮮半島における仏教思想史について講義する。
第7週	仏教と古代の日本	飛鳥時代から奈良時代までの日本仏教思想史について講義する。
第8週	平安時代の仏教	平安時代の日本仏教思想史について講義する。
第9週	鎌倉時代の仏教	鎌倉時代の日本仏教思想史について講義する。
第10週	鎌倉時代から室町時代の仏教	鎌倉時代から室町時代までの日本仏教思想史について講義する。
第11週	近世の仏教	江戸時代の日本仏教思想史について講義する。
第12週	仏教と幼児教育①	釈尊の残したことば（経典）を踏まえて幼児教育について考える。
第13週	仏教と幼児教育②	釈尊の残したことば（経典）を踏まえて幼児教育について考える。
第14週	仏教と幼児教育③	釈尊の残したことば（経典）を踏まえて幼児教育について考える。
第15週	まとめと授業内試験	講義のまとめを行い、授業内試験を行う。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		



授業科目		教育原理					
担当教員	横関 理恵	配当年次	1年生	開講期	前期前半	単位数	2
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 1303			ワケマド科目	
授業概要							
<p>教育にかかわる問題が、家庭、学校、保育現場で毎日のように話題に上がる。しかし、改めて、「教育とは何か・どうあるべきか」と問われると答えに困ることがあるのではないかと、その問いを改めて考えることは、将来、人間の成長・発達に関わる仕事に就く受講生にとって不可欠なことだと考える。本講義では、教育に関する基礎的知識を理解し、それを基盤として、よりよい教育・保育活動の実現に取り組むことのできるような力量を身に付けることをねらいとする。</p> <p>国民の教育を受ける権利について規定している日本国憲法第26条を基盤に、教育の意義・目的、教育思想の歴史の変遷、教育制度について学習し、基本的な知識を身に付ける。また、その際、子どもと保護者・家庭のウェル・ビーイングについて考え、その関連性を理解する。さらに、具体的な事例を用いて、学校・保育施設における教育実践のさまざまな取り組みや、学校・保育施設と家庭・地域における諸問題について学習し、その解決策について考察する。</p>							
到達目標							
<p>到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わりについて理解し、正しく説明できる。</li> <li>・教育の思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解し、正しく説明できる。</li> <li>・教育の制度について理解し、正しく説明できる。</li> <li>・学校、幼稚園および保育施設における教育実践の様々な取り組みやそこの課題について理解し、その解決策を述べることができる。</li> </ul>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。</p> <p>○ 2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。</p> <p>3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。</p> <p>4. 知識活用：各々の関心に基き得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合(%)	内容		割合(%)		
最終レポート		40%					
リアクションペーパー		40%					
グループワークの貢献度（知識・技術・主体性・協働）		20%					
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
『教育原理』		矢野龍雄	中央法規	2019	978-4-8058-5782-3		
参考書等							
エミール（上）、ルソー、岩波書店、1962 育での心（上）、倉橋惣三、フレーベル館、2008 人間の教育（上）、フレーベル、岩波書店、1964							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
予習・復習の具体的な内容は、上記の授業計画にある【事前学修】【事後学修】を確認すること。				2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
<p>本講義は、教員免許状の取得を前提とする講義であるので、教員を目指す意思をもって臨んでほしい。この科目は、講義形式を基本としますが、アクティブラーニングにおけるディスカッション、グループワークがあります。そこで自らが考えたことをリアクションペーパーに積極的に書いてもらいたい。それを基に、次の授業の最初にフィードバックを行い、その後、ディスカッションで理解を深めるためです。ま</p>							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション：教育の意義等	【事前学修】シラバスを読んでおく。教科書（第1講）を読み、人間にとつての教育の必要性について確認しておく。 【講義内容】本講では、教育を受ける者から教育・保育を実践する者になるため、教育を学ぶ教育目標等
第2週	教育の目的：教育理念と教育目的・教育目標等	【事前学修】教科書（第2講）を読み、教育理念（日本国憲法、教育基本法、学校教育法）を確認しておく。自らの学校体験を振り返り教育の目的の必要性についてグループディスカッションをする。 【講義内容】本講では、教育を受ける者から教育・保育を実践する者になるため、教育を学ぶ教育目標等
第3週	乳幼児期の教育の特性：乳幼児の発達「感覚・能力」、「10の姿」、非認知能力等	【事前学修】教科書（第3講）を読み、幼稚園教育要領（第1章、総則 幼稚園教育の基本）について確認しておく。 【講義内容】本講では、乳幼児期の教育で育みたいこと、育むものの方や考え方、育み方や教育と子ども家庭福祉との関連性、子ども家庭福祉法、幼児小連携・接続、育ちの連続性等
第4週	教育と子ども家庭福祉との関連性：児童福祉法、幼児小連携・接続、育ちの連続性等	【事前学修】教科書（第4講）を読み、児童福祉施設にはどのような施設があるか確認しておく。 【講義内容】本講では、教育と子ども家庭福祉の関連性について、児童福祉法の理念・子ども育ちの連続性等
第5週	人間形成と家庭・地域社会：教育基本法と保育所保育指針、家庭・地域社会と環境等	【事前学修】教科書（第5講）を読み、教育基本法（家庭教育）第10条、地域社会の変化と保育所の役割について確認しておく。 【講義内容】本講では、教育基本法や保育所保育指針に示されている家庭教育や地域の教育力
第6週	諸外国の教育思想：ルソー、フレーベル、ペスタロッチ等	【事前学修】教科書（第6講）を読み、近代教育思想家（ルソー、フレーベル、ペスタロッチ）について確認しておく。図書館で上記の近代教育思想家に関する任意の書籍を読んでおくこと
第7週	諸外国の教育の歴史：諸外国における公教育の発展、諸外国における幼児教育の発展等	【事前学修】教科書（第7講）を読み、諸外国における公教育の発展について確認しておく。 【講義内容】本講では公教育の進展とともに現れた幼児教育の実践について解説する。モンテッソーリ教育に関する映像資料を視聴して、グループディスカッションを行う。
第8週	日本の教育思想・歴史：江戸時代、明治期の幼児教育、戦後社会の変化と幼児教育等	【事前学修】教科書（第8講）を読み、江戸時代から現在に至る教育の概要について確認しておく。 【講義内容】本講では、江戸時代から明治期の教育、日本における幼稚園教育の始まりについて確認しておく。
第9週	子ども観と教育観：近代的子ども観の登場と歴史的変遷とその展開、戦時体制下の幼児教育等	【事前学修】教科書（第9講）を読み、日本・西洋における近代的子ども観の登場と歴史的変遷について確認しておく。 【講義内容】本講では、日本と西洋の子ども観と教育観について、その登場の背景、及び歴史
第10週	教育制度の基本：教育に関する権利と法制度、教育格差問題、保育施設に保育保護と格差	【事前学修】教科書（第10講）を読み、日本の教育制度、教育を受ける権利、教育委員会、義務教育について確認しておく。 【講義内容】本講では、教育の制度化の様子と学校の特徴など教育制度の基本的なことを解説
第11週	教育の法律と行政：教育を規定する法律、学校経営、学校評価、学校選択策【グループディスカッション】	【事前学修】教科書（第11講）を読み、教育を規定する法律（日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学校教育法施行令、学校教育法施行規則）について確認しておく。 【講義内容】本講では、日本の現在の教育について現行法の規定内容を解説する。映像資料を
第12週	諸外国の教育制度：諸外国の教育問題—教育の格差と教育の質の向上等【グループワーク】	【事前学修】教科書（第12講）を読み、諸外国の教育制度について確認しておく。 【講義内容】本講では、諸外国の教育制度について解説する。諸外国の保育・幼児教育の実践の特徴、実践例について調べるグループワークをする。
第13週	教育実践の基礎：我が国の保育内容、保育方法、計画と評価、保育記録とカンファレンス	【事前学修】教科書（第13講）を読み、カリキュラム、保育内容（5領域）、保育方法と形態を確認しておく。 【講義内容】本講では、教育・保育の計画の基礎となるカリキュラムの基礎的な考え方を解説
第14週	さまざまな教育実践：フレーベル理論、モンテッソーリ理論、レジジョ・エミリア・アプローチ等	【事前学修】教科書（第14講）を読み、フレーベル理論、モンテッソーリ理論、レジジョ・エミリア・アプローチ、森の幼稚園、シュタイナー幼稚園について確認しておく。 【講義内容】本講では、幼稚園を創設したフレーベルの実践、モンテッソーリの実践から幼児
第15週	まとの、生涯学習社会における教育の現状と課題、生涯学習の概念と基礎理論、教育政策等	【事前学修】教科書（第15講）を読み、生涯学習の概念と日本の生涯学習政策について確認しておく。 【講義内容】本講では、生涯学習の基本について解説し、現代の教育課題に対する国の政策動
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目		保育原理					
担当教員	大澤 亜里	配当年次	1 年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 1301			ワケマド 科目	
授業概要							
<p>保育に関する基礎的知識を習得し、これからの保育のあり方について考えます。授業では保育の思想および実践の歴史、子ども親や子どもの権利の歴史について学び、保育とは何か、保育において大事なことは何かを考えます。また現行の保育所保育指針および幼稚園教育要領に示されている保育の原理について学び、現在の保育のあり方や目指す方向性について考えます。さらに子ども・家族を取り巻く現在の社会状況について学び、保育の課題について考えます。</p>							
到達目標							
<p>① 現在の保育や保育制度、社会の現状について説明することができる。          ② 保育の意義および目的について説明することができる。          ③ 保育の目標を達成するためにはどのような保育が行われるべきか、授業で習得した知識をもとに自分の意見を述べるることができる。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。          ○ 2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。          3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。          4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
毎回の授業後に提出するリアクションペーパーの内容		60%					
学期末の授業内試験		40%					
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
『保育所保育指針解説』		厚生労働省	フレーベル館	2018			
『幼稚園教育要領解説』		文部科学省	フレーベル館	2018			
『幼稚園認定こども園教育・保育要領解説』		内閣府・文部科学省・厚生労働省	フレーベル館	2018			
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
授業後には教科書やノートの見直しをするとともに、配付資料や参考文献をよく読み、理解を深めてください。また現在の保育に関して、新聞やニュース等ではどのような問題が取り上げられているかチェックしてください。				2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
授業は基本的に講義形式で進めていきますが、毎回の授業の最初にリアクションペーパーのフィードバックや、リアクションペーパーの内容に関するディスカッションを行いますので、自分の考えや意見等を積極的に書いてください。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるディスカッションの要素を含む授業です。							
備考							
この科目は主要授業科目です。							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス：保育の意義と目的	保育原理の授業で学ぶことについて知る。保育の定義や保育の意義について学ぶ。
第2週	保育の歴史①諸外国における保育の思想と実践の歴史	日本の保育・幼児教育に影響を与えた人物の思想や実践について学ぶ。
第3週	保育の歴史②日本における保育の思想と実践の歴史	外国から入ってきた保育の思想や方法は、日本でどのように広まっていったのか学ぶ。過去の保育の思想は、現在の保育にどのような影響を与えているか考える。
第4週	保育の原理①保育の目標	保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園の特性と保育の目標について学ぶ。
第5週	保育の原理②保育の内容と方法	目標・ねらい・内容の関係について学ぶ。環境を通して行う保育とはどのような保育か、またその意義は何かを学ぶ。
第6週	保育の原理③保育の計画と評価	保育の計画とは何か、またその意義について学ぶ。保育の観察、評価とは何か、またその意義について学ぶ。
第7週	子ども親の歴史	自身の子ども親・保育親を自覚する。子ども親が歴史的にどう変遷してきたのかを学ぶ。
第8週	子どもの権利と保育①子どもの権利の歴史	子どもの権利という概念がなぜ大事なのか、その歴史的背景から学ぶ。
第9週	子どもの権利と保育②“権利主体”として子どもを捉える	“権利の主体”とはどういうことか学ぶ。コルチャックの思想や実践について学ぶ。
第10週	子どもの権利と保育③子どもの権利を保障する保育	子どもの権利条約の内容を理解した上で、保育者に必要な姿勢について学ぶ。
第11週	子ども理解と保育	子どもを理解するとはどういうことか、またそれがなぜ保育において重要なのか学ぶ。
第12週	保育の現状と課題①子ども・子育て家族を取り巻く社会の状況	少子化および待機児童問題について学び、必要な対策について考える。
第13週	保育の現状と課題②子ども・子育て支援新制度とこれからの保育	子ども・子育て支援新制度の概要について学び、その課題と改善策について考える。
第14週	保育の現状と課題③保育者の専門性と労働条件	保育労働力不足の背景について学ぶ。保育の質を確保するためには何が必要か考える。
第15週	授業全体のまとめと授業内試験	これまでの授業についての質疑応答をする。授業内試験を受ける。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	特別研究Ⅰ(音楽)						
担当教員	松井 亜樹	配当年次	1年生	開講期	通年	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択必修		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 1802			ワケマド科目	
授業概要							
① 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を踏まえ、保育者として必要な基礎的知識、音楽理論および技能を学ぶ。 ② 音楽に興味を持ち、歌うこと、演奏することによって、音楽表現の多様性を理解する。							
到達目標							
① 実際の音楽活動を通じ、音楽の楽しさを子どもと共有できる技術を習得することができる。 ② 弾き歌いや簡単な伴奏付けができる。 ③ 教材研究を含めた歌唱、器楽、鑑賞の各指導法について実践的な考察を行い、保育現場で活かすことができる							
学科のディプロマ・ポリシー							
1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。							
2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。							
3. 協調性：社会の様々な問題に関心に向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。							
○ 4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。							
成績評価方法・基準							
内容	割合(%)	内容	割合(%)				
実技	50%						
提出物	30%						
日常の取り組み状況	20%						
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
『ピアノ曲評きき歌い童謡曲』豊かな音楽表現のために』	浅沼厚穂、國谷繁義、松井聖樹、他	楽文社	2020	4874460887			
『こどものうた200』	小林美実編	チャイルド本社	1996	4805400021			
『親子こどものうた200』	小林美実編	チャイルド本社	1996	4805400021			
参考書等							
『最もわかりやすい楽典入門』坪野春枝著 kmp、『幼稚園教育要領』(文部科学省)、『保育所保育指針』(厚生労働省)、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(内閣府・文部科学省・厚生労働省)							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験あり			
この科目は音楽指導の経験を有する教員が実践的教育を行います。							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
授業内で次の時間までの課題(歌唱、ピアノ)が提示されるので、練習してから受講してください。				2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
授業内に実施した課題のフィードバックを行います。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。							
備考							
この科目は主要授業科目です。							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	音楽は何を育てるか、生活の歌	皆さんにとって音楽とはどのようなものでしょうか。子どもの表現と大人の表現の違いなども学びます。 毎日の生活で歌われている歌「あさのうた」「おはようのうた」「おべんとう」「おかえりのうた」の中でイメージを豊かにして様々な表現を楽しめるような表現活動を紹介します。
第2週	保育者に求められる音楽技術力とは	音の理屈と幼児の表現の新たな展開として実際にサウンドスカープの活動も取り込みます。生活の歌「おやつ」「おかたづけ」「どこでしよう」「おててをあらいましょう」「はを春の歌「ちようちよう」「チューリップ」「こいのほり」「おほながわらった」を歌います。
第3週	季節の歌(春)①	
第4週	子ども向けミュージカルの鑑賞① 前半	子ども向けのミュージカルを観て、演じている人がどのようなことに気を付けて演じているのか学びます。
第5週	子ども向けミュージカルの鑑賞② 後半	子ども向けミュージカルの続きを観ます。
第6週	幼児の身体的発達と音楽	子どもの発達に即した音楽的発達の過程について学びます。発声器官の発達と運動機能の発達について知ることで適切に援助できるようにします。身近なものと関わりを持ち、感性が育つよう手作り楽器も作りま
第7週	季節の歌(春)②	春の歌「めだかのがつこう」「かわいいかくれんぼ」「おかあさん」「すてきなパパ」「おつかいありさん」を歌います。
第8週	季節の歌(春)③	雨にまつわる歌「かたつむり」「雨」「あめふり」「だからあめふり」「あめふりくまのこ」「にじ」を歌います。
第9週	年齢別の歌と異年齢保育の歌	現場では年齢別で歌われることが多いですが、異年齢保育の場合どのような曲を選択したらいいか学びます。
第10週	ミュージカル鑑賞① 前半	ミュージカルを鑑賞します。役者の表情、姿勢、演技などに注目して観てみましょう。
第11週	ミュージカル鑑賞② 後半	ミュージカルの続きを鑑賞します。大道具、小道具、衣装などに注目して観てみましょう。
第12週	季節の歌(夏)①	夏の歌「たなばたさま」「うみ」「うみ(一宮道子)」「みずあそび」「おぼけなんてないさ」「うみのそこにはあいうち」を歌います。
第13週	季節の歌(夏)②	夏の歌「手のひらをたいように」「ヤッホッホなつやすみ」「はなび」「南の島のハメハメハ大王」「とんでったバナナ」を歌います。
第14週	季節の歌(夏)③	夏の歌「ぼくのミックスジュース」「イルカはザンブラコ」「キャンプだホイ」「アイスクリーム」「アイスクリームのうた」を歌います。
第15週	前期歌唱実技とまとめ	前期に取り組んだ歌の中から1曲歌います。
第16週	季節の歌(秋)①	秋の歌「とんぼのめがね」「どんぐりころころ」「いもほり」「やきいもグーチャーパー」「でぶいもちゃんちびいもちゃん」を歌います。
第17週	季節の歌(秋)②	秋の歌「まつぼっくり」「まっかな秋」「ゆうやけこやけ」「もみじ」「赤とんぼ」「村祭り」を歌います。
第18週	ミュージカル鑑賞③ 前半	ミュージカルを鑑賞します。役者の表情、姿勢、演技などに注目して観てみましょう。
第19週	ミュージカル鑑賞④ 後半	ミュージカルの続きを鑑賞します。大道具、小道具、衣装などに注目して観てみましょう。
第20週	季節の歌(秋)③、行進曲(マーチ)	秋の歌「大きなりの木の下で」「証城寺の狸ばやし」「ちいさい秋みつけた」「きのこ」「にんげんっていいな」を歌います。 また、現場でよく弾かれている行進曲(マーチ)の中からそれぞれの進度に合わせて1曲弾きま
第21週	季節の歌(冬)①	冬の歌「北風小僧のかんたろう」「たきび」「こぎつね」「コンコンクジャンのうた」「ゆき」を歌います。
第22週	季節の歌(冬)②	冬の歌「サンタクロース」「あわてんぼうのサンタクロース」「ジングルベル」「赤鼻のトナカイ」を歌います。
第23週	オペラ鑑賞① 前半	ミュージカルの前身となるオペラを鑑賞します。ミュージカルとの違いについても学びましょ
第24週	オペラ鑑賞② 後半	オペラの続きを鑑賞します。役者の演技や歌唱について注目してみましょう。
第25週	季節の歌(冬)③	冬の歌「おしょうがつ」「まめまき」「うれしひいなまつり」「ゆきのこぼろず」「ゆきのペンキやさん」を歌います。
第26週	季節の歌(冬)④	卒園の歌「おもいでのアルバム」「さよならほくたちのほくいえん(ようちえん)」「ありがとうところをこめて」を歌います。
第27週	保育者が抱える音楽指導の課題	現場ではマーチングや、リトミック、合奏などさまざまな表現活動が取り入れられています。活動の実態について探りながら、指導法や保育者の課題についても学びます。
第28週	簡易伴奏、伴奏付け	簡易伴奏の方法(強拍の所は音が抜けないよう、根音・第三音は省略しない)を学び、実践してみます。
第29週	行進曲実技とまとめ	取り組んだ行進曲を1曲弾きます。
第30週	後期歌唱実技とまとめ	後期に取り組んだ歌の中から1曲歌います。

授業科目	特別研究Ⅰ(美術)						
担当教員	加藤 雅子	配当年次	1年生	開講期	通年	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択必修		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 1801			ワケマド 科目	
授業概要							
様々な材料を使ったものづくりを通し、素材の違いなど体験を通じて学び、感性を磨く。幼児の造形活動を考える上で必要な考え方や知識、技術を学ぶ。芸術作品の鑑賞などを通して美術への理解を深める。							
到達目標							
自然素材(木材、粘土、羊毛など)や描画材等を使い、材料の特性を生かした制作ができるようになる。幼児の興味や遊びにふさわしい色や形や機能を考え、具現化できるようになる。							
学科のディプロマ・ポリシー							
<input type="checkbox"/> 1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。 <input type="checkbox"/> 3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。							
成績評価方法・基準							
	内容	割合(%)	内容	割合(%)			
	完成作品	70%					
	参加態度・提出物等	30%					
教科書・ソフト等							
	書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
	「なし。授業内で適宜、資料を配付します。」						
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験あり			
小中学校で図工・美術を指導							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
	予習・復習の具体的な内容			予習・復習に必要な時間			
	身の回りにある自然素材に着目し、質感や形の特長などにどんな良さがあるか物を見て確かめてください。SNS等を通していろいろなアイデアを考えてください。			2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
作業に応じてジャージやエプロンを用意してください。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。							
備考							
この科目は主要授業科目です。							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス(ねらい・内容紹介)	・授業のねらいや内容について、環境を活かした教育と美術について ・評価について ・授業の準備について
第2週	色々な自然素材について	幼児と造形の素材や技法についての演習
第3週	自然素材1を生かしたものづくり① テーマの設定	あらかじめ決められた材料や用具を用いて各自が作成したい作品のテーマや構想の設定
第4週	自然素材1を生かしたものづくり② 制作	あらかじめ決められた材料や用具を用いて各自が作成したい作品の制作①
第5週	自然素材1を生かしたものづくり③ 制作	あらかじめ決められた材料や用具を用いて各自が作成したい作品の制作②
第6週	自然素材1を生かしたものづくり④ 制作	あらかじめ決められた材料や用具を用いて各自が作成したい作品の制作③
第7週	自然素材1を生かしたものづくり⑤ 制作	あらかじめ決められた材料や用具を用いて各自が作成したい作品の制作④
第8週	自然素材1を生かしたものづくり⑥ 制作	あらかじめ決められた材料や用具を用いて各自が作成したい作品の制作⑤
第9週	アート鑑賞1	美術館または屋外でのアート鑑賞
第10週	アート鑑賞2	美術館または屋外でのアート鑑賞
第11週	自然素材2や描画材などを生かした ものづくり①テーマの設定	あらかじめ決められた材料や用具を用いて各自が作成したい作品のテーマや構想の設定
第12週	自然素材2や描画材などを生かした ものづくり②制作	あらかじめ設定した材料や用具を用いて各自が作成したい作品の制作①
第13週	自然素材2や描画材などを生かした ものづくり③制作	あらかじめ決められた材料や用具を用いて各自が作成したい作品の制作②
第14週	自然素材2や描画材などを生かした ものづくり④制作	あらかじめ決められた材料や用具を用いて各自が作成したい作品の制作③
第15週	自然素材2や描画材などを生かした ものづくり⑤制作	あらかじめ決められた材料や用具を用いて各自が作成したい作品の制作④
第16週	自然素材3や描画材などを生かした ものづくり①テーマの設定	自分で考えた材料や用具を用いて各自が作成したい作品のテーマや構想の設定
第17週	自然素材3や描画材などを生かした ものづくり②アイデアスケッチ	自分で考えた材料や用具を用いて各自が作成したい作品の制作のアイデアスケッチ
第18週	自然素材3や描画材などを生かした ものづくり③制作	自分で考えた材料や用具を用いて各自が作成したい作品の制作①
第19週	自然素材3や描画材などを生かした ものづくり④制作	自分で考えた材料や用具を用いて各自が作成したい作品の制作②
第20週	自然素材3や描画材などを生かした ものづくり⑤制作	自分で考えた材料や用具を用いて各自が作成したい作品の制作③
第21週	自然素材3や描画材などを生かした ものづくり⑥制作	自分で考えた材料や用具を用いて各自が作成したい作品の制作④
第22週	自然素材3や描画材などを生かした ものづくり⑦制作	自分で考えた材料や用具を用いて各自が作成したい作品の制作⑤
第23週	自然素材3や描画材などを生かした ものづくり⑧制作	自分で考えた材料や用具を用いて各自が作成したい作品の制作⑥
第24週	自然素材3や描画材などを生かした ものづくり⑨制作	自分で考えた材料や用具を用いて各自が作成したい作品の制作⑦
第25週	自然素材3や描画材などを生かした ものづくり⑩制作	自分で考えた材料や用具を用いて各自が作成したい作品の制作⑧
第26週	自然素材3や描画材などを生かした ものづくり鑑賞	自分で考えた材料や用具を用いて各自が作成したい作品の制作と鑑賞
第27週	自然素材3や描画材などを生かした ものづくり発表資料作成	自分で考えた材料や用具を用いて各自が作成したい作品の発表資料検討・作成
第28週	自然素材3を生かしたものづくり 発表資料作成	自分で考えた材料や用具を用いて各自が作成したい作品の発表資料作成
第29週	作品展準備	作品展の企画・計画
第30週	作品展開催	作品展の実施

授業科目	特別研究Ⅰ(健康)						
担当教員	田中 住幸	配当年次	1年生	開講期	通年	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択必修		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 1804			ワケマド科目	
授業概要							
<p>本科目では、特に幼児期の運動発達の特徴と意義を理解した上で、体を使った様々な遊びを指導(援助)できるようになることを目標に、多くの遊びを経験する。また、経験の中から遊びの楽しさを実感すると共に、遊びを立案をする中で環境構成や指導計画への理解を深め実践力を養う。</p>							
到達目標							
<p>①幼児期の運動発達の特徴と意義を理解する。          ②体を使った遊びについて、保育との結びつきを確認し、環境構成や指導計画についての理解を深める。          ③安全に留意して、遊びの指導が行えるだけの体力を身に付ける。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。</p> <p>2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。</p> <p>3. 協調性：社会の様々な問題に関心に向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。</p> <p>○ 4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合(%)	内容		割合(%)		
期末レポート		60%					
授業毎の課題		20%					
平常点(主体性、意欲・関心)		20%					
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』							
参考書等							
幼児期運動指針ガイドブック(文部科学省)							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
各回の授業で体験した遊びの概要や手順についてイラストなども含めながらノートに記録しておくこと。				2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
運動を行う際は、屋内ではシャージ・運動靴、屋外では季節に合わせて、帽子、防寒着を準備すること。詳細については、授業内で指示する。提出された課題・レポートについては、LMS(学修支援システム)内でフィードバックを行う。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるフィールドワーク及びディスカッションの要素を含む授業です。							
備考							
この科目は主要授業科目です。							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業全体についてのガイダンスを行う。
第2週	からだを使った遊び①(基礎)	跳ぶ、走る、回るなど、からだを使った遊びの進め方や安全に関する留意事項などを確認する。
第3週	からだを使った遊び②(応用)	跳ぶ、走る、回るなど、からだを使った遊びを体験する。
第4週	ボールを使った遊び①(基礎)	投げる、つく、受けるなどボールを使った遊びの進め方や安全に関する留意事項などを確認する。
第5週	ボールを使った遊び②(応用)	投げる、つく、受けるなどボールを使った遊びを体験する。
第6週	道具を使った遊び①(基礎)	縄やマット、跳び箱など、道具を使った遊びの進め方や安全に関する留意事項などを確認する。
第7週	道具を使った遊び②(応用)	縄やマット、跳び箱など、道具を使った遊びを体験する。
第8週	室内での遊び①(基礎)	レクリエーションゲームや、アナログゲームなど、室内でも取り組める遊びの進め方や安全に関する留意事項などを確認する。
第9週	室内での遊び②(応用)	レクリエーションゲームや、アナログゲームなど、室内でも取り組める遊びを体験する。
第10週	伝承遊び①(基礎)	伝承遊びや、昔遊びなどの進め方や安全に関する留意事項などを確認する。
第11週	伝承遊び②(応用)	伝承遊びや、昔遊びなどを体験する。
第12週	自然を使った遊び①(基礎)	ネイチャーゲームなど、自然の中で取り組める遊びの進め方や安全に関する留意事項などを確認する。
第13週	自然を使った遊び②(応用)	ネイチャーゲームなど、自然の中で取り組める遊びを体験する。
第14週	水遊び①(基礎)	水遊びの進め方や安全に関する留意事項などを確認する。※学外でのフィールドワーク有
第15週	水遊び②(応用)	水遊びを体験する。※学外でのフィールドワーク有
第16週	サーキット遊び①(基礎)	保育室や園庭全体を使って、複数の運動遊びを展開するサーキット遊びの進め方や安全に関する留意事項などを確認する。
第17週	サーキット遊び②(応用)	保育室や園庭全体を使って、複数の運動遊びを展開するサーキット遊びを体験する。
第18週	リズム遊び①(基礎)	リズムや音楽に合わせて体を動かすリズム遊びの進め方や安全に関する留意事項を確認する。
第19週	リズム遊び②(応用)	リズムや音楽に合わせて体を動かすリズム遊びを体験する。
第20週	遊びを創造する環境設定①(解説)	幼児の自発的な運動(動き)を誘発する保育環境について、基礎的な知識を確認する。
第21週	遊びを創造する環境設定②(事例紹介)	幼児の自発的な運動(動き)を誘発する保育環境について、事例確認を通して理解を深める。
第22週	遊びを考える①(計画)	幼児を対象にした体を使った遊びの計画を立てる(グループ演習)。
第23週	遊びを考える②(準備)	幼児を対象にした体を使った遊びの準備をする(グループ演習)。
第24週	遊びを考える③(発表)	幼児を対象にした体を使った遊びを発表する(グループ演習)。
第25週	遊びの実際(事例紹介)	幼児を対象にした体を使った遊びについて、設定保育的な事例や、自由保育的な事例など、幾つかの事例を紹介する。
第26週	遊びの環境を考える①(計画)	幼児の自発的な運動(動き)を誘発する保育環境について検討する(グループ演習)。
第27週	遊びの環境を考える②(発表)	幼児の自発的な運動(動き)を誘発する保育環境について発表する(グループ演習)。
第28週	雪遊び①(基礎)	雪遊びの進め方や安全に関する留意事項などを確認する。※学外でのフィールドワーク有
第29週	雪遊び②(応用)	雪遊びを体験する。※学外でのフィールドワーク有
第30週	まとめ	授業全体についてのまとめを行う。

授業科目	特別研究Ⅰ(自然)						
担当教員	柘植 純一	配当年次	1年生	開講期	通年	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択必修		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 1803			ワケマド科目	
授業概要							
昆虫をはじめとした自然に興味を持つことを目標にする。北海道で自然と触れ合う保育を実践するために不可欠な身近な動植物について正しい知識を身につける。単に名前を覚えるのではなく、季節とのつながりに興味を持ち、声、匂い等の感覚を通して自然を感じる感性を磨くことの大切さも気づく。1年間 屋外での観察も随時入れながら、身近な自然について学ぶ。							
到達目標							
①身近な昆虫・野鳥について簡単な識別できる。 ②アゲハの幼虫等に愛着をもって接することができる。 ③身近な自然との触れ合う遊びを楽しむことができる。 ④自然の中で過ごす時間を楽しいと思える。							
学科のディプロマ・ポリシー							
1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。							
2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。							
3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。							
○ 4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。							
成績評価方法・基準							
内容	割合(%)	内容	割合(%)				
期末課題	25%						
夏休みの課題	25%						
授業内での取組み	50%						
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
『小学館の図鑑 NEO POCKET -ネオばけっと-昆虫』	小池 啓一/小野 麗朝/初田 龍一郎/田辺 力	小学館		9784092172814			
『野鳥観察ハンディ図鑑 新山の鳥』	安西英明/谷口高司	日本野鳥の会		978-4931150546			
『自然図鑑』	まとうち 藍	福音館		978-4-8340-0688-9			
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
授業内で学習した身近な動植物を通学時など毎日の生活の中で自分でも目を向けるように心がける。そのときに見つけた自然物を写真撮影し記録に残す。				1時間から2時間程度/週			
受講時の注意事項							
昆虫や植物など身近な自然とのかかわりが得意な保育者になりたい人の履修を希望します。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるフィールドワークの要素を含む授業です。							
備考							
この科目は主要授業科目です。							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業の概要、受講上の留意点について説明します。
第2週	昆虫1、昆虫の概論	昆虫の特徴、大まかな分類、生態について学びます。
第3週	身近な植物を使った遊び1	屋外に出てタンポポのキク科植物としての特徴に注目しながら、花・茎を使った遊びを体験します。
第4週	昆虫2チョウ1	チョウの特徴、生態、大まかな分類、飼育教材として取り入れるときの注意点等について学びます。
第5週	昆虫3チョウ2(アゲハチョウ科)	アゲハチョウ科の特徴、北海道で見られるアゲハチョウ科について映像等で学びます。授業内で飼育するアゲハ(アゲハ、キアゲハ、機会があればミヤマカラスアゲハ)について特に詳しく見ていきます。
第6週	昆虫4チョウ3(シロチョウ科)	アゲハチョウ科の特徴、北海道で見られるシロチョウ科について映像等で学びます。大学周辺でモンシロチョウ、スズメシロチョウ、エゾシロチョウ、モンキチョウの観察をします。
第7週	昆虫5チョウ4(タテハチョウ科)	タテハ科の特徴、北海道で見られるタテハ科について映像等で学びます。特に他の科と違う動きや体の特徴に注目します。
第8週	昆虫6チョウ5(シジミチョウ科・セセリチョウ科)	シジミチョウ科、セセリチョウ科の特徴、北海道で見られるシジミチョウ科、セセリチョウ科について映像等で学びます。大学周辺でルリシジミ、ベニシジミ、コキマダセセリの観察をします。
第9週	昆虫7チョウ6(チョウのまとめ)	チョウの5つの科の特徴の復習をします。写真と動画を見てどの科のチョウであるかを分けるかを確認します。
第10週	身近な植物を使った遊び2(シロツメクサ、イチョウ、オオバコ、ナガミヒゲシ等)	野外に出て大学周辺に自生している身近な植物(シロツメクサ、イチョウ、オオバコ、ナガミヒゲシ等)を使った遊びを体験します。
第11週	昆虫8半翅目	半翅目の特徴、特にセミの鳴き声と活動時期に注目して学びます。また北海道で見られるセミを見えます。
第12週	昆虫9鞘翅目	鞘翅目の特徴、特に子ども達に人気のあるカブトムシ、クワガタムシに注目して学びます。また北海道ではカブトムシが外来種であることに注目します。
第13週	大学周辺の自然環境地図の作成1	大学周辺を子どもの目の高さで散策し、道端、公園、空地に生えている自生植物、そこにいる昆虫等の小動物を観察します。
第14週	大学周辺の自然環境地図の作成2	前回観察した動植物を自然環境地図としてまとめます。
第15週	大学村の森公園での自然観察	大学の森公園で昆虫を中心に自然観察をします。チョウの5つの科全てを見ることができると、それぞれの特徴について振り返ります。
第16週	夏休み中に撮影した写真の共有	夏休み中の課題で撮影した昆虫などの小動物の写真をみんなで共有します。
第17週	昆虫10膜翅目	膜翅目の特徴、特に花バチと狩りバチの違いについて学びます。また保育者としてスズメバチのような昆虫とのかかわりについて考えます。
第18週	昆虫11直翅目	直翅目の特徴、特にバッタ、キリギリス、コオロギに注目します。また学校周辺で見られる身近な直翅目を覚えます。
第19週	昆虫11トンボ目	トンボ目の特徴について学び、大学周辺での観察を通して身近な赤トンボの見分け方を学びます。
第20週	昆虫12昆虫の越冬	子どもにとっての身近な昆虫、飼育教材となる昆虫の越冬について学びます。
第21週	鳥類1鳥類の概論	鳥類の体、食べ物の食べ方の特徴、生態等についての概要を学びます。
第22週	鳥類2身近な野鳥の声	野鳥の声(地鳴き、さえずり)、ききなしについて紹介します。
第23週	鳥類3(タカ目、ハヤブサ目、キツツキ目、フクロウ目)	北海道で見られるタカ目、ハヤブサ目、キツツキ目、フクロウ目について学びます。
第24週	鳥類4(スズメ目、その他の目)	毎日の生活の中で出会う機会の多いものを中心にスズメ目、その他の目の野鳥について学びます。
第25週	大学村の森公園での自然観察	大学の森公園で野鳥を中心に冬の自然観察をします。市街地にある公園でもいるような野鳥を観察できることに注目します。
第26週	身近な魚類・その他の動物	北海道の主に川で見ることのできる魚を中心に学びます。また身近な哺乳類、爬虫類、両生類とうについて学びます。
第27週	身近な植物素材を使った制作	オオバユリの種、身近な木の葉(押し葉)を使ってオリジナルな魚を制作します。
第28週	トウモロコシの茎・葉を使ったカードづくり①	トウモロコシの茎と葉から繊維(セルロース)を取り出してパルプにします。
第29週	トウモロコシの茎・葉を使ったカードづくり②	トウモロコシの茎と葉から得られたパルプを使ってカードづくりに挑戦します。
第30週	トウモロコシの茎・葉を使ったカードづくり③	トウモロコシの茎と葉から得られたパルプを使ってカードづくりに挑戦します。

授業科目	特別研究Ⅰ(子育て支援・特別支援)						
担当教員	遠山 景広	配当年次	1年生	開講期	通年	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択必修		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 1805			ワケマド科目	
授業概要							
<p>子どもを取り巻く社会に目を向け、さまざまな課題、子どもをめぐる社会問題と保育のかかりについて理解し、多様な保育ニーズをとらえる。保育士に求められるソーシャルワークとしての子育て支援を学び、保育所・児童福祉施設などの現場で応用できる知識と技術を理解する身に付ける。自分の興味・関心を焦点化し、問題意識を抱くこと、自らの「問い」に対して、本授業では他学生との意見交換から何を知らたいのかを見出す。</p>							
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> <li>資料や事例から子どもと家庭の多様な保育ニーズや保育者に求められるソーシャルワークをつかむことができる。</li> <li>地域で展開する子育て支援・相談援助の機能を理解し、現場を観察・体験することができる。</li> <li>子育てが行われている地域を知り、地域の子どもの状況と必要とされる実践技術を理解する。</li> <li>主体的な力を養い、諸課題について自身に検討と集積する力を付ける。</li> <li>社会を構成する一人の大人として、豊かな子どもの育ちを促す環境や大人の役割について自分の考えを明確にできる。</li> </ul>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。</p> <p>2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。</p> <p>3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。</p> <p>○ 4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合(%)	内容		割合(%)		
個人レポート		50%					
フィールドワーク発表		30%					
授業への参加		20%					
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
『なし。授業内で適宜、資料を配付します』							
参考書等							
なし。適宜授業内で指示します							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
毎回の授業で取り上げたテーマについて、自分の考えをまとめてください。特にフィールドワークから気づきや学びは、ディスカッションでも活用するので各自でまとめておくことを推奨します。				2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
<p>フィールドワークは適宜実施していくので、報告もその都度行います</p> <p>フィールド側のご都合があるため、フィールドワークの時期や実施回数が多少変動することがあります</p>							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブラーニングにおけるフィールドワークの要素を含む授業です。							
備考							
この科目は主要授業科目です。							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	年間計画の確認、及び子育て支援や特別支援とはどんなことを考え、各自で学びたいことを整理する
第2週	子ども家庭への福祉と支援の理解と意義	子ども・子育て家庭への支援が必要となった背景について、多様な子育て家庭をイメージしながら学ぶ
第3週	支援を要する子どもと家庭(保育所の場合)	子ども・子育て家庭への支援について、保育施設での例について学ぶ
第4週	支援を要する子どもと家庭(地域の場)	子ども・子育て家庭への支援について、地域社会の中での実践例について学びつつ、所謂「在宅子育て家庭」にどのようにアプローチすることができるかを検討する
第5週	支援を要する子どもと家庭(特別な支援を要する場合)	子ども・子育て家庭への支援について、特別なニーズを有する家庭と支援現場の事情、必要となる考え方や注意点について学ぶ
第6週	支援を要する子どもと家庭(虐待の場合)	子ども・子育て家庭への支援について、被害経験を持つ子どもや家庭への対応の注意点を学び、地域子育て支援がかかわる意味について理解を深める
第7週	支援を要する子どもと家庭(DV被害の場合)	子ども・子育て家庭への支援について、DVに至る背景や子どもへの表れ方を学び対応の仕方と家族以外の存在がかかわることの意味を検討する
第8週	支援を要する子どもと家庭(外国籍の子どもがいる家庭の場合)	子ども・子育て家庭への支援について、外国籍の子どもや親・保護者がいる場合に起きやすい事例やニーズについて学ぶ
第9週	支援を要する子どもと家庭(ひとり親の場合)	子ども・子育て家庭への支援について、ひとり親家庭の抱えやすいニーズについて学び、支援者のかかりが持つ意味について理解を深める
第10週	フィールドワーク1-①	本学の子育て支援センター、子育て支援の実態について学ぶ
第11週	フィールドワーク1-②	子育ての現場がどのように構成されているかを学び、実際に参加する際に配慮したいことを検討する
第12週	フィールドワーク1-③	本学の支援センターの活動に参加するための企画及び準備を行う
第13週	フィールドワーク1-④	ここまで学んだことを踏まえ、本学の支援センターの活動に参加する
第14週	フィールドワークの振り返り	支援センターの活動に参加して経験したことを整理し、子育て家庭への支援がどのような形で実現できるかを検討する
第15週	フィールドワーク成果発表①	前期の学びを踏まえ、フィールドワークの成果を自分なりの学びとしてまとめる
第16週	フィールドワーク2-①	学外での子育て支援の事例を学び、どのような点を重視しているのか、そのためにどのような工夫をしているのか、他のフィールドと比較しながら整理する
第17週	フィールドワーク2-②	学外での子育て支援の事例を学び、どのような点を重視しているのか、そのためにどのような工夫をしているのか、他のフィールドと比較しながら整理する
第18週	フィールドワーク2-③	学外での子育て支援の事例を学び、どのような点を重視しているのか、そのためにどのような工夫をしているのか、他のフィールドと比較しながら整理する
第19週	フィールドワーク成果発表②	本学の支援センターやフィールドワーク先のそれぞれのやり方や特徴についてまとめ、共通点と相違点について検討する
第20週	子育てと社会的支援	現代における社会的子育ての意味について学び、フィールドワークでの経験を元に子ども・子育てに社会的にかかわることに対する理解を深める
第21週	ソーシャルワークとしての子育て支援の意義と視点	ソーシャルワークの意義と目的を踏まえ、子育て支援の実践としてソーシャルワークを組み込むことの意味について理解を深める
第22週	ソーシャルワークとしての子育て支援の機能と方法	子育て支援の現場の実践にソーシャルワークを組み込む方法について、これまでのフィールドワークの経験を振り返りつつ学ぶ
第23週	支援現場の環境	本学の子育て支援センターを例に、支援のための環境をどのように構成しているのかを学ぶ
第24週	各自のテーマに基づいた課題設定と情報収集①	子育て支援の多様な形の中から、自身が特に関心のある分野を選び、情報収集を行う
第25週	各自のテーマに基づいた課題設定と情報収集②	自身の選んだ分野についての情報を元に、子育て支援の課題についてを検討する
第26週	各自のテーマに基づいた課題設定と情報収集③	子ども・子育て支援の課題について、自身の考えをまとめる
第27週	各自のテーマに関する発表とグループワーク①	自身の考えを発表するために、ここまで収集した情報を元に資料を作成する
第28週	各自のテーマに関する発表とグループワーク②	自身が興味のある分野と情報、考えを発表しつつ、他の履修者の発表内容について考えたことをまとめる
第29週	各自のテーマに関する発表とグループワーク③	発表した内容、他の履修者の発表内容を基に、それぞれのテーマについて意見交換を行う
第30週	まとめ	1年の学びを通して、子育て家庭への支援の意義や方法について、自分の言葉でまとめる

授業科目	保育者論						
担当教員	藪 淳一	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 2302			ワケマド科目	
授業概要							
<p>保育者とはどのような職業なのかを改めて考えて、今までの実習経験から自身の気づきを活かし、その専門性を理解する。また社会の変化を受け止めて、子どもの成長に適切にかかわる学びや保護者とのかわり、関係機関や地域社会、同僚との連携を学び保育者の役割を理解する。</p>							
到達目標							
<p>① 保育者の役割を述べることができる。          ② 保育者の専門性を述べることができる。          ③ 自己の向上、保育者としての質の向上への意欲を高める。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。</p> <p>○ 2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。</p> <p>3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。</p> <p>4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
レポート		70%					
平常点		30%					
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
「なし。授業内で適宜、資料を配布します。」							
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無					実務経験あり		
この科目は、幼稚園理事・園長として実務経験のある教員が実践的教育を行っています。							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容					予習・復習に必要な時間		
ボランティア活動等を通して、実際に子どもとふれ合う機会を多く持つことを勧めます。また、保育実践や保育者の仕事に関する書物を読むなどして、理解を深めましょう。							
受講時の注意事項							
授業は基本的に講義形式で進めますが、意見交換の場を多く取り入れます。自分の考えを積極的に発言してください。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるディスカッションの要素を含む授業です。							
備考							
この科目は主要授業科目です。							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	実習を振り返っての気づき	主に幼稚園実習を振り返り、よい保育とは何かについて考えます。
第2週	「保育者になる」ということ	免許・資格や採用試験について学びます。
第3週	保育者の仕事とは①	保育者の一日の仕事の流れを学びます。
第4週	保育者の仕事とは②	保育者の一年の仕事の流れを学びます。
第5週	保育者の仕事とは③	エピソードから子ども理解を深めます。
第6週	保育者の倫理観と子どもの権利	保育者として守るべき倫理観と子どもの権利の関係性について学びます。
第7週	保育者の仕事とは④	保育者の視点で遊びについて考えます。
第8週	保育者の仕事とは⑤	保育の様々な記録方法とその意味について学びます。
第9週	保育者の仕事とは⑥	保育者の専門性である環境構成と教材研究について学びます。
第10週	保育者の仕事とは⑦	海外の幼児教育・保育について学びます。
第11週	保育者の仕事とは⑧	保育者の役割と専門性について考えます。
第12週	学び合う保育者	同僚性、園内研修など、保育者の学びについて考えます。
第13週	レポート作成（保育者の役割）	保育者の役割についてレポートを作成します。
第14週	レポート作成（保育者の専門性）	保育者の専門性についてレポートを作成します。
第15週	まとめ	授業全体のまとめです。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		



授業科目		環境科学					
担当教員	柘植 純一	配当年次	1 年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-LA 1204			ワケマド 科目	
授業概要							
現在の環境問題のほとんどは、環境への影響を無視して無限の経済成長を追い求め、経済効率を最優先してきたことが原因であることに気づく。現在問題になっている様々な環境問題についてその現象と背景について学習することを通して、持続可能な社会を構築するためには、環境問題は倫理の問題であることを理解し、経済成長を放棄し、経済効率優先の考え方から脱却し、エネルギー効率・資源の節約を優先させる考え方に転換する必要性について考える。これらのことを通し人間にとっての本当の豊かさ・幸福について考えるきっかけにする。							
到達目標							
① 身近な環境問題について科学的な視点で説明できる。 ② 経済効率ではなく、環境倫理の視点で環境問題について自分の考えを述べることができる。 ③ 持続可能な循環型社会を実現するために必要な生活スタイル、価値観等について考えを述べることができる。							
学科のディプロマ・ポリシー							
○ 1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。 2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。 3. 協調性：社会の様々な問題に関心に向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。 4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
期末レポート		50%					
平常試験		50%					
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』							
参考書等							
D. H. メドウス D. L. メドウス、Y. ラーランダス著、枝廣淳子訳『成長の限界、人類の選択』、ダイヤモンド 社。福岡伸一著『動的平衡』木楽社。R. カーソン著、青樹梁一訳『沈黙の春』新潮社							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容					予習・復習に必要な時間		
受講前に、簡単な予備知識をつけておく。受講後は、毎回配付するプリントおよびノートを読み直して復習しておく。					2時間から3時間程度/週		
受講時の注意事項							
環境問題について関心のある人の受講を希望する。毎回、質問・感想・課題などをリアクションペーパーに記入する。提出したリアクションペーパーはコメントを記入して次の授業で返却する。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業の概要、科学的・客観的にみるとはどういうことか、受講上の留意点
第2週	環境とは何か?	環境の定義、生物と環境、環境形成作用
第3週	生物の進化と人間の出現	生物の進化、異常な生物：ヒト
第4週	大気汚染(特に酸性雨・酸性霧と光化学スモッグ)	環境汚染の概要、硫酸酸化物、窒素酸化物、光化学スモッグ等
第5週	オゾン層の破壊と地球温暖化	オゾン層破壊のメカニズム、オゾン層破壊の現状、オゾン層保護の動き、地球温暖化、二酸化炭素と地球温暖化
第6週	原子力発電と環境	原子力発電のメカニズム、原子力発電と温排水・核汚染水・放射性廃棄物、福島第一原子力発電所事故後の状態
第7週	水環境と水質	水の性質、水の循環、水質の評価、生物指標
第8週	水質汚濁	水質汚濁の種類、水質汚濁物質、廃水処理法
第9週	合成有機塩素化合物による汚染	有毒物質の毒性、有機塩素化合物の概要
第10週	外因性内分泌攪乱化学物質(環境ホルモン)	野生動物にみられる異常、ヒトへの影響、ダイオキシン類による母乳の汚染、内分泌攪乱化学物質を避ける方法
第11週	伝達性スポンジ状脳症	伝達性スポンジ状脳症の特徴と病原体、ウシスポンジ状脳症(BSE)の原因、日本におけるBSEの発生と牛肉の安全性
第12週	日本の食料生産の現状と将来の農業	日本の食料生産と食料自給率、現代の農業の問題点、将来の農業
第13週	第二次世界大戦後の日本の軌跡と環境	大規模工業開発、リゾート開発、時のアセスメントと新しい動き、北海道新幹線
第14週	持続可能な循環型社会を目指す	持続可能な社会とは何か、持続可能な社会を実現するために必要なこと、
第15週	映画「幸せの経済学」鑑賞	ヘレナ・ノーバーク＝ホッジ監督の「幸せの経済学」を見て本当の豊かさ、幸福について考える
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	社会人基礎						
担当教員	藪 淳一	配当年次	1 年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-LA 1208			ワケマド 科目	
授業概要							
<p>「基礎学力」や「専門知識」を活かすためには、「社会人基礎力」を身につけることが求められます。保育は、決められたマニュアル作業を一人で行うものではなく、職場の同僚とコミュニケーションをとりながら進めていく創造的で協同的な仕事です。社会人として適切なマナー・言葉遣い・人間性などを身につけるとともに、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を磨き上げ、「保育社会人」としての意識と実践力を高めることを目的とします。</p>							
到達目標							
<p>① 自己理解を深め、学生のうちに身につけておくべきことが何かを知り、目標を設定して行動できる。  ② 意欲をもち、思考力を深め、協同的に課題に取り組むことができる。  ③ 社会人としてあるべき基本的なふるまいができる。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>○ 1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。  2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。  3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。  4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
授業内試験		40%					
授業内の課題		40%					
授業への態度		20%					
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』							
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無					実務経験あり		
この科目は、幼稚園理事・園長として実務経験のある教員が実践的教育を行います。							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
各種メディアを通じて世の中の動きを理解し、自分なりの考えをもつこと。人とのコミュニケーションを図る機会や社会経験を積む機会を積極的に作ること。				2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
社会人としてあるべき姿勢で、授業に臨むようにしてください。授業内で実施する小テストや課題は随時フィードバックを行います。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス・社会人基礎力	「社会人基礎力」について学びます。
第2週	自己理解を深める	チェックシートなどを用い、自己理解を深めます。
第3週	現代社会のキーワード	「少子化」「ワークライフバランス」など、保育者として知っておくべき現代社会のキーワードについて学びます。
第4週	マナー	社会人に必要なマナーを身につけます。
第5週	正しい日本語・美しい日本語	間違えやすい言葉を中心に、社会人として恥をかかないための正しい言葉遣いを学びます。
第6週	敬語	演習を通して、敬語の適切な使い方を学びます。
第7週	文章力（おたより作成）	保護者向けのおたより作成ワークを通して、適切な文章表現を身につけます。
第8週	社会人の先輩に学ぶ	保育科を卒業した現役の保育者をゲストスピーカーに、保育の魅力や保育者の仕事について学びます。
第9週	キャリアデザイン	キャリアについて考え、今後の人生をデザインします。
第10週	社会人基礎力の向上①	社会人基礎力のうち、特に実行力に焦点を当てて学びます。
第11週	社会人基礎力の向上②	社会人基礎力のうち、考え抜く力を身につけます。
第12週	社会人基礎力の向上③	社会人基礎力のうち、特にストレスコントロール力に焦点を当てて学びます。
第13週	人間性	豊かな人間性について考えます。
第14週	絵本から学ぶ社会人基礎	絵本を通して、社会人基礎力を学びます。
第15週	授業内試験（筆記）とまとめ	筆記試験を行います。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	情報処理a						
担当教員	常見 裕子	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-LA 1203			ワケマド科目	
授業概要							
<p>現代社会ではパソコンは使えて当たり前と言っても過言ではないが、スマートフォンなどの普及なども一因、パソコン操作に不慣れ、また不安を持つ学生が多くなっているのが現状である。</p> <p>現代社会に必要な情報リテラシー能力を修得するため、コンピュータの基本操作、活用技術、マナーなどの基礎知識を学びながら、ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、多様な文書作成のスキルを習得する。</p> <p>授業終了後、学内で実施する「文書デザイン検定試験」を受験することができる。</p>							
到達目標							
<p>① 幼稚園の園だより、案内文書などを考えながら作成することができる。</p> <p>② 電子メールのマナーやモラルを理解し、コミュニケーションツールとして使用することができる。</p> <p>③ コンピュータ等のセキュリティおよび情報モラルを理解する。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>○ 1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。</p> <p>2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。</p> <p>3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。</p> <p>4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
課題提出		70%					
平常点		30%					
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
『文書デザイン検定試験 模擬問題集』		日本情報処理検定協会				授業開始後、レベルにあわせて数を決定後開講	
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験あり			
<p>会社内や学校教務事務でのPC業務（Officeソフトを使用して様々な文書作成、会計ソフトの使用など）</p> <p>幼稚園教諭対象のPCセミナーなど担当経験有り</p> <p>幼稚園教諭からの依頼により様々な文書作成業務、アンケート集計、作成のための指導など</p>							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
基本操作でわからないことがあれば復習しておく。				2時間から3時間程度/週			
授業後、新しく学習したことを復習し、理解を深める。							
入力速度向上のため、タイピング練習（ブラインドタッチ）を継続練習する。							
受講時の注意事項							
特に予備知識を必要としません。							
遅刻、欠席をしないこと。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業内容説明とパソコン使用状況に関するアンケート タイピングの基本とタイピング練習
第2週	Windows基本操作と様々な文字入力	Windows基本操作 タイピング練習（ブラインドタッチ） MS-IMEと文字入力
第3週	長文練習と文字の訂正	タイピング練習（ブラインドタッチ） 課題作成
第4週	文書の編集とページ設定	知識学習：セキュリティと情報モラル
第5週	表の作成	基本的な表の作成
第6週	表の作成の応用	セルの結合 複雑な表の作成 ※園だよりの作成①
第7週	図形機能と画像の挿入	※園だよりの作成②
第8週	ビジネスメールについて	ビジネスメールのマナーと形式 PDFファイル変換など ※園だよりの作成③
第9週	レポート・論文などで必要な様々な機能	ページ番号挿入、セクション区切りなど 知識学習：著作権と引用
第10週	復習とまとめ	※園だよりの作成④
第11週	応用練習①	文書デザイン検定試験問題を使用して課題作成
第12週	応用練習②	文書デザイン検定試験問題を使用して課題作成
第13週	応用練習③	文書デザイン検定試験問題を使用して課題作成
第14週	応用練習④	文書デザイン検定試験問題を使用して課題作成
第15週	応用練習⑤	文書デザイン検定試験問題を使用して課題作成
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	日本国憲法						
担当教員	加藤 信行	配当年次	1年生	開講期	前期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-LA 1207			ワケマド科目	
授業概要							
<ul style="list-style-type: none"> <li>日本国憲法の基本原則や内容について、具体的な裁判例などを取り上げつつ、憲法学上の考察を加える。</li> <li>基本的に教科書の流れに沿って授業を進めるが、まずはじめに、法学の基礎や近代憲法の歴史などを学ぶ。</li> <li>必要に応じて、民法、刑法、国際法などの関連法分野にも触れることになる。</li> </ul>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> <li>①国の基本法である憲法の意義と内容を、具体的な問題と関連付けて理解し、説明することができる。</li> <li>②現実のさまざまな社会問題を憲法の観点から考察し、異なる意見を尊重しつつ、妥当な判断を導くことができる。</li> <li>③法学的な思考方法に親しみ、社会人として不可欠な法的常識やものの考え方を習得し、論理的に表現することができる。</li> <li>④重要な憲法裁判例について説明することができる。</li> </ol>							
学科のディプロマ・ポリシー							
○	1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。						
	2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。						
	3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。						
	4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。						
成績評価方法・基準							
	内容	割合 (%)		内容		割合 (%)	
	各回の授業について実施する小テスト	5%					
	期末試験	30%					
教科書・ソフト等							
	書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
	『いちばんやさしい憲法入門』	初宿正典ほか	有斐閣	2020	978-4-641-22150-5		
参考書等							
・初宿正典ほか『目で見る憲法（第6版）』（有斐閣、2024年）など。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
	予習・復習の具体的な内容					予習・復習に必要な時間	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日ごろから新聞等に目を通し、憲法問題と関わりがある記事に留意すること。</li> <li>・予習：事前に配信される講義レジュメを参照しつつ、教科書の関連部分を読み、授業でいかなる問題が取り上げられるかを想定するとともに、分からない言葉や論理について調べておくこと。</li> </ul>					2時間から3時間程度/週	
受講時の注意事項							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・覚えることよりも、考えて理解することが大事です。コツコツ積み重ねて勉強してください。</li> <li>・「授業計画」のうち、最後のほうの授業内容は、授業の進行具合や新たな憲法問題の登場によって変更される可能性もあります。</li> <li>・小テストなどは、提出期限を厳守してください。期限後に提出しても、不提出となります。</li> </ul>							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス、法学の基礎	授業の形態や進め方についてガイダンスを行ったのち、法律学の初歩的な事項と法学全体における憲法の位置づけについて学ぶ。
第2週	憲法総論	憲法の意味、憲法の歴史、日本国憲法の基本原則と基本構造について学ぶ。
第3週	人権総論、子どもの人権	人権総論（基本的人権のカテゴリー・分類、人権の制約原理としての公共の福祉、人権享有主体）を学んだ後、人権享有主体としての子どもの人権を学ぶ。 ・教科書テーマ1「ブラック校則：子どもの人権」
第4週	国籍、外国人の人権	人権享有主体としての外国人の人権を学ぶ。その前提として、国籍の問題を理解する。 ・教科書テーマ2「欲しいのはまず選挙権：外国人の権利」
第5週	幸福追求権	広義の幸福追求権について学ぶ。 ・教科書テーマ3「わたしの秘密：プライバシー権」 ・教科書テーマ4「何の自己決定か？：自己決定権」
第6週	法の下での平等	法の下での平等にかかわる諸問題を学ぶ。 ・教科書テーマ5「再婚は100日後？：法の下での平等①」 ・教科書テーマ6「むかし親殺しありき：法の下での平等②」
第7週	信教の自由、表現の自由の意義	信教の自由および政教分離原則を学んだのち、表現の自由に関する前半部分を学ぶ。 ・教科書テーマ7「法廷の宗教戦争：信教の自由」 ・教科書テーマ8「ボレルの権利：表現の自由①」
第8週	表現の規制、経済的自由	表現の自由に関する後半部分を学んだのち、職業選択の自由を中心に経済的自由について学ぶ。 ・教科書テーマ9「人殺し教えます：表現の自由②」
第9週	生存権、教育権	社会権（生存権、教育権）について学ぶ。 ・教科書テーマ11「クレーの不在生活：生存権」 ・教科書テーマ12「教科書はつらいよ：教育権」
第10週	適正手続の保障・死刑制度	身体の自由について、とくに死刑制度について学ぶ。 ・教科書テーマ13「罪と罰のはては：死刑制度」
第11週	象徴天皇制と国民主権	国民主権と天皇制について、とくに天皇の国事行為について学ぶ。 ・教科書テーマ14「皇室外交：天皇」
第12週	平和主義（戦争の放棄）	戦争と平和、安全保障の問題を学ぶ。 ・教科書テーマ15「人権の条件：平和主義」
第13週	三権分立、国会	統治機構のうち、国会について、とくに二院制と議院内閣制を中心に学ぶ。 ・教科書テーマ16「両院は車の両輪：国会①」 ・教科書テーマ17「民の声 vox Dei：国会②」
第14週	裁判所（司法制度）	司法制度や裁判員制度について学ぶ。 ・教科書テーマ19「裁判はだれのために：裁判所」
第15週	まとめ	これまでの授業のまとめと補完を行う。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目		英語（口語表現）					
担当教員	サイモンズ クリストファー	配当年次	1 年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-LA 1201			ワケマド 科目	
授業概要							
この授業では教科書を通じて保育園や幼稚園などの教育現場で児童と交わす英語の会話表現を学び、さらに英語特有の音聞き取り、英文を理解するディクテーションなども行う。また、平易な英文を用いた自己紹介や読み聞かせなど発表形式の活動も行う。これにより、保育士に求められる英語を話す、聞く、理解するという総合的な運用力を身につけることを目標とする。							
到達目標							
① 英文を正確に発音する力を高める。 ② 簡単な英文を聞き取りその意味を理解する。 ③ 簡単な英文を聞いて書き取ることができる。 ④ 簡単な語彙を用いて、他者と英語でコミュニケーションを図ることができる。 ⑤ 他者と協力して英語を使ったプロジェクトに取り組む姿勢を養うことができる。							
学科のディプロマ・ポリシー							
○ 1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。 2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。 3. 協調性：社会の様々な問題に関心に向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。 4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
レスポンスシートやワークシートなど		20					
Show & Tellの発表		40					
Story tellingの発表		40					
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
『なし。授業内で指示します。』							
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
この授業では予習は求めないが、扱った教材は授業終了後になんども自分で練習し、暗唱できるくらいまでしておくこと。また、Show&Tellなどのグループ発表の際は、授業時間内での準備だけでは足りないと思われるので、各自で時間を見つけて準備をする必要がある。				1時間から2時間程度/週			
受講時の注意事項							
授業中の使用言語については、教員の指示に従うこととする。ただし、どのように表現していいかわからない場合は、積極的に質問すること。また、将来、保育者となって英語を使用する場面もあることを想定し、在学中に英語を学ぶことの意味をしっかりと理解して授業に臨むこと。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	授業の進め方について
第2週	リスニング&スピーキング 実践	ディクテーション、Unit 1 : ALT's First Visit 【実践】
第3週	リスニング&スピーキング 応用	ディクテーション、Unit 1 : ALT's First Visit 【応用】
第4週	ライティング&スピーキング 演習	ディクテーション、英語でCVを作成しよう！
第5週	ライティング&スピーキング 実践	ディクテーション、英語で自己紹介をしよう！準備1回目（Show & Tellとは？英文原稿の準備）
第6週	ライティング&スピーキング 応用	ディクテーション、英語で自己紹介をしよう！準備2回目（自己紹介の英文暗記、リハーサル）
第7週	プレゼンテーション 自己紹介	英語で自己紹介をしよう！Show&Tellの発表1回目
第8週	プレゼンテーション Show&Tell	英語で自己紹介をしよう！Show&Tellの発表2回目
第9週	プレゼンテーション 講評	英語で自己紹介をしよう！Show&Tellの発表3回目と講評、ディクテーション
第10週	指導法について	ダイレクト・メソッド
第11週	Story Telling 理解と準備	Story Telling 準備1回目（Story Telling/Act outの概説と目的、資料配布、小道具づくり）
第12週	Story Telling 実践演習	Story Telling 準備2回目（暗記・発表練習+ネイティブのモデル読み聞かせ）
第13週	Story Telling 発表1回目	発表と評価
第14週	Story Telling 発表2回目	発表と評価、フィードバック
第15週	前期のまとめと到達度チェック	ディクテーション他
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	英語（文書表現）						
担当教員	サイモンズ クリストファー	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-LA 1202			ワケマド科目	
授業概要							
<p>保育園や幼稚園における外国語活動のなかで、音声指導として大切な英語歌やフォニックスを取り上げてその理論と実践を学ぶ。児童が楽しみながら英語に慣れるような活動方法を検討し、その研究成果かを発表してもらおう。これにより、児童英語教育の実践方法とその基礎知識を身につけることを狙いとす。</p>							
到達目標							
<p>① 児童英語教育の指導方法の基礎知識を習得し、他者に説明できる。      ② 児童英語教育の理論に基づいて、実際の授業計画を立て実践することができる。      ③ 他者と協力してより効果的な指導方法を研究し実践することができる。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>○ 1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。      2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。      3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。      4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
レスポンスシート		20					
発表 Song		40					
発表 マイクロティーチング		40					
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』							
参考書等							
なし。授業内で適宜、資料を配付します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
<p>本授業では特に予習は求めないが、授業終了後に授業で扱った学習内容を復習し、理解を深めること。また、マイクロティーチングや児童英語実習では、グループでの調査・研究・討議といった活動が中心となる。授業以外で準備の時間を確保する必要性が生じる場合もあることを理解し、積極的に活動に参加すること。</p>				1時間から2時間程度/週			
受講時の注意事項							
英語を使って活動することに前向きに取り組むこと。わからない表現や語彙などがあった場合は、必ず教員に質問すること。グループ活動には積極的な姿勢で臨むこと。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	
第2週	アクティビティのすすめかた 理解	ディクテーション、The First English Class
第3週	アクティビティのすすめかた 実践	ディクテーション、The First English Class、実践練習
第4週	指導法 理解	ディクテーション、English Songs for Kids 準備1回目 (TPRとは？Where is Thumbkin?/Twinkle twinkle little star)
第5週	指導法 実践	ディクテーション、English Songs for Kids 準備2回目 (指導案【課題説明】、楽譜配布、道具づくり)
第6週	プレゼンテーション 実践①	English songs for kids リハーサルと発表1回目
第7週	プレゼンテーション 実践②とフィードバック	English songs for kids 発表2回目と講評
第8週	中間まとめ、ダイレクトメソッド	
第9週	フォニックスとは 理解と実践①	ディクテーション、マイクロティーチングについて、フォニックス1回目 "A"
第10週	フォニックスとは 理解と実践②	ディクテーション、フォニックス2回目: "BとP/FとV" / "MとN"
第11週	フォニックスとは 理解と実践③	ディクテーション、フォニックス3回目: "LとR/DとT" / "SとZ"、マイクロティーチングの課題説明
第12週	マイクロティーチング 理解&実践	ディクテーション、マイクロティーチング リハーサルと発表1回目
第13週	マイクロティーチング 実践&応用	ディクテーション、マイクロティーチング 発表2回目
第14週	マイクロティーチング 応用&フィードバック	マイクロティーチング 発表3回目と講評、ディクテーション
第15週	まとめと到達度チェック	ディクテーション、一年間のまとめ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	体育理論						
担当教員	田口 夏美	配当年次	1年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-LA 1211			ワケマド科目	
授業概要							
健康や体力の維持・増進、運動・スポーツを楽しむ環境整備とその価値を理解することは、生活を豊かに送るうえでとても大切です。 ① 体力の維持・増進 ② 身体を動かすこと（運動・スポーツ）の意味、および社会に与える影響の理解 ③ 発育発達とスポーツの関係の考察 を目的とし、さまざまな視点から運動・スポーツについて考えていく。							
到達目標							
① 「体力」の理解と、健康を維持・増進するとはどういうことかを理解できる。 ② 日々の生活の中における運動・スポーツ場面を考え、その意味や価値について考察し、自分なりの考えを持てるようになる。							
学科のディプロマ・ポリシー							
1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。							
2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。							
3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。							
○ 4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
自己評価カード		50%					
期末レポート		30%					
意欲・リーダーシップ		20%					
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』							
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無					実務経験あり		
地域スポーツクラブでのスポーツ・運動指導							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
授業以外の時間でも積極的に身体を動かす意欲を持ち、新聞・TV・インターネットなど社会の中での運動、スポーツの情報を取り入れる努力をしてください。				2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
毎回の講義でその日の自己評価カードを提出してもらいます。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンスの説明など	授業内容や評価について説明を行う
第2週	運動・スポーツと安全	安全に運動・スポーツを実施するための怪我や応急処置について学ぶ
第3週	運動・スポーツと体育	運動、スポーツ、体育の違いについて学ぶ
第4週	運動・スポーツと健康、障害	健康と障害がある状態について学ぶ
第5週	運動・スポーツができるようになる過程を考える	運動・スポーツができるようになるまでの過程を考え学ぶ
第6週	運動・スポーツと心理	運動・スポーツを実施するときの心理やそれらが日常生活に与える影響について学ぶ
第7週	運動・スポーツと自然	運動・スポーツと身の回りの自然の関係性について学ぶ
第8週	スポーツで豊かな人生をおくるために	スポーツを通して豊かな人生を送るためにはどうしたらよいのか学ぶ
第9週		
第10週		
第11週		
第12週		
第13週		
第14週		
第15週		
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	体育実技ab						
担当教員	田口 夏美	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-LA 1210			ワケマド科目	
授業概要							
<p>身体活動の意味を理解し、健康維持や体力向上のための基礎知識を得ることを目標とする。有酸素運動、筋力トレーニング、ストレッチ、様々なスポーツなどをバランスよく組み込み、スポーツ活動や日常生活で求められる安全で効率のよい身体活動を身につける。</p>							
到達目標							
<p>① 日常生活における身体の使い方や姿勢に気づき運動によって心と身体の調子を整える。          ② さまざまな運動の楽しみや喜び、合理的な運動のこころよさを体感する。          ③ 生涯を通して運動に親しみ、仲間との協力関係作り、健康を守るための素地を作る。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。          2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。          3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。          ○ 4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容			割合 (%)	
各週毎に記録する自己記録表の提出		30%					
全授業終了後に提出する課題レポート		20%					
個別課題への対応姿勢および集団課題における責任感		50%					
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』							
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無					実務経験あり		
地域スポーツクラブでのスポーツ・運動指導							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
授業以外の時間でも、積極的に身体を動かす意欲を持ち、新聞・TV・インターネットなど、社会の中での運動、スポーツの情報を取り入れる努力をする。				1時間から2時間程度/週			
受講時の注意事項							
実技にふさわしい服装で参加（上靴・ジャージ）。実技を伴う教科なので前日の体調管理には十分気をつけ、規則正しい日常生活を心がけて欲しい。 体調不良時は無理をせず、見学またはレポートで対応。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	授業全体の説明、アイスブレイクを行う
第2週	レクリエーションゲーム（いろいろな運動）①	レクリエーションゲームを通して学生同士の交流を行う
第3週	レクリエーションゲーム（いろいろな運動）②	レクリエーションゲームを通して学生同士の交流を促進する
第4週	ボールを使った運動（バドミントン）①	ボールを使った運動の基礎を楽しむ
第5週	ボールを使った運動（バドミントン）②	ボールを使った運動の応用を楽しむ
第6週	ストレッチ・筋力トレーニング①	ストレッチ・筋力トレーニングで自分の身体を整える方法を知る
第7週	ストレッチ・筋力トレーニング②	ストレッチ・筋力トレーニングで自分の身体を整える方法を知り、日常生活に活かせるようにする
第8週	バドミントン①	バドミントンの基礎を楽しむ
第9週	バドミントン②	バドミントンの応用を楽しむ
第10週	ドッチボール①	ドッチボールの基礎を楽しむ
第11週	ドッチボール②	ドッチボールの応用を楽しむ
第12週	バレーボール①	バレーボールの基礎を楽しむ
第13週	バレーボール②	バレーボールの応用を楽しむ
第14週	バスケットボール①	バスケットボールの基礎を楽しむ
第15週	バスケットボール②	バスケットボールの応用を楽しむ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		



授業科目		社会福祉					
担当教員	遠山 景広	配当年次	1 年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 1502			ワケマド 科目	
授業概要							
人間の幸せを実現する社会福祉の基礎的な知識を獲得することを目的として、社会福祉の理念や社会福祉の歴史と、現代の社会福祉制度と福祉サービスの内容、並びに社会福祉実践方法としての援助技術等について学習する。また、相談支援など福祉に携わる上で重要な考え方を身に付け、保育を含む社会福祉の意義と理念について理解する。							
到達目標							
①現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する ②社会福祉の制度や実施体系等について理解する ③社会福祉における相談援助について理解する ④社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する ⑤社会福祉の動向と課題について理解し、保育者としてどのようにかかわれるかを考える力を身に付ける							
学科のディプロマ・ポリシー							
1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。							
○ 2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。							
3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。							
4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
期末課題		60%					
授業内課題・授業に臨む姿勢(各回の授業内容に関する)		40%					
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
『社会福祉の内容と課題(福祉の基本体系シリーズ)』		井村忠生・鎌田剛(編著)	勁草書房	2024	978-4-326-70129-2	2024年2月発行予定	
参考書等							
松原康雄・坪 洋一・金子 充, 2019, 『新 基本保育シリーズ4 社会福祉』中央法規 など(その他初回授業などで適宜紹介します)							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
次回の内容について、教科書の該当部分を読んでおく授業内容の理解がスムーズです。また、日報からの新聞やインターネット等で情報収集してみる、集めた情報を基に自分の考えを整理するなど、社会福祉の様々な分野に関心を持ってください				2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション、社会福祉の理念と概念	社会福祉とは何か、誰を対象として何をやるものか、考える
第2週	社会福祉の歴史の変遷	イギリスを例として社会福祉理念の発展を学び、前近代までの日本の福祉について概観する
第3週	子ども家庭支援と社会福祉	近代日本を中心とした社会福祉の理念の変化と、子ども「家庭」支援への変化の背景を学ぶ
第4週	社会福祉の制度と法体系	社会福祉にかかわる法制度のうち、基礎的なものと子ども家庭支援にかかわるものを中心に内容について学ぶ
第5週	社会福祉行政と実施機関	日本での社会福祉の実施体制と財政の状況について学ぶ
第6週	社会福祉施設の種類と役割	社会福祉の提供にかかわる様々な機関にはどのようなものがあるかを学ぶ
第7週	社会福祉の専門職	施設の種類の踏まえ、施設に配置される専門職はどのようなものか、それぞれの役割について学ぶ
第8週	社会保障制度の概要	社会保障制度の概要と役割、現代社会の中での意義を学ぶ
第9週	相談援助の理論と意義、機能	社会福祉における相談援助の基本的な考え方とその変遷について学ぶ
第10週	相談援助の実施過程と技術	相談援助の基本的な展開過程とその注意点について学ぶ
第11週	高齢者福祉と共生社会	共生とは何か、高齢者福祉及び高齢者福祉にかかわる制度を学びながら、共生の理念について理解を深める
第12週	権利の擁護と利用者支援	人の権利とは何か、権利を守るとはどういうことなのかを学び、権利を保障する・守るための仕組みについて理解する
第13週	今後の社会福祉と子育て支援	社会福祉の今後の課題と、子ども・子育てと社会福祉の課題の連動について考える
第14週	諸外国の社会福祉制度・地域福祉の考え方	他国の社会福祉にかかわる制度について学び、日本との相違点や参考にしたい点について考える 地域社会の活用が重要視されている理由、また日本社会での地域社会の変遷について理解する
第15週	まとめ・期末課題	これまでの授業内容を基に、今後の社会福祉の課題をどのように解決していきたいかを考えつつ、期末課題に取り組み
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	子ども家庭福祉						
担当教員	張 思銘	配当年次	1 年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 1501			ワケマド 科目	
授業概要							
<p>子どもの福祉において、発達、権利、地域の関係性を踏まえ、その理念とこれからの課題について理解する。そして、これからの子どもたちの福祉が展開されるのか、子どもとその子どもの家庭の変遷について学習する。専門職者（保育士、幼稚園教諭、保育教諭など）が子どもに関連する法制度とその役割についての知識を深める。</p>							
到達目標							
<p>① 子どもの福祉の理念と意義の理解、関連法制度などの習得します。          ② 子どもと家庭の歴史の変遷の理解、その課題について理解する。          ③ これからの子ども家庭福祉について、自分自身の考えを持てるようになることを目指します。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。</p> <p>○ 2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。</p> <p>3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。</p> <p>4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
授業内試験50%、レポート30%、授業参加度20%							
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』							
参考書等							
柏女霊峰 (2024) 「子ども家庭福祉論 [第8版]」 誠信書房							
中坪史典・山下文一ら (2021) 「保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典」 ミネルヴァ書房							
木村容子・有村大士 編著 (2021) 「子ども家庭福祉 [第3版]」 ミネルヴァ書房							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験あり			
北翔大学短期大学部「こども家庭支援論」を担当する							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
授業前に指示のあったテキストや資料をよく読んで予習してください。授業後は、講義内容及び子どもの福祉に関する諸問題と結びつけて復習してください。				2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
テキストの指定はしませんが、各自1冊は参考資料として用意することをお勧めします。子どもとその家族にかかわる様々な事象に関心を向け、日常的に子ども・子どもの家庭を取り巻く環境について考える機会を持ってください。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	子ども家庭福祉を学ぶこと	授業全体の概要について説明する。子ども家庭福祉が必要とされるようになった背景について学ぶ。 (授業の進め方：講義)
第2週	子どもの福祉と子どもの権利	子ども福祉の理念、子どもの権利に関する条約について学ぶ。概念の変遷、子どもの権利についての理解を深める。 (授業の進め方：講義)
第3週	子どもを取り巻く環境と問題	子どもを取り巻く社会環境、課題となる福祉ニーズとは何か、専門的な援助の必要性について学ぶ。 (授業の進め方：講義・グループワーク)
第4週	子ども家庭福祉の歴史	子どもの社会的地位づけの変遷、それに伴う子ども家庭福祉制度の拡大と変容について学ぶ。 (授業の進め方：講義)
第5週	子ども家庭福祉に関する法体系	児童福祉法、次世代育成支援対策推進法などを中心に、子ども家庭を支える法制度の体系について学ぶ。 (授業の進め方：講義)
第6週	子ども家庭福祉の機関と施設	子ども家庭福祉制度に関わる組織・団体、およびその役割、児童福祉施設について学ぶ。 (授業の進め方：講義)
第7週	子どもの健全育成	子どもの生活、育成上の課題についての理解を深める。子どもの健全育成とはどのようなものかを考える。 (授業の進め方：講義・グループワーク)
第8週	子どもの貧困と母子保健	子どもの貧困の概念と現状について学び、その対策としての母子保健のために何か必要なのかについて理解を深める。 (授業の進め方：講義)
第9週	社会的養護の動向と課題	社会的養護が必要な子どもの概念、要養護児童のための施設を中心に、社会的養護の動向と課題について学ぶ。 (授業の進め方：講義)
第10週	少年非行の現状と対応	いじめなどの少年非行の要因、現状、その対応策について学ぶ。 (授業の進め方：講義・グループワーク)
第11週	障害児福祉サービス	障害児のための福祉制度、施設などにうちて学ぶ。 (授業の進め方：講義)
第12週	ひとり親家庭の現状と課題	ひとり親家庭の概念と現状、社会的支援施策の枠組みと内容、支援の課題などについて学ぶ。 (授業の進め方：講義)
第13週	子ども虐待と児童虐待防止法	子ども虐待の概念と現状、児童相談所、児童虐待防止法について学ぶ。 (授業の進め方：講義)
第14週	子ども家庭福祉におけるソーシャルワークと関係機関の役割	これからの子ども家庭福祉制度の展望について学ぶ。ソーシャルワーク実践が展開できるシステム作りについて理解を深める。 (授業の進め方：講義・質疑応答)
第15週	授業内試験とまとめ	子どもを取り巻く現状を振り返り、今後予想される子ども家庭福祉における課題をまとめて、授業内試験を行う。 (授業の進め方：講義・授業内試験)
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	社会的養護Ⅰ						
担当教員	渡邊 洋平	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 1503			ワケマド科目	
授業概要							
現代社会においては、家族形態や養育機能に変化が見られ、様々な子育て上の課題の発生から、家庭で養育できない子どもを支えるために社会的養護という役割が大きくなってきています。その理解を深めるために、これまでの児童養護のあり方を理解し、現在社会に起きている子どもの諸問題と結びつけて考える必要があります。本授業では、社会的養護の基本原則・役割、社会的養護に関する法体系を学び、社会的養護にかかわる子どもの権利と生活の拠点となる施設養護・家庭的養護について理解します。							
到達目標							
① 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 ② 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本原則について理解する。 ③ 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 ④ 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 ⑤ 社会的養護の現状と課題について理解する。							
学科のディプロマ・ポリシー							
1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。							
○ 2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。							
3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。							
4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。							
成績評価方法・基準							
内容	割合 (%)	内容	割合 (%)				
学期末の授業内試験	80%						
毎回の授業後の小レポート	20%						
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』							
参考書等							
相澤 仁、林 浩康 (2019) 『基本保育シリーズ 社会的養護6 第2版』中央法規、中坪 典他編 (2021) 保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典 ミネルヴァ書房							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無						実務経験あり	
社会的養護の施設で15年の実務経験あり（児童家庭支援センター2年、児童養護施設13年）							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
授業前は、指示のあった資料や参考書等をよく読んで予習してください。授業後は、講義内容及び子どもの福祉に関わる諸問題と結びつけて復習してください。				2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
基本的には講義中心になります。教室外での学修を自ら進めておいてください。また、わからないことがあればオフィスアワーもしくはメール等で質問をしてください。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション、社会的養護の理念と概念	授業の進め方や評価についてオリエンテーションを行います。社会的養護の概念について理解を深め、その根本となる理念や原理について学びます。
第2週	社会的養護の歴史の変遷	欧米における歴史と我が国における歴史を学び、現在の社会的養護に至る歴史の変遷について理解を深めます。
第3週	子どもの人権擁護と社会的養護	社会的養護における人権擁護の捉え方、その具体的擁護のあり方や課題について学びます。
第4週	社会的養護の基本原則	現在の社会的養護における家庭養育優先原則について学びます。その根拠となる法律や条約とともに、国内外の施策や研究の動向について理解を深めます。
第5週	社会的養護における保育士等の倫理と責務	社会的養護に関わる専門職に求められる倫理と責務について学びます。
第6週	社会的養護の制度と法体系	我が国における措置制度とその背景原理を学び、社会的養護の制度と法体系について理解を深めます。
第7週	社会的養護のしくみと実施体系	児童相談所から社会的養護の施設や里親家庭に至る過程について学びます。様々な施設の目的や概要、児童相談所の役割について理解を深めます。
第8週	社会的養護とファミリーソーシャルワーク	ファミリーソーシャルワークについての基本的な視点や考え方を整理し、社会的養護においてどのように実践されているのかを学びます。
第9週	社会的養護の対象と支援のあり方	社会的養護の対象となる子どもや家庭についての理解を深め、予防的支援、在宅措置、代替的養育について学びます。
第10週	家庭養護と施設養護	家庭養護と施設養護の現状と課題を整理し、その共通点と相違点について理解を深めます。
第11週	社会的養護にかかわる専門職	社会的養護で働く専門職や実施者の業務内容や専門性について理解し、多職種連携の必要性について学びます。
第12週	社会的養護に関する社会的状況	社会的養護で暮らす子どもたちの背景について理解を深め、諸外国の状況を参考にしながら、社会的養護の存在意義と今後のあり方について学びます。
第13週	施設の運営管理の現状と課題	社会的養護の施設等について、運営にかかわる内容と費用の仕組みやあり方を学びます。
第14週	被措置児童等虐待防止の現状と課題	被措置児童等虐待防止についての理解を深め、虐待防止のための取組や発生要因と課題について学びます。
第15週	社会的養護と地域福祉の現状と課題 学期末試験	地域福祉への貢献について理解を深め、社会的養護と地域福祉の課題について学びます。講義終了後、学期末試験を行います。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	社会的養護Ⅱa						
担当教員	熊谷 良介	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 2504			ワケマド科目	
授業概要							
<p>児童福祉施設における児童の生活や援助者による援助内容を理解するとともに、児童の望ましい発達や自立を支援するために必要な知識や技術を習得する。</p> <p>① 児童福祉施設での日常生活における具体的な援助方法を理解する。  ② 虐待を受けた児童に対する心理的援助の方法や家庭への支援のあり方を学ぶ。  ③ 事例を通じてケースの理解や問題の把握及び援助の仕方を考える。  ④ 児童福祉施設における援助の知識や技術について学ぶ。  ⑤ 社会的養護における家庭的養護の推進と小規模化の実践について学ぶ。</p>							
到達目標							
<p>① 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。  ② 施設養護及び家庭養護の実践について理解する。  ③ 社会的養護における計画・記録・自己評価の実践について理解する。  ④ 社会的養護に関わる相談援助の方法と技術について理解する。  ⑤ 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。  ⑥ 施設の小規模化における保育者のあり方と役割について理解する。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。</p> <p>○ 2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。</p> <p>3. 協調性：社会の様々な問題に関心に向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。</p> <p>4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
期末レポート		80					
平常点		20					
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
『新版保育士をめざす人の社会的養護Ⅱ』	辰巳隆・岡本真幸編著	みらい	2020				
参考書等							
<p>小木曾宏・宮本秀樹・鈴木嵩之編著 (2022) 「よくわかる社会的養護Ⅱ」ミネルヴァ書房  喜多一憲監修・堀場純矢編集 (2024) 「みらい×子どもの福祉ブックス 社会的養護Ⅱ【第2版】」みらい</p>							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
授業前は、教科書の各回の講義内容に該当する箇所をよく読んでおいてください。授業後は、配付された資料等を参考に講義内容をまとめておいてください。				1時間から2時間程度/週			
受講時の注意事項							
授業の中で演習課題について小レポートを提出、又はグループ討議を行います。期末にレポート提出していただきます。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業の目的及び内容、授業計画、事例研究、グループ討議の学び方について説明する。
第2週	社会的養護における子どもの権利擁護	子どもの権利擁護を理念とする社会的養護の仕組みについて学ぶ。
第3週	社会的養護における子どもの理解	社会的養護を経験する子どもの特徴や背景について学ぶ。
第4週	基本的日常生活支援	子ども達が「生活」を作り上げていくための、基本的な生活習慣の確立と基本的な生活技術の修得に対する支援について学ぶ。
第5週	入所から退所後に至る自立支援	自立を理解する視点をふまえて、子どもが施設に入所し、退所していく一連の支援のプロセスを学ぶ。
第6週	児童養護の体系と児童福祉施設の概要、児童養護施設の生活特性及び実態	社会的養護における児童養護の体系を理解し、児童養護施設における生活や支援について、事例を通して学ぶ。
第7週	母子生活支援施設と乳児院の生活特性及び実態	母子生活支援施設および乳児院での生活や支援について、事例を通して学ぶ。
第8週	児童自立支援施設、児童心理治療施設の生活特性及び実態	児童自立支援施設および児童心理治療施設での生活や支援について、事例を通して学ぶ。
第9週	家庭養護の生活特性及び実態	里親およびファミリーホームでの生活や支援について、事例を通して学ぶ。
第10週	社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価	社会的養護における支援計画の策定と評価の必要性を理解し、情報を共有する記録の方法について学ぶ。
第11週	保育の専門性に関わる知識・技術とその実践	社会的養護に関わる職員と倫理について、保育士の責務をふまえて理解し、具体的に用いる知識と技術から社会的養護に関わる保育士の専門性について学ぶ。
第12週	社会的養護に関わる援助の知識・技術とその実践	社会的養護におけるソーシャルワークの体系を学び、ソーシャルワークとケアワークを運動させた働きかけの重要性を理解する。
第13週	虐待への対応と虐待された子どもへの支援	虐待のリスクに対する評価、虐待された子どもの特徴とそうした子どもに対するアプローチの方法について学ぶ。
第14週	子どもと家族への支援（虐待した家族への支援）	社会的養護における親子関係の再構築の視点を理解し、親子関係への支援の方法について学ぶ。
第15週	社会的養護の課題と展望、全体の総括	社会的養護における政策動向をふまえて、社会的養護の今後の展望と課題について保育者の立場から考える。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	乳児保育 I						
担当教員	早坂 聡子	配当年次	1 年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 1406			ワケマド 科目	
授業概要							
<p>人格形成の基礎を培う重要な乳児期に関わる保育者の役割を理解し、乳児保育の基本的な知識と技術を学び、具体的な実践につなげられるよう以下の点を学びの柱とする。</p> <p>①乳児保育の歴史的変遷・目的・役割・社会的背景を理解する。          ②多彩な保育の場における乳児保育の現状と課題を知る。          ③3歳未満児の発育・発達の特徴を理解する。          ④乳児保育における連携・協働の重要性を理解する。          ⑤乳児期の子育てで家庭が抱える課題と支援の基本を理解する。</p>							
到達目標							
<p>①乳児保育の目的や役割、ニーズの高まりと社会的背景について説明できる。          ②3歳未満児の発達過程と具体的な援助の方法について説明できる。          ③3歳未満児の保育内容と安心で安全な環境構成について説明できる。          ④3歳未満児の保育における連携と協働、子育て支援の必要性について説明できる。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
	1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。						
○	2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。						
	3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。						
	4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。						
成績評価方法・基準							
	内容	割合 (%)	内容	割合 (%)			
	授業内試験	50%					
	課題への取り組み (分担当発表・授業内課題の提出)	30%					
	授業への取り組み (主体性・意欲・感想など)	20%					
教科書・ソフト等							
	書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
	『講義で学ぶ乳児保育』	小山聡子 (編著)	わかば社	2019			
参考書等							
保育所保育指針解説 厚生労働省(編) フレーベル館 (2018) その他、授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験あり			
幼稚園(園長含む)及び保育所にて長期にわたる保育者の経験、また、児童相談所一時保護の現場等にて、保育・教育・子育て支援の経験がある。							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
	予習・復習の具体的な内容			予習・復習に必要な時間			
	・授業内で行うテキスト分担当発表の資料を作成すること ・年齢発達に適した絵本の選択と読み聞かせの練習を行うこと ・授業での学びの振り返りとテキストや資料の整理を行うこと			2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
テキストの分担当発表を交え授業を展開します。積極的に発表準備に取り組み、学びを深めてください。実習も含め保育者は、子どもたちの前に立って話す、想いを伝える、分かりやすくまとめることが求められます。積極的な姿勢で取り組んでください。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	・本講の概要や方法、授業評価について ・人生の基礎としての乳児期 ・自らの乳児期を振り返る
第2週	乳児保育の目的と役割	・乳児保育の目的と役割 ・乳児保育の対象と実施体制 ・養護と教育の一体性
第3週	乳児保育の歴史と現状	・子育てをめぐる課題 ・乳児保育の歴史の変遷 ・乳児保育に関わる法律
第4週	3歳未満児の発達の基本	・人と関わりと育ち ・アタッチメント形成の重要性 ・身体、言葉、社会性の発達
第5週	乳児(0歳児)の保育内容	・保育所保育指針(第4次改定)での位置づけ ・基本事項-発達の特徴や道筋 ・保育のねらい及び内容(3つの視点)
第6週	1歳以上3歳未満児の保育内容	・基本的事項-発達の特徴と道筋 ・保育のねらい及び内容(5領域) ・3歳以上児の保育とのつながり
第7週	3歳未満児の生活の基本	・食事(授乳から幼児食への移行) ・睡眠と休息 ・排泄(排泄の自立への移行)
第8週	乳児保育の基本的事項①	・乳児保育における全体的な計画 ・0歳児・1歳児・2歳児の日課(デイリープログラム) ・乳児保育における保育者の業務
第9週	乳児保育の基本的事項①	・健康観察、健康管理 ・安全対策、防災対策 ・虐待への対応
第10週	乳児(0歳児)の発達に応じた生活と遊び	・発達と遊びの広がり ・保育者の援助と配慮 ・生活と遊びの環境構成
第11週	1歳以上3歳未満(1歳児)の発達に応じた生活と遊び	・発達と遊びの広がり ・保育者の援助と配慮 ・生活と遊びの環境構成
第12週	1歳以上3歳未満(2歳児)の発達に応じた生活と遊び	・発達と遊びの広がり ・保育者の援助と配慮 ・生活と遊びの環境構成
第13週	乳児保育における子育て支援	・乳児保育と3歳児神話 ・子育て課題に応じた子育て支援 ・子育て支援の実践
第14週	乳児保育における連携・協働	・家庭、地域、他機関との連携 ・職員間の連携と協働(複数担任制・育児担当制) ・乳児保育における保育者の専門性
第15週	授業内試験・まとめ	・乳児保育の今後の課題 ・授業内試験
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	乳児保育 I b						
担当教員	早坂 聡子	配当年次	1 年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 1406			ワケマド 科目	
授業概要							
<p>人格形成の基礎を培う重要な乳児期に関わる保育者の役割を理解し、乳児保育の基本的な知識と技術を学び、具体的な実践につなげられるよう以下の点を学びの柱とする。</p> <p>①乳児保育の歴史的変遷・目的・役割・社会的背景を理解する。          ②多彩な保育の場における乳児保育の現状と課題を知る。          ③3歳未満児の発育・発達の特徴を理解する。          ④乳児保育における連携・協働の重要性を理解する。          ⑤乳児期の子育てで家庭が抱える課題と支援の基本を理解する。</p>							
到達目標							
<p>①乳児保育の目的や役割、ニーズの高まりと社会的背景について説明できる。          ②3歳未満児の発達過程と具体的な援助の方法について説明できる。          ③3歳未満児の保育内容と安心で安全な環境構成について説明できる。          ④3歳未満児の保育における連携と協働、子育て支援の必要性について説明できる。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
	1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。						
○	2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。						
	3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。						
	4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。						
成績評価方法・基準							
	内容	割合 (%)	内容	割合 (%)			
	授業内試験	50%					
	課題への取り組み（分担発表・授業内課題の提出）	30%					
	授業への取り組み（主体性・意欲・感想など）	20%					
教科書・ソフト等							
	書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
	『講義で学ぶ乳児保育』	小山聡子（編著）	わかば社	2019			
参考書等							
保育所保育指針解説 厚生労働省（編） フレーベル館 （2018） その他、授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験あり			
幼稚園（園長含む）及び保育所にて長期にわたる保育者の経験、また、児童相談所一時保護の現場等にて、保育・教育・子育て支援の経験がある。							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
	予習・復習の具体的な内容			予習・復習に必要な時間			
	・授業内で行うテキスト分担発表の資料を作成すること ・年齢発達に適した絵本の選択と読み聞かせの練習を行うこと ・授業での学びの振り返りとテキストや資料の整理を行うこと			2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
テキストの分担発表を交え授業を展開します。積極的に発表準備に取り組み、学びを深めてください。実習も含め保育者は、子どもたちの前に立って話す、想いを伝える、分かりやすくまとめることが求められます。積極的な姿勢で取り組んでください。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	・本講の概要や方法、授業評価について ・人生の基礎としての乳児期 ・自らの乳児期を振り返る
第2週	乳児保育の目的と役割	・乳児保育の目的と役割 ・乳児保育の対象と実施体制 ・養育と教育の一体性
第3週	乳児保育の歴史と現状	・子育てをめぐる課題 ・乳児保育の歴史の変遷 ・乳児保育に関わる法律
第4週	3歳未満児の発達の基本	・人と関わりと育ち ・アタッチメント形成の重要性 ・身体、言葉、社会性の発達
第5週	乳児（0歳児）の保育内容	・保育所保育指針（第4次改定）での位置づけ ・基本事項－発達の特徴や道筋 ・保育のねらい及び内容（3つの視点）
第6週	1歳以上3歳未満児の保育内容	・基本的事項－発達の特徴と道筋 ・保育のねらい及び内容（5領域） ・3歳以上児の保育とのつながり
第7週	3歳未満児の生活の基本	・食事（授乳から幼児食への移行） ・睡眠と休息 ・排泄（排泄の自立への移行）
第8週	乳児保育の基本的事項①	・乳児保育における全体的な計画 ・0歳児・1歳児・2歳児の日課（デイリープログラム） ・乳児保育における保育者の業務
第9週	乳児保育の基本的事項①	・健康観察、健康管理 ・安全対策、防災対策 ・虐待への対応
第10週	乳児（0歳児）の発達に応じた生活と遊び	・発達と遊びの広がり ・保育者の援助と配慮 ・生活と遊びの環境構成
第11週	1歳以上3歳未満（1歳児）の発達に応じた生活と遊び	・発達と遊びの広がり ・保育者の援助と配慮 ・生活と遊びの環境構成
第12週	1歳以上3歳未満（2歳児）の発達に応じた生活と遊び	・発達と遊びの広がり ・保育者の援助と配慮 ・生活と遊びの環境構成
第13週	乳児保育における子育て支援	・乳児保育と3歳児神話 ・子育て課題に応じた子育て支援 ・子育て支援の実践
第14週	乳児保育における連携・協働	・家庭、地域、他機関との連携 ・職員間の連携と協働（複数担任制・育児担当制） ・乳児保育における保育者の専門性
第15週	授業内試験・まとめ	・乳児保育の今後の課題 ・授業内試験
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目 乳児保育 II							
担当教員	岡田 由子	配当年次	1 年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 1407			ワケマド 科目	
授業概要							
乳児保育 I で学んだ乳児期 (0・1・2歳児) の発達や特性を踏まえ、生活や遊びの具体的な援助の方法について学ぶと共に、乳児期の健康や安全、保育計画や子育て支援についての理解や、赤ちゃん人形で関わり方の実際を体験したり、グループワークや乳児保育で役に立つ道具の制作をしたりしながら、乳児保育の実践力を身につける。							
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技や演習を通して、乳児期の子どもや保護者に対する具体的な援助や配慮ができる</li> <li>・乳児期の健康や安全について理解し、発達の特性を踏まえた適切な援助や配慮、保育士 (保育者) の責任ある行動などを説明できる</li> <li>・習得した知識や技術、理解した内容を保育の場でのように活用し展開するかを、主体的に考えることができる</li> </ul>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。</li> <li>2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。</li> <li>3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。</li> <li>4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</li> </ol>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
授業内試験		40%					
小テスト		30%					
授業への取り組みや意欲		30%					
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
『やさしい乳児保育』		神原幸子、金丸貞編著	青陽社	2007			
『保育所保育指針解説』		厚生労働省編	フレーベル社	2018			
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験あり			
札幌市公立保育園勤務 (東月寒乳児保育園、白石乳児保育園、美園保育園、平岸保育園、豊園保育園、東白石保育園、あおば保育園)				札幌市子育て支援部認定こども園開設準備室			
札幌市認定こども園に在籍							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
授業前には指定箇所を読み、分からない内容は授業の中で確認できるようにしてください。疑問を持って授業に臨むことが学びにつながります。授業後はテキストや、配布プリントなどを基に復習してください。授業の開始時に、前回のアンケートから皆の学びになることを共有する時間を設けています。また、グループワークでも自分で				1時間から2時間程度/週			
受講時の注意事項							
出席確認は、「出席確認フォーム」への入力を毎回していただきます。入力時間は、授業内に指示します。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス、乳児保育の援助の基本 (保育士や身近な大人との関わりについて)	授業計画の説明、乳児保育に必要な保育士 (保育者) や保護者等への関わりや援助の基本について説明します。
第2週	乳児保育の1日の生活の流れと保育の環境	実際の保育所生活の基本的な流れ (ディリープログラム) を確認します。
第3週	一人ひとりの子どもに応じた援助や受容的、応答的な関わり方 (0歳児の発育・発達を踏まえた生活の援助)	一人ひとりの子どもに応じた援助や受容的、応答的な関わり方がかんがえます。演習として0歳児に必要な授乳や抱っこ、おんぶやおむつ交換について赤ちゃん人形で体験します。
第4週	子どもの体験と学びの芽生え (1歳児の発育・発達を踏まえた生活の援助と実際)	1歳児は言葉を獲得したり、歩行が安定したりする時期でもあります。特性を踏まえながら保育士 (保育者) としての関わり方について考えます。演習として乳児保育で役に立つ道具をつくりまします。
第5週	子ども同士の関わりとその援助の実際 (2歳児の発育・発達を踏まえた生活の援助と実際)	2歳児は子ども同士の関わりが増え、その中で起こるいざこざなども多くなりますが、子どもの主体性を尊重し、自己肯定感を持って生活するための援助について考えます。演習として子どもへの関わり方の事例を基にグループで検討し学びを深めます。
第6週	子どもの遊びや生活を支える環境の構成	環境には、人的環境、物的環境、自然環境の三つ側面があります。乳児を取り巻く環境について考えます。演習として乳児保育で役に立つ道具をつくりまします。
第7週	乳児保育における保健 (病気)、情緒の安定を図るための配慮	子ども特有の病気の特徴や、配慮すべき事項について考えます。
第8週	乳児保育における保健 (薬と安全対策)	薬の預かりが増えてきています。間違いを起こさないためにも基本的な知識を学ぶと共に、保育所で行うべき安全対策について考えます。
第9週	集団での生活における配慮	乳児保育における安全管理について考えます。演習として過去に起きた事故事例をグループで検討し学びを深めます。
第10週	乳児保育における計画の実際	保育には長期計画と短期計画があります。また、保存年限がある様々な記録もあります。保育の現場に必要な計画と記録について考えます。演習として人権を尊重した書き方についてグループワークを行います。
第11週	環境の変化や3歳以上の保育への移行に対する配慮	保育所内での連携を密にすることで、安心して進級できる環境が整います。また、保護者や地域との連携の必要性について考えます。演習として保護者へのコミュニケーションツールでもある連絡帳を書いてみます。
第12週	子どもの主体性の尊重と自己の育ち	子どもの主体性を尊重し自己肯定感を高めるための援助について考えます。演習としてネガティブな言葉をポジティブな言葉に置き換えるグループワークをします。
第13週	乳児保育における子育て支援	育児不安を抱えている保護者が増えています。入所理由も様々です。個別対応について考えます。また、保育所でできる保育所を利用していない保護者への支援についても考えます。演習として保育に役立つ道具をつくりまします。
第14週	授業内試験	授業内で試験を実施します。
第15週	振り返りとまとめ	試験内容を振り返りまとめとします。演習として、子どもの気持ちになり、「洗濯ばさみで遊ぶ」体験をします。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	保育の心理学						
担当教員	星 信子	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 1402			ワデマド科目	
授業概要							
この授業の目的は、子どもの発達や学習に関わる様々な理論を学び、子どもの発達や学習の過程についての基本的な知識を習得することにより、保育の中での子どもとの関わりに活かすことができるようになることである。授業概要は次のとおりである。 ① 子どもの発達を捉える視点について学ぶ。 ② 子どもの発達の諸過程について学ぶ。 ③ 子どもの学習の過程と保育の関わりについて学ぶ。							
到達目標							
① 子どもの発達や学習に関する基本的な理論を理解し、説明できる。 ② 子どもの発達や学習の過程についての基本的な知識を習得している。 ③ 発達や学習に関する知識を各自の子ども理解に活かすことができる。							
学科のディプロマ・ポリシー							
1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。							
○ 2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。							
3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。							
4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
筆記試験		80%					
平常点（コメントシートの取り組みなど）		20%					
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
「なし。授業内で適宜、資料を配布します。」							
参考書等							
「よくわかる乳幼児心理学」内田伸子編；ミネルヴァ書房、「子どもの育ちを支える発達心理学」高橋綾子・請川滋大編著；朝倉書店、「やさしい教育心理学」鎌原雅彦・竹綱誠一郎著；有斐閣アルマ							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
授業の後はノートや資料を見なおして内容を確認しましょう。参考書を活用するなどして専門用語を自分なりに説明できるように心がけましょう。				2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
毎回記入するコメントシートなどを主体的に活用し、不明な点などを解消するように努めましょう。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション：保育における発達理解の意義	①子どもの発達の理解 ②発達理解の意義と評価
第2週	発達の理論：子どもの発達と環境	①発達の要因（遺伝と環境） ②子どもの発達と環境
第3週	子どもの発達の過程① 運動と知覚の発達	①脳神経系の発達 ②原始反射から随意運動へ ③運動の発達
第4週	子どもの発達の過程② 乳児期の知的発達	①子どもの知的発達についての考え方 ②感覚運動期 ③物の永続性の獲得
第5週	子どもの発達の過程③ 幼児期の知的発達	①前操作期：象徴機能の発達 ②見かけによる支配
第6週	子どもの発達の過程④ 幼児期の知的発達	①自己中心性 ②心の理論の発達 ③幼児期の知的発達の特徴
第7週	子どもの発達の過程④ 児童期以降の知的発達	①児童期の知的発達 ②青年期以降の知的発達
第8週	子どもの発達の過程⑤ 愛着の理論	①親と子の相互作用の始まり ②愛着の定義 ③愛着の発達
第9週	子どもの発達の過程⑥ 親子関係の発達	①親子関係の個人差 ②父親との関係 ③愛着関係の後の発達への影響
第10週	子どもの発達の過程⑦ 対人関係の発達	①きょうだい関係の発達 ②友人関係の発達 ③仲間関係の働き
第11週	子どもの発達の過程⑧ 感情の発達	①感情の発達 ②感情的有能さ：感情をうまく使う力
第12週	子どもの発達の過程⑨ 話し言葉の発達	①言葉の機能 ②言語獲得まで ③話し言葉の発達
第13週	子どもの発達の過程⑩ 書き言葉の発達	①文字への興味・文字習得の基礎 ②読み書きの発達
第14週	学習の理論	①学習の理論 ②動機づけ
第15週	まとめと試験	①まとめ ②筆記試験
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		



授業科目		子どもの保健					
担当教員	加藤 静恵	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 1403			ワゲマド科目	
授業概要							
①胎児期から小児の身体生理・発育・発達、よく見られる小児の病気・母子保健の施策について学ぶ。②小児の健康な時の子育てだけでなく疾病罹患時や何らかの心身の発達に偏りのある子どもの姿を理解し、それに応じた適切な子育ての実践の基礎となる事項を学ぶ。③子どもを取り巻く環境の変化と、健康に及ぼす影響や問題点を考察する。④病気の予防と健康増進を目的とした保健指導とそれを支える小児保健行政についても講義する。⑤胎児期からの神経系(脳機能)の発達と心身の発育・発達との関連を基礎に、こころの発達に偏り・不適応のある子どもの理解、適切な支援を実践するための理解を深める。⑥精神保健活動に必要な精神保健福祉行政のシステムを学習し、子育て支援者として母子の健全な心身の発達を支援するための基礎知識を習得する。⑦保育の現場(単に保育所に限定せず、乳幼児、児童が生活する場所：子育て支援や学童保育、児童福祉施設など)で健康で安全な保育の基礎となる、健康の保持増進を支援できる保育活動の理論と実践を習得する。							
到達目標							
① 子どもの心身の健康増進(=一次予防)の重要性と保健活動の意義を理解する。 ② 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 ③ 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 ④ 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。							
学科のディプロマ・ポリシー							
1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。							
○ 2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。							
3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。							
4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。							
成績評価方法・基準							
内容		割合(%)	内容		割合(%)		
学期末の授業内試験		60					
受講確認レポート課題		40					
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
『新版よくわかる子どもの保健』		丸尾良浩他	ミネルヴァ書房	2021	978-4-623-09024-2		
参考書等							
人間発達学(MEDICAL VIEW) ハイリスク児のフォローアップマニュアル(MEDICAL VIEW) 子どもの保健テキスト(診断と治療社) 子どもの病気の地図帳(講談社) 医療保育(診断と治療社) 子どもの感覚運動機能の発達と支援-発達の科学と理論を支援に活かす-改訂第2版(Medical View) 子どもの保健(中央法規) 保育を学ぶ人のための子どもの保健(建帛社) 正常発達(三輪書店) 小児看護技術アドバンス							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験あり			
医療福祉センター札幌あゆみの園・ひまわり会札幌病院・札幌・すがた医院で発達外来を担当しています							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
授業前に教科書の該当ページに目を通し事前学習に取り組んでください。講義資料はCanvasにアップロードします。リッ2時間から3時間程度/週の提出と受講確認課題(復習として講義に関連したトピックスなどの資料を提示しますので考察して理解を深める)の提出を課します							
受講時の注意事項							
講義形式は原則対面を実施します。状況によってはリモート(Meet・ワゲマド等)対応をします。ワークや身体活動も取り入れていきます。講義に関する質問や相談を個別に受け付けます。人間の身体機能やご自身やご家族など周囲の方の健康についても関心を持ち、子どもの家族の健康面も管理や支援方法を学びます。あなたの講義で耳にした知識が誰かの命を救い、人生を変えるかもしれないという意識をもって講義							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション 子どもの心身の健康と保健の意義	子どもの保健とは；保育者の身体作り、運動機能感覚・視覚のアセスメント、胎児期からの発達、子育て支援=健康増進(一次予防)の重要性、感覚統合
第2週	母子保健	母子保健水準、メンタルヘルス、虐待、トラウマ、マルチトント、地域精神保健活動、養護と教育の連携、保育士の役割
第3週	身体発育と保健	発育の原則、身体計測、発育値の評価、肥満と痩せ、発育の影響する要因
第4週	運動機能の発達	原始反射、乳児・幼児・学童期以降の運動器の発達、発達性協調運動障害、感覚統合療法、ビジョントレーニング
第5週	生理機能の発達と保健	自律神経・体温・水分代謝と発熱・循環・呼吸心拍血圧・消化吸収・排泄・睡眠・感覚器官・免疫
第6週	精神機能の発達と保健	心の育ち・言語の発達・社会性の発達(ASD含む)・情緒の発達・発達に影響する要因
第7週	心身の健康状態とその把握	健康状態の観察ポイント、頭頸部、胸・腹部、四肢皮膚
第8週	心身の不調等の早期発見 発育・発達の把握と健康診断	子どもの心身の健康、心身症生活習慣や行動上の問題、発達を評価する、乳幼児健康診査保護者との情報共有、メンタルヘルス(養育者のメンタルヘルス)
第9週	子どもの疾病の予防及び適切な対応 ①	重要な感染症、呼吸器疾患
第10週	子どもの疾病の予防及び適切な対応 ②	消化器疾患、循環器疾患、泌尿生殖器疾患
第11週	子どもの疾病の予防及び適切な対応 ③	中枢神経系疾患、内分泌代謝疾患
第12週	子どもの疾病の予防及び適切な対応 ④	血液、腫瘍性疾患、アレルギー性疾患
第13週	子どもの疾病の予防及び適切な対応 ⑤	整形外科疾患、耳鼻咽喉科疾患、皮膚科疾患、眼科疾患、歯科疾患
第14週	子どもの疾病の予防と適切な対応	新生児マスキング・予防接種・疾病異常と支援体制、他職種間の連携協働
第15週	講義内習得度確認テスト	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目		教育課程論					
担当教員	大澤 亜里	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 2301			ワケマド科目	
授業概要							
<p>子どもの個性を尊重し、発達を支える教育課程・全体的な計画および指導計画のあり方について考え、実践の中で生かすことができる知識やスキルを身につけます。授業では教育課程・全体的な計画、指導計画とは何か、どのような意義があるのか、これらを作成する際にどのようなことを考慮しなければならないのかについて学びます。また計画に基づいて実践した自らの保育を記録し省察、評価する意義について学びます。その上で、子どもの姿を想像しながら実際に指導計画を作成します。</p>							
到達目標							
<p>① 教育課程・全体的な計画および指導計画の意義について説明することができる。          ② 記録および省察、評価の意義を理解し、記録の取り方を工夫することができる。          ③ 子どもの視点に立って指導計画を作成することができる。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。          2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。          3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。          4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
毎回の授業後に提出するリアクションペーパーの内容		50%					
指導計画作成への取り組み		20%					
期末レポート		30%					
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社		出版年	ISBN	備考
『保育所保育指針解説』		厚生労働省	フレーベル館		2018		
『幼稚園教育要領解説』		文部科学省	フレーベル館		2018		
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』		内閣府・文部科学省・厚生労働省	フレーベル館		2018		
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容					予習・復習に必要な時間		
授業前には教科書の関連する箇所をよく読んでおいてください。授業後にはレジュメやノートの見直しをするとともに、配付資料や参考文献をよく読み、理解を深めてください。					2時間から3時間程度/週		
受講時の注意事項							
授業は基本的に講義形式で進めていきますが、グループで考えたり議論したりする機会や自ら指導計画を作成する機会がありますので積極的に参加してください。また毎回の授業の最初にリアクションペーパーのフィードバックやリアクションペーパーの内容に関する意見交換を行いますので、自分の考えや意見等を書いてください。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス：教育課程論では何を学ぶか	教育課程論の授業のねらい、概要、到達目標、授業計画などについて知る。保育の計画の基本的な考え方について学ぶ。
第2週	保育における計画の意義	なぜ保育の計画が必要なのか学ぶ。保育において「計画」をどのように捉えるべきか学ぶ。
第3週	幼稚園教育要領および保育所保育指針の変遷	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格について学ぶ。 幼稚園教育要領および保育所保育指針がどのように変遷してきたのかを学ぶ。
第4週	教育課程・全体的な計画の意義と編成	教育課程・全体的な計画とは何かについて学ぶ。 教育課程・全体的な計画と指導計画との関係について学ぶ。
第5週	指導計画の基本①長期の指導計画	長期の指導計画の特徴について学ぶ。 長期の指導計画を作成する際の留意点について学ぶ。
第6週	指導計画の基本②短期の指導計画	短期の指導計画の特徴について学ぶ。 短期の指導計画を作成する際の留意点について学ぶ。
第7週	指導計画の基本③0・1・2歳児保育の指導計画	3歳未満児の発達の特徴について学ぶ。 3歳未満児の保育の計画を作成する際の留意点について学ぶ。
第8週	指導計画の基本④3・4・5歳児保育の指導計画	3歳以上児の保育の特徴と指導計画作成の留意点について学ぶ。 長時間保育や特別な配慮を要する子どもの保育における指導計画作成時の配慮点について学ぶ。
第9週	保育の記録	記録の意義について学ぶ。 記録の仕方について学ぶ。
第10週	保育の評価	保育の省察と評価の意義について学ぶ。 小学校との連携の意義と要録の役割について学ぶ。
第11週	指導計画の作成①子どもの姿とねらい・内容	子どもの姿から、適切なねらいと内容を考える。
第12週	指導計画の作成②絵本の読み聞かせの部分指導案	絵本の読み聞かせの部分実習指導案を作成する。
第13週	指導計画の作成③制作活動の部分指導案	制作活動の部分実習指導案を作成する。
第14週	指導計画の作成④日案の書き方	日案作成時に考慮すべきことを、その意味も含めて学ぶ。
第15週	学外実習に向けて：夏・冬の指導計画	実習での指導案作成に向けて確認すべき実習園の保育の計画について把握する。 7月、8月、9月の保育の魅力とポイントについて学ぶ。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	子ども家庭支援論a						
担当教員	遠山 景広	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 2501			ワケマド科目	
授業概要							
子育て家庭支援が必要となった背景、子ども家庭支援の目的と支援の方向性及び具体的な方法等を理解し、自分自身の見解と見通しが持てるような基礎力を養うことを目的とする。社会と価値観が多様化に伴い、家族のあり方や子育ての環境も大きく変化している。子ども・子育て家庭への支援に関する基本的な理念と具体的な方法に触れながら、「社会が保育者に求める家庭支援」とは何かを考え、保育者として必要となる「家庭における日常生活としての子育て」を支援するための理論や方法を学ぶ。							
到達目標							
① 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 ② 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 ③ 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 ④ 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。							
学科のディプロマ・ポリシー							
1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。							
○ 2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。							
3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。							
4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。							
成績評価方法・基準							
内容	割合 (%)	内容	割合 (%)				
授業内試験	60%						
授業への参加姿勢、コメント等	40%						
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
『なし。授業内で適宜、資料を配付します』							
参考書等							
倉石哲也・大竹智『子ども家庭支援』ミネルヴァ書房 2020 石動瑞代・中西滸彦・隣谷正範『保育と子ども家庭福祉論』みらい 2020 など。その他、適宜授業内で指示する							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無						実務経験なし	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容						予習・復習に必要な時間	
参考資料等を用いて、次回の内容に関連する内容を確認してください。また、日頃から子どもや保護者、子育て家庭に関するニュースや新聞記事などに関心をもち、自分の考えや根拠をまとめておきましょう。						2時間から3時間程度/週	
受講時の注意事項							
テキストの指定はませんが、各自で1つ用意することを推奨します 実習のリアクションペーパーのフィードバックを授業中に行います 「んぐまーま」の見学やボランティアにも積極的に参加してみてください							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション、子ども家庭支援の意義と必要性	半期の日程と支援センター実習について理解する 子ども・子育て家庭支援の意義と社会的な背景について学ぶ
第2週	家族、家庭の目的と機能	家族や家庭とはどんなものか、社会の変化とともに家族の捉え方がどのように変化してきたかを学ぶ
第3週	子育て家庭を取り巻く環境	「母親」を中心に、子育て家庭が社会の中でどのような位置付けになっているのか、理解を深める
第4週	保育者に求められる基本的態度	家族の意味と置かれた環境を踏まえ、家庭支援の際に保育者が意識すべきこと、配慮すべきことは何かを学ぶ
第5週	保育におけるソーシャルワークの意義	ソーシャルワークの基本的な考え方を確認し、保育現場での活用、展開について検討する
第6週	子どもの育ちの喜びの共有	子どもたちの様々な育ちの姿について、親・保護者と共有する意義を学び、共有するための配慮について理解を深める
第7週	様々な家庭の状況に応じた支援	家庭ごとの状況に合わせたニーズと子育てのニーズの双方を掴み、双方に配慮する必要性について学ぶ
第8週	保護者・地域の実践力の向上を支える支援	地域社会の中に保育をひらく、家庭支援における共同や協働をつくる上で保育者が担うことができる役割について学ぶ
第9週	要保護児童と家庭支援	社会的養護の仕組みと課題について理解を深める
第10週	子どもへの虐待と現状	子どもへの様々な形での暴力について学ぶとともに、暴力を防止するために必要な家庭の置かれた現状と背景について学ぶ
第11週	子ども家庭支援にかかわる制度	子育て・子ども家庭への援助にかかわる様々な制度とその変遷を学び、社会が抱える課題について理解を深める
第12週	子ども家庭支援にかかわる専門機関	子育て支援にかかわる多様な専門機関・専門職とその機能について学ぶ
第13週	現代社会の課題と貧困の問題	子どもと貧困を例に、子育て家庭を取り巻く環境とその連鎖構造、支援の形と配慮が必要なポイントについて学ぶ
第14週	子ども家庭支援に関する現状と課題	子育ての実情や様々な個別ニーズの背景について確認し、家庭側が抱えるニーズをどのように掴むのか、その際に保育者が発揮できる強みとは何かについて理解を深める
第15週	授業内試験とまとめ	現代社会の現状と家族の捉えられ方を振り返り、子ども・子育て家庭への支援の必要性について、自分の言葉でまとめる
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	児童文学a						
担当教員	山田 千春	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 2701			ワケマド科目	
授業概要							
① 子どもの心の豊かさを育てる上で大きな意味を持つ「児童文学」について、児童親の変遷などもまじえながらその歴史を学ぶ。 ② 絵本の歴史、種類、受容について知り、絵本の選定、読み聞かせなど幼児教育に携わる中で必要な基礎的知識を身につける。							
到達目標							
① 「児童文学」とは何か、児童文学史を通してその意義と特徴を説明できる。 ② 「絵本」とは何かを理解し、さまざまな絵本の種類を学ぶことで、子どもの言葉の発達や心の豊かさを支えていくことができる。							
学科のディプロマ・ポリシー							
1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。 2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。 3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。 4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。							
成績評価方法・基準							
内容	割合 (%)	内容	割合 (%)				
課題提出 (提出物の内容と提出期限を守っているか)	25%						
小テスト	25%						
学期末の授業内試験	50%						
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』							
参考書等							
『はじめて学ぶ 日本児童文学史』鳥越信編著 (ミネルヴァ書房)、『はじめて学ぶ 日本の絵本史 Ⅰ-Ⅲ』鳥越信編 (ミネルヴァ書房)							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無						実務経験なし	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
日常的に、図書館などで絵本を読んでください。				2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
第2回から読書記録を提出してもらいます。授業後半に小テストを実施します。授業では集中して取り組み、メモをとるようにしましょう。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス、「児童文学」とは何か、近代以前の「児童文学」	・シラバスに基づき、授業内容や評価方法について説明する。・児童文学の定義や近代以前の児童観と文学との関係について説明する。
第2週	「絵本」の歴史・概観、多様化する現在	・絵本とは何かを確認し、絵本誕生から現在に至るまでの絵本の歴史を概観する。
第3週	戦前の絵本、戦後の絵本	・戦前の絵本、特に戦時下の絵本の出版状況と戦後1960年代までの絵本の出版状況を説明する。
第4週	いろいろな絵本①	・日本における赤ちゃん絵本の誕生とその変遷、それぞれの時代の代表的な作品について紹介する。
第5週	いろいろな絵本②	・民話絵本の歴史を概観する。特に『かにむかし』(木下順二 作、清水崑 絵)や福音館書店から出版されている民話絵本について作品の特徴を説明する。
第6週	いろいろな絵本③	・創作物語絵本について代表的な作品の特徴を説明する。
第7週	いろいろな絵本④	・代表的な絵本作家の経歴や作品の特徴について説明をする。・保育現場における絵本の選書について考える。
第8週	「お伽噺」と「創作児童文学」	・グリム童話とアンデルセン童話について、作者の経歴や作品の特徴について説明する。
第9週	「巖谷小波」と「小川未明」	・巖谷小波と小川未明の経歴や代表的な作品について説明する。
第10週	『赤い鳥』	・『赤い鳥』の特徴や児童文学における果たした役割について説明する。
第11週	宮沢賢治①	・宮沢賢治の経歴や代表的な作品について説明する。
第12週	宮沢賢治②	・宮沢賢治の作品を読んで、作品の特徴を考え、感想を作成する。
第13週	児童文学冬の時代、民主主義児童文学	・児童文学冬の時代と民主主義児童文学における代表的な作品について説明する。
第14週	「童話伝統批判」と現代児童文学の成立	・「童話伝統批判」についてとそれによって成立した現代児童文学の作品について説明する。
第15週	授業内試験とまとめ	・まとめと授業内試験を行う。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	子ども家庭支援の心理学						
担当教員	遠山 景広/星 信子	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 2404			ワデマド科目	
授業概要							
子どもや家族を支援するためには、心理学的な視点から子どもや家族を取り巻く様々な問題を捉えていくことが重要である。本講義では、子どもや家族に関する以下の①～④の現代の諸問題について、心理学的な視点から学ぶ。 ① 生涯発達の見点と初期経験の重要性 ② 家族・家庭の意義及び家族関係 ③ 子育て家庭の社会的状況と課題 ④ 子どもの精神保健							
到達目標							
① 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 ② 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 ③ 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 ④ 子どもの精神保健とその課題について理解する。							
学科のディプロマ・ポリシー							
1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。							
○ 2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。							
3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。							
4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。							
成績評価方法・基準							
内容	割合 (%)	内容	割合 (%)				
筆記試験	80%						
平常点（課題への取り組みなど）	20%						
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
『新基本保育シリーズ9 子ども家庭支援の心理学』	白川佳子・福丸由佳（編）	中央法規	2019	978-4-8058-5789-2			
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
教科書・配布資料やノートを読み返し、授業の内容を確認しましょう。				2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
授業は基本的に講義形式で進めますので、自分なりに工夫してノートを取る、不明な点をそのままにしないで調べたり質問したりするなどして、内容の理解に努めましょう。また、意見交換や課題を行う際には、主体的に参加するようにしましょう。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	生涯発達の視点と初期発達的重要性（星）	①ヒトの初期発達の姿 ②生涯発達の視点
第2週	乳幼児期から学童期にかけての発達（星）	①自己の発達 ②乳幼児期から学童期にかけての発達のまとめ
第3週	青年期の発達（星）	①青年期の特徴 ②諸領域における発達の様相 ③青年期の心理的危機
第4週	成人期・中年期の発達（星）	①成人期・中年期に関する理論 ②職業的キャリアの発達 ③中年期危機とアイデンティティの再体制化
第5週	高齢期の発達（星）	①生涯発達における高齢期 ②高齢期の心身の発達 ③超高齢化社会における高齢者とその支援
第6週	家族・家庭の意義と機能（遠山）	①現代の「家族」の現状 ②家族の多様性と家族の支え方の個性
第7週	親子関係・家族関係の理解（遠山）	①親子関係の様々な意味 ②家族のサイクル
第8週	子育ての経験と親としての育ち（遠山）	①親になるとはどういうことか ②親であることと親をすることの違い
第9週	子育てを取り巻く社会的状況（遠山）	①親に「なっていく」若い世代の家族への考え方 ②子育てにかかわる社会環境
第10週	ライフコースと仕事・子育て（遠山）	①ライフサイクルやライフコースの考え方 ②人生の捉え方にかかわる社会事象
第11週	多様な家庭とその理解（遠山）	①異なる家庭環境における家族とライフコース ②それぞれに必要な子育て支援
第12週	特別な配慮を要する家庭（遠山）	①特に配慮が必要なケースへの配慮のために必要な考え方 ②特に配慮が必要なケースへの配慮の実践例
第13週	子どもの生活と生育環境（星）	①子どもの生活 ②事故防止と安全確保 ③子どもの生育環境の影響
第14週	子どもの心の健康（星）	①心の健康とは ②子どもの心の健康の問題 ③発達障害
第15週	授業内試験とまとめ	①全体のまとめ ②試験
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	教育相談の基礎						
担当教員	新川 貴紀	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 2503			ワデマド科目	
<b>授業概要</b> 教育職員免許法で幼稚園教諭に必須とされる、カウンセリングに関する知識を学ぶ科目である。幼児は自発的に相談する能力を有しないため、個別相談的な関わりが必要な幼児に対しては、保育者が必要を看取して対応する事が求められる。その基礎としての幼児理解を学ぶ。また、幼児が健康に育って行くためには、良好な家庭環境が必須であり、保護者のニーズに保育者が相談的に対応することで、その維持、改善に寄与する事もできる。相談援助の基礎としてのカウンセリングの理論と技法を学び、現場で必要となる保護者対応の基本も学ぶ。							
<b>到達目標</b> ① 個別相談的な関わりに必要な幼児への視点を獲得する。 ② 相談の基礎となるカウンセリングの基本的考え方を理解する。 ③ 保護者の相談を受ける際の基本的構えを獲得する。							
<b>学科のディプロマ・ポリシー</b>							
	1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。						
	2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。						
	3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。						
	4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。						
<b>成績評価方法・基準</b>							
	内容	割合 (%)	内容	割合 (%)			
	リアクションペーパーの記載等の講義への参加度	75%					
	最終レポート	25%					
<b>教科書・ソフト等</b>							
	書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
	「なし。授業内で適宜、資料を配付します。」						
<b>参考書等</b>							
なし。授業内で指示します。							
<b>授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無</b>				<b>実務経験あり</b>			
小中高校スクールカウンセラーとしてカウンセリング実務を経験							
<b>予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間</b>							
	予習・復習の具体的な内容			予習・復習に必要な時間			
	予告された内容について文献、インターネット等で各回のテーマを事前学習			2時間から3時間程度/週			
<b>受講時の注意事項</b>							
<b>アクティブ・ラーニング情報</b>							
授業はグループワークを取り入れた講義形式で行います							
<b>備考</b>							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	保育における相談の意味とカウンセリング
第2週	相談対象者の理解①	心の問題の形成
第3週	相談対象者の理解②	心の問題のあらわれ
第4週	相談技法の基礎①	精神分析
第5週	相談技法の基礎②	来談者中心療法
第6週	相談技法の実際①	C. ロジャーズの面接ビデオ視聴
第7週	相談技法の基礎③	行動療法
第8週	相談技法の基礎④	論理療法と認知行動療法
第9週	相談技法の基礎⑤	ブリーフ・セラピー
第10週	相談技法の基礎⑥	ソリューション フォーカスト アプローチ
第11週	相談技法の実際②	SFA面接ビデオの視聴1「意志のない相手との面接」
第12週	相談技法の実際③	SFA面接ビデオの視聴2「子どもは私の生きがい」
第13週	相談技法の実際④	カウンセリングの効果、特に共感について
第14週	相談技法の実際⑤	保護者対応 相談を受けるということ
第15週	まとめ	教育相談の意義と課題
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	臨床心理学						
担当教員	佐藤 奈月	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 2406			ワデマド科目	
授業概要							
この授業は、子どもや保護者が抱える様々な心的病理や不適応について、臨床心理学の視点から理解することを目的とする。また、臨床心理学の知識や理論に基づき、困難を抱えた子どもや保護者を支援する具体的な方法を考える力を身につける。							
到達目標							
①子どもや保護者が抱える心理的な困難についての基礎的な知識を習得する。 ②心理アセスメントや心理療法についての知識をもとに、具体的な支援方法を考えることができる。							
学科のディプロマ・ポリシー							
1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。							
○ 2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。							
3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。							
4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。							
成績評価方法・基準							
内容	割合 (%)	内容	割合 (%)				
学期末の授業内試験	60%						
リアクションペーパーなど講義への取り組み	40%						
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
「なし。授業内で適宜、資料を配付します。」							
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
授業前は、各回のテーマについて、自分なりに書籍やインターネットで調べてください。 授業後は、配布資料やノートの見直しをし、理解を深めてください。				2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
授業は基本的に講義形式で進めますが、考えたり議論したりする時間を取り入れながら授業を進めますので、積極的に発言してください。また、授業では毎回、リアクションペーパーの提出を求めます。授業の最初に、リアクションペーパーへのフィードバックをしますので、自分の考えや疑問を積極的に書いてください。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション・臨床心理学とはなにか	授業の概要や到達目標および授業方法を説明する。臨床心理学の概要について学ぶ。
第2週	臨床心理学の歴史	心理学全体の歴史と関連させながら、臨床心理学の歴史について学ぶ。
第3週	発達段階と臨床心理学① 幼児期～児童期	幼児期から児童期の発達段階ごとの、主要な臨床心理学の理論について学ぶ。
第4週	発達段階と臨床心理学② 思春期～老年期	思春期から老年期の発達段階ごとの、主要な臨床心理学の理論について学ぶ。
第5週	発達障害	発達障害の概要や、その支援について学ぶ。
第6週	臨床心理学と精神医学① 統合失調症・気分障害	統合失調症・気分障害などの精神疾患について学ぶ。
第7週	臨床心理学と精神医学② 不安とトラウマ	不安障害・ストレスとトラウマについて学ぶ。災害時の心理支援について学ぶ。
第8週	心理アセスメント	子どもや親が抱えている問題を理解するための方法について学ぶ。
第9週	臨床心理学のアプローチ	心理支援の具体的なアプローチ方法について概要を学ぶ。
第10週	現代的な課題と臨床心理学の実践① いじめ・不登校	いじめ・不登校などの現代的な課題と支援について学ぶ。
第11週	現代的な課題と臨床心理学の実践② インターネット・ジェンダー	インターネット利用や依存症などの子どもの現代的な課題と支援について学ぶ。ジェンダーの視点から臨床心理学を見直し、課題と支援について考える。
第12週	家庭支援・親支援	虐待など子育てをめぐる困難と、若年女性支援・家族療法などの支援について学ぶ。
第13週	地域支援・多職種連携	困難を抱えた子どもや家庭を地域で支援することについて学ぶ。保育現場で求められる多職種連携について学ぶ。
第14週	ロールプレイング	これまで学んだことをもとに、困難な状況にある子ども・保護者を支援することを想定して、授業内で組んだペアでロールプレイングを行う。
第15週	まとめと授業内試験	これまでの授業を総まとめし、授業内試験を行う。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目		子どもの理解と援助					
担当教員	早坂 聡子/星 信子	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 1404			ワケマド科目	
授業概要							
子どもの理解に必要な知識、考え方や基本的態度について理解を深めると同時に、発達を援助する具体的な方法を考える力を身につける。また、幼児の生活や遊びの様子、幼児理解の実際と援助等に関する現場の実践例を学び、幼児理解の意義や方法について理解を深める。							
到達目標							
① 幼児教育の基本となる子ども理解の意義を理解する。 ② 幼児の生活や遊びの中で発達や学び、つまりその要因を理解する。 ③ 子ども理解における保育者の姿勢、及び幼稚園教育・保育所保育の特徴を学ぶ。 ④ 子ども理解の方法及びそれに基づく具体的な援助の方法を理解する。							
学科のディプロマ・ポリシー							
1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。							
○ 2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。							
3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。							
4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
筆記試験		60%					
演習課題		20%					
平常点（授業への参加態度・意欲など）		20%					
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』							
参考書等							
幼稚園教育要領解説（文部科学省）、保育所保育指針解説（厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府・文部科学省・厚生労働省）							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験あり			
幼稚園（園長含む）及び保育所にて長期にわたる保育者の経験、また、児童相談所一時保護等の現場にて保育・教育・子育て支援の経験がある（早坂）							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
指示のあったテキストや資料をよく読みましょう。演習課題に主体的に取り組むとともに、講義の中で考えたことを実習などの実践の中で試し、改善していきましょう。				1時間から2時間程度/週			
受講時の注意事項							
演習課題の発表を積極的に行いましょう。演習では、自分なりに考える習慣を大切にしましょう。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習の要素を含む授業です。							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション：子ども理解の意義 [星]	①保育の出発点としての子ども理解 ②保育者の子どもの理解：子ども観・発達観・保育観
第2週	子どもを見るということ [星]	①子どもを見る目 ②見るということ ③保育の中で子どもを見る
第3週	子ども理解における保育者の姿勢 [星]	①子どもとのかかわりの中での共感的理解 ②人的環境としての保育者
第4週	生活・遊びと保育環境 [早坂]	①子どもの育ちを引き出し支えるための保育の計画 ②生活と遊び場面の実践事例
第5週	幼稚園教育・保育所の特徴と子どもの理解 [星]	①幼児教育・保育の基本 ②保育の環境 ③環境の変化や移行
第6週	子ども理解の実際①保育所 [星]	現職の保育所保育士の子ども理解（乳児）
第7週	子ども理解の実際②幼稚園 [星]	現職の幼稚園教諭の子ども理解
第8週	子ども理解の実際③幼稚園 [早坂]	①幼児期の子どもたちの活動場面における心の動きの読み取りと援助の方法 ②他者（保育者・友達）との関わりを通じた心の育ち
第9週	集団の理解 [星]	①保育における集団 ②クラス集団の形成 ③集団の中で学ぶ
第10週	就学への援助 [星]	①小学校への期待と不安 ②幼稚園・保育所と小学校の違い ③幼・保・小の連携
第11週	子ども理解の方法 [星]	①子ども理解の方法 ②保育の記録と工夫 ③保育カンファレンス
第12週	子ども理解の実際④記録の工夫 [星]	保育現場での実際の記録の工夫：ポートフォリオ
第13週	特別な支援を必要とする子ども [星]	①特別な支援を必要とする子ども ②特別な支援を不要とする子どもの支援
第14週	子ども理解の実際⑤施設 [星]	現職の施設保育士の子ども理解
第15週	授業内試験とまとめ	①まとめ ②筆記試験
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		



授業科目		保育内容総論					
担当教員	大澤 亜里	配当年次	1 年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 1302			ワケマド 科目	
授業概要							
<p>子どもの個性を尊重し、発達を支える保育内容のあり方について考える上で必要な基礎的知識を習得するとともに、子どもの視点に立つて考える態度を身につけます。授業ではまず現行の保育所保育指針および幼稚園教育要領に基づきながら保育の基本と保育のねらい及び内容について学びとともに、保育内容の歴史の変遷を学び、現在の保育内容についての理解を深めます。また乳幼児期の発達過程や子どもの権利理念を理解し、それらを踏まえた保育内容について考えます。さらに子ども・家族を取り巻く現在の社会状況を踏まえながら、多様化する保育ニーズとその現状および課題について学びます。</p>							
到達目標							
<p>① 保育の全体構造について説明することができる。          ② 保育内容が歴史的にどのように変遷し、今日の保育内容に至っているのか説明することができる。          ③ 子どもの発達や権利、保育の基本的な考え方を理解した上で、保育内容のあり方について考え、自分の意見を述べるができる。          ④ 現在の多様な保育ニーズを理解し、保育の現状と課題について説明することができる。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。</p> <p>○ 2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。</p> <p>3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。</p> <p>4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
毎回の授業後に提出するリアクションペーパーの内容		60%					
期末レポート		40%					
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
『保育所保育指針解説』	厚生労働省	フレーベル館	2018				
『幼稚園教育要領解説』	文部科学省	フレーベル館	2018				
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』	内閣府、文部科学省、厚生労働省	フレーベル館	2018				
『最新保育小六法・資料集2024』	大豆生田啓友、三谷大紀編	ミネルヴァ書房	2024				
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無						実務経験なし	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容					予習・復習に必要な時間		
授業前には教科書の関連する箇所をよく読んでおいてください。授業後にはレジュメやノートの見直しをするとともに、配付資料や参考文献をよく読み、理解を深めてください。					1 時間から 2 時間程度/週		
受講時の注意事項							
考えたり議論したりする機会を取り入れながら授業を進めていきますので積極的に取り組んでください。また毎回の授業の最初にリアクションペーパーのフィードバックやリアクションペーパーの内容に関するディスカッションを行いますので自分の考えや意見等を書いてください。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるディスカッションの要素を含む授業です。							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス：保育内容総論では何を学ぶか	保育内容総論の授業ではどのようなことを学ぶのかを知る。「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」にはどのようなことが書かれているのかを学ぶ。
第2週	保育の基本と保育内容	保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園の共通点と相違点について学ぶ。「保育」という言葉の二つの側面である「養護」と「教育」について学ぶ。保育の「目標」と「ねらい」と「内容」の関係について学ぶ。
第3週	保育内容と領域	第2回の授業に引き続き、「養護」と「教育」について学ぶ。領域の捉え方について学ぶ。
第4週	保育内容の歴史の変遷①戦前の保育内容	日本で幼稚園・保育所が創設された時期の保育内容について学ぶ。幼稚園・保育所の創設期から戦前まで、保育内容はどのように変わっていったのか学ぶ。
第5週	保育内容の歴史の変遷②戦後の保育内容	戦後、幼稚園と保育所の保育内容がどのように変遷したか、その概要を学ぶ。
第6週	子どもの発達と保育内容①おおむね3歳までの発達過程と保育内容	誕生からおおむね3歳までの発達過程について学ぶ。3歳までの発達過程と合わせてこの時期の保育の内容（ねらいと内容）について学ぶ。
第7週	子どもの発達と保育内容②おおむね3歳以降の発達過程と保育内容	おおむね3歳以降の発達過程について学ぶ。3歳以上児の保育内容（ねらいと内容）について学ぶ。
第8週	子どもの発達と保育内容③個と集団の育ちと保育内容	個の育ちと集団の育ちの関係について学び、どのような集団づくりが大事か考える。
第9週	子どもの権利と保育内容①子どもの最善の利益とは	子どもの最善の利益とは何かを学ぶ。子どもの最善の利益を考慮する上で、保育者に求められる姿勢について学ぶ。
第10週	子どもの権利と保育内容②子どもの権利を保障する保育内容	ヤヌシュ・コルチャックの思想について学ぶ。その上で、子どもの権利を保障する保育内容について考える。
第11週	保育における観察と記録	観察の意義と記録の意義について学ぶ。保育日誌を書くときのポイントについて学ぶ。
第12週	保育の基本を踏まえた保育内容の展開	「環境を通して行う保育」について学ぶ。「生活・遊びを通して総合的な保育」について学ぶ。
第13週	子ども・家族を取り巻く社会状況と保育の現状	子育て家族が抱えやすい困難について学ぶ。延長保育事業と一時預かり事業の実態について学ぶ。
第14週	多様なニーズと保育の展開	病児保育の実態と配慮事項について学ぶ。障害児保育の実態と配慮事項について学ぶ。多文化共生保育について学ぶ。
第15週	授業全体のまとめ	これまでの14回の授業のなかで、難しかった内容や理解できなかった内容について復習をする。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	保育音楽Ⅰ(浅沼先生)						
担当教員	浅沼 恵輔	配当年次	1年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 1702			ワケマド科目	
授業概要							
<p>① ピアノの基礎的な演奏技術と表現方法を学びます。          ② 子どもの心身の発達や保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示される保育の内容を踏まえて、子どもの生活と遊びにおける体験を捉え、実践的に知識・技術を学びます。          ③ 各自の進度に合わせた個人レッスン(少人数のグループに1名の講師を配当)で授業を行います。90分の内、約15分程度を個人レッスンに充当し、残りの時間はその練習準備時間、聴講、楽典とします。聴講の際、ピアノ学習記録カードを記入し、自らの演奏と練習に対して振り返りを行います。</p>							
到達目標							
<p>子どもが豊かな生活や遊びを通して感性を養うことが出来るよう、保育の展開に必要な知識や技術を習得する。          また、保育における教材等の活用と保育の具体的展開のための技術を実践的に習得する。          バイエル60番まで完了することを目標とし、バイエル60番以上の課題曲を1曲選択し、演奏できる。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
	1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。						
○	2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。						
	3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。						
	4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。						
成績評価方法・基準							
	内容	割合(%)	内容	割合(%)			
	実技試験(演奏の正確さ、技術の達成度、音楽性)	80%					
	提出物	10%					
	日常の取り組み状況	10%					
教科書・ソフト等							
	書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
	『ピアノ曲弾き歌い童謡曲～豊かな音楽表現のために』	松井聖樹、浅沼恵輔他	集文社	2020	4874460867		
	『最もわかりやすい楽典入門』	坪野春枝	knp	2002	4773214015		
	『バイエルピアノ教則本』		全音楽譜出版社	1957	4111010105		
	『ブルグミュラー25の練習曲』		全音楽譜出版社	1955	4111020100		
参考書等							
<p>保育所保育指針解説(厚生労働省)、幼稚園教育要領解説(文部科学省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(内閣府・文部科学省・厚生労働省)          『全訳ハノンピアノ教本』、『ツェルニー100番練習曲』、『ツェルニー30番練習曲』、『ギロック こどものためのアルバム』、その他到</p>							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験あり			
この科目は、演奏家として実務経験のある教員が実践的教育を行っています。							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
次の授業までの一週間で与えられた曲を自分で個人練習をして、弾けるようになったものを教員の前で演奏します。短い時間でも毎日練習する習慣をつけ、授業に臨んでください。また、楽典では次回までの課題(プリント)が提示されるので、それらを準備してから授業に参加してください。				1時間から2時間程度/週			
受講時の注意事項							
<p>毎時、次の授業までの課題が出るので、各自練習の上個人レッスンに臨んでください。          なお、毎回授業内に実施したピアノ学習記録カード、プリントのフィードバックを行います。</p>							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション、課題選曲	進度にあった課題を選曲し、次週からの学習計画を練る。
第2週	読譜①	進度にあった課題を読譜する① 楽典(音符)
第3週	読譜②	進度にあった課題を読譜する② 楽典(休符)
第4週	読譜③	進度にあった課題を読譜する③ 楽典(拍子)
第5週	読譜④	進度にあった課題を読譜する④ 楽典(発想記号)
第6週	読譜⑤	進度にあった課題を読譜する⑤ 楽典(長短音程)
第7週	課題曲読譜①	課題曲を読譜する① 楽典(完全音程)
第8週	課題曲読譜②	課題曲を読譜する② 楽典(音程の転回)
第9週	課題曲読譜③	課題曲を読譜する③ 楽典(長音階)
第10週	課題曲仕上げ①	課題曲を仕上げる① 楽典(短音階)
第11週	課題曲仕上げ②	課題曲を仕上げる② 楽典(移調)
第12週	課題曲仕上げ③	課題曲を仕上げる③ 楽典(転調)
第13週	総仕上げ	学習内容が演奏表現につながっているか、自己評価を身につける。
第14週	リハーサル	習得した曲から課題曲発表とリハーサル
第15週	課題曲発表とまとめ	習得した曲から課題曲発表と振り返り
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目		保育音楽Ⅱ(浅沼先生)					
担当教員	浅沼 恵輔	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 2704			ワケマド科目	
授業概要							
<p>① ピアノの基礎的な演奏技術と表現方法を学ぶことを通じて、子どもの生活と遊びを豊かにするために必要とされる音楽性、音楽の実践力を身につけます。</p> <p>② 子どもの心身の発達や保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示される保育の内容を踏まえて、子どもの生活と遊びにおける体験を捉え、実践的に知識・技術を学びます。</p> <p>③ 「保育音楽Ⅰ」をふまえて、各自の進度に合わせた個人レッスン(少人数のグループに1名の講師を配当)で授業を行います。90分以内、約15分程度を個人レッスンに充当し、残りの時間はその練習準備時間、聴講、楽典とします。聴講の際、ピアノ学習記録カードを記入し、自らの演奏と練習に対して振り返りを行います。</p>							
到達目標							
<p>子どもが豊かな生活や遊びを通して感性を養うことが出来るよう、保育の展開に必要な知識や技術を習得し、人前で余裕を持って演奏できる。また、保育における教材等の活用と保育の具体的展開のための技術を実践的に習得する。</p> <p>バイエル100番以上完了することを目標とし、バイエル100～106番もしくはブルグミュラー25番練習曲以上の課題曲を1曲選択し、演奏できる。</p> <p>また、子どもの生活と遊びにおける体験に必要な技術(弾き歌い、手遊びなど)を実践的に習得する。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性: 建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。</p> <p>2. 知識理解: 幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。</p> <p>3. 協調性: 社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。</p> <p>4. 知識活用: 各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合(%)	内容		割合(%)		
実技試験(演奏の正確さ、技術の達成度、音楽性)		80%					
提出物		10%					
日常の取り組み状況		10%					
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
『ピアノ曲弾き歌い童謡曲～豊かな音楽表現のために』		松井聖樹、浅沼恵輔他	集文社	2020	4874460867		
『最もわかりやすい楽典入門』		坪野 春枝	knp	2002	4773214015		
『バイエルピアノ教則本』			全音楽譜出版社	1957	4111010105		
『ブルグミュラー25の練習曲』			全音楽譜出版社	1955	4111020100		
参考書等							
<p>保育所保育指針解説(厚生労働省)、幼稚園教育要領解説(文部科学省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(内閣府・文部科学省・厚生労働省)</p> <p>『全訳ハノンピアノ教本』、『ツェルニー100番練習曲』、『ツェルニー30番練習曲』、『ギロック こどものためのアルバム』、その他到</p>							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験あり			
この科目は、演奏家として実務経験のある教員が実践的教育を行っています。							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
次の授業までの一週間で与えられた曲を自分で個人練習をして、弾けるようになったものを教員の前で演奏します。短い時間でも毎日練習する習慣をつけ、授業に臨んでください。また、楽典では次回までの課題(プリント)が提示されるので、それらを準備してから授業に参加してください。				1時間から2時間程度/週			
受講時の注意事項							
<p>毎時、次の授業までの課題が出るので、各自練習の上個人レッスンに臨んでください。</p> <p>なお、毎回授業内に実施したピアノ学習記録カード、プリントのフィードバックを行います。</p>							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	課題選曲	進度にあった課題を選曲し、次週からの学習計画を練る。
第2週	読譜①	進度にあった課題を読譜する① 楽典(長短音程)
第3週	読譜②	進度にあった課題を読譜する② 楽典(完全音程)
第4週	読譜③	数曲を読譜する① 楽典(音程の増減)
第5週	読譜④	数曲を読譜する② 楽典(三和音)
第6週	読譜⑤	数曲を読譜する③ 楽典(主要三和音)
第7週	課題曲読譜①	課題曲を読譜する① 楽典(属七の和音)
第8週	課題曲読譜②	課題曲を読譜する② 楽典(転回和音)
第9週	課題曲読譜③	課題曲を読譜する③ 楽典(終止形)
第10週	課題曲仕上げ①	課題曲を仕上げる① 楽典(分散和音)
第11週	課題曲仕上げ②	課題曲を仕上げる② 楽典(コード)
第12週	課題曲仕上げ③	課題曲を仕上げる③ 観賞
第13週	総仕上げ	課題曲の完成に向け、総合的にレベルアップを目指す。
第14週	リハーサル	習得した曲から課題曲発表とリハーサル
第15週	課題曲発表とまとめ	習得した曲から課題曲発表と振り返り
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	保育音楽Ⅲ (江田先生)						
担当教員	江田 ゆかり	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 2706			ワケマド科目	
授業概要							
<p>① ピアノの基礎的な演奏技術と表現方法を学ぶことを通じて、子どもの生活と遊びを豊かにするために必要とされる音楽性、音楽の実践力を身につけます。</p> <p>② 「保育音楽Ⅱ」をふまえて、各自の進度に合わせた個人レッスン（少人数のグループに1名の講師を配当）で授業を行います。90分の内、約15分程度を個人レッスンに充当し、残りの時間はその練習準備時間、聴講とします。聴講の際、ピアノ学習記録カードを記入し、自らの演奏と練習に対して振り返りを行います。</p>							
到達目標							
<p>① 子どもがのびのびと表現活動を行えるよう、人前で余裕を持って演奏できる。</p> <p>② 保育における教材等の活用と保育の具体的展開のための技術を実践的に習得する。</p> <p>ブルグミュラー25の練習曲を完了することを目標とし、ソナチネ以上の課題曲を1曲選択し、演奏できる。</p> <p>また、子どもの生活と遊びにおける体験に必要な技術（弾き歌い、手遊びなど）を実践的に習得する。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。</p> <p>2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。</p> <p>3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。</p> <p>4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
実技試験（演奏の正確さ、技術の達成度、音楽性）		80%					
日常の取り組み状況		20%					
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
『ピアノ曲弾き歌い童謡曲～豊かな音楽表現のために』	松井聖樹、浅沼聖輔他	集文社	2020	4874460867			
『ソナチネアルバム』		全音楽譜出版社	1955	4111012116			
『ブルグミュラー25の練習曲』		全音楽譜出版社	1955	4111020100			
参考書等							
『全訳ハノンピアノ教本』、『ツェルニー100番練習曲』、『ツェルニー30番練習曲』、『ギロック こどものためのアルバム』、到達度に合ったテキスト							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無					実務経験あり		
この科目は、演奏家として実務経験のある教員が実践的教育を行っています。							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容					予習・復習に必要な時間		
次の授業までの一週間で与えられた曲を自分で個人練習をして、弾けるようになったものを教員の前で演奏します。短い時間でも毎日練習する習慣をつけ、授業に臨んでください。					2時間から3時間程度/週		
受講時の注意事項							
毎時、次の授業までの課題が出るので、各自練習の上個人レッスンに臨んでください。なお、毎回授業内に実施したピアノ学習記録カードのフィードバックを行います。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	課題選曲	進度にあった課題を選曲し、次週からの学習計画を練る。
第2週	読譜①	課題曲の読譜、次習までの目標、取組みを考える①
第3週	読譜②	課題曲の読譜、次習までの目標、取組みを考える②
第4週	弾き歌い①	弾き歌い、手遊びなどに親しむ（生活の歌）
第5週	読譜③	曲の構成や背景を知り、演奏表現につなげる 実践
第6週	読譜④	曲の構成や背景を知り、演奏表現につなげる 応用
第7週	弾き歌い②	弾き歌い、手遊びに親しむ（季節の歌）
第8週	読譜⑤	和声の響きを感じながら、表現できるようにする 実践
第9週	読譜⑥	和声の響きを感じながら、表現できるようにする 応用
第10週	課題曲読譜①	課題曲を読譜、表現力の幅を広げながら、技術の向上を目指す 実践
第11週	課題曲読譜②	課題曲を仕上げ、表現力の幅を広げながら、技術の向上を目指す 応用
第12週	課題曲仕上げ①	学習内容が演奏表現につながっているか、自己評価を身につける 実践
第13週	課題曲仕上げ②	学習内容が演奏表現につながっているか、自己評価を身につける 応用
第14週	リハーサル	習得した曲から課題曲発表とリハーサル
第15週	課題曲発表とまとめ	習得した曲から課題曲発表と振り返り
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	保育音楽Ⅲ (石橋先生)						
担当教員	石橋 克史	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 2706			ワデマド科目	
授業概要							
<p>① ピアノの基礎的な演奏技術と表現方法を学ぶことを通じて、子どもの生活と遊びを豊かにするために必要とされる音楽性、音楽の実践力を身につけます。</p> <p>② 「保育音楽Ⅱ」をふまえて、各自の進度に合わせた個人レッスン（少人数のグループに1名の講師を配当）で授業を行います。90分の内、約15分程度を個人レッスンに充当し、残りの時間はその練習準備時間、聴講とします。聴講の際、ピアノ学習記録カードを記入し、自らの演奏と練習に対して振り返りを行います。</p>							
到達目標							
<p>① 子どもがのびのびと表現活動を行えるよう、人前で余裕を持って演奏できる。</p> <p>② 保育における教材等の活用と保育の具体的展開のための技術を実践的に習得する。</p> <p>ブルグミュラー25の練習曲を完了することを目標とし、ソナチネ以上の課題曲を1曲選択し、演奏できる。</p> <p>また、子どもの生活と遊びにおける体験に必要な技術（弾き歌い、手遊びなど）を実践的に習得する。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。</p> <p>2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。</p> <p>3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。</p> <p>4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
実技試験（演奏の正確さ、技術の達成度、音楽性）		80%					
日常の取り組み状況		20%					
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
『ピアノ弾き歌い童謡曲～豊かな音楽表現のために』	松井聖樹、浅沼聖輔他	集文社	2020	4874460867			
『ソナチネアルバム』		全音楽譜出版社	1955	4111012116			
『ブルグミュラー25の練習曲』		全音楽譜出版社	1955	4111020100			
参考書等							
『全訳ハノンピアノ教本』、『ツェルニー100番練習曲』、『ツェルニー30番練習曲』、『ギロック こどものためのアルバム』、到達度に合ったテキスト							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無					実務経験あり		
この科目は、演奏家として実務経験のある教員が実践的教育を行っています。							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容					予習・復習に必要な時間		
次の授業までの一週間で与えられた曲を自分で個人練習をして、弾けるようになったものを教員の前で演奏します。短い時間でも毎日練習する習慣をつけ、授業に臨んでください。					2時間から3時間程度/週		
受講時の注意事項							
毎時、次の授業までの課題が出るので、各自練習の上個人レッスンに臨んでください。なお、毎回授業内に実施したピアノ学習記録カードのフィードバックを行います。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	課題選曲	進度にあった課題を選曲し、次週からの学習計画を練る。
第2週	読譜①	課題曲の読譜、次習までの目標、取組みを考える①
第3週	読譜②	課題曲の読譜、次習までの目標、取組みを考える②
第4週	弾き歌い①	弾き歌い、手遊びなどに親しむ（生活の歌）
第5週	読譜③	曲の構成や背景を知り、演奏表現につなげる 実践
第6週	読譜④	曲の構成や背景を知り、演奏表現につなげる 応用
第7週	弾き歌い②	弾き歌い、手遊びに親しむ（季節の歌）
第8週	読譜⑤	和声の響きを感じながら、表現できるようにする 実践
第9週	読譜⑥	和声の響きを感じながら、表現できるようにする 応用
第10週	課題曲読譜①	課題曲を読譜、表現力の幅を広げながら、技術の向上を目指す 実践
第11週	課題曲読譜②	課題曲を仕上げ、表現力の幅を広げながら、技術の向上を目指す 応用
第12週	課題曲仕上げ①	学習内容が演奏表現につながっているか、自己評価を身につける 実践
第13週	課題曲仕上げ②	学習内容が演奏表現につながっているか、自己評価を身につける 応用
第14週	リハーサル	習得した曲から課題曲発表とリハーサル
第15週	課題曲発表とまとめ	習得した曲から課題曲発表と振り返り
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	保育音楽Ⅲ (小杉先生)						
担当教員	小杉 恵	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 2706			ワケマド科目	
授業概要							
<p>① ピアノの基礎的な演奏技術と表現方法を学ぶことを通じて、子どもの生活と遊びを豊かにするために必要とされる音楽性、音楽の実践力を身につけます。</p> <p>② 「保育音楽Ⅱ」をふまえて、各自の進度に合わせた個人レッスン（少人数のグループに1名の講師を配当）で授業を行います。90分の内、約15分程度を個人レッスンに充当し、残りの時間はその練習準備時間、聴講とします。聴講の際、ピアノ学習記録カードを記入し、自らの演奏と練習に対して振り返りを行います。</p>							
到達目標							
<p>① 子どもがのびのびと表現活動を行えるよう、人前で余裕を持って演奏できる。</p> <p>② 保育における教材等の活用と保育の具体的展開のための技術を実践的に習得する。</p> <p>ブルグミュラー25の練習曲を完了することを目標とし、ソナチネ以上の課題曲を1曲選択し、演奏できる。</p> <p>また、子どもの生活と遊びにおける体験に必要な技術（弾き歌い、手遊びなど）を実践的に習得する。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。</p> <p>2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。</p> <p>3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。</p> <p>4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
実技試験（演奏の正確さ、技術の達成度、音楽性）		80%					
日常の取り組み状況		20%					
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
『ピアノ弾き歌い童謡曲～豊かな音楽表現のために』		松井聖樹、浅沼聖輔他	集文社	2020	4874460867		
『ソナチネアルバム』			全音楽譜出版社	1955	4111012116		
『ブルグミュラー25の練習曲』			全音楽譜出版社	1955	4111020100		
参考書等							
『全訳ハノンピアノ教本』、『ツェルニー100番練習曲』、『ツェルニー30番練習曲』、『ギロック こどものためのアルバム』、到達度に合ったテキスト							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無						実務経験あり	
この科目は、演奏家として実務経験のある教員が実践的教育を行っています。							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容						予習・復習に必要な時間	
次の授業までの一週間で与えられた曲を自分で個人練習をして、弾けるようになったものを教員の前で演奏します。短い時間でも毎日練習する習慣をつけ、授業に臨んでください。						2時間から3時間程度/週	
受講時の注意事項							
毎時、次の授業までの課題が出るので、各自練習の上個人レッスンに臨んでください。なお、毎回授業内に実施したピアノ学習記録カードのフィードバックを行います。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	課題選曲	進度にあった課題を選曲し、次週からの学習計画を練る。
第2週	読譜①	課題曲の読譜、次習までの目標、取組みを考える①
第3週	読譜②	課題曲の読譜、次習までの目標、取組みを考える②
第4週	弾き歌い①	弾き歌い、手遊びなどに親しむ（生活の歌）
第5週	読譜③	曲の構成や背景を知り、演奏表現につなげる 実践
第6週	読譜④	曲の構成や背景を知り、演奏表現につなげる 応用
第7週	弾き歌い②	弾き歌い、手遊びに親しむ（季節の歌）
第8週	読譜⑤	和声の響きを感じながら、表現できるようにする 実践
第9週	読譜⑥	和声の響きを感じながら、表現できるようにする 応用
第10週	課題曲読譜①	課題曲を読譜、表現力の幅を広げながら、技術の向上を目指す 実践
第11週	課題曲読譜②	課題曲を仕上げ、表現力の幅を広げながら、技術の向上を目指す 応用
第12週	課題曲仕上げ①	学習内容が演奏表現につながっているか、自己評価を身につける 実践
第13週	課題曲仕上げ②	学習内容が演奏表現につながっているか、自己評価を身につける 応用
第14週	リハーサル	習得した曲から課題曲発表とリハーサル
第15週	課題曲発表とまとめ	習得した曲から課題曲発表と振り返り
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	保育音楽Ⅳ(江田先生)						
担当教員	江田 ゆかり	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 2707			ワケマド科目	
授業概要							
<p>① ピアノの基礎的な演奏技術と表現方法を学ぶことを通して、子どもの生活と遊びを豊かにするために必要とされる音楽性、音楽の実践力を身につけます。</p> <p>② 「保育音楽Ⅲ」をふまえて、各自の進度に合わせた個人レッスン(少人数のグループに1名の講師を配当)で授業を行います。90分の内、約15分程度を個人レッスンに充当し、残りの時間はその練習準備時間、聴講とします。聴講の際、ピアノ学習記録カードを記入し、自らの演奏と練習に対して振り返りを行います。</p>							
到達目標							
<p>① 子どもがのびのびと表現活動を行えるよう、人前で余裕を持って演奏できる。</p> <p>② 保育における教材等の活用と保育の具体的展開のための技術を実践的に習得し、各自の進度に合った課題曲を演奏できる。また、子どもの生活と遊びにおける体験に必要な技術(弾き歌い、手遊びなど)を実践的に習得する。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。</p> <p>2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。</p> <p>3. 協調性：社会の様々な問題に関心に向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。</p> <p>4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合(%)	内容		割合(%)		
実技試験(演奏の正確さ、技術の達成度、音楽性)		80%					
日常の取り組み状況		20%					
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
『ピアノ曲弾き歌い童謡曲～豊かな音楽表現のために』		松井聖樹、浅沼聖輔他	集文社	2020	4874460867		
『ソナチネアルバム』			全音楽譜出版社	1955	4111012116		
『ブルグミュラー25の練習曲』			全音楽譜出版社	1955	4111020100		
参考書等							
『全訳ハノンピアノ教本』、『ツェルニー100番練習曲』、『ツェルニー30番練習曲』、『ギロック こどものためのアルバム』、到達度に合ったテキスト							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無						実務経験あり	
この科目は、演奏家として実務経験のある教員が実践的教育を行っています。							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容						予習・復習に必要な時間	
次の授業までの一週間で与えられた曲を自分で個人練習をして、弾けるようになったものを教員の前で演奏します。短い時間でも毎日練習する習慣をつけ、授業に臨んでください。						2時間から3時間程度/週	
受講時の注意事項							
毎時、次の授業までの課題が出るので、各自練習の上個人レッスンに臨んでください。なお、毎回授業内に実施したピアノ学習記録カードのフィードバックを行います。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	選曲	進度にあった課題を選曲し、次週からの学習計画を練る
第2週	読譜①	保育音楽Ⅲで学んだ奏法、練習方法のおさらい 実践
第3週	読譜②	保育音楽Ⅲで学んだ奏法、練習方法のおさらい 応用
第4週	読譜③	様々な様式、フレーズ等古典様式の特徴を理解し、留意点を考察する 実践
第5週	読譜④	様々な様式、フレーズ等古典様式の特徴を理解し、留意点を考察する 応用
第6週	課題曲読譜①	課題曲の読譜、次習までの目標、取組みを考える①
第7週	課題曲読譜②	課題曲の読譜、次習までの目標、取組みを考える②
第8週	課題曲読譜③	様々な演奏を聴くことにより、自分の表現の幅を広げる 実践 鑑賞
第9週	課題曲読譜④	様々な演奏を聴くことにより、自分の表現の幅を広げる 応用
第10週	課題曲読譜⑤	聴いた音楽を振り返り、自分の演奏表現につなげる 実践
第11週	課題曲読譜⑥	聴いた音楽を振り返り、自分の演奏表現につなげる 応用
第12週	課題曲仕上げ①	課題曲の完成に向け、総合的にレベルアップを目指す 実践
第13週	課題曲仕上げ②	課題曲の完成に向け、総合的にレベルアップを目指す 応用
第14週	リハーサル	習得した曲から課題曲発表とリハーサル
第15週	課題曲発表とまとめ	習得した曲から課題曲発表と振り返り
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	特別支援教育と保育（理論）						
担当教員	石崎 滉介	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 1408			ワケマド科目	
授業概要							
<p>支援者は支援を行う際に、定型発達の子どものみだけでなく、障害のある子どもの個に応じた対応も求められます。その際に必要となるのが特別支援教育に纏わる様々な理論や知見となります。当授業では特別支援教育を行う上で必要な理論や歴史、実際の支援方法、それに伴うアセスメントについて広く学びます。</p>							
到達目標							
<p>① 特別支援教育の概要を理解することができる。          ② 障害の特性や支援について理解することができる。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。</p> <p>○ 2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。</p> <p>3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。</p> <p>4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
学期末試験		50%					
レポート		30%					
授業への参加態度・意欲等の平常点		20%					
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』							
参考書等							
<p>石部元雄・上田征三・高橋実・柳本雄次（編）（2020）よくわかる障害児教育 ミネルヴァ書房。          一般財団法人特別支援教育士資格認定協会（編）（2023）特別支援教育の理論と実践 1 概論・アセスメント 金剛出版</p>							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験あり			
当授業は、放課後等デイサービスにて子どもへの心理支援、保護者への相談・援助、他機関との連携等を行なってきた現職の臨床心理士・公認心理師が授業を行います。							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
配布資料を読み返して復習したり、授業内容と関連した最近の動向に関心を寄せてください。				1時間から2時間程度/週			
受講時の注意事項							
当授業は授業内でグループディスカッションを行います。間違いを恐れずに積極的に発言したり議論したりすることを求めます。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション、特別支援教育概論①：障害の構造的理解	当授業の受け方や大まかな内容や成績の付け方についてのオリエンテーションを行った後に、そもそもの「障害」とは何かということを考えます。
第2週	特別支援教育概論②：歴史、システム	特別支援教育の歴史やシステムについて学びます。
第3週	発達障害概論	この後学んでいく発達障害についての大きな全体像について学びます。
第4週	様々な障害の理解と支援（知的障害、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、情緒障害等）	発達障害以外の障害について広く学びます。
第5週	注意欠如・多動症の理解と支援	注意欠如・多動症（ADHD）についての理論的背景、支援方法について学びます。
第6週	自閉スペクトラム症の理解と支援	自閉スペクトラム症（ASD）についての理論的背景、支援方法について学びます。
第7週	限局性学習症の理解と支援	限局性学習症（SLD）についての理論的背景、支援方法について学びます。
第8週	ギフテッド・2Eの理解と支援	ギフテッドや2E（twice-exceptional）についての理論的背景、支援方法について学びます。
第9週	実際の現場における障害のある子どもへの支援	実際の臨床でどのような子どもがいて、どのような支援が展開されているのかを学びます。
第10週	アセスメントの理解	子どもだけではなく養育者から得られる情報のアセスメントの観点を学びます。
第11週	心理アセスメントの理解	心理検査やその所見の読み取り方を学びます。
第12週	障害のある子どもの保護者の理解と支援	障害のある子どもの保護者がどのような状態像を示し、どのような支援が行われているのかを学びます。
第13週	支援者の倫理	支援者に求められる職業倫理について学びます。
第14週	合理的配慮を必要とする子どもの支援	今までに出てきた知識を活用して、架空事例を用いてどのように支援を展開していくのかを考えてもらいます。
第15週	まとめ	今までの授業のまとめを行います。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		



授業科目	特別支援教育と保育（実践）a						
担当教員	渡邊 洋平	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 2407			ワケマド科目	
授業概要							
<p>本授業では、特別支援教育と保育（理論）で学習した知識をより具体的な実践へと近づけていきます。特別な支援を必要とする子どもへの教育と保育実践において、個別および集団に応じた支援が必要となります。そのために、事例検討やロールプレイなどを通して具体的な支援方法から学習を行います。保護者への相談技術、関係機関との連携の学びから、保育者としての力を養わせ、特別な支援を必要とする子どもへの実践理解を深化させます。</p>							
到達目標							
<p>① 特別な支援を必要とする子どもに関連する機関との連携について理解する。  ② 事例検討を通して、実践的な理解をする。  ③ 指導計画作成に当たって、総合的な視点を理解する。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。  ○ 2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。  3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。  4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
学期末の授業内試験		80%					
毎回授業内で実施する小レポート		20%					
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
『なし。特別支援教育と保育（理論）にて使用した教科書を使用します。』							
参考書等							
西村重稀・水田俊郎編（2019）『基本保育シリーズ17 障害児保育』中央法規							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無							
						実務経験あり	
<p>保育所巡回心理士として、保育士とともに特別支援が必要な児童や保護者への支援を行った経験あり。  また特別な支援が必要な児童や保護者への直接的支援や関係機関との連携の経験あり。</p>							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
授業前は、指示のあったテキストや資料をよく読んでおいてください。授業後は各自で振り返りを行ってください。				1時間から2時間程度/週。			
受講時の注意事項							
<p>演習には積極的に参加すること。授業外でも学修を自ら進めておいてください。わからないことがあればオフィスアワーもしくはメール等で質問をしてください。</p>							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	特別支援教育と障害児保育について	イントロダクション 障がいの捉え方と環境への適応について学びます。
第2週	特別支援教育の現状と保育所・幼稚園における子どもの状況	障害児保育における形態について、それぞれの利点と欠点を整理して理解を深めます。また健康安全への配慮について学びます。
第3週	保育所・幼稚園における職員間の連携	職員間の連携・協働について学びます。また保護者や他の専門職、関係機関との連携についても理解を深めます。
第4週	障害児の保護者支援・きょうだい支援	保護者への支援、きょうだい児への支援を通して、障害受容や支援者としての保育者のあり方について学びます。
第5週	地域における社会資源と当事者活動	地域における社会資源について学びます。地域の専門機関との連携や専門機関の種類、連携の必要性と方法について理解を深めます。
第6週	学校との連携と支援（通級および特別支援学級へのつなぎ）	就学にかかわる小学校との連携や幼保小連携の実践について理解を深めます。
第7週	障害児の遊びと集団の活用 1	事例を通して遊びを活用した障害児へのかかわりについて理解を深めます。
第8週	障害児の遊びと集団の活用 2	事例を通して集団活動における障害児へのかかわりについて理解を深めます。
第9週	障害児の生活スキル獲得と支援 1	事例を通して子どもの見立てと生活環境の影響について学びます。
第10週	障害児の生活スキル獲得と支援 2	事例を通して情緒障害児について理解を深め、その対応やかかわりについて学びます。
第11週	障害児の保育から教育、自立に向けて（乳児期）	事例を通して乳児期における発達障害等の兆しや子育て支援について理解を深めます。
第12週	障害児の保育から教育、自立に向けて（乳幼児期）	事例を通して乳幼児期における規範の発達や幼児期に向けての支援について学びます。
第13週	障害児をとりまく制度の変化	障害児の保育・教育をとりまく制度の変化について学びます。合理的配慮や社会的障壁など、現在の状況を踏まえながら理解を深めます。
第14週	保育所・幼稚園における個別支援計画の理解と作成・立案	個別支援計画・指導計画の理解を深め、事例を通して個別支援計画の作成を行います。また計画立案についての留意点についても学びます。
第15週	講義全体のまとめと学期末試験	これまでの授業を振り返りを行います。講義終了後に学期末試験を実施します。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目		総合表現ab					
担当教員	浅沼 恵輔/加藤 雅子/田中 住幸/ 松井 亜樹/山田 千春	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 2702			ワケマド科目	
授業概要							
子どものためのミュージカルをグループで創作し、音楽を活かした表現方法を学ぶと共に、共同制作における役割分担や全体の連携の重要性について認識を深める。今まで学習してきた学びを、舞台芸術表現へ発展させ、保育者に必要となる非認知能力を高めていく。脚本に基づき、表現に適した大道具、小道具、衣装、器楽曲、歌唱曲、効果音、照明計画などを制作し、セリフや動作、振り付け、場面転換の練習をする。							
到達目標							
① ミュージカルという総合芸術に含まれる様々な要素を理解する。 ② 5領域との関連性を踏まえながら、子どもにとってどのような表現がわかりやすく、また楽しめる物かを客観的に想定できるようになる。 ③ 共同制作という活動における、意見交換や役割分担の重要性を理解し自主的に行動できる。 ④ 歌や器楽曲、セリフや身体表現などにより、子どもに物語の展開や登場人物の気持ちなどを伝えられるようになる。 ⑤ 保育者自身が豊かな感性と表現力を持つことの重要性について理解する。							
学科のディプロマ・ポリシー							
1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。							
2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。							
3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。							
○ 4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
共同制作に対する取り組み状況		40%					
本番での成果		30%					
課題の提出		30%					
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』							
参考書等							
『古典童話シリーズ』（福音館）、『グリム童話集』（福音館）、『アンデルセン童話集』（岩波文庫）、『日本の昔話』（福音館)							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無						実務経験あり	
この科目は舞台経験を有する教員が実践的指導を行います。							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容						予習・復習に必要な時間	
絵本・童話など子どものための文学作品を幅広く読んでください。映画や舞台劇などの物語作品を観る際に、制作する立場からの視点を持ってください。						2時間から3時間程度/週	
受講時の注意事項							
積極的な授業参加を希望します。責任者や担当者との連絡を密にして一人ひとりが意欲的に取り組むことを期待します。木曜日1・2講目では、セリフの読み合わせ、立ち稽古、歌唱練習を行います。その際は主に松井が担当します。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							
この科目は主要授業科目です。							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス、演目決定	幼児に向けた表現としてふさわしい演目を決定し、制作を開始する
第2週	仮脚本読み、修正	作品鑑賞に基づき、劇に必要な要素を分析し脚本に盛り込む。仮脚本を読み、修正案をあげる 脚本の読み伝えたいことを理解する。
第3週	4役、役割分担決定、脚本決定、大道具・小道具講習	ミュージカル制作の全体責任者・演出係を決める。役割分担（大道具・小道具・衣装・作曲）決定する。脚本完成する。 大道具・小道具講習会を開催する。
第4週	絵コンテ完成、キャストによる読み合わせ	演出係から絵コンテの説明し、絵コンテに基づき脚本調整する。全キャスト決定し、キャストによる読み合わせをする。 その際、セリフとセリフの間など気をつけながら読む。
第5週	制作計画を立案、音響・照明係など決定	脚本に沿った大・小道具・衣装・作曲の制作計画を立案し、音響・照明係など決定する。 大道具・小道具は既存の道具を確認し、衣装も既存の衣装を確認する。 作曲は、曲ごとのイメージを明確にする。
第6週	各部門での制作	大道具・小道具・衣装・作曲、各部門内で役割分担し、制作物の詳細検討をする。 大道具・小道具は材料の加工をし、衣装はリメイク、仮縫いをする。 作曲は、歌詞を考え、BGMを検討する。
第7週	各部門での制作、読み合わせ	各部門での制作をする。回す読み合わせ、動く読み合わせを行う。 セリフを話すときの表情、演技に気をつけながら練習をする。
第8週	各部門での制作、半立ち稽古	各部門での制作をする。発声練習を含んだ半立ち稽古をする。 人前で演技しながらセリフを話すことに慣れる。
第9週	各部門での制作、本立ち稽古	各部門での制作をする。歌唱練習を含んだ本立ち稽古をする。 見ている人に伝わるように声の大きさ、演技、表情を工夫する。
第10週	部分稽古、照明講習	道具を使った部分稽古をする。動きや声の大きさがわかりやすいか確認しながら練習する。 照明講習を開催する。
第11週	通し稽古	道具を使った通し稽古をする。道具の使い方が日常の動作と変わりがないか確認しながら練習する。
第12週	会場準備、大道具類の設置	照明・音響の準備をし、大道具類の設置し、位置を確認する。
第13週	場当たり、道具の転換確認	照明を使った場当たりをし、暗転を確認しながら道具の転換を考える。
第14週	リハーサル	照明、音響、歌を含んだリハーサルを行う。子どもたちにも伝わる表現になっているか確認する。
第15週	公演、完成作品のフィードバック	子どもたちの前で演じ、その後フィードバックをする。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	保育美術						
担当教員	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	1	
	履修人数		必須選択	選択			
	授業形態				授業回数		
	ナンバリング	EC-MS 2705				ワケマド科目	
授業概要							
<p>① 幼稚園指導要領や保育所保育指針における領域「表現」のねらいを理解し、幼児の豊かな感性・表現力・創造性を高めるため方策についてさらに学びを深める。</p> <p>② 幼児の造形表現における材料や技法について実践的に学ぶ。</p> <p>③ 「自己表現」「創る楽しさ」「遊びの要素」「見せる対象の意識」など造形表現に含まれる要素について考え表現する。</p> <p>④ 子どもの年齢・性別や個性によって感覚が異なる事を理解し、子どもの豊かな造形表現のための保育者の役割を考える。</p> <p>⑤ 実際の保育の場面を想定し、指導計画を立案、指導案作成し模擬授業に取り組み。</p>							
到達目標							
<p>① 様々な造形的表現の知識・技術を高め、美的な感性を磨く。</p> <p>② 保育における子どもの造形活動の意味を理解する。</p> <p>③ 子どもの年齢に応じた造形指導、およびそのための教材研究・指導計画作成、指導立案ができる。</p> <p>④ 実際の保育現場を想定し模擬授業を行うことができる。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。</p> <p>○ 2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。</p> <p>3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。</p> <p>4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
表現制作作品		30%					
参加態度（取り組みの姿勢、グループでの協働の様）		30%					
模擬授業・レポートなど		40%					
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』							
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無					実務経験あり		
小中学校にて図工・美術							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
保育現場での観察や実習の際に、子どもの制作している物に目を向けて、授業で学んだ材料や制作方法・課題のねらいなどを整理し、自身の保育に生かせるように復習をしてください。				2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
必要に応じて材料や用具を用意してもらうことがあります。 内容によってエプロン等作業に適した服装をおねがいすることがあります。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	授業のねらいと内容、道具の準備、受講の留意点、幼稚園教育要領・保育所保育指針等における領域「表現」のねらいと内容について
第2週	幼児の造形的表現活動の特性と保育者の役割	・子どもの表現と発達を踏まえた保育者の役割について知りレポートにまとめる
第3週	幼児をとりまく造形的要素について 動画から考察	・動画や実践例などを通して「環境を通して行う教育」と表現活動について考えレポートにまとめる
第4週	造形活動① 身近な材料を用いた造形1	・身近な材料、紙コップや厚紙、ダンボールなど主に紙を素材に使った制作1
第5週	造形活動② 身近な材料を用いた造形2	・身近な材料、紙コップや厚紙、ダンボールなど主に紙を素材に使った制作2 ・制作の手順や方法、作品について表現したり説明したりする活動
第6週	造形活動③ 色を使った造形	・お花紙や紙粘土などの色や形の変化を楽しめる素材を使った制作 ・制作の手順や方法、作品について表現したり説明したりする活動
第7週	造形活動④ 色と光を使った造形	・スタンドグラスや透過性のあるものを利用した制作 ・制作の手順や方法、作品について表現したり説明したりする活動
第8週	造形活動⑤ 身の回りの自然材や人工物を使った造形遊び1	・羊毛、木の枝などの使った造形遊び1
第9週	造形活動⑥ 身の回りの自然材や人工物を使った造形遊び2	・羊毛、木の枝などの使った造形遊び2 ・制作の手順や方法、作品について表現したり説明したりする活動
第10週	子どもの年齢に応じた造形指導の実際1	・発達段階に応じた教材研究のあり方、指導案作成1 ・模擬授業について
第11週	子どもの年齢に応じた造形指導の実際2	・発達段階に応じた教材研究のあり方、指導案作成2 ・模擬授業
第12週	子どもの年齢に応じた造形指導の実際3	・発達段階に応じた教材研究のあり方、指導案作成3 ・模擬授業
第13週	子どもの年齢に応じた造形指導の実際4	・発達段階に応じた教材研究のあり方、指導案作成4 ・模擬授業
第14週	子どもの年齢に応じた造形指導の実際5	・発達段階に応じた教材研究のあり方、指導案作成5 ・模擬授業
第15週	表現Ⅱ美術の指導計画作成・振り返り	講義内容を振り返り、指導計画を作成する
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目		子どもの食と栄養ab					
担当教員	坂下 美樹	配当年次	1年生	開講期	通年	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 1405			ワケマド科目	
授業概要							
①子どもの食と栄養は、豊かな人間性を育てる力を育み、発達を支え、健康な身体をつくる基礎であることと理解する。②保育者をはじめ、子どもに関わるものとして、子どもの食生活や栄養についての正しい知識とスキルを習得し、学んだ知識を実際の保育の現場で実践し、発展させることができる力を身に付ける。③栄養に関する基本的知識を習得して、乳児期、幼児期、学童期のそれぞれの子どもの成長段階に応じた健全な発育、発達を促すための必要な事柄を栄養、食生活面から学ぶ。④子どもへの健康、成長に大きく関わる食を実際に調理、試食することで身に付ける。⑤子どもへのアプローチだけでなく、保護者への支援対応についても考える。⑥理論を実際に保育の現場において実践できるように演習として、教材作成・発表を体験する。							
到達目標							
①健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。②子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。③養育及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的な考え方、その内容等について、地域社会・文化との関わりの中で理解する。④家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。⑤「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」及び「保育所における食事の提供ガイドライン」や近年のデータを踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。⑥子どもの発達段階における栄養や食生活の特性・重要性を認識し、保育との関連の中で保育者として対応できる知識と技術を身に付ける。⑦食育、栄養教育に関する知識を理解し、保育の実践化への道筋をつかむ。							
学科のディプロマ・ポリシー							
1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。							
○ 2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。							
3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。							
4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
授業内リアクションペーパーによる出席と授業内容へ		30					
まとめの提出課題により理解度の評価、期末試験の評		50					
グループワークにおける授業への参加姿勢		20					
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
「子どもの食と栄養演習 第6版」			講義社				
参考書等							
「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(2022年改訂版)その他、授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験あり			
この科目は、栄養について配慮した献立作成をアドバイスし、調理実習を行う管理栄養士として実務経験のある教員が実践的教育を行っています。							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
食は保育活動の重要な柱として位置づけられています。特に幼児期における食習慣は生涯影響を及ぼします。保育士を目指す学生として日常から食に興味を持ち、自らの生活の中で望ましい食生活の実践を身に付け、安定した体調管理に努めてください。身の回りで起こる乳幼児の飲食風景に関心をもち、授業内での学習と比較する習慣をつ				1時間程度/週			
受講時の注意事項							
授業時間中はテキストの解説と合わせてパワーポイントの資料を使用して解説します。解説事項に関連した、現場での応用や補足を合わせて理解することが大切になりますので、各自が自分の言葉でまとめ、補足することが必要です。後期はグループワークとなりますので、チームの実習・学習に支障が出ないように遅刻、欠席は極力避けるよう、各自自分の体調管理に努めてください。また授業内での疑問、欠席した場							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワークの要素を含む授業です。							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	前期授業のオリエンテーション ①子どもの心身の健康と食生活の意義	子どもの食と栄養の特徴、子どもの健康に影響を与える妊産婦の栄養を学ぶ。
第2週	②子どもの心身の健康と食生活の意義	朝食の欠食と体に与える影響、肥満とやせについて学び、子どもの食生活の現状と課題について考え、自身の食生活のチェックをします。
第3週	①栄養・食品に関する基本的知識	栄養の基本的概念と五大栄養素の役割を学ぶ。
第4週	②栄養・食品に関する基本的知識	栄養の基本的概念と五大栄養素の役割を学ぶ。
第5週	③栄養・食品に関する基本的知識	栄養の基本的概念と五大栄養素の役割を学ぶ。
第6週	①子どもの発育・発達と栄養生理	小児期の区分、発育の4原則と乳幼児の身体発育について学ぶ。
第7週	②子どもの発育・発達と栄養生理	運動機能の発達と精神発達について学ぶ。
第8週	③子どもの発育・発達と栄養生理	食欲の仕組みと栄養素の消化・吸収・代謝について学ぶ。
第9週	①子どもの発育・発達と食生活	授乳期・離乳期
第10週	②子どもの発育・発達と食生活	幼児期
第11週	③子どもの発育・発達と食生活	学童期・思春期・妊娠期
第12週	①食育の基本と内容	食育における養護と教育の一体性について学ぶ。
第13週	②食育の基本と内容	伝統食文化、郷土料理について学ぶ。
第14週	①家庭や児童福祉施設における食事と栄養	家庭における食事の現状と問題点について学ぶ。
第15週	②家庭や児童福祉施設における食事と栄養	児童福祉施設における食生活と保護者への対応について学ぶ。
第16週	前期復習 後期オリエンテーション	
第17週	①特別な配慮を要する子どもの食と栄養	疾病及び体調不良の子どもへの対応
第18週	②特別な配慮を要する子どもの食と栄養	食物アレルギーがある子どもへの対応
第19週	①幼児のお弁当作り計画・食育媒体作り	栄養価に配慮したお弁当作り計画をグループワークで行い、食育媒体を作成する。
第20週	②幼児のお弁当作り計画・食育媒体作り	栄養価に配慮したお弁当作り計画をグループワークで行い、食育媒体を作成する。
第21週	③幼児のお弁当作り計画・食育媒体作り	栄養価に配慮したお弁当作り計画をグループワークで行い、食育媒体を作成する。
第22週	④幼児のお弁当作り計画・食育媒体作り	栄養価に配慮したお弁当作り計画をグループワークで行い、食育媒体を作成する。
第23週	幼児のお弁当作り	調理実習
第24週	①幼児のお弁当・食育媒体を使い発表を行う	お弁当、食育媒体を使い、グループごとにプレゼンを行う。
第25週	②幼児のお弁当・食育媒体を使い発表を行う	お弁当、食育媒体を使い、グループごとにプレゼンを行う。
第26週	調乳 ①離乳食実習	調理実習
第27週	②離乳食実習	調理実習
第28週	①幼児食実習	調理実習
第29週	②幼児食実習	調理実習
第30週	③幼児行事食実習	調理実習

授業科目	特別研究Ⅱ(音楽)						
担当教員	松井 亜樹	配当年次	2年生	開講期	通年	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 2802			ワケマド科目	
授業概要							
① 「特別研究Ⅰ(音楽)」で学んだことを踏まえ、保育者として必要な基礎的知識、音楽理論および技能をより深く学ぶ。 ② 子どものためのコンサートの制作を通じ、幼児用楽器の特徴を知り、奏法を習得できる。 ③ 音楽に興味を持ち、歌い、演奏することによって、音楽表現の多様性を理解する。							
到達目標							
① 実際の音楽活動を通じ、音楽の楽しさを子どもと共有できる技術を身につけることができる。 ② 子どもためのコンサートの制作を通じ、幼児用楽器の特徴を知り、奏法を習得できる。 ③ 教材研究を含めた歌唱、器楽、鑑賞の各指導法について実践的な考察を行い、保育現場で活かすことができる。							
学科のディプロマ・ポリシー							
1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。 2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。 3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。 4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。							
成績評価方法・基準							
内容	割合(%)	内容	割合(%)				
弾き歌いの実践	50%						
提出物	30%						
日常の取り組み状況	20%						
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
『保育者・小学校教師をめざす人のためのピアノ曲6弾き歌い童謡曲豊かな音楽表現のために』	松井亜樹、浅沼里緒、園谷聖吾他	集文社	2020	4874460887			
『こどものうた200』	小林美実編	チャイルド本社	1996	4805400021			
『絵こどものうた200』	小林美実編	チャイルド本社	1996	4805400021			
参考書等							
『最もわかりやすい楽典入門』 坪野春枝著							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無						実務経験あり	
この科目は音楽指導の経験を有する教員が実践的教育を行います。							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
授業内で次の時間までの課題(弾き歌い)が提示されるので、準備、練習してから受講してください。				1時間から2時間程度/週			
受講時の注意事項							
授業内に実施した課題のフィードバックを行います。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	生活の歌弾き歌い① 実践	生活の歌の課題曲の中から1曲選び演奏します。
第2週	生活の歌弾き歌い② 応用	生活の歌から自由に選んだ曲を1曲演奏します。
第3週	春の歌弾き歌い① 実践	春の歌の課題曲の中から1曲選び演奏します。
第4週	春の歌弾き歌い② 応用	春の歌から自由に選んだ曲を1曲演奏します。
第5週	行事の歌① 前半	行事の歌の課題曲の中から1曲選び演奏します。
第6週	行事の歌② 後半	行事の歌から自由に選んだ曲を1曲演奏します。
第7週	夏の歌弾き歌い① 実践	夏の歌の課題曲の中から1曲選び演奏します。
第8週	夏の歌弾き歌い② 応用	夏の歌から自由に選んだ曲を1曲演奏します。
第9週	手作り楽器制作① レインスティック	ラップの芯を使ってレインスティックを作ります。
第10週	手作り楽器制作② チャフチャス	ペットボトルのキャップを使ってチャフチャスを作ります。
第11週	秋の歌弾き歌い① 実践	秋の歌の課題曲の中から1曲選び演奏します。
第12週	秋の歌弾き歌い② 応用	秋の歌から自由に選んだ曲を1曲演奏します。
第13週	冬の歌弾き歌い① 実践	冬の歌の課題曲の中から1曲選び演奏します。
第14週	冬の歌弾き歌い② 応用	冬の歌から自由に選んだ曲を1曲演奏します。
第15週	前期のまとめとフィードバック	前期に取り組んだ弾き歌いの中から1曲演奏してもらいます。
第16週	演奏会鑑賞	本物の演奏に触れるため、実際ホールに行き、演奏を聴きに行きます。
第17週	その他の弾き歌い実践① 動物	動物にまつわる曲の中から自由に選んだ曲を1曲演奏します。
第18週	その他の弾き歌い実践② 植物	植物にまつわる曲の中から自由に選んだ曲を1曲演奏します。
第19週	その他の弾き歌い実践③ 食べ物	食べ物にまつわる曲の中から自由に選んだ曲を1曲演奏します。
第20週	コンサート制作 選曲① 合奏	子ども向けのコンサートで演奏するため、合奏の曲を選びます。
第21週	コンサート制作 選曲② 歌唱、トーンチャイム	子ども向けのコンサートで演奏するため、歌唱、トーンチャイムの曲を選びます。
第22週	コンサート制作 構成① 立案	子ども向けのコンサートで子どもに飽きさせないようにするために演奏の順番などを考えます。
第23週	コンサート制作 構成② 実践	選曲した曲を実践してみて、演奏時間や構成を再考します。
第24週	コンサート制作 演出① 立案	ただ演奏するだけではなく、演出面や司会(ナレーター)などについても検討します。
第25週	コンサート制作 演出② 実践	司会も入れた練習をして、曲目や曲順、アンコールについても検討します。
第26週	コンサート制作 演出③ 応用	実際に子どもが目の前にいることを想定しながら意見を出し合います。
第27週	コンサート制作 場当たり	コンサートと同じ隊形で演奏し、音量のバランスなどを考えます。
第28週	コンサート制作 転換稽古	曲と曲の間の転換を練習します。
第29週	子どものためのコンサート ゲネプロ	子どもの前で演奏しているように、通して演奏します。
第30週	子どものためのコンサート 本番	本番を終え、振り返ります。

授業科目	特別研究Ⅱ(美術)						
担当教員	加藤 雅子	配当年次	2年生	開講期	通年	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 2801			ワケマド科目	
授業概要							
「特別研究Ⅱ(美術)」で学んだことをふまえ、様々な材料を使った制作のなかでさらに自分の個性を表現する方法を学ぶ。木材を使ったおもちゃ、粘土や描画材を使った作品、羊毛の感触を生かしたおもちゃなどを制作する。							
到達目標							
木材、粘土、羊毛など自然素材や描画材を使った制作と平面表現のなかで、その特徴を生かし、さらに自分の感性を生かしながら表現できるようにする。自然の中の造形遊びや雪像づくりなど野外活動を通して、造形活動の特長をより深く理解する。共同制作を行い、お互いの考えや独自性を生かした作品作りができるようになる。							
学科のディプロマ・ポリシー							
	1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。						
	2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。						
	3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。						
	4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。						
成績評価方法・基準							
	内容	割合(%)	内容	割合(%)			
	作品	70%					
	レポート等の提出物	20%					
	出席・受講態度等	10%					
教科書・ソフト等							
	書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
	「なし。授業内で適宜、資料を配付します。」						
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験あり			
小中学校で図工・美術を指導							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
子どものおもちゃや実用品の、素材やデザインを意識して積極的に見るようにしてください。良いと思った物は記録して自身の制作に活かしてください。SNS等も活用してください				1時間から2時間程度/週			
受講時の注意事項							
作業に応じてジャージやエプロンを用意してください。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス(ねらい・内容紹介)	・授業のねらいや内容について、環境を活かした教育と美術について ・評価について ・授業の準備について
第2週	おもちゃ制作① 検討	主に木材を使ったおもちゃの制作・計画
第3週	おもちゃ制作② スケッチ	主に木材を使ったおもちゃの制作アイデアスケッチ
第4週	おもちゃ制作③	主に木材を使ったおもちゃの制作①
第5週	おもちゃ制作④	主に木材を使ったおもちゃの制作②
第6週	おもちゃ制作⑤	主に木材を使ったおもちゃの制作③
第7週	おもちゃ制作⑥	主に木材を使ったおもちゃの制作④
第8週	アート鑑賞①	美術館や屋外での活動を通じた鑑賞①
第9週	アート鑑賞②	美術館や屋外での活動を通じた鑑賞②
第10週	素材を活かした作品づくり①	粘土や描画材を利用した作品づくりの計画
第11週	素材を活かした作品づくり②	粘土や描画材を利用した作品制作①
第12週	素材を活かした作品づくり③	粘土や描画材を利用した作品制作②
第13週	素材を活かした作品づくり④	粘土や描画材を利用した作品制作③
第14週	素材を活かした作品づくり⑤	粘土や描画材を利用した作品制作④
第15週	素材を活かした作品づくり⑥発表	粘土や描画材を利用した作品制作⑤
第16週	野外活動①	屋外で自然を利用した造形遊び①
第17週	野外活動②	屋外で自然を利用した造形遊び②
第18週	凧制作①	構想・スケッチ
第19週	凧制作②	制作、凧を用いた造形遊び①
第20週	凧制作③	制作、凧を用いた造形遊び②
第21週	版画によるカレンダー制作①	検討・下絵作成
第22週	版画によるカレンダー制作②	版づくり①
第23週	版画によるカレンダー制作③	版づくり②
第24週	版画によるカレンダー制作④	印刷・製本①
第25週	版画によるカレンダー制作⑤	印刷・製本②
第26週	雪像制作 構想・スケッチ、作品展準備①	構想・スケッチ、制作準備①
第27週	雪像制作 構想・スケッチ、作品展準備②	構想・スケッチ、制作準備②
第28週	雪像制作	荒削り①
第29週	雪像制作	仕上げ削り、表面仕上げ、完成
第30週	振り返り・作品展	作品展示・鑑賞

授業科目		特別研究Ⅱ (健康)					
担当教員	田中 住幸	配当年次	2年生	開講期	通年	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 2803			ワケマド科目	
授業概要							
<p>領域「健康」のねらいとして、「明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。」「自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。」「健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。」の3点があげられているが、本授業では特にこれらを実現するための一つの保育方法としての運動遊びや園外保育に着目し、その意義や計画方法の理解を深め、実際の保育現場を想定した運動遊びや園外保育実習に取り組む中から、運動遊びや園外保育についての高い実践力を養うことを目指す。</p>							
到達目標							
<p>①園外保育の意義や計画方法について理解している。          ②公園などの地域資源を保育に活用することができる。          ③安全に園外保育を実施することができる。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。</p> <p>2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。</p> <p>3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。</p> <p>○ 4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
期末レポート		60%					
授業毎の課題		20%					
平常点 (主体性、意欲・関心)		20%					
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』							
参考書等							
幼児期運動指針ガイドブック (文部科学省)							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
各回の授業で体験した遊びの概要や手順についてイラストなども含めながらノートに記録しておくこと。				1時間から2時間程度/週			
受講時の注意事項							
屋外での活動が多くなる。動きやすい服装で、暑さ、寒さ対策をしっかりと行うこと。また、各回の持ち物等の詳細については授業内で説明する。提出された課題・レポートについては、LMS (学修支援システム) 内でフィードバックを行う。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるフィールドワーク及びディスカッションの要素を含む授業です。							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業全体についてのガイダンスを行う。
第2週	バルシューレ体験① (基礎)	ドイツで開発された幼児や児童のためのボール遊びプログラム「バルシューレ」を体験します。
第3週	バルシューレ体験② (応用)	ドイツで開発された幼児や児童のためのボール遊びプログラム「バルシューレ」の幼児向けの指導方法や安全に関する留意事項を確認します。
第4週	キンボール① (基礎)	カナダで開発されたニュースポーツ「キンボール」を体験します。
第5週	キンボール② (応用)	カナダで開発されたニュースポーツ「キンボール」の幼児向けの指導方法や安全に関する留意事項を確認します。
第6週	カーリンコン① (基礎)	カーリングを模した、室内でも実施できるニュースポーツ「カーリンコン」を体験します。
第7週	カーリンコン② (応用)	カーリングを模した、室内でも実施できるニュースポーツ「カーリンコン」の幼児向けの指導方法や安全に関する留意事項を確認します。
第8週	フロアボール① (基礎)	ホッケーを模した、室内でも実施できるニュースポーツ「フロアボール」を体験します。
第9週	フロアボール② (応用)	ホッケーを模した、室内でも実施できるニュースポーツ「フロアボール」の幼児向けの指導方法や安全に関する留意事項を確認します。
第10週	サッカー① (基礎)	幼稚園や保育所、認定こども園などでも取り組まれることが多くなってきた「サッカー」について、幼児向けのアレンジ方法などを紹介します。
第11週	サッカー② (応用)	幼稚園や保育所、認定こども園などでも取り組まれることが多くなってきたサッカーについて、幼児向けの指導方法や安全に関する留意事項を確認します。
第12週	タグラグビー① (基礎)	タックルのないラグビー (比較的安全に楽しめる)「タグラグビー」を体験します。
第13週	タグラグビー② (応用)	タックルのないラグビー (比較的安全に楽しめる)「タグラグビー」の幼児向けの指導方法や安全に関する留意事項を確認します。
第14週	運動遊び指導実習① (計画)	幼児を対象にした運動遊び (模擬保育) の計画を立てる (グループ演習)。
第15週	運動遊び指導実習② (準備)	幼児を対象にした運動遊び (模擬保育) の準備をする (グループ演習)。※学外でのフィールドワーク有
第16週	運動遊び指導実習③ (下見)	幼児を対象にした運動遊び (模擬保育) の現地下見を行う (グループ演習)。※学外でのフィールドワーク有
第17週	運動遊び指導実習④ (実践)	幼児を対象にした運動遊び (模擬保育) を実践する (グループ演習)。※学外でのフィールドワーク有
第18週	運動遊び指導実習⑤ (振り返り)	幼児を対象にした運動遊び (模擬保育) の振り返りを行う (グループ演習)。※学外でのフィールドワーク有
第19週	園外保育指導実習① (計画)	幼児を対象にした園外保育 (公園でのネイチャーゲーム：模擬保育) の計画を立てる (グループ演習)。
第20週	園外保育指導実習② (準備)	幼児を対象にした園外保育 (公園でのネイチャーゲーム：模擬保育) の準備をする (グループ演習)。※学外でのフィールドワーク有
第21週	園外保育指導実習③ (下見)	幼児を対象にした園外保育 (公園でのネイチャーゲーム：模擬保育) の現地下見を行う (グループ演習)。※学外でのフィールドワーク有
第22週	園外保育指導実習④ (実践)	幼児を対象にした園外保育 (公園でのネイチャーゲーム：模擬保育) を実践する (グループ演習)。※学外でのフィールドワーク有
第23週	園外保育指導実習⑤ (振り返り)	幼児を対象にした園外保育 (公園でのネイチャーゲーム：模擬保育) の振り返りを行う (グループ演習)。※学外でのフィールドワーク有
第24週	動きを導き出す園庭環境① (解説)	幼児の自発的な運動 (動き) を導き出す園庭環境について解説する。※学外でのフィールドワーク有
第25週	動きを導き出す園庭環境② (見学)	幼児の自発的な運動 (動き) を導き出す園庭環境を見学する。※学外でのフィールドワーク有
第26週	スケート① (基礎)	季節のスポーツ「スケート」を体験する。※学外でのフィールドワーク有
第27週	スケート② (応用)	季節のスポーツ「スケート」の幼児向けの指導方法や安全に関する留意事項について確認する。※学外でのフィールドワーク有
第28週	雪遊び (イグルーづくり) ① (基礎)	北国の特性を活かした「雪遊び」を体験する。特に、雪のブロックを用いて作成するイグルーの作り方について解説する。※学外でのフィールドワーク有
第29週	雪遊び (イグルーづくり) ② (応用)	北国の特性を活かした「雪遊び (イグルーづくり)」の幼児向けの指導方法や安全に関する留意事項について確認する。※学外でのフィールドワーク有
第30週	まとめ	授業全体についてのまとめを行う。

授業科目	特別研究Ⅱ(自然)						
担当教員	柘植 純一	配当年次	2年生	開講期	通年	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 2804			ワケマド科目	
授業概要							
<p>「特別研究Ⅰ(自然)」で習得した身近な生物についての知識を基礎にして、子どもたちに自然と触れ合うことの楽しさを伝えるために実際に野外で自然に触れる体験をするともに、四季を通して森林内で活動することにより、自然の美しさや生物の多様性に対する感性を磨く。また、自分たちで実際に野菜(大豆、小豆、人参等)の栽培を行い、収穫物を加工し味わう体験を通して、食べ物はずべて自然の恵みであることを自覚し、食べ物を大切にすることを伝える。</p>							
到達目標							
<p>①視覚以外の感覚も充分働かせて季節を感じることができる。      ②自然の中で過ごす時間を楽しむことができる。      ③野菜の栽培に必要な基本的事項について説明できる。      ④人間も自然によって生かされていることについて自分の実感を述べるができる。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。</p> <p>2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。</p> <p>3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。</p> <p>○ 4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合(%)	内容		割合(%)		
レポート		50%					
平常の取り組み		50%					
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
「特別研究Ⅰ」で使用した「小学館の図鑑 NEO POCKET -ネオぽけっと- 昆虫」(小学館)。							
参考書等							
なし。授業で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無					実務経験なし		
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
野外観察後に気に入った自然物を必ず自分で調べる。毎回の授業での体験内容をレポートとして提出する				1時間から2時間程度/週			
受講時の注意事項							
積極的に自然観察・農園での実習に積極的に取り組む意欲のある学生の履修を希望します。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるフィールドワークの要素を含む授業です。							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	春の森観察(野幌森林公園)	春の花(ザゼンソウ、ミズバショウ、エゾエンゴサク、ニリンソウ、エンレイソウ、オオバナ、エンレイソウ等)、野鳥を観察しながら、春の森を五感をしっかり働かせて楽しむ。
第2週	春の森観察(野幌森林公園)	春の花(ザゼンソウ、ミズバショウ、エゾエンゴサク、ニリンソウ、エンレイソウ、オオバナ、エンレイソウ等)、野鳥を観察しながら、春の森を五感をしっかり働かせて楽しむ。
第3週	農園実習1	大豆、小豆、トウモロコシ(爆裂種)、水菜、小松菜、春菊、アスパラ菜、ラディッシュ、サニーレタス等の種蒔き。
第4週	農園実習1	大豆、小豆、トウモロコシ(爆裂種)、水菜、小松菜、春菊、アスパラ菜、ラディッシュ、サニーレタス等の種蒔き。
第5週	農園実習2	除草、発芽していない箇所の補植、ジャガイモの植え付け。
第6週	農園実習2	除草、発芽していない箇所の補植、ジャガイモの植え付け。
第7週	農園実習3	除草、補植、間引き、大豆・小豆の土寄せ、人参の種蒔き、アスパラ菜の収穫。
第8週	農園実習3	除草、補植、間引き、大豆・小豆の土寄せ、人参の種蒔き、アスパラ菜の収穫。
第9週	夏の森観察(野幌森林公園)	昆虫の観察、春に観察した植物を意識しながら季節にともなう植物の変化を感じる。
第10週	夏の森観察(野幌森林公園)	昆虫の観察、春に観察した植物を意識しながら季節にともなう植物の変化を感じる。
第11週	農園実習4	除草、間引き、ジャガイモの土寄せ、水菜、小松菜、サニーレタス、春菊の収穫等。
第12週	農園実習4	除草、間引き、ジャガイモの土寄せ、水菜、小松菜、サニーレタス、春菊の収穫等。
第13週	農園実習5	大豆、小豆、春菊の収穫。
第14週	農園実習5	大豆、小豆、春菊の収穫。
第15週	農園実習6	トウモロコシ、ダイコン、ニンジン等の収穫。
第16週	農園実習6	トウモロコシ、ダイコン、ニンジン等の収穫。
第17週	秋の森観察(野幌森林公園)	五感を働かせて秋の森を感じる。同じ種類の木の落葉集めを通して自然の多様性を感じる。
第18週	秋の森観察(野幌森林公園)	五感を働かせて秋の森を感じる。同じ種類の木の落葉集めを通して自然の多様性を感じる。
第19週	大豆および小豆の鞘はずしと選別	収穫し乾燥させてあった大豆・小豆を莢から抜いて選別し、次回からの加工に備える。
第20週	大豆および小豆の鞘はずしと選別	収穫し乾燥させてあった大豆・小豆を莢から抜いて選別し、次回からの加工に備える。
第21週	収穫した大豆で豆腐作り	みんなで栽培した大豆を使って豆腐をつくり味わう。
第22週	収穫した大豆で豆腐作り	みんなで栽培した大豆を使って豆腐をつくり味わう。
第23週	収穫した大豆で納豆作り、ポップコーン作り	みんなで栽培した大豆を使って納豆をつくる。乾燥させてあったトウモロコシをポップコーンにして食べる。
第24週	収穫した大豆で納豆作り、ポップコーン作り	みんなで栽培した大豆を使って納豆をつくる。乾燥させてあったトウモロコシをポップコーンにして食べる。
第25週	冬の自然観察(野幌森林公園)	落葉した森林で野鳥観察をする。雪上についた動物の足跡を観察する。
第26週	冬の自然観察(野幌森林公園)	落葉した森林で野鳥観察をする。雪上についた動物の足跡を観察する。
第27週	収穫した小豆で餡作り	みんなで栽培した小豆を使って小豆をつくる。
第28週	収穫した小豆で餡作り	みんなで栽培した小豆を使って餡をつくる。
第29週	饅頭づくり	前回作った餡を使って饅頭をつくる。
第30週	饅頭づくり	前回作った餡を使って饅頭をつくる。



授業科目 特別研究Ⅱ（子育て支援・特別支援）							
担当教員	遠山 景広	配当年次	2年生	開講期	通年	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 2805			ワケマド科目	
授業概要							
<p>特別研究Ⅱで学んだ多様なニーズを抱える子どもと家庭、及び家庭支援におけるソーシャルワークを踏まえて、社会福祉専門職である保育士として必要な子どもへの支援を自ら考え、知識と技術を習得します。知識習得や見学だけではなく、自ら調べ、検討し、他学生と議論することを通して、共有や自分の考えを深化させる過程を重視しています。主にテーマとしては「子育て支援・特別支援」となりますが、あくまでもテーマになります。グループを中心に情報収集、他者の視点を学び、相互理解を深め、最終的には子どもを取り巻く問題や環境について個人の考えを再検討します。</p>							
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の実践からの多様な保育ニーズをつかむことができる</li> <li>・知識や情報を読み解き、自身の考えを整理することができる</li> <li>・得た情報や自身の考えを他者に伝え、他学生との意見交換により視野を広げることができる</li> <li>・自身の考えを再検討することができる</li> </ul>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。</p> <p>2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。</p> <p>3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。</p> <p>○ 4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
最終成果発表を踏まえた個人レポート		40%					
グループのプレゼンテーション		30%					
授業への参加		30%					
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
「なし。授業内で適宜、資料を配付します」							
参考書等							
なし。適宜授業内で紹介します							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
授業内で学修した社会的な視点で、子ども・子育てに関する情報に関心をもつよう心がけてください				1時間から2時間程度/週			
受講時の注意事項							
受講人数やグループワークの進捗状況、フィールドのご都合に応じて変更します							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブラーニングにおけるフィールドワークの要素を含む授業です。							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	特論Ⅰでの学びを振り返りつつ、年間計画を確認する
第2週	地域社会と子どもの育ち	地域社会の現状について学び、地域社会と子ども・子育て家庭のかかわりの機会が何を齎すのかを考える
第3週	子育てを取り巻く社会背景	子育てにかかわる社会環境について確認し、子どもにかかわる現代社会の課題について理解を深める
第4週	子育て家庭の多様なニーズ	社会的な背景を踏まえ、子育て家庭が抱える様々なニーズについて検討する
第5週	子育て・ニーズにかかわる課題	フィールドワークを通して重点的に学びたいことについてまとめ、まとめた内容を元に意見交換を行う
第6週	文献講読①	フィールドワークで学びたい内容に関連した文献を選び、理解を深める
第7週	文献講読②	選んだ文献について、主張の主旨を掴み自分の意見をまとめる
第8週	文献講読③	文献の主張に関する情報を集め、どのような意見があるかを学ぶ
第9週	文献講読④	自身の意見と集めた情報を用いて、それぞれの考えを話し合い主張の主旨について再検討を行う
第10週	文献講読のまとめ	文献の内容を踏まえ、自身がフィールドで注視したい事柄とその理由についてまとめる
第11週	フィールドワークのデザイン	フィールドワークの基礎的な進め方について学ぶ
第12週	フィールドワークのポイント	フィールドワークを観察する際のポイントや働きかけなど、フィールドワークを進める際の工夫について学ぶ
第13週	フィールドワークの計画と注意点	自身の関心を元にフィールドワークを計画しつつ、実施の際の注意点について学ぶ
第14週	フィールドにおける倫理的な配慮	それぞれのフィールドの特性を踏まえ、様々な対象への倫理的な配慮について学ぶ
第15週	中間まとめ	自身の関心のあるテーマについて学んできたことを振り返り、フィールドワークの意義を再確認する
第16週	フィールドワークの準備①	倫理的配慮や注意点を踏まえ、フィールドワークの記録方法について学ぶ
第17週	フィールドワークの準備②	フィールドワークについて学んできたことを総点検し、フィールドワークを実施する準備を完了させる
第18週	フィールドワークの実施①	それぞれの関心に基づきフィールドワークを行う
第19週	フィールドワークの実施②	ここまで学んだことや考えたことがどのようにフィールドに表れているのかに注意してフィールドワークを進める
第20週	フィールドワークの実施③	自身の関心がフィールドのどのようなところにみられるかをまとめつつ、フィールドワークを行う
第21週	フィールドワークの実施④	フィールドワークを進めながら、それぞれのフィールドの違い、特徴を意識しまとめる用意をする
第22週	フィールドワークのまとめ①	フィールドワークで観察したこと、フィールドワークを通して学んだことについて、中間報告を行う
第23週	フィールドワークのまとめ②	全員のフィールド報告を参考に、自身の成果の見直しを行ってフィールドで得た学びや見えたことに対する理解を深める
第24週	成果報告の準備①	フィールドワークのまとめを元に、成果報告会で発表する内容を検討する
第25週	成果報告の準備②	検討した発表内容について、成果発表会で使用する報告の準備を行う
第26週	成果報告の準備③	成果発表会で使用する報告資料の作成を進める
第27週	成果報告の準備④	成果発表会で使用する報告資料を完成させる
第28週	成果発表会①	各自のフィールドでの成果について報告する
第29週	成果発表会②	フィールドワークの成果と学んだことを元に保育・子育ての現場においてどのように活用することができるかを検討する
第30週	まとめ：保育と子育て支援・特別支援	報告会での意見交換など、2年間で学んだことを踏まえ、子育て支援・特別支援とは何なのか、及び今後の課題について自分の考えをまとめる

授業科目	幼児と環境						
担当教員	柘植 純一	配当年次	1年生	開講期	前期前半	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 1901			ワケマド科目	
授業概要							
<p>保育者が領域「環境」に記載されている子どもにとっての身近な環境について、また身近な環境とのかかわり方について、保育者が実際に子どもを指導する上で必要となる専門的な事項について学習する。特に現代の子ども達が家庭等の日常生活では触れ合う機会が少ない自然に関する事象に重点を置いて、知識や技能を身につけるだけではなく、興味・関心をもち豊かな感性を磨くことを目指す。</p>							
到達目標							
<p>①幼児を取り巻く環境への興味・関心、探求心の発達について説明できる。      ②幼児教育における環境教育、持続可能な発展のための教育（ESD）の意義について説明できる。      ③身近な植物や小動物について自然のものと自然でないものについて説明できる。      ④飼育・栽培の教材となる小動物・植物の生態、飼育・栽培方法について説明できる。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。</p> <p>○ 2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。</p> <p>3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。</p> <p>4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
試験		50%					
授業内での取組み		50%					
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
「なし。授業内で適宜、資料を配付します。」							
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「環境」を熟読してください。				1時間から2時間程度/週			
受講時の注意事項							
幼児が日常的に触れ合う身近な環境について興味をもち科学的に探究する姿勢を大切にしてください。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	日常的な保育でかかわる身近な自然	子ども達が日常生活の中で関わる身近な自然について、考えます。特に野生動物と飼育動物、自生植物と栽培植物の違いが重要です。
第2週	身近な小動物の飼育・植物の栽培	昆虫等の小動物も野生動物です。身近な小動物を飼育する上で注意することについて解説します。また植物栽培の基本についても解説します。
第3週	身近な環境における「自然のもの」と「自然ではないもの」	生物は全て自然物ですが、「自然のもの」と「自然ではないもの」があり、この違いの重要性について解説します。
第4週	幼児教育における環境教育・ESD	環境教育の定義、目的について学びます。特に幼児教育における環境教育で注意すべきことについてしっかり考えます。
第5週	環境教育の視点で見た日常的な保育	日常的に行われている活動について環境教育の視点で改善すべきことを考えていきます。
第6週	身近な自然と触れ合える環境、ビオトープ、バタフライガーデン	幼児が園生活で身近な自然と豊かに触れ合うことができる環境としてのビオトープ、バタフライガーデンについて学びます。
第7週	日常的な保育の場における危険と対処	日常的な保育の場で保育者が知っておかなければならない危険について学びます。
第8週	授業内試験	
第9週		
第10週		
第11週		
第12週		
第13週		
第14週		
第15週		
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	幼児と健康						
担当教員	田中 住幸/早坂 聡子	配当年次	1年生	開講期	前期後半	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 1902			ワケマド科目	
授業概要							
健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の基礎となる知識を身に付ける。具体的には、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達等において、幼児期には大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導方法にも関連していることについて理解する。							
到達目標							
1. 幼児期の健康課題と健康の発達の意味を理解する。 2. 幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解する。 3. 安全な生活と怪我や病気の予防を理解する。 4. 幼児期の運動発達の特徴と意義を理解する。							
学科のディプロマ・ポリシー							
1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。							
○ 2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。							
3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。							
4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。							
成績評価方法・基準							
内容	割合 (%)	内容	割合 (%)				
期末レポート	60%						
授業毎の課題	20%						
平常点 (主体性、意欲・関心)	20%						
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』							
参考書等							
幼稚園教育要領解説 (文部科学省)、保育所保育指針解説 (厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (内閣府・文部科学省・厚生労働省)							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無						実務経験あり	
早坂聡子：保育士・幼稚園教諭・幼稚園園長 (経験者) 司馬政一：認定こども園園長 (現職)							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
日常生活習慣を通して「健康」への興味・関心・実践を心掛けること。授業で学んだことを整理して、ノートにまとめておくこと。				2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
授業内容に応じて、各自の意見を述べたり議論する場を設けるため、主体的に受講すること。提出された課題・レポートについては、LMS (学修支援システム) 内でフィードバックを行う。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるディスカッションの要素を含む授業です。							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	現代社会と保育内容「健康」(田中)	乳幼児を取り巻く現代的な課題と、保育内容「健康」との関連について解説する。
第2週	乳幼児期の生活習慣(田中)	乳幼児期の生活習慣について、基礎的な知識を解説する。
第3週	生活習慣に関わる指導(田中)	園での生活習慣に関わる指導について、実践者を招いて事例を紹介をする。
第4週	乳幼児期の運動発達(田中)	乳幼児期の運動発達について、基礎的な知識を解説する。
第5週	運動遊びに関わる指導(田中)	運動遊びに関わる園庭環境について、実践者を招いた事例を紹介をする。※ゲストスピーカーによる講義
第6週	乳幼児期の安全(田中)	保育における安全管理についての解説及び、危険予知トレーニングを行う。
第7週	保健だよりの作成①(早坂)	保健だよりの作成について解説する。
第8週	まとめ	科目全体のまとめを行う。
第9週		
第10週		
第11週		
第12週		
第13週		
第14週		
第15週		
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	幼児と言葉						
担当教員	山田 千春	配当年次	1年生	開講期	前期後半	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 1903			ワケマド 科目	
授業概要							
領域「言葉」の指導の基盤となる、乳幼児期の言葉の発達過程について学び、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的知識を学びます。保育内容としての「ことば」の歴史を知ることから、現行の幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」について学びます。							
到達目標							
①保育内容としての「言葉」の歴史を知り、人間にとっての話し言葉や書き言葉の意義と機能について説明できる。②言葉の楽しさや美しさに気づき、言葉を豊かにする実践について基礎的な知識を身に付ける。③幼児の発達における児童文化財の意義について理解する。							
学科のディプロマ・ポリシー							
	1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。						
○	2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。						
	3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。						
	4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。						
成績評価方法・基準							
	内容	割合 (%)	内容	割合 (%)			
	レポート	50%					
	課題提出	30%					
	発表	20%					
教科書・ソフト等							
	書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
	『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』						
参考書等							
『新保育内容シリーズ 新訂 子どもと言葉』（萌文書林）、『ことばと表現力を育む 児童文化』（萌文書林）『幼稚園教育要領解説』（文部科学省）『保育所保育指針解説』（厚生労働省）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省）							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
	予習・復習の具体的な内容			予習・復習に必要な時間			
	日常的に「こどもと言葉」に関する絵本、テレビ番組等に注意するよう心がけましょう。			2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
授業では「おはなし」の実践など、小グループで発表をする内容があります。積極的に取り組むようにしましょう。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス 言葉のもつ意義と機能	・シラバスを基に、授業内容と評価方法の説明。言葉のもつ意義や機能について考える。
第2週	領域「言葉」のねらいと内容①	・乳幼児期における社会的発達に関する視点についてと1歳以上3歳未満児における言葉について
第3週	領域「言葉」のねらいと内容②	・3歳以上児保育における言葉について
第4週	言葉に対する感覚を豊かにする	・言葉の楽しさや美しさに気づく「なぞなぞ」「しりとり」「かるたあそび」「ことばあそび」について
第5週	言葉を育て、想像する楽しさを広げる①	・おはなし（素話）について説明し、おはなし（素話）の実践に取り組む。
第6週	言葉を育て、想像する楽しさを広げる②	・幼児教育における絵本の役割について
第7週	言葉を育て、想像する楽しさを広げる③	・紙芝居の歴史や幼児教育における実践についてと小学校教育との接続について
第8週	課題レポート	・課題レポートを作成する。（45分）
第9週		
第10週		
第11週		
第12週		
第13週		
第14週		
第15週		
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	幼児と人間関係						
担当教員	星 信子	配当年次	1年生	開講期	前期後半	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 1904			ワケマド科目	
授業概要							
<p>人との関わり、すなわち人間関係は、子どもが生きていく上で欠くことができない重要なものである。子どもの発達はその多くが人との関わりの中で培われる。この講義では、幼児期の人との関わりとその発達に関する基本的な知識を身につけることを目的としている。授業の概要は次のとおりである。</p> <p>① 子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代的な課題について学ぶ。          ② 子どもの生活する様々な場での人との関わりやその発達について学ぶ。          ③ 自立心・規範意識など、人との関わりの中で育まれる発達の様々な側面について学ぶ。</p>							
到達目標							
<p>① 子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代的な課題の背景を理解している。          ② 子どもの生活する様々な場での人との関わりやその発達について自分なりに説明できる。          ③ 自立心・規範意識など、人との関わりの中で育まれる発達の様々な側面について自分なりに説明できる。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。</p> <p>○ 2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。</p> <p>3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。</p> <p>4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
筆記試験		70%					
平常点（演習課題の取り組みなど）		30%					
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
『新訂 事例で学ぶ保育内容 領域人間関係』		熊野隆監修 若立京子編集代表	明文書林	2018	978-4-89347-257-1		
参考書等							
幼稚園教育要領（文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省）、保育所保育指針（厚生労働省）							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
授業の後はノートや資料を見なおして内容を確認しましょう。また、関連する部分について教科書の事例を読むなどして、理解を深めましょう。				2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
事例検討などの課題に主体的に取り組み、自分なりの意見を持つよう努めましょう。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、ディスカッションの要素を含む授業です。							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション：現代社会の人間関係	①人間関係とは ②現代社会の特徴 ③家族の変化
第2週	家庭における人とのかかわり	①家庭における人間関係の特徴 ②子どもにとっての家庭 ③現代の子どもの家庭生活
第3週	地域における人とのかかわり	①地域社会とは ②子どもにとっての地域社会 ③現代の地域社会と子どもの生活
第4週	子どもの人間関係の発達	①子どもの人とのかかわりの発達に関するDVDの視聴 ②DVDの内容の解説
第5週	人とかかわる力の発達と支援	①子どもの人とのかかわりの発達と支援：乳児期 ②子どもの人とのかかわりの発達と支援：幼児期
第6週	自立心の発達と支援	①自立心とは ②自立心を支える力 ③自立心を育む支援
第7週	道徳性・規範意識の発達と支援	①道徳性とは ②道徳性の発達 ③道徳性を育む支援
第8週	まとめと試験	①全体のまとめ ②筆記試験
第9週		
第10週		
第11週		
第12週		
第13週		
第14週		
第15週		
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	幼児と表現						
担当教員	浅沼 恵輔/加藤 雅子	配当年次	1年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 1905			ワケマド科目	
授業概要							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・リトミックを体験する中で、保育に必要な音楽表現の基礎を学ぶ。</li> <li>・保育現場での音楽活動に必要な楽典の知識を身につける。</li> <li>・身近なものに目を向け、幼児造形の素材についての知識・技能を身につける。</li> <li>・音楽、美術、身体など、子どものための総合的な表現の基礎となる資質を学び、表現力を身につける。</li> <li>・共同制作を通して対話の大切さや他者の尊重について考える。</li> </ul>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> <li>①音楽、造形の基本的な知識や技能を習得する。</li> <li>②身の回りのものを身体で感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。</li> <li>③表現することの楽しさを感じるとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。</li> <li>④協働して表現することを通して、他者の表現を受け止める共感し、より豊かな表現に繋がっていくことができる。</li> </ol>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。</li> <li>2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。</li> <li>3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。</li> <li>4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</li> </ol>							
成績評価方法・基準							
	内容	割合(%)	内容	割合(%)			
	授業態度	60%					
	発表	20%					
	制作物	10%					
	授業内レポート	10%					
教科書・ソフト等							
	書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
	「なし。授業内で適宜、資料を配付します。」						
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験あり			
小中学校にて図工・美術を指導（加藤）							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
	予習・復習の具体的な内容			予習・復習に必要な時間			
	てづくりオーケストラについては、都度提示します。			1時間から2時間程度/週			
受講時の注意事項							
てづくりオーケストラは、基本的にグループ作業です。制作時は必要に応じてエプロン・ジャージ等で衣類の防汚対策をしてください。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション 担当：加藤	・本講義についてその目標と内容について ・授業計画について ・評価基準について
第2週	保育所保育指針解説及び幼稚園教育要領解説等から学ぶ 担当：加藤	・保育所保育指針解説及び幼稚園教育要領解説等について ・領域の中の「表現について」 ・指導要領の項目と本講義で目指すものの関わりについて
第3週	身近な素材を生活環境から考える 担当：加藤	・環境による教育と保育について
第4週	身近な素材を活用し制作する① 担当：加藤	・指絵の具などの描画材からイメージを膨らませる制作
第5週	身近な素材を活用し制作する②試作 担当：加藤	・主に紙を使った制作
第6週	身近な素材を活用し制作する・完成 担当：加藤	・学内の風景から見立て遊びをする活動
第7週	リトミック①リトミックの基礎とリトミック活動の鑑賞 担当：浅沼	・リトミックの基礎知識の学習とリトミック活動の鑑賞
第8週	リトミック②リトミック活動の体験 担当：浅沼	・ゲストスピーカーを招き、実際にリトミック活動を体験
第9週	リズムでの表現① カスタネットや鈴、カブスを使用した表現を考える 担当：浅沼	・カスタネット、鈴、カブスを使ってリズムを創作
第10週	リズムでの表現② ボディパーカッションでの表現を考える 担当：浅沼	・ボディパーカッションでリズムを創作
第11週	図形楽譜を書く① 五線紙を使った図形楽譜 担当：浅沼	・図形楽譜の知識の学習 ・五線紙を使って図形楽譜を制作
第12週	図形楽譜を書く② 画用紙を使った図形楽譜 担当：浅沼	・画用紙を使って図形楽譜を制作
第13週	てづくりオーケストラ① 説明・図形楽譜をつくる(グループワーク) 担当：加藤、浅沼	・グループ毎にテーマに従って計画を立てる ・計画に沿って表現する①(表現例=ボディパーカッションと図形楽譜を組み合わせる)
第14週	てづくりオーケストラ② 図形楽譜をつくる(グループワーク) 担当：加藤、浅沼	・計画に沿って表現する②(表現例=ボディパーカッションと図形楽譜を組み合わせる)
第15週	てづくりオーケストラ③ 発表 担当：加藤、浅沼	・グループ毎に発表会を行う
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目		保育内容(言葉)					
担当教員	大澤 亜里	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 1401			ワケマド科目	
授業概要							
乳幼児の言葉の発達を支えるために必要な知識を習得するとともに、言葉を通して子どもの経験や考えを理解しようとする態度、また子どもの言葉を豊かにするための実践的な技能を身につけます。授業では現行の保育所保育指針および幼稚園教育要領に示されている保育内容の領域「言葉」のねらい及び内容について学びます。また乳幼児期の言葉の発達過程について学ぶと同時に、子どもの言葉を通して子どもが経験していることや思いを捉え、援助のあり方について考察します。さらに子どもの言葉を豊かにする児童文化財について学んだ上で、パネルシアターを作成します。							
到達目標							
① 保育内容の領域「言葉」のねらいと内容について理解した上で、指導上の留意点について説明できる。 ② 乳幼児期の言葉の発達過程を理解した上で、子どもの実態に応じた援助のあり方について考え、自分の意見を述べるができる。 ③ 子どもの言葉を豊かにする児童文化財の内、パネルシアターの特性を踏まえた上で、内容について考え、工夫し作成することができる。							
学科のディプロマ・ポリシー							
1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。							
○ 2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。							
3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。							
4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。							
成績評価方法・基準							
内容		割合(%)	内容		割合(%)		
毎回の授業後に提出するリアクションペーパーの内容		40%					
子どもの言葉と理解のワークシート		10%					
パネルシアター作成への取り組み		20%					
期末レポート		30%					
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
『保育所保育指針解説』	厚生労働省	フレーベル館	2018				
『幼稚園教育要領解説』	文部科学省	フレーベル館	2018				
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』	内閣府・文部科学省・厚生労働省	フレーベル館	2018				
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
授業後にはレジュメやノートの見直しをするとともに、配付資料や参考文献をよく読み、理解を深めてください。				1時間から2時間程度/週			
受講時の注意事項							
授業では考えたり議論したりする機会があります。積極的に取り組んでください。また毎回の授業の最初にリアクションペーパーのフィードバックやリアクションペーパーの内容に関するディスカッションを行いますので自分の考えや意見等を書いてください。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるディスカッションの要素を含む授業です。							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス：言葉の機能	保育の内容(言葉)の授業の目的や内容、到達目標、授業計画などについて知る。言葉の機能について学ぶ。
第2週	保育内容の領域「言葉」	領域「言葉」のねらいと内容について、またその他の領域との関係について理解する。
第3週	乳幼児期の言葉の発達①乳児期の言葉と保育者の援助	乳児期の言葉の発達の特徴と保育者の関わりについて学ぶ。
第4週	乳幼児期の言葉の発達②幼児期前期の言葉と保育者の援助	幼児期前期(1～3歳)の言葉の発達の特徴と保育者の関わりについて学ぶ。
第5週	乳幼児期の言葉の発達③幼児期後期の言葉と保育者の援助	幼児期後期(4～6歳)の言葉の発達の特徴と保育者の関わりについて学ぶ。
第6週	児童文化財と保育①うた、絵本、紙芝居の魅力と保育現場での活用	わらべうた、絵本、紙芝居の起源や魅力について学ぶ。
第7週	児童文化財と保育②劇、物語の魅力と保育現場での活用	劇、物語、言葉遊びの起源や魅力について学ぶ。
第8週	子どもの言葉を通して子どもを理解する①観察記録の整理と考察	これまでの観察記録をもとに、「子どものひとりごと」「先生との対話・会話」「子ども同士の会話」ごとに子どもの発話やその時の表情、行動などを整理する。それをもとに子どもの内面や発達過程、それに対する保育者の援助の在り方について考察する
第9週	子どもの言葉を通して子どもを理解する②グループディスカッション	第8回で作成した自身のワークシートをもとに、グループディスカッションを行う。
第10週	子どもの言葉を通して子どもを理解する③全体討論	第9回のグループディスカッションの内容を全体で共有し、議論する。
第11週	子どもの言葉を豊かにする保育①パネルシアターについて	パネルシアターの魅力や作成方法などについて学ぶ。
第12週	子どもの言葉を豊かにする保育②計画の立案	パネルシアターを使った部分実習を行うという設定で計画を立て、作成するパネルシアターの内容を考える。
第13週	子どもの言葉を豊かにする保育③パネルシアターの作成	パネルシアターを作成する。
第14週	子どもの言葉を豊かにする保育④作成と発表の練習	パネルシアターを作成し、出来上がったあとは発表の練習をする。
第15週	子どもの言葉を豊かにする保育⑤発表とまとめ	作成したパネルシアターを発表する。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目		保育内容 (健康) a					
担当教員	田口 夏美/田中 住幸	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 2402			ワケマド 科目	
授業概要							
現代子どもたちは活発に体を動かす機会が減り、体力・運動能力や人と関わる力などが育ちにくくなってきていると指摘されている。本科目では、子どもの身体機能の発達について今日的な問題も交えながら理解を深め、子どもが健やかに成長するための保育者の役割や実践的な方法を確認する。同時に安全に保育を展開していく上で必要不可欠となる応急手当での知識・技術の習得も目指す。							
到達目標							
1. 体力・運動能力の低下など健康に関わる今日的な問題について関心を持ち、各自が課題意識を持つことができる。 2. 運動遊びを幼児保育の場面で実践するイメージ、心構えを作り上げる。 3. 安全指導を行うための基礎的な技術・知識を身につける。							
学科のディプロマ・ポリシー							
1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。							
○ 2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。							
3. 協調性：社会の様々な問題に関心に向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。							
4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
期末レポート		60%					
授業毎の課題レポート		20%					
平常点 (主体性、意欲・関心)		20%					
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
『チャイルドケアプラス受講生ハンドブック』		メディックファーストエイド	NEAジャパン	2023		授業内で販売/2,000円	
参考書等							
幼稚園教育要領 (文部科学省)、幼児連携型認定こども園教育・保育要領 (内閣府・文部科学省・厚生労働省)							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容					予習・復習に必要な時間		
各回の授業で体験した遊びの概要や手順についてイラストなども含めながらノートに記録しておくこと。					1時間程度/週		
受講時の注意事項							
運動を行う際は、屋内ではシャージ・運動靴、屋外では季節に合わせて、帽子、防寒着を準備すること。詳細については、授業内で指示する。提出された課題・レポートについては、LMS (学修支援システム) 内でフィードバックを行う。この科目を履修することで、メディックファーストエイドの応急手当に関する資格を取得することができる (詳細は、授業内で説明する)。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるフィールドワーク及びディスカッションの要素を含む授業です。							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション (田中・田口)	授業全体の説明、アイスブレイクを行う。
第2週	体を使った遊び (田中・田口)	体を使った遊びを経験すると共に、幼児向けの指導方法や、安全に関する留意事項を確認する。
第3週	コーディネーション遊び (田中・田口)	コーディネーション遊びを経験すると共に、幼児向けの指導方法や、安全に関する留意事項を確認する。
第4週	ボールを使った遊び (田中・田口)	ボールを使った遊びを経験すると共に、幼児向けの指導方法や、安全に関する留意事項を確認する。
第5週	用具を使った遊び (田中・田口)	用具 (マットや跳び箱など) を使った遊びを経験すると共に、幼児向けの指導方法や、安全に関する留意事項を確認する。
第6週	屋外での遊び (田中・田口)	屋外での遊び (ネイチャーゲームなど) を経験すると共に、幼児向けの指導方法や、安全に関する留意事項を確認する。
第7週	運動遊び指導①—計画— (田中・田口)	運動遊びの指導計画を立て、模擬保育の準備を行う。
第8週	運動遊び指導②—実践— (田中・田口)	運動遊びをテーマにした、模擬保育を行う。
第9週	運動遊び指導③—振り返り— (田中・田口)	運動遊びの模擬保育について振り返り、実際の保育現場での実践に向けて、運動遊びの指導におけるポイントを整理する。
第10週	応急手当の実際① (田中)	小児応急手当の基本について概要を確認する。二次災害の予防、救急法における乳児、幼児の定義などを理解する。
第11週	応急手当の実際② (田中)	心肺蘇生法について実習を通して理解する。乳児、小児、成人の年齢ごとの手技を確認する。
第12週	応急手当の実際③ (田中)	AEDの使用法について実習を通して理解する。救助者が一人の場合でも、通報、CPR、AEDの装着、使用の流れがスムーズに行えることを目指す。
第13週	応急手当の実際④ (田中)	保育中に発生することが多い怪我の応急手当について、実習を通して理解する。
第14週	応急手当の実際⑤ (田中)	保育中に発生することが多い突発的な病気の応急手当について、実習を通して理解する。
第15週	まとめ (田中・田口)	授業全体を振り返ってのまとめを行う。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		



授業科目	保育内容(人間関係)a						
担当教員	星 信子	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 2403			ワケマド科目	
授業概要							
幼稚園教育要領、保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育保育要領に示された保育内容の領域「人間関係」のねらい及び内容を理解した上で、保育内容(人間関係)の指導法を学ぶことが主な内容である。乳幼児期の人間関係の発達の特徴を踏まえ、人とかかわる力を育てる援助・指導方法を具体的に学ぶとともに、保育の中でのさまざまな人とのかかわりについて理解を深める。また、模擬保育の計画と実践、振り返りを通し、保育を構想し改善する力を身につける。							
到達目標							
① 保育内容の領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。 ② 子どもの人間関係の発達と保育者の援助について理解し、自分なりの考えを持つ。 ③ 模擬保育の取り組みを通して、保育の計画を立案・実践し、省察する力を身につける。							
学科のディプロマ・ポリシー							
1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。							
○ 2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。							
3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。							
4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。							
成績評価方法・基準							
内容	割合(%)	内容	割合(%)				
筆記試験	50%						
グループ討論及び模擬保育	40%						
平常点(課題への取り組みなど)	10%						
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
『事例』事例で学ぶ保育内容 領域人間関係	熊野隆監修 若立京子編集代表	南文書林	2018	978-4-89347-257-1			
参考書等							
幼稚園教育要領(文部科学省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府・文部科学省・厚生労働省)、保育所保育指針(厚生労働省)							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
授業の後はノートや資料を見なおして内容を確認しましょう。また、関連する部分について教科書の事例を読み理解を深めるよう努めましょう。グループでの発表の準備をしっかりと行いましょう。				1時間から2時間程度/週			
受講時の注意事項							
グループでの活動や演習課題に主体的に取り組みましょう。中間の試験のフィードバックは授業内で行います。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、ディスカッションの要素を含む授業です。							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション：幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の構成	①幼児教育の基本 ②育みたい資質・能力 ③幼少期の終わりまでに育ってほしい10の姿
第2週	領域「人間関係」のねらいと内容	①領域のねらいと内容とは ②領域人間関係のねらいと内容
第3週	子どもの人間関係の発達と保育者の援助：グループ討論	①子どもの人間関係の発達に関する年齢別の事例についての検討 ②保育の中での支援のあり方の検討
第4週	子どもの人間関係の発達と保育者の援助：発表	①グループでの検討内容の発表 ②まとめ
第5週	遊びの中の人とのかかわり	①遊びとは ②遊びの分類と発達 ③遊びの中での人とのかかわり
第6週	いざこざ・ケンカなどのトラブル	①いざこざやケンカの発達の特徵 ②いざこざへの保育者の介入 ③いざこざから学ぶ
第7週	子どもの人間関係の育ちを支える保育者の役割	①子どもとの信頼関係を築く ②子どもの自己主張を支える ③子ども同士の関係をつなぐ
第8週	個と集団の育ち	①個と集団の関連 ②集団の中での子どものかかわり ③集団形成を支える保育者の役割
第9週	子どもを取り巻く人間関係	①保護者との関係 ②保育者同士・同僚との関係 ③園と地域との関係
第10週	中間のまとめと試験	①中間のまとめ ②筆記試験
第11週	援助の実際①	ゲームを取り入れた保育計画の立案
第12週	援助の実際②	教材の準備・模擬保育の練習
第13週	援助の実際③	模擬保育の実施と参観①
第14週	援助の実際④	模擬保育の実施と参観②
第15週	援助の実際⑤	模擬保育の省察・保育計画の修正とまとめ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目		保育内容(環境) a					
担当教員	柘植 純一	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 2401			ワケマド科目	
授業概要							
<p>領域「環境」の対象となっている身近な環境について、幼児の発達と環境認識について学習する。保育者が保育現場で幼児を指導する際には保育者が「教える」という姿勢ではなく、保育者自身が幼児とともに「感じ」「興奮し」「発見する」喜びを共有することの重要性を理解する。特に身近な自然との触れ合いを指導する際に求められる保育者の姿勢について深く考える。子どもの目線に立ち、子どもの成長を見通した保育環境整備の重要性について理解する。日常の保育で接する身近な自然物に気づく感性を磨く努力をする。</p>							
到達目標							
<p>① 幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「環境」のねらいと内容について説明することができる。          ② 授業内で提示した身近な植物を野外で見つけることができる。          ③ 子どもの目線に立った保育環境の整備について説明できる。          ④ 身近な自然との触れ合いを指導する上での留意点について説明できる。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。</p> <p>○ 2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。</p> <p>3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。</p> <p>4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合(%)	内容		割合(%)		
授業内試験		50%					
授業内での取組み		30%					
授業内レポート		20%					
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』							
参考書等							
幼稚園教育要領(文部科学省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府・文部科学省・厚生労働省)							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「環境」を熟読しておく。授業内で毎回紹介する身近な自然物(主に植物)について登下校時などに自分で見つけて観察する。				1時間から2時間程度/週			
受講時の注意事項							
子どもの視点での保育について常に考える。授業の開始時に自然に対する感性、観察力を働かせる課題を出すので、感じたこと、気づいたことを必ずリアクションペーパーに記入する。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス、現代の幼児の特徴	授業の概要、受講上の留意点について話します。またこれから学習を始めるにあたって現在の子どもについて一般的にいわれている特徴について考えていきます。
第2週	幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「環境」	幼稚園教育要領および保育所保育指針に記述されている領域「環境」のねらいと内容について学習します。
第3週	幼児にとって自然とは何か?	子どもにとって自然との関わりが果たす役割・意義について考えます。
第4週	「環境」指導に求められる保育者の姿勢	子どもにとって重要な環境である保育者の役割について考えます。特に自然を中心とした身近な環境の指導に必要な保育者の姿勢について学習します。
第5週	乳幼児の発達と環境	子どもの発達に伴う身近な環境に対する認識や働きかけ方の変化について学習します。
第6週	身近な小動物との触れ合いの指導	人間の接し方の違いによる動物の分類、身近な小動物との触れ合いの意義・ねらい、保育環境としての小動物について学習します。
第7週	植物との触れ合いの指導法	昆虫等の小動物とともに植物も子ども達が豊かな感性を磨くためにはとても大切な役割を果たします。身近な植物の特徴について学習するとともに、身近な植物との触れ合いの目的、意義について学習します。
第8週	「生物との触れ合い」の実践現場での問題点	保育現場では広く生物との触れ合い、特に飼育・栽培が取り入れられていますが、保育者の勉強不足や準備不足によって命がおろそかにされていたり、十分な効果が発揮されていなかったりすることが少なくありません。どういったところが良くないのか事例を挙げながら確認します。
第9週	数量・図形・文字の指導	数量・図形は抽象的な概念であり幼児がこれらを具体的な事象と切り離して理解することは困難です。保育の場でこれらに対する感覚を豊かにし、興味や関心を持たせるための指導法について学習します。
第10週	物とのかかわりの指導	道具・遊具等、子どもにとって身近な物とのかかわり方、指導法について学習します。
第11週	情報・施設とのかかわりの指導	子ども達にとって身近な情報・施設について保育の中での関わり方について学習します。
第12週	幼稚園・保育所における環境整備	子ども達が身近な自然と触れ合うことのできる保育環境の整備のために必要な自然環境地図の作成および周辺の自然環境を生かした園内環境整備のあり方について学習します。
第13週	指導計画	これまでに学習してきたことを生かし、さらに領域「環境」に述べられているねらいと内容を実践するための指導計画について考えます。
第14週	身近な自然と豊かに触れ合うための指導計画の立案	園を取り巻く自然環境を保育に活かせるかどうかは保育者次第であることを意識しながら、身近な自然との触れ合いを取り入れた年間指導計画を作成します。
第15週	授業内試験とまとめ	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	保育内容(表現I「音楽」)a						
担当教員	松井 亜樹	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 2703			ワデマド科目	
授業概要							
① 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の領域「表現」を踏まえ、保育者として必要な基礎的な音楽理論や知識及び技能を学ぶ。 ② 子どもたちの豊かな感性を伸ばし、創造性を豊かにするような声かけ、実践的指導法を探究する。 ③ 他領域と関連させながら、豊かな表現活動が展開できるような幅広い視野を養い保育現場での実践につなげる。							
到達目標							
① 領域「表現」の構成要素を理解し、指導案作成と模擬授業を通して実践力を身につけることができる。 ② 様々な表現活動を通して子どもの表現力を伸ばすための技術や教材を作成する力を養うことができる。 ③ グループワークにより子どもの発達にふさわしい表現活動の在り方を考察できる。							
学科のディプロマ・ポリシー							
1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。							
○ 2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。							
3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。							
4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。							
成績評価方法・基準							
内容	割合(%)	内容	割合(%)				
授業内の発表(手遊び、修礼、コレオグラフィ)	60%						
提出物	20%						
日常の取り組み状況	20%						
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
『こどものうた200』	小林美栄編	チャイルド本社	1996	4805400021			
『最もわかりやすい楽典入門』	坪野春枝	knp	2002	4773214015			
『ピアノ曲3弾き歌い童謡曲「豊かな音楽表現のために」』	松井亜樹、浅沼恵輔他	集文社	2020	4874460387			
参考書等							
『幼稚園教育要領』（文部科学省）、『保育所保育指針』（厚生労働省）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（内閣府・文部科学省・厚生労働省）							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無						実務経験あり	
この科目は音楽指導の経験を有する教員が実践的教育を行います。							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容						予習・復習に必要な時間	
次回までの課題（プリントや手遊び等）が提示されるので、それらを準備（練習）してから授業に参加していただき。						1時間から2時間程度/週	
受講時の注意事項							
授業前に配布資料をよく読んでおいてください。 なお、授業内に実施したプリントのフィードバックを行います。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	保育内容領域「表現」が目指すものは何か、『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を読んで学びます。
第2週	歌唱表現活動①	歌唱表現活動（生活の歌）を歌います。領域「表現」の位置付け、構成要素を学びます。
第3週	歌唱表現活動②	歌唱表現活動（春の歌）を歌います。乳幼児期の身体的発達と音楽表現について学びます。
第4週	歌唱表現活動③	歌唱表現活動（行事の歌）を歌います。保育者に求められる実践的指導法について学びます。
第5週	歌唱表現活動④	歌唱表現活動（夏の歌）を歌います。乳幼児の言語的表現活動（わらべうたについて）について学びます。
第6週	サウンドスケープ	手遊びの発表（出席番号1～10番）、幼児の音楽表現活動（環境と音・音楽）について学びます。
第7週	手作り楽器	手遊びの発表（出席番号11～20番）、幼児の音楽表現活動（身近なものを利用したリズム遊び・手作り楽器制作）
第8週	歌唱表現活動⑤	手遊びの発表（出席番号21～30番）、歌唱表現活動（秋の歌）を歌います。幼児の音楽表現活動（ボディパーカッション）
第9週	歌唱表現活動⑥	手遊びの発表（出席番号31番～40番）、歌唱表現活動（冬の歌）を歌います。幼児の音楽表現活動（うた絵本）
第10週	指導案立案	手遊びの発表（出席番号41番～最後）、音楽表現の展開について（指導案立案）
第11週	指導案作成、修礼	小学校音楽への連携、音楽表現の展開について（指導案作成）、修礼発表
第12週	模擬保育発表	鑑賞、模擬授業発表・教師の役割、援助方法
第13週	コレオグラフィ（表現活動）立案	コレオグラフィ（表現活動）立案、模擬授業発表・授業検討
第14週	コレオグラフィ（表現活動）実践	コレオグラフィ（表現活動）実践、模擬授業発表・意見交換
第15週	コレオグラフィ発表	コレオグラフィ発表、これまでの学びと振り返り、まとめ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	保育内容(表現Ⅱ「美術」)a						
担当教員	加藤 雅子	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 1701			ワケマド科目	
授業概要							
① 幼稚園指導要領や保育所保育指針における領域「表現」のねらいを理解し、幼児の豊かな感性・表現力・創造性を高めるため方策について学ぶ。 ② 幼児の造形表現における材料や技法について実践的に学ぶ。 ③ 「自己表現」「創る楽しさ」「遊びの要素」「見せる対象の意識」など造形表現に含まれる要素について考える。 ④ 子どもの年齢・性別や個性によって感覚が異なる事を理解し、子どもの豊かな造形表現のための保育者の役割を考える。							
到達目標							
① 何かを表現し、新しい物を創造することの価値を理解し、自ら楽しめるようになる。 ② 様々な造形的表現の知識・技術を身につけ、美的な感性を高める。 ③ 保育における子どもの造形活動の意味を理解する。 ④ 子どもの年齢に応じた造形指導、およびそのための教材研究・指導立案ができるようになる。							
学科のディプロマ・ポリシー							
1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。 ○ 2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。 3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。 4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。							
成績評価方法・基準							
内容	割合(%)	内容	割合(%)				
表現制作作品	30%						
参加態度(取り組みの姿勢、グループでの協働の様子)	40%						
レポートなど提出物	30%						
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
「なし。授業内で適宜、資料を配付します。」							
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無						実務経験あり	
小中学校にて図工・美術							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容						予習・復習に必要な時間	
保育現場での観察や実習の際に、子どもの制作している物に目を向けて、授業で学んだ材料や制作方法・課題のねらいなどを整理し、自身の保育に生かせるように復習をしてください。						1時間から2時間程度/週	
受講時の注意事項							
必要に応じて材料や用具を用意してもらったことがあります。内容によってエプロン等作業に適した服装をおねがいすることがあります。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	授業のねらいと内容、道具の準備、受講の留意点、幼稚園教育要領・保育所保育指針等における領域「表現」のねらいと内容について
第2週	幼児の造形的表現活動の特性と保育者の役割	・子どもの発達と表現について ・子どもの表現と発達を踏まえた保育者の役割について
第3週	幼児をとりまく造形的要素について 動画から考察	・動画や実践例などを通して「環境を通して行う教育」と表現活動について
第4週	造形活動① 紙を用いた造形1	・紙コップや厚紙、ダンボールなど主に紙を素材に使った制作1
第5週	造形活動② 紙を用いた造形2	・紙コップや厚紙、ダンボールなど主に紙を素材に使った制作2 ・制作の手順や方法、作品について表現したり説明したりする活動
第6週	造形活動③ 色を使った造形	・お花紙や紙粘土などの色や形の変化を楽しめる素材を使った制作
第7週	造形活動④ 色と光を使った造形	・ステンドグラスや透過性のあるものを利用した制作
第8週	造形活動⑤ 身の回りの自然材や人工物を使った造形遊び1	・洗濯糊やホウ素水、食紅やプラスチック、羊毛、木の枝などの使った造形遊び1
第9週	造形活動⑥ 身の回りの自然材や人工物を使った造形遊び2	・洗濯糊やホウ素水、食紅やプラスチック、羊毛、木の枝などの使った造形遊び2
第10週	造形活動⑦ 落ち葉など自然材を利用した造形1	・主に自然材を利用して飾る場所や目的を考えて行う制作1
第11週	造形活動⑧ 落ち葉など自然材を利用した造形2	・主に自然材を利用して飾る場所や目的を考えて行う制作2
第12週	造形活動⑨ 紙などを使った造形遊び	・新聞紙やダンボール、板片など身の回りの材料を積み上げたり並べたりする造形遊び
第13週	造形活動10 雪や氷を使った造形活動1	・アイスクャンدلや雪像の作成計画 ・アイスクャンدلの作成
第14週	造形活動11 雪や氷を使った造形活動2	・雪を使った造形 ・アイスクャンدلの設置
第15週	表現Ⅱ美術の指導計画作成・振り返り	講義内容を振り返り、指導計画を作成する
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	幼児教育の方法と技術						
担当教員	森川 由衣	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 2607			ワケマド科目	
授業概要							
<p>教育課程及び指導法に関する科目の教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）科目である。内容の中心に附属幼稚園におけるグループによる実習（2回）をおき、グループ単位（5名～6名）で指導実習の計画をたて、教材研究をすすめて、実習し、振り返りを行う。</p> <p>①グループで行う実習から保育における保育者間のチームワークの重要性を理解する。</p> <p>②指導実習体験を通して「保育とは」「保育者とは」のイメージ形成・自分なりの課題の発見につなげる。</p> <p>③保育の反省と幼児の活動評価の重要性を体験的に理解する。</p>							
到達目標							
<p>①保育は環境を通して行うものであることを理解する。</p> <p>②指導実習体験を通して、子どもを受容するとはどういうことかを実際に子どもとの関わりの中から気づけるようになる。子どもの意欲を引き出す表情や言葉かけを身につける。</p> <p>③子どもが主体的に活動できることの重要性を認識し子どもの気持ちを汲み取り計画実践する。</p> <p>④グループで行う実習から保育における保育者間のチームワークの重要性を理解する。</p> <p>⑤指導実習体験を通して「保育とは」「保育者とは」のイメージ形成・自分なりの課題の発見につなげる。</p> <p>⑥保育の反省と幼児の活動評価の重要性を体験的に理解する。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。</p> <p>2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。</p> <p>3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。</p> <p>4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
計画・実践・振り返りの状況		60%					
レポート		40%					
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
『幼稚園教育要領解説』	文部科学省						
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』	内閣府・文部科学省・厚生労働省						
参考書等							
なし。授業内で指示します。担当者作成の立案事例集等を配付します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無					実務経験あり		
この科目は、幼稚園教諭の経験を有する教員が実践的教育を行っています。							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容					予習・復習に必要な時間		
事前に提示される実習内容を個人・グループでイメージしておいて下さい。実習後にレポートを提出して下さい。個人実習では各自で実習のねらいを考え、実習後は日誌を提出して下さい。					1時間から2時間程度/週		
受講時の注意事項							
全員もしくはグループで行う授業と附属幼稚園での個人実習からなります。全員もしくはグループで行う授業は、実習するグループと観察するグループに分かれ、保育計画、保育の実際、実習後の振り返りで成り立っています。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス 授業内容、目的、計画	授業内容、目的、計画について理解する。各グループで役割分担を決める。
第2週	教育方法の理論と実践 指導実習に向けて①	テーマについて理解する。グループごとにテーマに沿った設定理由と内容を考える。
第3週	教育方法の理論と実践 指導実習に向けて②	グループごとに考えた設定理由に基づき、ねらい、内容をまとめる。
第4週	指導実習実践1の計画案作成と環境構成の検討①	グループごとに指導案の内容を考え、必要な物を話し合う。
第5週	指導実習実践1の計画案作成と環境構成の検討②	指導案作成と並行して、環境構成を検討し、試作する。
第6週	指導実習実践1の計画案に基づく模擬実習からの教育方法の検討	模擬実習を実施し、改善点を話し合う。
第7週	指導実習実践1 教育方法の検討・教育の記録	グループによる実習を実施する。
第8週	指導実習実践1の反省と幼児の活動評価	実習を実施したグループの振り返りをする。
第9週	指導実習実践2の計画案作成と環境構成の検討①	グループごとに指導案の内容を考え、必要な物を話し合う。
第10週	指導実習実践2の計画案作成と環境構成の検討②	指導案作成と並行して、環境構成を検討し、試作する。
第11週	指導実習実践2の計画案に基づく模擬実習からの教育方法の検討	模擬実習を実施し、改善点を話し合う。
第12週	指導実習実践2 教育方法の検討・教育の記録	グループによる実習を実施する。
第13週	指導実習実践2の反省と幼児の活動評価	実習を実施したグループの振り返りをする。
第14週	指導実習1, 2を踏まえての教育方法・環境構成の検討及び反省と幼児の活動評価①	グループによる実習の省察をする。反省をふまえて、指導案を見直す。
第15週	指導実習1, 2を踏まえての教育方法・環境構成の検討及び反省と幼児の活動評価②	グループによる実習の省察をする。反省をふまえて、指導案を見直す。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	子どもの健康と安全a						
担当教員	山崎 寛子	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 2405			ワケマド科目	
<b>授業概要</b> 子どもの健やかな成長・発達を理解し、心身ともに健康な子どもを養育するための基礎的な知識・技術・態度を学び修得（演習）する。小児の健康状態の観察方法や、小児の成長発達の指標と評価、発達過程に応じた関わり方、病児に対する対応、養育環境における安全性の確保、救急処置の方法などを学修する。一つの命の誕生から、幼児期までの劇的な成長・発達をする子どもと環境に関心を持ち、積極的な姿勢で学修してほしい。							
<b>到達目標</b> ①保育における保健的観点を踏まえたい育環境や援助について理解する ②保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する ③子どもの体調不良に対する適切な対応について具体的に理解する ④保育における感染症対策について具体的に理解する ⑤保育における保健的対応の基本的な考えを踏まえ、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について具体的に理解する ⑥子どもの健康及び安全の管理に関わる組織的取り組みや保健活動の計画及び評価等について具体的に理解する							
<b>学科のディプロマ・ポリシー</b>							
1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。 <input type="radio"/> 2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。 3. 協調性：社会の様々な問題に関心に向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。 4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。							
<b>成績評価方法・基準</b>							
	内容	割合 (%)	内容	割合 (%)			
	受講確認課題の提出	60					
	習得度確認テスト	40					
<b>教科書・ソフト等</b>							
	書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
	『なし。授業内で講義、資料を配付します。』						
<b>参考書等</b> 子どもの健康と安全演習ノート など							
<b>授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無</b> この科目は、看護師としてNICU・小児科等の経験のある教員が実践的教育を行っています			<b>実務経験あり</b>				
<b>予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間</b>							
	予習・復習の具体的な内容			予習・復習に必要な時間			
	配布資料に目を通し、復習と関心を持った箇所を自分で深掘りし学習に取り組んでください。事前に予習が必要な場合、講義内で伝達します。終了後、受講確認課題の提出で出席とします。確認課題は講義に関連したトピックなど資料等についてレポートの提出です。質問には、講義中または講義後、または個別にメールなどで対応しま			1時間から2時間程度/週			
<b>受講時の注意事項</b> 原則、対面講義とします。教科書に沿って進めますが、グループワークや身体活動・動画視聴なども取り入れていきます。保育者として子どもと家族の健康面も管理や支援が必要になります。あなたの知識が誰かの命を救い、人生を変えるかもしれないという意識をもって受講してください							
<b>アクティブ・ラーニング情報</b>							
<b>備考</b>							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	子どもの健康と保育の環境	(教科書第1章子どもの健康と安全)
第2週	子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理	
第3週	保育における健康及び安全の管理①	衛生管理 (教科書第2章)
第4週	保育における健康及び安全の管理②	事故防止及び安全対策 (教科書第2章)
第5週	保育における健康及び安全の管理③	危機管理・災害への備え (教科書第2章)
第6週	体調不良や障害が発生した場合の対応	(第3章 ①)
第7週	応急処置、救急処置及び救急蘇生法	(第3章 ② 心肺蘇生の実習については30分感染の状況により)
第8週	感染症の予防と感染症発生時と罹患後の対応	(第4章 ①感染症の集団発生予防 ②感染症発生時と罹患後の対応)
第9週	保育における保健的対応①	基本的な考え方(教科書 第5章①) ②3歳未満児への対応に (教科書 第5章②)
第10週	10週 沐浴実習	沐浴の基礎知識習得・実施
第11週	11週 沐浴実習	沐浴実施
第12週	保育における保健的対応③	個別的な配慮を要する子ども、障がいのある子どもへの対応 (教科書第5章③④)
第13週	健康及び安全の管理の実施体制①	保育における保健活動の計画及び評価
第14週	健康及び安全の管理の実施体制②	職員間の連携・協働と関連専門機関、地域の関係機関、自治体との連携
第15週	まとめと習得度確認テスト	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	子育て支援a						
担当教員	遠山 景広	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 2502			ワケマド科目	
授業概要							
<p>社会の変化に伴い、家族や地域をはじめとする子育て家庭を取り巻く環境も大きく変化している。保育現場では、子どもの保育と同時に、保護者支援や地域の子育て家庭への支援が求められている。本科目では、在園児家庭に限らず様々な保護者に対しての、保育の専門性を活かした相談・助言・情報提供、行動見本の提示等の支援手段や考え方を身につけていくために、多様な相談事例を通して、実践的に学んでいく。</p>							
到達目標							
<p>① 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する      ② 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。      2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。      3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。      4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
授業内試験		50%					
授業に臨む姿勢(グループ討議、発表など)		25%					
ワークシート・コメント		25%					
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
『保育・子育て支援』	小原敬郎・橋本好市・三浦主博	みらい	2019	978-4-86015-400-5			
参考書等							
菊地篤子・金瑛珠編著, 2024, 『ワークで学ぶ子育て支援』みらい など。その他授業内で適宜紹介します							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
日頃から子どもや保護者、子育て家庭に関するニュースや新聞記事などに関心をもち、自分の考えや根拠をまとめておきましょう 授業の前後に、テキスト等の該当箇所を目を通して内容を確認しつつ、授業を通して考えたことをまとめておきましょう				1時間から2時間程度/週			
受講時の注意事項							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション、子育て支援の意義と目的	「支援」とは何か、子育てにおける支援の根本的な考え方を学ぶ
第2週	子どもの権利と子育て支援	子どもの権利と子どもの最善の利益、子どもの最善を実現するための考え方を学ぶ
第3週	保育の専門性と子育て支援	保育の専門性を持つ意味と専門性を子育て支援に反映させる方法の例を学ぶ
第4週	子育て支援の展開過程	ソーシャルワークを例に、支援の展開方法について学ぶ
第5週	子育て支援における計画・記録・評価	支援の展開をどのように進めるか、及び展開過程を含めた支援を記録・評価する際の注意点を学ぶ
第6週	職員間の連携と協働	職場内・外の双方を含め、連携主体の組み合わせや体制づくりについて学ぶ
第7週	多様な社会資源とその活用	資源を理解するための多様な切り口について学び、資源の特性に合わせた活用方法について考える
第8週	支援における主体性の涵養	支援における家庭側の主体性の重要性を理解する
第9週	保育所の特性を生かした保護者への支援	保育施設を利用する家庭の抱えやすい悩み、支援の仕方や注意点について学ぶ
第10週	地域の子育て家庭に対する支援	保育施設を利用していない家庭の抱えやすい悩み、支援の仕方や注意点について学び、保育施設を利用している家庭と比較して理解を深めていく
第11週	個別支援の必要が大きい家庭への支援	子どもの特性を理解するための様々な切り口について学び、保護者と共有しつつ子どもの育ちを支える方法を考える
第12週	課題を抱える保護者への支援	保護者側が子育ての中でやり辛さを感じる背景や、やり辛さがどのような形で現れるか、支援の際の注意点は何かを学ぶ
第13週	諸外国の子育て支援にかかわる仕組み	世界の子どもの現状、他国での子どもや子育て家庭を支える仕組みについて学ぶ
第14週	多様な子育て家庭への支援	ここまでの学びを活かし、様々なシチュエーションにおいて子育て支援をどのように展開していくか、ディスカッションを行う
第15週	まとめ、授業内試験	子育て支援において重要なことは何か、現場でどのように活かしたいかを自分なりにまとめつつ、期末課題に臨む
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目							
保育・教職実践演習(幼)							
担当教員	大澤 亜里／加藤 雅子／田中 住幸／ 柘植 純一／遠山 景広／星 信子／ 松井 亜樹／森川 由衣	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 2601			ワケマド科目	
授業概要							
<p>本授業は教職・保育士職課程の総仕上げの授業です。これまでの学習内容と教育・保育実習の体験を踏まえて、各学生が保育者として身につけておくべき責任感・使命感・社会性・保育者像を形成し、子ども理解・保育内容（5領域）の指導方法を習得することが目的です。各領域の専門教員がロールプレイや討論を取り入れ、オムニバス形態で進めます。</p>							
到達目標							
<p>① 保育職の意義や保育者の役割、職務内容について理解し、説明することができる。  ② 実践からの子ども理解の方法について正しい知識を身につけている。  ③ 保育内容等の指導力を身につけている。  ④ 保育者として必要な社会性・対人関係能力を身につけている。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。  2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。  3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。  4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合(%)	内容		割合(%)		
各回のグループ討論・グループ活動・ロールプレイ・		50%					
各回の課題レポート／実習の省察		50%					
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
「なし。授業内で適宜、資料を配布します。」							
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無					実務経験あり		
幼稚園教諭の経験あり（森川） 小中学校で図工・美術を指導（加藤）							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容					予習・復習に必要な時間		
2年次前期終了までの実習や授業の成果を踏まえ、自身の課題を各回の前後に整理しましょう。履修カルテにもその内容を記載してください。授業内で配布する資料をよく読みましょう。					2時間から3時間程度/週		
受講時の注意事項							
これまでの学習および実習を踏まえた上で行う総まとめの授業です。目前にせまった就職に向けて、保育者に必要な資質・能力・態度等を身につける上でも大事な授業ですので、各自課題を持って積極的に臨んでください。ガイダンスで詳細を説明しますが、授業は25人～30人のグループで受講します。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワークの要素を含む授業です。							
備考							
この科目は主要授業科目です。							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	本授業の進め方についてガイダンスをします。
第2週	学外実習の振り返り	保育実習Ⅱ・Ⅲおよび教育実習Ⅱについて振り返りをします。
第3週	子育て支援①（遠山）	保育者の行う子育て支援と役割、保育の中で行うことの意味について確認します。
第4週	子育て支援②（遠山）	保育者にできる子育て支援について、実習の中で経験したことを踏まえて自分の考えをまとめ、意見交換をとおして子育て支援への理解を深めます。
第5週	乳児の保育①（星）	乳児期の発達を踏まえた上で、その時期の乳児とのかかわりに活かすことのできる手作りおもちゃを考案します。グループで討論しながら進めます。
第6週	乳児の保育②（星）	前回考案したおもちゃとその元となった乳児期の発達の様相や、そのおもちゃを使用しての遊びについて発表し合い、全体で理解を深めます。
第7週	幼児の保育①（森川）	教育実習Ⅱの実習経験を踏まえて、毎週12人ローテーションで附属幼稚園で参加実習をします。
第8週	幼児の保育②（森川）	実習週は省察会としてグループ討論をします。
第9週	子どもの権利①（大澤）	子どもの権利条約の条項の中で、保育において特に重視したいものや、乳幼児期の子どもに知ってほしいものについて、グループで話し合います。
第10週	子どもの権利②（大澤）	保育の中で重視したい子どもの権利を子どもたちに分かりやすく伝えるためのポスターを作成します。
第11週	表現く音楽>①（松井）	様々な音楽教育（オルフ、コダーイ、ダルクローズなど）について学びます。
第12週	表現く音楽>②（松井）	ハンドベルやトーンチャイムなどの楽器を演奏し、幼児と一緒に楽しめる表現活動を実践します。
第13週	表現く美術>①（加藤）	幼稚園指導要領・保育所保育指針などにおける領域「表現Ⅱ美術」のねらいや内容、幼児と表現などについて学びます。
第14週	表現く美術>②（加藤）	紙や自然素材などの身近な材料を用いて幼児と一緒に楽しめる制作を行います。
第15週	自然・環境①（柘植）	身近な物質である水には不思議な性質がありますが、あまりにも身近過ぎて当たり前になっています。簡単な実験を通して水の不思議を体験します。①では色水の色の変化について見ていきます。
第16週	自然・環境②（柘植）	身近な物質である水には不思議な性質がありますが、あまりにも身近過ぎて当たり前になっています。簡単な実験を通して水の不思議を体験します。②では水の表面張力について見ていきます。
第17週	健康・運動①（田中）	身近な素材である新聞紙を用いた運動遊びや表現遊びを実践します。
第18週	健康・運動②（田中）	新聞紙や布テープを材料に、道具を作成して、ホッケー遊びを実践します。自分たちで道具を作り、ルールを考えながら、遊びを創り上げる過程を経験します。
第19週	保育・教育実習報告会	10月に実施する保育所・認定こども園・幼稚園での実習報告会に参加する。また発表者は自身の報告書をもとに実習経験について報告する。
第20週	施設実習報告会	11月に実施する施設実習報告会に参加する。また発表者は自身の実習報告書をもとに実習経験について報告する。
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		



授業科目		保育実習指導Ⅰab					
担当教員	今西 良輔/早坂 聡子	配当年次	1年生	開講期	通年	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 1601			ワデマド科目	
授業概要							
実習の意義・目的・心構えなどを具体的に知らせ保育所や認定子ども園、社会福祉施設などにおける実習のあり方などについて学ぶ。講義で学んできた理論を実践の場で検証し自己の課題を確認する。							
到達目標							
① 保育実習の意義・目的を理解して説明できる。 ② 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 ③ 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解し説明できる。 ④ 実習の計画・実施・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解し説明できる。 ⑤ 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。							
学科のディプロマ・ポリシー							
1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。							
2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。							
○ 3. 協調性：社会の様々な問題に関心に向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。							
4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
授業内課題（指導計画立案・教材研究・レポートなど）		60					
授業内試験		20					
授業参加度		20					
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
『「学びつづける保育者を目指す実習の本 保育所 施設 幼稚園」』		久留陽子	南文書林	2018			
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験あり			
幼稚園（園長含む）及び保育所にて長期にわたる保育者の経験、また、児童相談所一時保護等の現場にて、保育・教育・子育て支援の経験がある（早坂） 児童相談所において、子どもや保護者の相談対応や判定業務、子どもの生活支援の経験がある（今西）							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
実習にあたり心構えなどを学ぶことで、自ら準備状況を確認し、実習を学びの深い有意義なものとするよう、自覚2時間から3時間程度/週を持ち込んでください。配布資料をよく読み、理解を深めてください。							
受講時の注意事項							
すべてが講義形式ではなく、実習日誌作成や指導計画立案・教材研究などの課題を示します。事前の学習準備を行ってまいります。又、課題は、授業内でフィードバックを行います。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワークの要素を含む授業です。							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	保育実習の目的と意義【今西】	・保育実習とは何かを理解 ・実習ガイドラインに沿って説明
第2週	児童福祉施設の理解①【今西】	・乳児院についての理解 ・児童養護施設についての理解 ・母子生活支援施設についての理解
第3週	児童福祉施設の理解②【今西】	・児童発達支援センターについての理解 ・障害児入所施設についての理解 ・障害者施設についての理解
第4週	保育所実習の意義と目的	・保育所実習の意義・目的・評価 ・保育所の社会的役割 ・実習生としての心構え、実習態度・姿勢
第5週	子どもの人権と最善の利益	・子どもの人権保障（4つの柱） ・子どもの最善の利益を保障する保育 ・保育士の職業倫理（倫理綱領・個人情報の保護等）
第6週	実習施設（保育所・認定こども園）の理解	・保育所（認定こども園）について ・ゲストスピーカーによる特別講義
第7週	乳幼児の発達課程の理解①グループワーク	・乳児（0・1・2歳児）の発達特性と保育者の援助 ・年齢別ディリブプログラムと環境構成 ・年齢別の生活と遊び
第8週	乳幼児の発達過程の理解②グループワーク	・幼児（3・4・5歳児）の発達特性と保育者の援助 ・年齢別ディリブプログラムと環境構成 ・年齢別の生活と遊び
第9週	実習へ向けた自己課題の明確化	・個人調査書作成、実習課題（目標・抱負）の明確化 ・実習先の情報収集（報告書、ホームページ等） ・保育用語、漢字
第10週	実習における計画と記録①	・実習における観察、記録、考察（実習日誌） ・実習における計画と実践（指導案） ・授業内試験（保育用語・漢字）
第11週	年齢発達に応じた実践発表（グループワーク）	・絵本、紙芝居、シクサー等の活用について ・読み聞かせ時の配慮点について ・年齢に応じた絵本の選択と読み聞かせ（グループワーク）
第12週	年齢発達に応じた教材準備	・指導計画立案へ向けた事前準備と導入・展開・まとめ（指導案） ・絵本を題材としたペーパーサート作成 ・夏季休業中の提出課題について
第13週	施設実習に向けた準備と姿勢【今西】	・各施設種別の確認 ・実習先でのマナーと礼儀
第14週	実習施設の特徴【今西】	・施設保育士の業務 ・施設の機能と支援
第15週	実習課題の設定と実習目標の立て方【今西】	・実習課題をどのように考えるか ・課題設定のための準備 ・実習目標を立てる意味
第16週	事前訪問（オリエンテーション）ガイダンス	・事前訪問オリエンテーション（日程調整電話連絡、服装、準備等） ・実習日誌等関係書類の確認、準備 ・敬語、話し言葉と書き言葉
第17週	実習における計画と記録②	・子どもの発達と保育者の援助（0・1・2歳児） ・見取りの視点と記録 ・手遊びの発表①
第18週	実習における計画と記録③	・子どもの発達と保育者の援助（3・4・5歳児） ・見取りの視点と記録 ・手遊びの発表②
第19週	実習における計画と記録④	・指導計画立案（ねらい、事前準備、環境構成、導入・展開・まとめ） ・「絵本の読み聞かせ」部分実習指導案の作成（提出）
第20週	・実習に活かす教材や活用方法の研究①グループワーク	・部分実習実践に向けた教材準備、作成（新聞を使った表現遊び）
第21週	・実習に活かす教材や活用方法の研究②グループワーク	・自己紹介（乳児・幼児） ・個々の課題に応じた教材準備、作成
第22週	実習前のまとめ	・実習課題、心得、実習中の注意点、日誌記入等、最終確認 ・お礼状の作成、送付 ・授業内確認テスト
第23週	実習事後指導（保育実習Ⅰ-A）	・保育実習の振り返り（グループワーク） ・自己評価、自己課題の明確化 ・提出物の確認（報告書、実習日誌等）
第24週	施設実習先の理解と実習前後の流れ【今西】	・子どもや利用者の理解 ・施設、専門職者の理解
第25週	施設実習の基本的理解と姿勢【今西】	・施設保育士の職務と役割の理解 ・自分理解と自己覚知をする ・他者理解・パウンダリーの理解
第26週	子ども・利用者の権利擁護【今西】	・権利擁護についての理解 ・守秘義務と倫理についての理解 ・安全管理についての理解
第27週	施設実習の1日の流れと事例検討	・各施設の流れを理解 ・実習先における事例を通じた理解
第28週	実習日誌の書き方と指導計画案、部分実習【今西】	・日誌に記録する意味 ・日誌の書き方 ・社畜についての理解
第29週	保育ソーシャルワークの基礎【今西】	・保育実習におけるソーシャルワークの知識や技術を理解
第30週	保育ソーシャルワークの実践【今西】	・保育実習におけるソーシャルワークを具体的な事例を活用して学ぶ



授業科目	保育実習指導Ⅲ						
担当教員	今西 良輔	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 2603			ワデマド科目	
授業概要							
<p>「保育実習Ⅲ」では、施設養護に携わる保育士の職務内容、役割に関するより深い理解と実践が求められます。この授業では、「保育実習ⅠB」での実習内容、各自の実習における総括から、「保育実習Ⅲ」に対する課題や認識を明確にすることを目的とします。</p> <p>まず1年生の時の「保育実習ⅠB」における実践の振り返りを行い、次回の実習に向けての課題を見つける作業を行います。実習施設の概要、施設における保育実践の事例紹介等の講義を通して、各々の実習課題を達成するための方法について検討を行います。実習課題を達成するための実習計画書を作成し、実習の目的と方法を明確にします。</p>							
到達目標							
<p>① 「保育実習ⅠB」で示された自身の課題を明らかにし、保育実習Ⅲに向けての実習課題を明確にする。</p> <p>② 自己の実習課題に基づいた実習計画書を作成する。</p> <p>③ 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、施設養護における保育士としての自己の課題や認識を明確にする。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。</p> <p>2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。</p> <p>○ 3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。</p> <p>4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合(%)	内容		割合(%)		
実習計画書等の作成		40					
レポート		40					
平常点		20					
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
「なし。授業内で適宜、資料を配布します。」							
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無						実務経験あり	
児童相談所において、子どもや保護者の相談対応や判定業務、子どもの生活支援の経験がある。							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容					予習・復習に必要な時間		
授業前には、実習先に関する用語や知識を整理するようにしてください。授業後には、授業内容を復習し、専門用語などの整理を行うことや、本実習を通して学びたい具体的な課題を作るようにしてください。					1時間から2時間程度/週		
受講時の注意事項							
実習へ向かうための事前学習と作業になります。自発的に行うことが求められます。実習へ向かう準備となる授業のため、段階的に進むことを留意して参加してください。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワークの要素を含む授業です。							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	「保育実習ⅠB」で示された自己の課題の明確化	・保育実習の振り返り ・自己評価、自己課題の明確化
第2週	「保育実習Ⅲ」における実習課題の設定① 実習施設について知る	・子どもや利用者の理解 ・施設、専門職者の理解
第3週	「保育実習Ⅲ」における実習課題の設定② 実習施設に応じた課題検討	・施設保育士の職務と役割の理解 ・再度、自分理解と自己覚知をする ・他者理解・バウンダリーの理解
第4週	子ども・利用者の権利擁護	・権利擁護についての理解 ・守秘義務と倫理についての理解 ・安全管理についての理解
第5週	他機関・施設との連携	・関係する専門機関・施設の理解と連携を学ぶ ・利用児や利用者の家族のニーズを理解
第6週	保護者の状況と支援方法を学ぶ	・保育士と保護者との関係を理解 ・保護者支援の理解
第7週	施設における保育実践について事例から学ぶ①	・施設で暮らす子ども、支援を必要とする子どもの事例を基に支援を考える
第8週	施設における保育士の専門性	・保育実習Ⅲの意義と目的 ・施設保育士の役割 ・実習生としての心構え、実習態度・姿勢
第9週	実習課題の設定と実習目標の立て方	・実習課題をどのように考えるか ・課題設定のための準備 ・実習目標を立てる意味
第10週	施設における保育実践について事例から学ぶ②	・障害のある子どもや利用者、医療的ケア児の事例を基に支援を考える
第11週	保育ソーシャルワークの理解	・具体的なソーシャルスキルを学び、習得する
第12週	実習計画書の作成①	・実習における観察法及び記録法の学習 ・実習における計画の作成をする
第13週	実習日誌の書き方と指導計画案、部分実習	・日誌に記録する意味 ・日誌の書き方 ・計画についての理解
第14週	実習計画書の作成②	・自らの実習課題の達成に向けて実習計画を完成させる
第15週	まとめ	・お礼状の作成、送付についての確認 ・これまでの授業で取り上げた内容についてまとめる
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	保育実習ⅠA						
担当教員	大澤 亜里/清和 友美/柘植 純一	配当年次	1年生	開講期	後期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 1602			ワデマド科目	
授業概要							
<p>① 認可保育所で、10日間の実習を行う。          ② 既習の保育関連科目での学びを生かして、保育現場での観察・参加実習を行う。          ③ 毎日の実習に当たっては担当保育士から指導を受け、事前準備する。          ④ 実習内容は実習日誌に整理し、担当保育士の指導を受け、自己評価を行う。          この科目は、実習を中心に位置づけている実践的教育を行っています。</p>							
到達目標							
<p>① 実習生としてふさわしい態度を身につける。          ② 子どもの保育及び保護者への支援を中心に保育所の役割や機能を具体的かつ総合的に理解し説明できる。          ③ 子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深めると同時に、保育士の業務内容や職業倫理について理解し説明できる。          ④ 毎日の実習内容について記録及び自己評価を行い、その意義について理解し説明できる。          ⑤ 今後の学習に向けて具体的課題を持ち、報告書に整理することができる。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。          2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。          3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。          4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
実習園の評価		50%					
実習日誌		25%					
実習報告書・報告会への参加		25%					
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』							
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
「保育実習指導Ⅰ」の内容をふまえてしっかりと事前の準備を行いましょう。終了後は日誌等の記録を見なおしながら報告書を作成し、次の実習に向けての課題を整理しましょう。				2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
授業の中心は学外での実習となります。大学では、実習の事前準備と実習を終えての事後指導を行います。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習の要素を含む授業です。							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	事前オリエンテーション	実習園と相談をしたうえで、指定の日時に実習園を訪問する。
第2週	実習報告会への参加	実習報告会に参加し、先輩たちから実習前の準備や実習中の体験などについて話を聞く。
第3週	見学・観察・参加実習	実習園の指導のもと、以下の実習を行う。 ① 実習園の人的環境、物的環境、地域環境を知る。 ② 実習園の一日の生活の流れ、週間予定、月間予定を知る。
第4週	実習記録	1日の実習内容を日誌に記録する。
第5週	専任教員による巡回指導	実習期間中に専任教員による指導を受け、実習前半の反省を行い、後半の課題を明確にする。
第6週	事後指導	実習報告書を作成し、自身の課題について整理する。
第7週		
第8週		
第9週		
第10週		
第11週		
第12週		
第13週		
第14週		
第15週		
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		





授業科目	保育実習Ⅲ						
担当教員	清和 友美/遠山 景広	配当年次	2年生	開講期	前期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 2605			ワテマド 科目	
授業概要							
①「保育実習ⅠB」での実践や、関連科目で学んだ知識を踏まえ10日間の実習を行う ②児童福祉施設や障害児(者)施設等に携わる保育士の職務内容、役割についてより深く理解を進めるとともに、具体的な援助を通して、援助技術の深化を図る ③地域における施設の役割、利用者の支援、関係機関との連携の在り方などの理解を行う *この科目は、実習を中心に位置づけている実践的教育を行っています							
到達目標							
① 実習施設での活動全般に参加し、保育士の役割、職務についての理解をさらに深める ② 子ども・利用者・保護者等への具体的な援助技術を実習を通して身につける ③ 地域社会との連携や家族とのコミュニケーションの方法について理解する							
学科のディプロマ・ポリシー							
1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。 2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。 3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。 4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。							
成績評価方法・基準							
内容	割合 (%)	内容	割合 (%)				
実習園の評価	50%						
実習日誌	25%						
実習報告書の作成及び報告会への参加	25%						
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
「なし。授業内で適宜、資料を配付します」							
参考書等							
なし。授業内で必要に応じて指示します							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
1年次での福祉施設実習（「保育実習ⅠB」）を通して学んだことの振り返り等を通して、2回目の施設実習を通して学びたい自己の課題を明確にして、実習に臨んでください				実習前に事前確認する時間を確保してください			
受講時の注意事項							
施設への実習依頼の関係上、受講を希望する学生、もしくは受講可能性のある学生は、1年次後期に必ず担当教員に相談してください							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習の要素を含む授業です。							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	1. 保育実習の心得	保育者としての姿勢や態度、さらに施設の特徴を踏まえて押さえるべき注意事項を学ぶ
第2週	2. 実習施設との事前オリエンテーション(個別指導) 1) 見学・観察・参加実習①	実習施設の人的環境、物的環境、地域環境を知る
第3週	2. 実習施設との事前オリエンテーション(個別指導) 1) 見学・観察・参加実習②	実習施設の一日の生活の流れ、週間予定、月間予定を知る
第4週	2. 実習施設との事前オリエンテーション(個別指導) 1) 見学・観察・参加実習③	担当保育士・職員の指導を受けながら、参加実習を行う
第5週	2. 実習施設との事前オリエンテーション(個別指導) 1) 見学・観察・参加実習④	その他必要な見学・観察・参加活動を行い、保育士の業務内容等を知る
第6週	2. 実習施設との事前オリエンテーション(個別指導) 2) 実習記録①	実習の様子や成果を記録する意味と手法を学ぶ
第7週	2. 実習施設との事前オリエンテーション(個別指導) 2) 実習記録②	注意事項や施設側の指導を踏まえ、実習内容を日誌として記録する
第8週	2. 実習施設との事前オリエンテーション(個別指導) 3) 巡回指導	専任教員の巡回指導を受け、実習での学びを深める
第9週	3. 援助実習①	担当保育士・職員からの指導を受けながら、実習施設の援助計画に合わせて実習する
第10週	3. 援助実習②	保育士・他の専門職者の職務全般を実習する
第11週	3. 援助実習③	各自課題を設定し、実習計画を立てる
第12週	3. 援助実習③	立案した実習計画に基づいて実習を行う
第13週	4. 事後指導①	実習報告書の作成および課題の整理
第14週	4. 事後指導②	実習報告会での報告を行う
第15週	4. 事後指導③	実習報告書、報告会での報告を踏まえ、施設の地域における役割や保育者による支援や職務、さらに関係機関との連携について学んだことをまとめる
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	教育実習 I ab						
担当教員	森川 由衣	配当年次	1 年生	開講期	通年	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EC-MS 1604			ワケマド 科目	
授業概要							
<p>① 附属幼稚園において毎週、通年観察実習する。  観察視点に沿って観察・記録しその後、観察内容についての疑問点などをカンファランスする。  記録は次週に考察を加え提出する。「子どもとは…」「保育者とは…」「幼稚園とは…」「子どもとの関わり方」などの理解を深め、子ども観、保育観などを考え、築いていく基礎を学ぶ。  ② 観察の他に指導演習（学外実習事前指導・折り紙指導・わらべ歌など）を行う。  ③ 附属幼稚園において2日間の参加実習を行う。</p> <p>この科目は、実習を中心に位置づけている実践的教育を行っています。</p>							
到達目標							
<p>① 観察視点に沿って観察することで、子ども観、保育観などを考えていく基礎を身につける。  ② 観察記録から視点に沿った考察をすることによりレポートをまとめる力を育てる。  ③ 観察からの学びを実習につなげることが出来るようになる。  ④ 附属幼稚園の参加実習体験から自己の課題を知り、学外実習への意欲が高まるようになる。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。</p> <p>2. 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。</p> <p>3. 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。</p> <p>4. 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
レポートの内容と提出状況		80%					
観察態度と授業参加態度		20%					
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
「なし。必要に応じて資料を配付します。」							
参考書等							
宮内克男 編著『レポート・論文のまとめ方と書き方』川島書店							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無						実務経験あり	
この科目は、幼稚園教諭の経験を有する教員が実践的教育を行っています。							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容					予習・復習に必要な時間		
事前に提示された観察テーマを理解し観察の視点を考えておくこと。 実習前に事前確認する時間を確保してください。					1時間から2時間程度/週		
受講時の注意事項							
<ul style="list-style-type: none"> <li>観察、指導演習等の日程は附属幼稚園のカリキュラムにより変更することがあります。</li> <li>授業内容から通常の講義時間帯とは異なることがあります。</li> <li>レポートの提出は原則として次回までとします。</li> </ul>							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習の要素を含む授業です。							
備考							
この科目は主要授業科目です。							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業内容、目的、計画 附属幼稚園見学
第2週	観察実習①	・子どもを中心とした観察 「一人の子の行動を他との関わりを中心に観察しその内容を考察する」他
第3週	観察実習②	・子どもを中心とした観察 「一人の子の行動を他との関わりを中心に観察しその内容を考察する」他
第4週	観察実習③	・子どもを中心とした観察 「一人の子の行動を他との関わりを中心に観察しその内容を考察する」他
第5週	観察実習④	・子どもを中心とした観察 「一人の子の行動を他との関わりを中心に観察しその内容を考察する」他
第6週	観察実習⑤	・子どもを中心とした観察 「一人の子の行動を他との関わりを中心に観察しその内容を考察する」他
第7週	観察実習⑥	・保育者を中心とした観察 「先生の行動を観察し、子どもに配慮している点を考察する」他
第8週	観察実習⑦	・保育者を中心とした観察 「先生の行動を観察し、子どもに配慮している点を考察する」他
第9週	観察実習⑧	・子どもを中心とした観察 「一人の子の行動を他との関わりを中心に観察しその内容を考察する」他
第10週	観察実習⑨	・環境構成、行事などを中心とした観察 「運動会の練習の様子を観察し、その取組みを考察する」他
第11週	特別講義	わらべうた演習
第12週	観察実習⑩	・子どもを中心とした観察 「一人の子の行動を他との関わりを中心に観察しその内容を考察する」他
第13週	保育制作指導 他①	保育制作発表 制作した名札・教材を使用して自己紹介
第14週	保育制作指導 他②	保育制作発表 制作した名札・教材を使用して自己紹介
第15週	保育制作指導 他③	保育制作発表 制作した名札・教材を使用して自己紹介
第16週	参加実習	・附属幼稚園において2日間参加実習・省察会
第17週	観察実習⑪	・子どもの遊びを中心とした観察 「遊びの流れや集中できる時間について考察する」他
第18週	保育制作指導 他④	保育制作発表 絵本の読み聞かせ練習
第19週	保育制作指導 他⑤	保育制作発表 絵本の読み聞かせ練習
第20週	観察実習⑫	・実習生を中心とした観察 「参加実習生の行動を観察し、その役割を考察する」他
第21週	観察実習⑬	・実習生を中心とした観察 「参加実習生の行動を観察し、その役割を考察する」他
第22週	観察実習⑭	・子どもの遊びを中心とした観察 「遊びの流れや集中できる時間について考察する」他
第23週	観察実習⑮	・子どもの遊びを中心とした観察 「遊びの流れや集中できる時間について考察する」他
第24週	観察実習⑯	・子どもの遊びを中心とした観察 「遊びの流れや集中できる時間について考察する」他
第25週	観察実習⑰	・子ども、グループ、他者とのかわり、保育者の配慮・動きなど自由にテーマを決めて観察
第26週	保育制作指導 他⑥	保育制作発表 制作した教材を使用した発表
第27週	保育制作指導 他⑦	保育制作発表 制作した教材を使用した発表
第28週	まとめ	1年間の振り返りと実習事前指導
第29週	「教育実習Ⅱ」の事前事後指導	1年次の10月に行われる実習報告会に参加する 2年次の前期に実習の心得と日誌及び指導計画の書き方等について学ぶ 2年次の10月に行われる実習報告会に参加する
第30週	特別講義「伝承遊び」	2年次の後期に実施する特別講義で、伝承遊びについて学ぶ





授業科目	発達心理学特論Ⅰ						
担当教員	星 信子	配当年次	1 年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MC-MS 1301			ワケマド 科目	
授業概要							
<p>子どもの発達や学習の諸相について探求する際には、関連する心理学の理論を学ぶと同時に、その実証的な新しい研究成果に触れることが重要である。本講義では、子どもの発達や学習とそれを支える理助についての基本的な視点を学ぶとともに、各々の学生の興味関心に基づいて発達心理学及び教育心理学の最近のジャーナルより選択した論文を紹介し、それに基づいた教員の解説により理解を深める。</p>							
到達目標							
<p>① 発達及び教育心理学の研究の視点について説明できる。          ② 心理学の基本的な研究の手法について知り、説明できる。          ③ 各々が子どもをどらえる際に必要な視点について自分なりの考えを持つ。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。</p> <p>○ 2. 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門知識を修得している。</p> <p>3. 協調性：社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。</p> <p>4. 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。</p> <p>5. 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
筆記試験		50%					
論文の報告内容		40%					
平常点（討論への参加など）		10%					
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』							
参考書等							
『発達心理学研究』（日本発達心理学会）、『教育心理学研究』（日本教育心理学会）							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無						実務経験なし	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
各自の講読と報告の準備をしっかりと行いましょう。				2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
討論の際には積極的に自分なりの意見を述べてみましょう。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるディスカッションの要素を含む授業です。							
備考							
この科目は主要授業科目です。							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション：子どもの発達と学習	①オリエンテーション ②子どもの発達と学習
第2週	心理学の研究手法	①調査法 ②実験法 ③面接法
第3週	発達心理学に関する論文報告と解説	日本発達心理学会のジャーナルである『発達心理学研究』の直近10年間分から学生各自の興味に応じて論文を選択して行う報告に基づいて解説を行うため、各回で扱う内容は学生の論文の選択に応じて異なる。
第4週	発達心理学に関する論文報告と解説	日本発達心理学会のジャーナルである『発達心理学研究』の直近10年間分から学生各自の興味に応じて論文を選択して行う報告に基づいて解説を行うため、各回で扱う内容は学生の論文の選択に応じて異なる。
第5週	発達心理学に関する論文報告と解説	日本発達心理学会のジャーナルである『発達心理学研究』の直近10年間分から学生各自の興味に応じて論文を選択して行う報告に基づいて解説を行うため、各回で扱う内容は学生の論文の選択に応じて異なる。
第6週	発達心理学に関する論文報告と解説	日本発達心理学会のジャーナルである『発達心理学研究』の直近10年間分から学生各自の興味に応じて論文を選択して行う報告に基づいて解説を行うため、各回で扱う内容は学生の論文の選択に応じて異なる。
第7週	発達心理学に関する論文報告と解説	日本発達心理学会のジャーナルである『発達心理学研究』の直近10年間分から学生各自の興味に応じて論文を選択して行う報告に基づいて解説を行うため、各回で扱う内容は学生の論文の選択に応じて異なる。
第8週	発達心理学に関する論文報告と解説	日本発達心理学会のジャーナルである『発達心理学研究』の直近10年間分から学生各自の興味に応じて論文を選択して行う報告に基づいて解説を行うため、各回で扱う内容は学生の論文の選択に応じて異なる。
第9週	教育心理学に関する論文報告と解説	日本教育心理学会のジャーナルである『教育心理学研究』の直近10年間分から学生各自の興味に応じて論文を選択して行う報告に基づいて解説を行うため、各回で扱う内容は学生の論文の選択に応じて異なる。
第10週	教育心理学に関する論文報告と解説	日本教育心理学会のジャーナルである『教育心理学研究』の直近10年間分から学生各自の興味に応じて論文を選択して行う報告に基づいて解説を行うため、各回で扱う内容は学生の論文の選択に応じて異なる。
第11週	教育心理学に関する論文報告と解説	日本教育心理学会のジャーナルである『教育心理学研究』の直近10年間分から学生各自の興味に応じて論文を選択して行う報告に基づいて解説を行うため、各回で扱う内容は学生の論文の選択に応じて異なる。
第12週	教育心理学に関する論文報告と解説	日本教育心理学会のジャーナルである『教育心理学研究』の直近10年間分から学生各自の興味に応じて論文を選択して行う報告に基づいて解説を行うため、各回で扱う内容は学生の論文の選択に応じて異なる。
第13週	教育心理学に関する論文報告と解説	日本教育心理学会のジャーナルである『教育心理学研究』の直近10年間分から学生各自の興味に応じて論文を選択して行う報告に基づいて解説を行うため、各回で扱う内容は学生の論文の選択に応じて異なる。
第14週	教育心理学に関する論文報告と解説	日本教育心理学会のジャーナルである『教育心理学研究』の直近10年間分から学生各自の興味に応じて論文を選択して行う報告に基づいて解説を行うため、各回で扱う内容は学生の論文の選択に応じて異なる。
第15週	まとめと試験	①全体のまとめ ②筆記試験
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	発達心理学特論Ⅱ						
担当教員	星 信子	配当年次	1 年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MC-MS 1302			ワケマド科目	
授業概要							
<p>「発達心理学特論Ⅰ」では、発達心理学の実際の研究事例について学んだ。この「発達心理学特論Ⅱ」では、その応用として、様々な調査・観察を実際に行いながら、各種研究方法について詳しく学ぶ。各々の手法の特徴や実施上の留意点を知り、保育における子ども理解に各自が活用できるようにすることが主な目的である。心理学の代表的手法である、質問紙調査・観察・検査を取り上げるが、各々の具体的内容については、参加者の希望を取り入れて選定する。</p>							
到達目標							
<p>① 質問紙調査法・検査法について知り、実践できる。  ② 観察法について理解を深める。  ③ 心理学的手法の幼児理解への活用について自分なりに考える。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。</p> <p>○ 2. 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。</p> <p>3. 協調性：社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。</p> <p>4. 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。</p> <p>5. 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
実施レポートと調査の発表		60%					
まとめレポート		40%					
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
『なし。授業内で講義、資料を配付します。』							
参考書等							
小増貞司・西口利文編『心理学基礎演習Vol. 2質問紙調査の手順』（ナカニシヤ出版）、中澤潤他編著『心理学マニュアル 観察法』（北大路書房）、保坂亨他編著『心理学マニュアル 面接法』（北大路書房）、酒井浩二他著『今すぐ体験！パソコンで認知心理学実験』（ナカニシヤ出版）							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無					実務経験なし		
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容					予習・復習に必要な時間		
調査・観察・検査の準備をしっかりと行いましょう。参考書を講読し理解を深めましょう。					2時間から3時間程度/週		
受講時の注意事項							
「発達心理学特論Ⅰ」を受講済みであることを前提として実施します。実施レポートへのフィードバックは授業内で行います。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、ディスカッションの要素を含む授業です。							
備考							
この科目は主要授業科目です。							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーションと質問紙調査の準備	①オリエンテーション ②質問紙調査の立案
第2週	質問紙調査の実際	①質問紙の選定 ②質問紙の作成
第3週	質問紙調査の実際	①調査の実施 ②データ入力
第4週	質問紙調査の実際	①データ集計 ②結果の考察（レポート作成）
第5週	コンピューターを利用した実験的観察の実際	①立案 ②使用データの準備
第6週	コンピューターを利用した実験的観察の実際	実験的観察の実施
第7週	コンピューターを利用した実験的観察の実際	①データ集計 ②結果の考察（レポート作成）
第8週	心理検査の実際	各種の心理検査
第9週	心理検査の実際	知能検査実習
第10週	心理検査の実際	検査についてのまとめ（レポート作成）
第11週	調査研究の実際	各自の調査の立案
第12週	調査研究の実際	調査の準備
第13週	調査研究の実際	調査の実施
第14週	調査研究の実際	①データ集計 ②結果の考察
第15週	調査研究の実際	調査結果の発表と討論
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目 幼児教育課程特論							
担当教員	大澤 亜里	配当年次	1年生	開講期	通年	単位数	4
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MC-MS 1603			ワケマド科目	
授業概要							
<p>附属幼稚園の1クラスで、4月から1年間、定期的に観察・参加・指導実習を行い、その様子を記録する。続いてこの体験と記録をもとに保育の省察を行う。カンファレンス形態を取り入れ、日々成長し、変化する幼児に対する保育方法と保育内容を、1人・もの・自己との関わりと側面から、2. 設定保育・自由保育・一斉保育等保育形態の側面から、3. 遊びの側面から検討し、理解を深める。1年間継続して担任教師とともに子ども達と接し、その成長の姿に関わり、感動体験を積み重ねていくことも重要な内容である。この科目は、実習を中心に位置づけている実践的教育である。</p>							
到達目標							
<p>①1年間の観察・参加・指導実習を通して、保育目標、保育内容を理解するとともに、子どもの発達過程について知り、それを他者に伝え共有することができる。 ②指導実習の保育計画を作成し、実践、省察、評価をし、自身の課題について整理し、レポートにまとめることができる。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。 2. 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。 3. 協調性：社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。 4. 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。 5. 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。</p>							
成績評価方法・基準							
	内容	割合(%)	内容	割合(%)			
	実習への取り組みと実習後の振り返り（カンファレンス）	50%					
	前期末レポート	25%					
	後期末レポート	25%					
教科書・ソフト等							
	書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
	「なし。授業内で適宜、資料を配布します。」						
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
授業日以外に附属幼稚園所定のクラスにローテーションで午前の空き時間に実習に入る。				2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
附属幼稚園の保育内容や子どもの状況によって、課題設定が変化するのでシラバスの順は多少前後する。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							
この科目は主要授業科目です。							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	参加実習への参加について説明をする。
第2週	入園式への参加	入園式に参加をし、年少クラスの子どもの様子を観察する。
第3週	参加実習と実習後の振り返り（自由遊び）	①担当クラスの一人一人の子どもの特徴について、配慮の必要な子どもについて、幼児の自己中心性、幼児の自己表現、幼児の遊び、遊び方、関わり方等について観察し、関わる。 ②参加実習の内容についてエピソード記録を作成する。
第4週	参加実習と実習後の振り返り（クラス活動）	①担当クラスの一人一人の子どもの特徴について、配慮の必要な子どもについて、幼児の自己中心性、幼児の自己表現、幼児の遊び、遊び方、関わり方等について観察し、関わる。 ②参加実習の内容についてエピソード記録を作成する。
第5週	参加実習と実習後の振り返り（お誕生会への参加）	①担当クラスの一人一人の子どもの特徴について、配慮の必要な子どもについて、幼児の自己中心性、幼児の自己表現、幼児の遊び、遊び方、関わり方等について観察し、関わる。 ②参加実習の内容についてエピソード記録を作成する。
第6週	参加実習と実習後の振り返り（春の園外活動）	①担当クラスの一人一人の子どもの特徴について、配慮の必要な子どもについて、幼児の自己中心性、幼児の自己表現、幼児の遊び、遊び方、関わり方等について観察し、関わる。 ②参加実習の内容についてエピソード記録を作成する。
第7週	参加実習と実習後の振り返り（戸外活動）	①担当クラスの一人一人の子どもの特徴について、配慮の必要な子どもについて、幼児の自己中心性、幼児の自己表現、幼児の遊び、遊び方、関わり方等について観察し、関わる。 ②参加実習の内容についてエピソード記録を作成する。
第8週	参加実習と実習後の振り返り（運動会に向けて）	①担当クラスの一人一人の子どもの特徴について、配慮の必要な子どもについて、幼児の自己中心性、幼児の自己表現、幼児の遊び、遊び方、関わり方等について観察し、関わる。 ②参加実習の内容についてエピソード記録を作成する。
第9週	参加実習と実習後の振り返り（運動会に向けて）	①担当クラスの一人一人の子どもの特徴について、配慮の必要な子どもについて、幼児の自己中心性、幼児の自己表現、幼児の遊び、遊び方、関わり方等について観察し、関わる。 ②参加実習の内容についてエピソード記録を作成する。
第10週	運動会への参加	各競技の準備・片付けなどを中心に、進行の補助を行う。
第11週	参加実習と実習後の振り返り（クラス活動）	①担当クラスの一人一人の子どもの特徴について、配慮の必要な子どもについて、幼児の自己中心性、幼児の自己表現、幼児の遊び、遊び方、関わり方等について観察し、関わる。 ②参加実習の内容についてエピソード記録を作成する。
第12週	参加実習と実習後の振り返り（自由遊び）	①担当クラスの一人一人の子どもの特徴について、配慮の必要な子どもについて、幼児の自己中心性、幼児の自己表現、幼児の遊び、遊び方、関わり方等について観察し、関わる。 ②参加実習の内容についてエピソード記録を作成する。
第13週	参加実習と実習後の振り返り（戸外活動）	①担当クラスの一人一人の子どもの特徴について、配慮の必要な子どもについて、幼児の自己中心性、幼児の自己表現、幼児の遊び、遊び方、関わり方等について観察し、関わる。 ②参加実習の内容についてエピソード記録を作成する。
第14週	参加実習と実習後の振り返り（夏の園外活動）	①担当クラスの一人一人の子どもの特徴について、配慮の必要な子どもについて、幼児の自己中心性、幼児の自己表現、幼児の遊び、遊び方、関わり方等について観察し、関わる。 ②参加実習の内容についてエピソード記録を作成する。
第15週	前期の振り返りと公立幼稚園での実習について	最初にたてた実習の目標にそって、前期の参加実習について省察を行う。 札幌市立幼稚園での実習に向けて公立幼稚園の教育の特色について学ぶ。
第16週	後期の実習計画と公立幼稚園の実習の振り返り	後期の実習の目標と計画を立てる。 札幌市立幼稚園での実習について省察を行う。
第17週	参加実習と実習後の振り返り（自由遊び）	①担当クラスの一人一人の子どもの特徴について、配慮の必要な子どもについて、幼児の自己中心性、幼児の自己表現、幼児の遊び、遊び方、関わり方等について観察し、関わる。 ②参加実習の内容についてエピソード記録を作成する。
第18週	参加実習と実習後の振り返り（クラス活動）	①担当クラスの一人一人の子どもの特徴について、配慮の必要な子どもについて、幼児の自己中心性、幼児の自己表現、幼児の遊び、遊び方、関わり方等について観察し、関わる。 ②参加実習の内容についてエピソード記録を作成する。
第19週	参加実習と実習後の振り返り（報恩講にむけて）	①担当クラスの一人一人の子どもの特徴について、配慮の必要な子どもについて、幼児の自己中心性、幼児の自己表現、幼児の遊び、遊び方、関わり方等について観察し、関わる。 ②参加実習の内容についてエピソード記録を作成する。
第20週	参加実習と実習後の振り返り（お誕生会）	①担当クラスの一人一人の子どもの特徴について、配慮の必要な子どもについて、幼児の自己中心性、幼児の自己表現、幼児の遊び、遊び方、関わり方等について観察し、関わる。 ②参加実習の内容についてエピソード記録を作成する。
第21週	参加実習と実習後の振り返り（秋の園外活動）	①担当クラスの一人一人の子どもの特徴について、配慮の必要な子どもについて、幼児の自己中心性、幼児の自己表現、幼児の遊び、遊び方、関わり方等について観察し、関わる。 ②参加実習の内容についてエピソード記録を作成する。
第22週	参加実習と実習後の振り返り（戸外活動）	①担当クラスの一人一人の子どもの特徴について、配慮の必要な子どもについて、幼児の自己中心性、幼児の自己表現、幼児の遊び、遊び方、関わり方等について観察し、関わる。 ②参加実習の内容についてエピソード記録を作成する。
第23週	参加実習と実習後の振り返り（発表会に向けて）	①担当クラスの一人一人の子どもの特徴について、配慮の必要な子どもについて、幼児の自己中心性、幼児の自己表現、幼児の遊び、遊び方、関わり方等について観察し、関わる。 ②参加実習の内容についてエピソード記録を作成する。
第24週	参加実習と実習後の振り返り（お誕生会）	①担当クラスの一人一人の子どもの特徴について、配慮の必要な子どもについて、幼児の自己中心性、幼児の自己表現、幼児の遊び、遊び方、関わり方等について観察し、関わる。 ②参加実習の内容についてエピソード記録を作成する。
第25週	参加実習と実習後の振り返り（冬の行事への参加）	①担当クラスの一人一人の子どもの特徴について、配慮の必要な子どもについて、幼児の自己中心性、幼児の自己表現、幼児の遊び、遊び方、関わり方等について観察し、関わる。 ②参加実習の内容についてエピソード記録を作成する。
第26週	参加実習と実習後の振り返り（2学期終園式に向けて）	①担当クラスの一人一人の子どもの特徴について、配慮の必要な子どもについて、幼児の自己中心性、幼児の自己表現、幼児の遊び、遊び方、関わり方等について観察し、関わる。 ②参加実習の内容についてエピソード記録を作成する。
第27週	お楽しみ会に向けての保育計画の立案	1月末のお楽しみ会に向けて、子どもの姿をもとに指導案を作成する。
第28週	お楽しみ会に向けての準備	作成した指導案をもとに、教材研究および準備を行う。
第29週	お楽しみ会に向けての準備	作成した指導案をもとに、教材研究および準備を行う。
第30週	お楽しみ会（指導実習）	1年間実習させてもらったお礼も兼ねて、お楽しみ会（指導実習）を行う。 実習後、録画をもとに反省を行う。

授業科目	障害児教育臨床						
担当教員	早坂 聡子	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MC-MS 1404			ワケマド科目	
授業概要							
<p>障がいのある子どもたちは家庭の中で養育されていた時代から、児童福祉施設や学校教育並びに保育の現場、あるいは医療現場などで個々の障がいに対応した養育・保育がなされるようになった。幼稚園や保育施設等も「統合保育」が一般的になっており、障がいのある子どもも個別の配慮が必要な子ども、集団生活の中で共生し生きていく力を獲得している。</p> <p>現場の実情に即した理論的な学習を進め、障がいのある子どもや家庭との連携について学び、子ども、保護者、保育者にとってより良い保育とは何かを学び、実践的な力を身に付ける。</p>							
到達目標							
<p>①いろいろな「障がい」「個別の配慮が必要な事例」への理解を深め、授業で習得した知識をもとに、説明することができる。</p> <p>②保育現場における障がい児保育について、授業で習得した知識をもとに説明することができる。</p> <p>③障がいのある子どもとの親理解と支援・連携について授業で習得した知識をもとに説明することができる。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。</p> <p>2. 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。</p> <p>3. 協調性：社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。</p> <p>4. 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。</p> <p>5. 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
プレゼンテーション（作成内容と発表）（グループ）		40%					
課題・提出物（教材研究・小レポートなど）		40%					
授業への取り組み（参加態度・意欲などの平常点）		20%					
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
「なし。授業内で適宜、資料を配布します。」							
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験あり			
幼稚園（園長含む）及び保育所にて長期にわたる保育者の経験、また、児童相談所一時保護等の現場にて、障がい児保育・子育て支援の経験がある。							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
<ul style="list-style-type: none"> <li>支援カードなど授業内課題の作成を行うこと</li> <li>文献、配布資料での振り取り学修と資料の整理とまとめを行うこと</li> <li>課題意識をもって研究に取り組み、自己課題に応じた文献・資料などの情報収集を行うこと</li> </ul>				2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
障がい児保育に関する課題研究においては、現場の実情や課題点を理解した上で、実践的な発表に向けた準備を行います。課題意識をもつ、自ら調べる、分かりやすくまとめる、想いをもって伝える、他者の発表から学ぶといった一連の流れに対し、実践を意識して積極的に取り組んでください。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい児保育とは</li> <li>本講の概要や方法、成績評価について</li> <li>障がい児保育の用語解説</li> </ul>
第2週	障がい児保育の歴史と変遷	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい児教育義務化までの流れ</li> <li>障がい児のための教育・保育と支援施設</li> <li>子どもの人権を尊重する保育</li> </ul>
第3週	障がい児保育の対象となる障がいへの理解①	<ul style="list-style-type: none"> <li>肢体不自由</li> <li>視覚障がい</li> <li>聴覚障がい</li> </ul>
第4週	障がい児保育の対象となる障がいへの理解②	<ul style="list-style-type: none"> <li>知的障がい</li> <li>ASD（自閉スペクトラム症）</li> <li>ADHD（注意欠陥多動性障がい）</li> </ul>
第5週	障がい児保育の対象となる障がいへの理解③	<ul style="list-style-type: none"> <li>愛着障がい</li> <li>医療的ケア児、重度心身障がい児</li> <li>特別な配慮を要する子ども</li> </ul>
第6週	保育現場における障がい児保育①	<ul style="list-style-type: none"> <li>乳幼児の障がい</li> <li>乳幼児健診、発達検査</li> <li>診断と療育</li> </ul>
第7週	保育現場における障がい児保育②	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい児への専門的指導</li> <li>指導上の工夫と配慮</li> <li>保育者間の連携・協働</li> </ul>
第8週	保育現場における障がい児保育③	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材教具を使った発達支援</li> <li>支援カードの作成</li> <li>手話を取り入れた支援</li> </ul>
第9週	保育現場における障がい児保育④	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育計画上の配慮</li> <li>個別の指導計画</li> <li>サポートファイルの利用</li> </ul>
第10週	家庭との連携①	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がいがある子どもの親理解</li> <li>障害受容の過程</li> <li>家庭への支援と連携</li> </ul>
第11週	家庭との連携②	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別な配慮を要する子ども</li> <li>家庭的な課題を抱える子ども</li> <li>特別な配慮が必要な保護者</li> </ul>
第12週	他機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>療育機関、医療機関との連携</li> <li>幼児教育センターとの連携</li> <li>保幼少の連携と引き継ぎ</li> </ul>
第13週	障がい児に関する研究（グループワーク）①	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究テーマの設定</li> <li>関連文献、資料の検索と収集</li> </ul>
第14週	障がい児に関する研究（グループワーク）②	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究テーマにそった発表準備</li> </ul>
第15週	障がい児に関する研究（発表）	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ発表と協議</li> </ul>
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目		保育健康特論					
担当教員	田中 住幸	配当年次	1 年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MC-MS 1405			ワケマド科目	
授業概要							
<p>本科目では、領域「健康」で示されているねらいや内容について、特に、運動発達に関する援助の方法、子どもと遊びの関係や保育における安全管理や安全教育について解説する。講義やディスカッションを通して、自身の領域「健康」に関する保育観を醸成させながら、保育を構想する力を身につける。</p>							
到達目標							
<p>①幼児期において多様な動きを獲得することの意義を理解している。          ②子どもにとっての遊び（環境）とその意義や現状を理解している。          ③幼児の安全教育・安全管理に関する基本的な考え方を理解している。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。          ○ 2. 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門知識を修得している。          3. 協調性：社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。          4. 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。          5. 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
期末レポート		60%					
授業毎の課題		20%					
平常点 (主体性、意欲・関心)		20%					
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』							
参考書等							
<p>幼稚園教育要領解説(文部科学省)、保育所保育指針解説(厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府・文部科学省・厚生労働省)、幼児期運動指針ガイドブック(文部科学省)、杉原隆・川邊貴子(2014)『幼児期における運動発達と運動遊びの指導遊びのなかで子どもは育つ』、ミネルワ書房、仙田満(1992)『子どもとあそび』、岩波新書、能條歩・田中住幸(2021)『ときすまそう安全への』</p>							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
<p>日常生活習慣を通して「健康」への興味・関心、実践を心掛け、積極的に情報収集をすること。授業2時間から3時間程度/週で学んだことを整理して、ノートにまとめておくこと。</p>				2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
<p>授業では、各自で調べた乳幼児の「健康」に関する事例を発表する場を設ける。主体的に発表・発言をすること。提出された課題・レポートについては、LMS(学修支援システム)内でフィードバックを行う。</p>							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるディスカッションの要素を含む授業です。							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	幼児期における運動発達と運動遊びの指導①	幼児期の運動能力、体力の捉え方について解説する。
第2週	幼児期における運動発達と運動遊びの指導②	幼児期の運動発達の特徴について、実際の保育現場での観察を交えながら解説する。※フィールドワーク有
第3週	幼児期における運動発達と運動遊びの指導③	遊びとしての運動の重要性について、実際の保育現場での観察を交えながら解説する。フィールドワーク有
第4週	幼児期における運動発達と運動遊びの指導④	幼児期の発達の段階に応じた運動指導について解説する。
第5週	幼児期における運動発達と運動遊びの指導⑤	幼児期の運動発達の時代変化について解説する。
第6週	幼児期における運動発達と運動遊びの指導⑥	運動発達に関係する園環境と家庭環境について解説する。
第7週	子どもとあそび①	あそびの原風景について、文献購読を行いながら理解を深める。
第8週	子どもとあそび②	子どもの空間について、文献購読を行いながら理解を深める。
第9週	子どもとあそび③	世界の子どもについて、文献購読を行いながら理解を深める。
第10週	子どもとあそび④	あそび環境の現在について、文献購読を行いながら理解を深める。
第11週	子どもとあそび⑤	子どもを取り巻く大人について、文献購読を行いながら理解を深める。
第12週	安全な生活①	保育における安全管理・安全教育について、文献購読を行いながら理解を深める。
第13週	安全な生活②	実際の保育中の事故を例にした事故分析を行い、保育の安全に関しての理解を深める。
第14週	安全な生活③	安全管理計画の立案について、実際の計画を立てながら理解を深める。
第15週	まとめ	全体のまとめを行う。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	教育相談特論						
担当教員	今西 良輔/加藤 雅子	配当年次	1 年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MC-MS 1403			ワデマド 科目	
授業概要							
<p>本授業では、本科2年次「教育相談の基礎」で学んだ知識を踏まえ、より具体的な相談援助を行うために必要な視点、方法について学びます。保育所・幼稚園には、障害のある子ども、あるいは発達的に「気になる子」が在籍していますが、その子たちが生活の中で示す困り感は様々です。保育者には、保護者の困り感を軽減させるような関わりが必要となり、日々の保育や会話の中で子どもと保護者への対応能力が要求されます。この授業では、保育者が相談スキルを用いて、子どもと保護者の行動をどのように捉え、どのように望ましい行動を形成していけばよいのか力を身につけます。また、個人対応と組織対応として考えられる力を身につけます。</p>							
到達目標							
<p>① 子どもがなぜそのような行動するのか理解するための枠組みを身につける。  ② 子どもに望ましい行動を教えるための基礎的技法についての知識を身につける。  ③ 保護者の相談を引き出すスキルを身につける。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。  ○ 2. 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。  3. 協調性：社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。  4. 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。  5. 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
授業内課題の発表およびディスカッションレポート		50					
レポート		30					
平常点		20					
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
「保護者支援・対応のワークとトレーニング：トラブルを防ぐ、おどおどくしない、心地よい信頼関係をつくる」	新保庄三、田中和子	ひとなる書房	2016	4894642352463			
参考書等							
授業内で適宜、紹介する。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無						実務経験あり	
児童相談所において、子どもや保護者の相談対応や判定業務、子どもの生活支援の経験がある（今西）							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容						予習・復習に必要な時間	
授業前までに指示のあったテキストをよく読むようにしてください。授業後は、テキストや配布資料を復習し、理2時間から3時間程度/週解を深めてください。							
受講時の注意事項							
授業は基本的な講義形式で行います。授業内容によってグループワークでは積極的に参加して意見交換をしてください。授業時にリアクションペーパーを配布し、質問などを受け付け、後日、内容のフィードバックするようにします。授業はテキストや配布資料を用いて行います。授業時に次週で取り上げる内容を指示するので該当するテキストを読むようにしてください。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるディスカッションの要素を含む授業です。							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	教育相談とはなにか [今西]	・ 保育における教育相談とは何かを理解する
第2週	教育相談における基本姿勢と理論 [今西]	・ 相談を受ける側の姿勢 ・ 信頼関係の構築 ・ 相談者に変化をもたらす方法
第3週	課題を抱える子どもの相談のあり方 [今西]	・ 子どもの課題を把握するためのニーズ把握 ・ 子どもの要望を知る
第4週	課題を抱える子どもの行動の捉え方について学ぶ [今西]	・ 認知行動療法のスキルを用いた行動の捉え方の理解
第5週	相談に活用される専門技術 [今西]	・ 自己理解をする ・ 傾聴についての理解 ・ カウンセリングやソーシャルワークについて理解
第6週	保育者の気づきと共感力の理解 [今西]	・ 専門職者としての気づき ・ 相談者への共感的理解
第7週	相談の環境設定と準備について学ぶ [今西]	・ 相談を受ける雰囲気づくり
第8週	保育者のアセスメント技術 [今西]	・ 相談者のアセスメントについて具体的事例をもとに理解
第9週	保護者理解について [今西]	・ 保育所・幼稚園での保護者理解について理解
第10週	保育所・幼稚園での相談内容 [今西]	・ 保育所・幼稚園での相談・助言を事例を通して理解
第11週	保護者の障害受容 [今西]	・ 障がいのある子どもの保護者への相談内容を学ぶ ・ 保護者が子どもの障害を受容するプロセスでどのような支援が必要か理解
第12週	支援を必要とする子どもの家庭の理解 [加藤]	・ 支援を必要とする子どもの保護者が抱える相談とそのニーズを理解
第13週	支援を必要とする家庭への相談や助言対応 [加藤]	・ 地域において支援を必要とする子どもとその保護者の事例を用いて、実際にどのような支援が必要なのかを学ぶ
第14週	課題のある子どもと保護者等他機関連携 [今西]	・ 教育相談をするために必要な他機関との連携について理解
第15週	まとめ [今西]	・ これまで取り上げた子どもと保護者に関する内容を整理
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目		子育て支援特論Ⅰ					
担当教員	遠山 景広	配当年次	1年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MC-MS 1401			ワケマド科目	
授業概要							
<p>「子育て支援」の現状や課題、子育て支援センターなどの諸機関の機能や役割を学び、子どもを取り巻く家族・地域の問題を把握し、今後の子育て支援のあり方について探っていく。さらに、現場での体験を通して、子どもやのしぐさや言動とそれに対する周囲の反応、親・保護者とのかわり方、親・保護者とのかわりに触れ、支援に結びつくものを見出す観察力や洞察力を高めていく。併せて、子育て支援に保育や教育に生かせる保育士や幼稚園教諭の役割についても理解を深める。これらを通して、これからの子育て支援のあり方を考えることを目的とする。</p>							
到達目標							
<p>① 子育て支援にかかわる現状を理解し、今後の子育て支援のあり方について自分の考えをまとめることができる          ② 子育て支援センターの役割について述べるができる          ③ 子育てを取り巻く環境の課題を捉え、その課題についての自分なりのアプローチを考えることができる</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。</p> <p>○ 2. 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門知識を修得している。</p> <p>3. 協調性：社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。</p> <p>4. 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。</p> <p>5. 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
授業参加の姿勢		30%					
授業内課題		70%					
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
『なし。授業内で適宜、資料を配付します』							
参考書等							
高山静子, 2018, 『子育て支援の環境づくり』エイデル研究所. その他授業内で適宜提示・指示します							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
日頃から子どもや保護者、子育て家庭に関するニュースや新聞記事に関心を持ち、特に実践活動について自分の考えとその根拠をまとめておきましょう 併せて支援センター等での実習の前には、学びたいことと実際に学んだことをまとめ、子育ての実際と支援につ				1時間から2時間程度/週			
受講時の注意事項							
子育てにかかわる様々な現状と課題について、現場の職員から講義を受けることがあります 子育て支援の現場での実践活動を行います 実践活動の日程に合わせて授業を実施するため、日程に合わせて内容が前後します							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるフィールドワークの要素を含む授業です。							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	子育て支援の基礎的な考え方、子育て支援センターめぐりについて学ぶ
第2週	地域子育て支援拠点の概要	地域子育て支援拠点の概要、機能、役割と実施の注意点について学ぶ
第3週	実習①	支援センター等での実習を行う。実習を通して学びたいことを考え、レポートする
第4週	子育て支援と支援拠点①	子ども家庭支援が必要になった背景に対する理解を深め、何故支援拠点が必要と考えられるか、子育て支援拠点に求められている機能は何かを学ぶ
第5週	子育て支援と支援拠点②	支援拠点が十分に機能を発揮するためにどのような環境が整えられるか、拠点の物的な面を中心に検討する
第6週	子育て支援と支援拠点③	物的な環境を踏まえ、拠点を構成する人の動きや支援者の姿勢について理解を深める
第7週	実習②	支援センター等での実習を行う。前回の実習の省察と支援センターの機能についての学びを踏まえて、今回学びたいことを考え、レポートする
第8週	子育て支援の場づくり①	子育て支援の場を構成するために必要なことについて、保育施設と似ている点と異なる点をまとめることで、地域子育て支援拠点の展開におけるポイントを理解する
第9週	子育て支援の場づくり②	親子それぞれの視点で子育て支援センターを観察し、ここまでの実習で見てきたことの意味について検討する
第10週	多様な形の保護者支援	地域子育て支援以外の実践例から保護者支援の際に求められている姿勢について学び、地域子育て支援拠点や保育施設での保護者支援に適する要点を見出す
第11週	実習③	支援センター等での実習を行う。前回の実習の省察と親子の視点の違いについてなどの学びを踏まえ、今回意識したいことや工夫したいことは何か、レポートする
第12週	地域の中の子育て支援①	現代の地域社会の現状について振り返り、子育て支援(拠点)が地域社会の中でどのような役割を担うことができるか、検討する
第13週	地域の中の子育て支援②	地域子育て支援の他地域での実践例について学び、子育てと地域のかかわりについて理解を深める
第14週	実習④	支援センター等での実習を行う。前期を通して学んできたことを振り返り、実践に反映させていく
第15週	支援拠点での学びのまとめ	前期を通して実習の中で学んだことを自分の言葉でまとめ、子育て支援並びに保育にどのように活かせるか、検討する
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		



授業科目	子育て支援特論Ⅱ						
担当教員	遠山 景広	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MC-MS 1402			ワデマド科目	
授業概要							
子育て支援の現状を把握した上で、「子ども・子育て支援制度」を含む子育てを支える社会的な仕組みについて、今後の課題を含めて考える。また、特別な支援を必要とする家庭の背景にある社会問題をとらえるとともに、子育て支援の現場に求められているものは何かを学ぶ。子育てニーズの多様化に伴い必要となる様々な支え手の存在や支えあいの形について、現場での実践を通して理解を深めていく。							
到達目標							
① 子どもや家族を取り巻く環境(家族・地域・保育行政・経済など)について自分の考えも含めて述べるができる ② 認定こども園等の機能等について述べるができる ③ 子ども・子育てにかかわる各関係機関の役割や連携・調整について理解し、子育て支援の課題として総合的に説明することができる							
学科のディプロマ・ポリシー							
1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。 ○ 2. 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。 3. 協調性：社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。 4. 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。 5. 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。							
成績評価方法・基準							
内容	割合(%)	内容	割合(%)				
期末課題	60%						
授業への参加姿勢、授業内課題の提出状況	40%						
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
『なし。授業内で適宜、資料を配付します』							
参考書等							
豊島子どもWAKUWAKUネットワーク編著、2016、『子ども食堂をつくらう!』, 明石書店 田中浩二、2017、『保育現場のリスクマネジメント』, 中央法規							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無						実務経験なし	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容						予習・復習に必要な時間	
各回で取り上げる内容と、これまでの実習や地域活動など子育てにかかわる経験のつながりをまとめておきましょう 多様な実践例を探し、自身の活動や考え方に取り入れてみましょう						1時間から2時間程度/週	
受講時の注意事項							
子育て支援特論Ⅰと同じく、現場での実践活動を行いますので、日程に合わせて各週の内容は前後します							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるフィールドワークの要素を含む授業です。							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	授業・実習の予定と、実習の際の目標の立て方、注意点などの確認を行う
第2週	実習①	支援センター等での実習を行う。実習を通して、センターの親子さんとのかわり方及び、かわる機会をどのように作っていきたいかを考え、レポートする
第3週	子育て家庭のニーズと背景	子育て支援センターを利用する家庭の抱えやすいニーズについて学び、その背景に何ががあるか、及び対応する際にどのような配慮ができるかを検討する
第4週	子ども・子育て支援の現場作り①	子ども食堂などの実践例から、子育て支援の現場や保育施設の持つ強みと弱み、工夫や注意点を学ぶ
第5週	子ども・子育て支援の現場作り②	様々な地域活動の実践例から、子育て支援の現場を作る際の工夫や注意点を学び、地域的な連携と連携の際に保育者が担える役割は何かを検討する
第6週	実習②	支援センター等での実習を行う。保育者を含む自身の強みや様々な実践例での学びを踏まえて、実習での目標を考えレポートする
第7週	実習活動の振り返りと検討	ここまでの実習の中で、家庭のニーズに気付いた場面やその時の対応方法を振り返り、現場での活かし方を検討する
第8週	子育てとリスク管理の考え方①	子どもとの活動の中で生じるリスクにはどのようなものがあるか、及びリスクをどのように管理していくことができるかを学ぶ
第9週	実習③	支援センター等での実習を行う。リスクとリスク管理についての学びを踏まえて、センターでの活動時に注意したい事項を定めレポートする
第10週	子育てとリスク管理の考え方②	子どもとの行動、活動の中でどのようなリスクが生じるか、本学の子育て支援センターや周辺の環境から学ぶ
第11週	子ども・子育て支援の現場作り③	特別なニーズを持つ子ども・子育て家庭に現場でどのような配慮ができるか、これまでの実習の振り返りや事例から学びつつ自分なりの対応方法について検討する
第12週	実習④	支援センター等での実習を行う。後期での学びを振り返りつつ、自身のかかわり方の変化や支援にかかわる気付きについてレポートする
第13週	子育てとリスク管理の考え方③	子どもとの行動、活動の中でどのようなリスクが生じるか、冬季の特性を踏まえて本学の子育て支援センターの環境を再検討する
第14週	現場でのリスクの管理と実際	ここまでの現場での活動を通して、支援拠点でのリスク管理がどのようなコンセプトで行われているか、その実現のための工夫は何かを振り返り、そのうえで改善点について検討する
第15週	まとめ 子育て支援の本質とは	ここまでに学んだ現場での活動やリスク管理を通して、自分自身がどのように子育て支援に携わっていくのか、自分なりのアプローチをまとめる
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目		表現法「音楽」					
担当教員	國谷 聖香/松井 亜樹	配当年次	1年生	開講期	通年	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MC-MS 1706			ワケマド科目	
授業概要							
<p>① 初見奏、弾き歌い等実践に役立つピアノ演奏技術の向上を目指します。          ② 保育現場において、子どもに豊かな音楽体験をもたらすために、より実践的な指導技術や表現力を身につけます。          ③ 授業形態は、個々のレベルに応じた個人レッスンを軸とします。          ④ 歌唱表現活動を実践しながら発声方法を学び、こどもの発達段階に即した歌唱表現と歌唱指導の方法などを学びます。</p>							
到達目標							
<p>① 弾き歌いのレパートリーを10曲以上習得できる。          ② 正しく弾く事にとられ過ぎず、豊かな音楽活動をイメージし、その楽曲を子どもと共に楽しむために演奏方法を工夫できる。          ③ コードネームによる基礎的な伴奏法ができる。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。          2. 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。          3. 協働性：社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。  <input type="radio"/> 4. 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。          5. 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
弾き歌い取り組み状況		70%					
平常点（自己練習の取り組み、意欲）		30%					
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
『ピアノ曲弾き歌い童謡曲～豊かな音楽表現のために』		松井聖樹、浅沼聖輔、國谷聖香他	集文社	2020	4874460887		
『こどものうた200』		小林美実編	チャイルド本社	1996	4805400021		
参考書等							
『続 こどものうた200』小林美実編 チャイルド本社、『豊かな音楽表現を育てる幼児のリトミック』（3歳児編、4歳児編、5歳児編）新宿スタジオ							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験あり			
この科目は音楽指導の経験を有する教員が実践的教育を行います。							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
上達の成果を実感するために、日々の自己練習を欠かさずに受講してください。				2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
授業内でお知らせいたします。なお、授業内に実施した課題のフィードバックを行います。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	課題曲の提示と練習方法について
第2週	弾き歌いとリトミックの実践①	即時反応、オノマトペに親しもう その後弾き歌いの練習をします
第3週	弾き歌いとリトミックの実践②	まねっこリズム、食べ物のリズム その後弾き歌いの練習をします
第4週	弾き歌いとリトミックの実践③	スカーフ、フラフープを使った表現活動 その後弾き歌いの練習をします
第5週	手作り楽器	手作り楽器を制作し、曲に合わせて演奏します
第6週	弾き歌いとリトミックの実践④	ひも、ゴムひもを使った表現活動 その後弾き歌いの練習をします
第7週	弾き歌いとリトミックの実践⑤	模倣遊び（動物の動き、忍者の修行） その後弾き歌いの練習をします
第8週	弾き歌いとリトミックの実践⑥	音の高低、アクセントを感じて表す活動 その後弾き歌いの練習をします
第9週	トーンチャイムとハンドベル	トーンチャイムとハンドベルの演奏をします。
第10週	弾き歌いレッスン①	姿勢と発声に気を付けて演奏します。間違えても流れを止めないように心がけます。
第11週	弾き歌いレッスン②	歌詞を理解して歴史的な背景など調べ、イメージを膨らませます。
第12週	弾き歌いレッスン③	付点のリズム（びよんこ節）について調べます。
第13週	弾き歌いレッスン④	表情豊かな歌声と、リズムが崩れないように弾きます。
第14週	弾き歌いレッスン⑤	前奏からの歌い出しについて実践します。
第15週	前期のまとめ	前期に取り組んだ曲を演奏し、フィードバックします。
第16週	弾き歌いレッスン⑥	テンポをメトロノームで確かめてテンポ設定について学びます。
第17週	弾き歌いレッスン⑦	ピアノの左右のバランスについて考えます。
第18週	弾き歌いレッスン⑧	歌とピアノのバランスについて考えます。
第19週	弾き歌いレッスン⑨	コードネームについて確認します。
第20週	弾き歌いレッスン⑩	ペダルの使い方について確認します。
第21週	弾き歌いレッスン⑪	子どもの顔を見ながら演奏できるか、音色や表現についても考えます。
第22週	弾き歌いレッスン⑫	簡易伴奏について根音、第三音はなるべく省略せず、また強拍のときの音を抜かさないよう、実践します。
第23週	弾き歌いレッスン⑬	簡易伴奏について他の曲でも実践します。
第24週	コードネームによる伴奏法①	C-G-Cを使った伴奏
第25週	コードネームによる伴奏法②	C-F-Cを使った伴奏
第26週	コードネームによる伴奏法③	G7を使った伴奏
第27週	初見奏①	拍子に着目した初見奏
第28週	初見奏②	音符と休符に着目した初見奏
第29週	初見奏③	リズムに着目した初見奏
第30週	後期のまとめ	後期に取り組んだ曲を演奏し、フィードバックします。

授業科目	表現法「美術」						
担当教員	佐藤 あゆみ	配当年次	1年生	開講期	通年	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MC-MS 1705			ワケマド科目	
授業概要							
<p>幼児のための遊具を制作し、適切なデザイン・材料・構造・遊び方・安全性などを考慮することで、幼児の遊びやその道具についての視点を養う。</p>							
到達目標							
<p>幼児のために作られた既製の遊具について分析し考慮すべき点を検討する。 検討の結果を生かし、前期では共同制作でオリジナル遊具を製作し、後期には個々での遊具の製作を行う。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
	<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。</p> <p>2. 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。</p> <p>3. 協調性：社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。</p> <p>○ 4. 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。</p> <p>5. 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。</p>						
成績評価方法・基準							
	内容	割合 (%)	内容	割合 (%)			
	作品	80%					
	受講態度等	20%					
教科書・ソフト等							
	書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
	「なし。授業内で適宜資料を配布します。」						
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
	授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無			実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
	予習・復習の具体的な内容			予習・復習に必要な時間			
	<p>日常目にする幼児の遊具が、その目的のためにどのような材料・構造・寸法になっているか意識して見てください。また安全性や遊びの発展などの遊具と子どもとの関係で、工夫の余地が無いかも考えてください。</p>			1時間から2時間程度/週			
受講時の注意事項							
木を削ることで粉塵が出ますので、作業に応じてジャージやエプロンを用意してください。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業のねらい、実施形態
第2週	テーマの検討①	遊具の資料や見学などから考える
第3週	テーマの検討②	遊具の資料や見学などから考える
第4週	テーマの検討③	遊具の資料や見学などから考える
第5週	テーマ決定・詳細検討①	遊具の機能
第6週	テーマ決定・詳細検討②	遊具の構造 検討
第7週	テーマ決定・詳細検討③	各部の寸法 の取り方
第8週	テーマ決定・詳細検討④	材料 の説明等
第9週	遊具制作①	採寸 大まかな切断 機械の使い方、説明等
第10週	遊具制作②	曲線部などの切断 機械の使い方、説明等
第11週	水遊び制作①	設計 作りたい形の想像 子どもたちとの関わり方について考える
第12週	水遊び制作②	制作、部品 必要なものを考える
第13週	水遊び制作③	制作、全体の構造を考える制作
第14週	水遊び制作④	制作、安全性も再確認
第15週	水遊び制作⑤	展示、子どものあそび
第16週	遊具制作①	図面、制作
第17週	遊具制作②	図面、制作 道具の説明等
第18週	遊具制作③	道具の説明等
第19週	遊具制作④	制作、作業の進め方
第20週	遊具制作⑤	制作
第21週	遊具制作⑥	制作
第22週	遊具制作⑦	制作
第23週	遊具制作⑧	制作
第24週	遊具制作⑨	制作
第25週	遊具制作⑩	制作
第26週	遊具制作⑪	塗装
第27週	遊具制作⑫	塗装
第28週	遊具制作⑬	組み立て
第29週	遊具制作⑭	組み立て
第30週	遊具 完成	完成品の発表、展示

授業科目		子どもと自然環境					
担当教員	柘植 純一	配当年次	1年生	開講期	通年	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MC-MS 1501			ワケマド 科目	
授業概要							
<p>本科で学んだ特別研究「自然」および野外研究をさらに発展させ実践力を身につける。保育者自身が自然に対する感性を豊かにし、興味や関心を深めるため、随時野外における自然環境（昆虫、野鳥、植物等）を行う。自然の中で様々な遊びを体験することにより、自然の中で時を過ごすことの素晴らしさを知る。微生物発酵を伴う食品などの加工を体験することにより、食べ物がある恵みであり、私たち人間は全ての面で自然の恩恵によって生かされていることを体感する。</p>							
到達目標							
<p>① 保育者としての自覚を持ち主体的に自然観察を行うことができる。          ② 自然の中で時間を過ごすことが楽しいと実感できる。          ③ 身近な動植物を識別できる。          ④ 食品を手作りすることにより、食と自然との繋がりについて考えることができる。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。          2. 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。          3. 協調性：社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。          4. 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。          5. 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。</p>							
成績評価方法・基準							
	内容	割合 (%)		内容	割合 (%)		
	授業内レポート	70%					
	平常の取組み	30%					
教科書・ソフト等							
	書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
	「なし。授業内で適宜、資料を配付します。」						
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容						予習・復習に必要な時間	
授業ごとに体験したことをまとめ、自分でも調べてレポートとして提出する。						1時間から2時間程度/週	
受講時の注意事項							
何でも簡単に手に入る便利で物質的に豊かな現代社会で、何故孤独を感じる人が多いのか、人間らしさ・本当の豊かさについて考えてください。また食べ物を手に入れるために手間をかけることの意味についても考えてください。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるフィールドワークの要素を含む授業です。							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業全体の概要、履修上の留意点について説明します。
第2週	春の森林での自然観察（スプリング・エフェメラルを見る）①	季節を春夏秋冬の4つに分けることが多いですが、決して4つ区切ることができないことを春の森林（真駒内公園）での観察を通して実感してください。4月下旬に行う1回目はまだ木々の葉があまり開いていない4月下旬の明るい森林の林床に咲くカタクリ、フクジュソウを観察します。
第3週	春の森林での自然観察（スプリング・エフェメラルを見る）①	季節を春夏秋冬の4つに分けることが多いですが、決して4つ区切ることができないことを春の森林（真駒内公園）での観察を通して実感してください。4月下旬に行う1回目はまだ木々の葉があまり開いていない4月下旬の明るい森林の林床に咲くカタクリ、フクジュソウを観察します。
第4週	早春の森林での自然観察（スプリング・エフェメラルを見る）②	1回目の観察から2週間後に同じ場所を観察します。木々の葉がほぼ出揃い、景色が全く変わっていることを時間できるはず。林床ではカタクリ、フクジュソウにかわり、エゾエンゴサク、エンレイソウ、ニリンソウが咲き始めています。また野鳥のさえずりもさらにぎややかに聞こえてきます。
第5週	早春の森林での自然観察（スプリング・エフェメラルを見る）②	回目の観察から2週間後に同じ場所を観察します。木々の葉がほぼ出揃い、景色が全く変わっていることを時間できるはず。林床ではカタクリ、フクジュソウにかわり、エゾエンゴサク、エンレイソウ、ニリンソウが咲き始めています。また野鳥のさえずりもさらにぎややかに聞こえてきます。
第6週	オタマジャクシの飼育	保育における身近な小動物飼育の目的・意義を実現することを意識したオタマジャクシ（エゾアカガエル）の飼育に取り組みます。飼育を通して愛玩動物ではなく身近な野生動物であるカエル幼生との向き合い方についても考えます。
第7週	オタマジャクシの飼育	保育における身近な小動物飼育の目的・意義を実現することを意識したオタマジャクシ（エゾアカガエル）の飼育に取り組みます。飼育を通して愛玩動物ではなく身近な野生動物であるカエル幼生との向き合い方についても考えます。
第8週	よもぎを使った食育	薬用植物、食材としてなじみの深い身近な植物であるヨモギを大学周辺で観察し、団子、もち、饅頭などを試作してみます。
第9週	よもぎを使った食育	薬用植物、食材としてなじみの深い身近な植物であるヨモギを大学周辺で観察し、団子、もち、饅頭などを試作してみます。
第10週	北海道大学附属植物園の見学	北大植物園を見学して植物に親しむとともに、札幌の都心に残されている貴重な自然林を観察することを通して、身近な自然を守ることの大切さに気付くきっかけにします。
第11週	北海道大学附属植物園の見学	北大植物園を見学して植物に親しむとともに、札幌の都心に残されている貴重な自然林を観察することを通して、身近な自然を守ることの大切さに気付くきっかけにします。
第12週	初夏の身近な植物観察と食べるのできる身近な自生植物の試食	大学から大学外の森公園まで散策しながら身近な植物を観察し、食べるのできる植物についての知識を身につけます。
第13週	初夏の身近な植物観察と食べるのできる身近な自生植物の試食	ニセアカシアの花、イワミツバの葉、ギンギンなど身近なところにある植物に美味しいものがあることを実感します。
第14週	水辺環境での自然観察（西岡水源池）	トンボは秋の昆虫と思いついて入る人が多いですが、西岡水源池での観察を通して7月にたくさんトンボが活動していることに気付いてもらいます。またツワルシのような保育をする上で気をつけなければならない植物についての知識を見につけます。
第15週	水辺環境での自然観察（西岡水源池）	トンボは秋の昆虫と思いついて入る人が多いですが、西岡水源池での観察を通して7月にたくさんトンボが活動していることに気付いてもらいます。またツワルシのような保育をする上で気をつけなければならない植物についての知識を見につけます。
第16週	ホタルの観察（西岡水源池）	ホタルの観察とともに、普段は入ることのない夜の森で視覚以外の感覚を働かせて自然に対する感覚を豊かにすることを目指します。
第17週	ホタルの観察（西岡水源池）	ホタルの観察とともに、普段は入ることのない夜の森で視覚以外の感覚を働かせて自然に対する感覚を豊かにすることを目指します。
第18週	うどん作り	北海道産小麦粉を使ってうどんを手作りします。
第19週	うどん作り	北海道産小麦粉を使ってうどんを手作りします。
第20週	発酵食品加工のガイダンス	段食べている食品には微生物の働きによって作られている発酵食品がたくさんあります。この後の授業で取組む発酵食品についての概要を説明します。
第21週	麹カビの培養	カビという悪いイメージしか抱かない人が多いかもしれませんが、日本の食文化に欠かせない麹カビ（Aspergillus oryzae）の培養を通して実感します。
第22週	米麹作り	前回の授業で培養したコウジカビ（Aspergillus oryzae）の胞子を蒸米に植えつけて米麹づくりを体験します。
第23週	米麹作り	前回の授業で培養したコウジカビ（Aspergillus oryzae）の胞子を蒸米に植えつけて米麹づくりを体験します。
第24週	味噌の仕込み、甘酒とべったら漬作り	みんなで作った米麹を使って日本の伝統的な食品である味噌、甘酒、べったら漬をつくります。
第25週	味噌の仕込み、甘酒とべったら漬作り	みんなで作った米麹を使って日本の伝統的な食品である味噌、甘酒、べったら漬をつくります。
第26週	パン用の酵母培養	パンづくりをするときにはdry yeastを使うことが多いと思いますが、みんなで作った酵母（Saccharomyces cerevisiae）を培養します。
第27週	培養した酵母でパン作り	培養したパン酵母（Saccharomyces cerevisiae）と北海道産小麦を使ってパンをつくります。
第28週	培養した酵母でパン作り	培養したパン酵母（Saccharomyces cerevisiae）と北海道産小麦を使ってパンをつくります。
第29週	培養した酵母でパン作り	培養したパン酵母（Saccharomyces cerevisiae）と北海道産小麦を使ってパンをつくります。
第30週	培養した酵母でパン作り	培養したパン酵母（Saccharomyces cerevisiae）と北海道産小麦を使ってパンをつくります。

授業科目	保育内容研究「音楽」						
担当教員	浅沼 恵輔	配当年次	1年生	開講期	通年	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MC-MS 1702			ワケマド科目	
授業概要							
<ul style="list-style-type: none"> <li>コード進行の基礎を学び、童謡に簡単な伴奏をつける能力を身につける。</li> <li>基礎的な指揮法を身につける。</li> <li>リズムの鑑賞や体験授業を通し、リズムの基礎を理解する。</li> <li>楽曲制作や楽譜作成を通して、様々な音楽表現を知る。</li> <li>自然や街中の音に触れ、様々な音の存在を知る。</li> </ul>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> <li>コード進行の基礎を知り、簡易な伴奏をつけることができる。</li> <li>簡単な楽曲に合わせて指揮を振ることができる。</li> <li>リズムについて学び、保育現場の実践に役立てることができる。</li> <li>楽器だけでなく自然や街中の様々な音の存在に気付くことができる。</li> <li>様々な音楽表現を知り、自分の豊かな表現活動に活かすことができる。</li> </ol>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<ol style="list-style-type: none"> <li>人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。</li> <li>知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。</li> <li>協調性：社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。</li> </ol>							
<input type="radio"/> 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。 <input type="radio"/> 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
授業への参加、取り組み姿勢		60%					
発表		20%					
授業内レポート、テスト		20%					
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
なし。授業内で適宜、資料を配布します。							
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
普段から色々な音楽を聴いたりし、音楽の様々な表現方法を自分で発見してってください。				2時間程度/週			
受講時の注意事項							
様々な音楽表現に興味を持ち、積極的に個人作業やグループワークに参加してください。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。							
備考							
この科目は主要授業科目です。							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	・ガイダンス 授業内容、授業のねらいの説明
第2週	コードネーム①	・基本的なコードネームの学習 ・メジャーコード、マイナーコード
第3週	コードネーム②	・ドミナントセブンスコード ・コード進行の学習、伴奏付け
第4週	コードネーム③	・コード知識のテスト ・コード進行の実技テスト
第5週	AIと音楽①	・簡単なAIサイトの使い方
第6週	AIと音楽②	・AIサイトを使って簡単な曲を制作
第7週	リトミック体験① リトミックの基礎	・ゲストスピーカーを招いてリトミックの基礎を学習
第8週	リトミック体験② リトミックの応用	・ゲストスピーカーを招いてリトミック活動の体験
第9週	音楽と物語	・ミュージカルの鑑賞
第10週	図形楽譜①	・音楽を聴いて個人で図形楽譜を制作
第11週	図形楽譜②	・グループ分け、テーマ決め
第12週	図形楽譜③	・グループで楽曲作成
第13週	図形楽譜④	・グループで図形楽譜作成
第14週	図形楽譜⑤	・楽曲と図形楽譜の修正
第15週	図形楽譜⑥	・発表と前期のまとめ
第16週	サウンドスケープ①	・サウンドスケープの基礎知識を学習
第17週	サウンドスケープ②	・身近な音風景を探索
第18週	サウンドスケープ③	・サウンドマップを制作
第19週	簡単な指揮法①	・2拍子、4拍子
第20週	簡単な指揮法②	・3拍子、6拍子
第21週	手遊び歌①	・手遊び歌の曲を選択、練習
第22週	手遊び歌②	・手遊び歌の発表
第23週	音楽絵本①	・グループ分け、題材決め
第24週	音楽絵本②	・グループで楽曲作成
第25週	音楽絵本③	・グループで練習
第26週	音楽絵本④	・発表
第27週	音楽紙芝居①	・グループ分け、題材決め
第28週	音楽紙芝居②	・グループで楽曲作成
第29週	音楽紙芝居③	・グループで練習
第30週	音楽紙芝居④	・発表、一年の振り返り

授業科目	保育内容研究「美術」						
担当教員	加藤 雅子	配当年次	2年生	開講期	通年	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MC-MS 2702			ワケマド科目	
授業概要							
保育における美術の持つ役割を、実習などで経験した子どもの活動からイメージし、再確認する。美術と物語の要素を併せ持った作品を子ども向けに制作する。様々な身近な材料を使い、子どもの想像力と作る楽しさが高まる制作を実践する。多様な表現方法を組み合わせた表現としてミュージカルを製作し発表する。							
到達目標							
① 保育における美術・表現の役割を理解し、適切な知識・技術・指導法で、子どもに美術の楽しさを伝えることができる。 ② 美術表現を生かすために、ストーリーや世界観などの設定を考え、子どもの意欲や想像力を高めることができる。 ③ 音や光、動きなどを組み合わせて、美しさや舞台表現を楽しむことができる。							
学科のディプロマ・ポリシー							
<input type="checkbox"/> 1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門知識を修得している。 <input type="checkbox"/> 3. 協調性：社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。 <input type="checkbox"/> 5. 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
授業への参加、取り組み姿勢、表現レポート等		70%					
		30%					
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
「なし。授業内で適宜、資料を配付します。」							
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無						実務経験あり	
小中学校にて図工・美術を指導							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
メディアからの情報だけでなく、自然から感じたり、自ら表現したりして日頃から感受性や創造力を豊かに保つことが大事である。自然の中で思考したり、アイデアを練ったりする時間を取る。				1時間から2時間程度/週			
受講時の注意事項							
物語表現、ごっこ遊びなどの考案に際し、受講者の発想力が重要な要素になります。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。							
備考							
この科目は主要授業科目です。							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス（授業のねらい・概要）	・本講義についてその目標と内容について ・授業計画について ・評価基準について
第2週	幼稚園教育要領における表現美術の位置づけ	・保育所保育指針解説及び幼稚園教育要領解説等について ・領域の中の「表現」について ・指導要領の項目と本講義で目指すものの関わりについて
第3週	美しさとは？色・形・構成・質感・自然物・人工物	様々なアートの表現に触れ、生活の中の美術の役割を考える
第4週	領域「表現」について 児童文化の中に見る表現	子どもと表現について
第5週	物語性を伴った表現 絵本、紙芝居、人形劇	物語性を伴った表現 絵本、紙芝居、人形劇についての資料集め
第6週	物語表現の構想	物語性を伴った表現 絵本、紙芝居、人形劇についての資料集め・構想
第7週	物語表現の計画 ストーリー考案	物語性を伴った表現 絵本、紙芝居、人形劇についての構想・ストーリー考案
第8週	物語表現の材料集め 土台の準備	物語性を伴った表現 絵本、紙芝居、人形劇について制作準備
第9週	物語表現の制作①	グループ毎に物語表現の制作①
第10週	物語表現の制作②	グループ毎に物語表現の制作①
第11週	物語表現の制作③	グループ毎に物語表現の制作③
第12週	物語表現の制作④	グループ毎に物語表現の制作④
第13週	物語表現の制作⑤	グループ毎に物語表現の制作⑤
第14週	物語表現の制作⑥	グループ毎に物語表現の制作⑥
第15週	物語表現の制作⑦	グループ毎に物語表現の制作⑦
第16週	物語表現の制作⑧	グループ毎に物語表現の制作⑧
第17週	物語表現の制作⑨	グループ毎に物語表現の制作⑨
第18週	物語表現の制作⑩	グループ毎に物語表現の制作⑩
第19週	舞台演出設置①	グループ毎に舞台演出設置計画・制作①
第20週	舞台演出設置②	グループ毎に舞台演出設置計画・制作②
第21週	リハーサル①	リハーサル・反省会・修正①
第22週	リハーサル②	リハーサル・反省会・修正②
第23週	発表会①	発表会の実施①
第24週	発表会②	発表会の実施②
第25週	完成作品フィードバック①	動画などによる振り返り①
第26週	完成作品フィードバック②	動画などによる振り返り②
第27週	保育現場で活かせる制作1	身近な材料を用いた制作①
第28週	保育現場で活かせる制作2	身近な材料を用いた制作②
第29週	保育現場で活かせる制作3	身近な材料を用いた制作③
第30週	振り返り・反省	活動の振り返りと反省

授業科目	保育内容研究「健康」						
担当教員	田中 住幸	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MC-MS 1703			ワケマド科目	
授業概要							
<p>本科目では、本科1、2年生及び専攻科1年生で履修した領域「健康」に関する科目で学んだことを基礎に、乳幼児の健康に関する様々な課題について、理論的な裏付けを背景に取り組んでいけるようになることを目指す。特に、乳幼児の健康をテーマにした研究論文の輪読を行い、学術的な視点からの理解を深めると共に、簡易な実験、調査を実施し、研究実践力を高める。</p>							
到達目標							
<p>①乳幼児の健康に関する現代的な課題を説明できる。      ②乳幼児の健康に関する最近の研究動向を理解している。      ③乳幼児の健康をテーマにした研究方法について理解している。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。      2. 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。      3. 協調性：社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。  <input type="radio"/> 4. 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。      5. 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
期末レポート		60%					
論文の報告		20%					
平常点 (主体性、意欲・関心)		20%					
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』							
参考書等							
幼稚園教育要領解説(文部科学省)、保育所保育指針解説(厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府・文部科学省・厚生労働省)、幼児期運動指針ガイドブック(文部科学省)							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
論文の講読・報告の準備、簡易実験・調査の準備など				2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
論文報告の際のディスカッションでは、主体的に発表・発言をすること。また、簡易実験・調査の実施などにも積極的に関わること。提出された課題・レポートについては、LMS(学修支援システム)内でフィードバックを行う。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるディスカッション及びフィールドワークの要素を含む授業です。							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	乳幼児の健康に関する問題の整理①	乳幼児期の基本的な生活習慣について、現代的な課題点に着目しながら整理する。
第2週	乳幼児の健康に関する問題の整理②	乳幼児の運動発達と遊びについて、現代的な課題点に着目しながら整理する。
第3週	乳幼児の健康に関する問題の整理③	保育の安全管理・教育について、現代的な課題点に着目しながら整理する。
第4週	乳幼児の健康に関する論文報告と解説①	乳幼児の基本的な生活習慣についての論文の輪読を行い、理解を深める。
第5週	乳幼児の健康に関する論文報告と解説②	乳幼児の運動発達についての論文の輪読を行い、理解を深める。
第6週	乳幼児の健康に関する論文報告と解説③	幼児の遊びについての論文の輪読を行い、理解を深める。
第7週	乳幼児の健康に関する論文報告と解説④	保育の安全管理・教育についての論文の輪読を行い、理解を深める。
第8週	乳幼児の健康に関する研究の実際(量的研究)①	乳幼児の健康に関する研究についての近年の研究動向を把握すると共に、研究の計画方法について確認する。
第9週	乳幼児の健康に関する研究の実際(量的研究)②	乳幼児の健康に関する研究についての近年の研究動向を把握すると共に、量的研究における実験・調査の準備について確認する。
第10週	乳幼児の健康に関する研究の実際(量的研究)③	乳幼児の健康に関する研究についての近年の研究動向を把握すると共に、量的研究における実験・調査を経験する。※フィールドワーク有
第11週	乳幼児の健康に関する研究の実際(量的研究)④	乳幼児の健康に関する研究についての近年の研究動向を把握すると共に、量的研究における実験・調査を経験する。※フィールドワーク有
第12週	乳幼児の健康に関する研究の実際(量的研究)⑤	乳幼児の健康に関する研究についての近年の研究動向を把握すると共に、量的研究におけるデータの整理・分析について確認する。
第13週	乳幼児の健康に関する研究の実際(量的研究)⑥	乳幼児の健康に関する研究についての近年の研究動向を把握すると共に、量的研究における結果の考察について確認する。
第14週	乳幼児の健康に関する研究の実際(質的研究)①	乳幼児の健康に関する研究についての近年の研究動向を把握すると共に、質的研究における参与観察を経験する。※フィールドワーク有
第15週	乳幼児の健康に関する研究の実際(質的研究)②	乳幼児の健康に関する研究についての近年の研究動向を把握すると共に、質的研究における参与観察を経験する。※フィールドワーク有
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	保育内容研究「造形」						
担当教員	梅田 真紀	配当年次	1年生	開講期	通年	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MC-MS 1704			ワケマド科目	
授業概要							
<p>幼児の美術で重要なことは、造形活動の楽しさを伝えることである。手で物に触れ、表面感覚を知ることは、こどもにとって興味深い経験となる。この科目では、五感（視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚）を使うことに意識を向け、平面と立体造形の制作を行いながら「主体性・能動性」を培う。造形表現のさまざまな可能性を認識し、その意義と展開の多様性に触れながら各々の感性を育むことを目的とする。</p>							
到達目標							
<p>① 五感で描くことの大切さとたのしさを理解して身につけられる。      ② 絵画表現における基礎美術からの応用を学び平面造形活動に対する理解を深める。      ③ 受講生それぞれが「目的意識」を以って主体的に取り組める。      ④ 造形活動の楽しさを感じられるように取組み、作品等実践・制作を通して様々なアイデア提言ができる。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。      2. 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門知識を修得している。      3. 協調性：社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。      4. 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。      5. 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
授業への取組み		30					
作品		70					
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
「なし。授業内で適宜、資料を配付します。」							
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無						実務経験あり	
この科目は、高等学校で美術教諭として実務経験のある教員が実践的教育を行っています。							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
授業内で必ず次回内容と事前調査等必要な場合は指示を出すので、その際は考えて授業にくること。				1時間から2時間程度/週			
受講時の注意事項							
作品制作に適した服装で受講すること（エプロン・汚れても良い服など）。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	講義のねらい、実施形態説明
第2週	歌の紙芝居①【聴覚・視覚】	構想・ページ構成
第3週	歌の紙芝居②	モダンテクニックによる素材制作1
第4週	歌の紙芝居③	モダンテクニックによる素材制作2
第5週	歌の紙芝居④	描画1
第6週	歌の紙芝居⑤	描画2
第7週	歌の紙芝居⑥	文字のレイアウト・仕上げ
第8週	歌の紙芝居⑦	実演・まとめ
第9週	嗅覚と絵本①【嗅覚・触覚・視覚】	構想・ページ構成
第10週	嗅覚と絵本②	描画1
第11週	嗅覚と絵本③	描画2
第12週	嗅覚と絵本④	描画3
第13週	嗅覚と絵本⑤	テキスト・文字デザイン
第14週	嗅覚と絵本⑥	製本
第15週	嗅覚と絵本⑦	作品鑑賞・講評
第16週	粘土による造形①【触覚・味覚・視覚】	構想
第17週	粘土による造形②	造形1
第18週	粘土による造形③	造形2
第19週	粘土による造形④	着色1
第20週	粘土による造形⑤	着色2
第21週	粘土による造形⑥	細部加工
第22週	粘土による造形⑦	仕上げ・ニス
第23週	お面・かぶりもの制作①【触覚・視覚】	構想
第24週	お面・かぶりもの制作②	骨組み1
第25週	お面・かぶりもの制作③	骨組み2
第26週	お面・かぶりもの制作④	肉付け
第27週	お面・かぶりもの制作⑤	和紙貼り1
第28週	お面・かぶりもの制作⑥	和紙貼り2
第29週	お面・かぶりもの制作⑦	着色・ニス
第30週	お面・かぶりもの制作⑧	完成・まとめ



授業科目	保育内容研究「言葉」						
担当教員	山田 千春	配当年次	1 年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MC-MS 1701			ワケマド科目	
授業概要							
幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の中の領域「言葉」では自己表現の側面だけでなく、聞く力を養って相互にやりとりする会話の豊かさ、思考を深める観点が見込まれている。保育現場における保育者の言語活動や環境づくりの大切さも含め乳幼児期の「言葉」は人との関わりや「遊び」を通して発達することの理解を深める。							
到達目標							
① 「遊び」と「言葉」の発達が、なぜ関連するのかについて授業で習得した知識をもとに説明することができる。 ② 子どもの「言葉」の発達過程について授業で習得した知識をもとに説明することができる。 ③ 「遊びと言葉」に関する文献等の講読や研究を通して、現場での実践力を身につける。							
学科のディプロマ・ポリシー							
<input type="checkbox"/> 1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門知識を修得している。 <input type="checkbox"/> 3. 協調性：社会の問題を多角的に見え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。 <input type="checkbox"/> 5. 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
課題提出（提出物の内容、提出期限を守られている）		40%					
「遊びと言葉」に関する研究発表		50%					
議論への参加態度		10%					
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
「なし。授業内で適宜、資料を配付します。」							
参考書等							
幼稚園教育要領（文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省）							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無					実務経験なし		
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容					予習・復習に必要な時間		
参加者は文献を配付された場合は事前に読み、また自身も授業に沿った参考資料や保育教材などを用意し関心事項を整理して議論に参加しましょう。					2時間から3時間程度/週		
受講時の注意事項							
遊びと言葉に関わる自分の関心事項のまとめと発表についてはまとめる力と課題関心の掘り下げを重視します。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	シラバスを基に、授業内容と評価方法について説明をする。
第2週	領域「言葉」の理解	幼稚園教育要領の改訂に伴う領域「言葉」の変遷について説明をする。
第3週	幼児期の書き言葉の発達、小学校への流れ	保育現場における文字指導のあり方について検討をする。領域「言葉」から小学校国語への連携について説明をする。
第4週	うたや触れ合いを楽しむ遊び①	わらべうたの歴史や保育現場での実践例について説明をする。
第5週	うたや触れ合いを楽しむ遊び②	保育現場における手遊びの実践例について説明をする。
第6週	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ遊び①	保育現場における絵本の読み聞かせの目的や絵本の選書について説明をする。
第7週	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ遊び②	紙芝居の歴史や保育現場における有効的な活用について説明をする。
第8週	劇や物語を楽しむ遊び	ごっこ遊び、劇遊び、劇づくり（生活発表会）について関係する論文を購読する。
第9週	劇や物語・絵と言葉を楽しむ教材研究	教材研究を行い、指導案を作成する。
第10週	「遊びと言葉」に関する研究①	「遊びと言葉」に関する自己の研究テーマを設定する。
第11週	「遊びと言葉」に関する研究②	自己の研究テーマに沿って資料を収集し、購読をする。
第12週	「遊びと言葉」に関する研究③	自己の研究テーマについて、資料の考察を行う。
第13週	「遊びと言葉」に関する研究④	自己の研究テーマについて、発表資料をまとめる。
第14週	遊びと言葉に関わる自分の研究事項の発表と議論① Aグループ発表	資料にまとめた研究テーマを発表し、それを基に議論を行う。
第15週	遊びと言葉に関わる自分の研究事項の発表と議論② Bグループ発表	資料にまとめた研究テーマを発表し、それを基に議論を行う。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	教育原理特論						
担当教員	大澤 亜里	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MC-MS 2301			ワケヤド 科目	
授業概要							
現在の幼児教育・保育に影響を与えている教育思想について、その時代背景とともに理解します。授業では近代から現代に至るまでの西洋と日本の主要な教育思想を取り上げ、それら教育思想が生まれた時代の人々がどのような社会を生き、どのような社会のあり方を望んでいたのか、またどのような子ども観、人間観を持ち、どのような教育を行おうとしたのかという観点から学んでいきます。それと同時に、子どもたちはそれぞれの時代をどのように生き、どのような教育を受けていたのかという視点を持ちながら各時代の特徴を捉えます。また文献講読を通して理解を深めながら、現代の日本における幼児教育・保育の課題や、子ども・家族を取り巻く問題について議論します。							
到達目標							
①教育の基本的概念を理解し、説明することができる。 ②教育思想を、その時代の社会的状況との関わりの中で理解し説明することができる。 ③現在の日本が抱える教育課題や子ども・家族を取り巻く社会的問題について自分の意見を述べることができる。							
学科のディプロマ・ポリシー							
<input type="checkbox"/> 1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門知識を修得している。 <input type="checkbox"/> 3. 協調性：社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。 <input type="checkbox"/> 5. 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
文献の報告		30%					
授業内でのディスカッション		20%					
期末レポート		50%					
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』							
参考書等							
石村華代・軽部勝一郎編著 (2013) 『教育の歴史と思想』ミネルヴァ書房 藤井千春編著 (2016) 『時代背景から読み解く西洋教育思想』ミネルヴァ書房 小針誠 (2007) 『教育と子どもの社会史』祥出版社							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
文献内容の報告レジュメを作成します。授業内で講読する章節を事前に読んでおきましょう。				2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
授業は文献講読、ディスカッションを取り入れながら進めていきます。授業の予習・復習を行いディスカッションに積極的に参加して下さい。							
アクティブ・ラーニング情報							
授業は文献講読、ディスカッションを取り入れながら進めていきます。授業の予習・復習を行いディスカッションに積極的に参加して下さい。							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス：教育とは	教育原理特論の授業の概要、到達目標、授業計画等について知る。テキストを読み、教育とは何かを理解する。
第2週	近代社会の子ども観と教育（西洋）	テキストを読み、子ども観と教育との関係、また日本社会の子ども観と欧米社会の子ども観の違いについて学ぶ。
第3週	近代教育制度の成立と子どもたち（西洋）	テキストを読み、イギリス、フランス、ドイツ、アメリカにおける近代教育制度の成立と展開について、またその時代の子ども観や子どもの生活について学ぶ。
第4週	近代の教育思想家とその実践（西洋）	テキストを読み、ルソー、ベスタロッチ、オーエン、フレーベルなどの思想家・実践家について学ぶ。
第5週	新教育の子ども観と教育思想	テキストを読み、新教育運動の背景や、その子ども観と教育観について学ぶ。
第6週	新教育運動とコルチャックの実践（西洋）	テキストを読み、コルチャックをはじめとする新教育運動の実践家について学ぶ。
第7週	現代の教育思想の潮流（西洋）	テキストを読み、デューイ、キルパトリックら、現代の教育に影響を与えた思想について学ぶ。
第8週	現代の幼児教育・保育の思想と実践（主に西洋）	テキストを読み、モンテッソーリら現代の幼児教育・保育の思想と実践について学ぶ。
第9週	近代教育制度の成立と子どもたち（日本）	テキストを読み、日本の近世における教育や近代学校の成立について、またその時代の子ども観や子どもの生活について学ぶ。
第10週	幼児教育・保育の先駆者とその思想および実践（日本）	テキストを読み、倉橋惣三、城戸幡太郎ら、日本の幼児教育・保育の先駆者の思想と実践について学ぶ。
第11週	大正教育運動の思想と実践（日本）	テキストを読み、天皇制国家体制の確立について、また諸外国の影響を受けながら展開された大正教育運動について学ぶ。
第12週	戦時下の子どもと教育（日本）	テキストを読み、戦時下の教育や子どもの生活について学ぶ。
第13週	現代社会の子どもと教育（日本）	テキストを読み、戦後の高度経済成長期から停滞期までの教育について、またその時代の子ども観や子どもの生活について学ぶ。
第14週	現代の子ども・家族・社会をとりまく諸問題（日本）	テキストを読み、貧困、虐待など子どもや家族、社会を取り巻く、現在の日本社会の諸問題について学ぶ。
第15週	授業全体のまとめ	これまでの授業について難しかった内容や理解できなかった内容について復習をする。レポート課題に取り組み。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	日本語表現法						
担当教員	山田 千春	配当年次	2年生	開講期	通年	単位数	4
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MC-MS 2201			ワケマド科目	
授業概要							
<p>① 文章表現力を高めるための基礎基本的能力を身につける。          ② 資料を活用して、論理性と説得力のある文章を書けるようにする。          ③ 説得力のあるスピーチの仕方を理解し、討論やパブリックスピーキングができるようにする。          ④ 聞く人に理解してもらえらるプレゼンテーションの工夫をする。</p>							
到達目標							
<p>① 練習問題等を通して、文章表現のための基礎基本的能力を高める。          ② 資料を活用して、論理性と説得力のある文章を書くことができる。          ③ 論理的に自分の主張を組み立て、説得力のあるスピーチの仕方を理解し、自分の主張を効果的に伝えるプレゼンテーションができる。*</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
○	1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。						
	2. 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。						
	3. 協調性：社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。						
	4. 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。						
	5. 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。						
成績評価方法・基準							
	内容	割合 (%)	内容	割合 (%)			
	課題提出（提出物の内容、提出期限が守れているか）	70%					
	討論、スピーチ、プレゼンテーション	30%					
教科書・ソフト等							
	書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
	「なし。授業内で適宜、資料を配付します。」						
参考書等							
	「なし。授業内で指示します。」						
	授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無			実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
	予習・復習の具体的な内容			予習・復習に必要な時間			
	日常的に、社会の動きに注意し、思考を深める努力をしてください。さまざまな文章を読むことを心がけてください。			2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
基礎・基本事項から、実践的な演習を具体的に行います。積極的な授業参加を望みます。授業内課題のフィードバックを行う。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるディベートの要素を含む授業です。							
備考							
この科目は主要授業科目です。							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	シラバスを基に、授業内容や評価方法についての説明を行う。文章を書くことや話すことにおける各自の長所と課題を考える。
第2週	悪文の修正練習、文体、書き言葉と話し言葉	わかりにくい例文を示し、そのような表現になってしまう原因を説明する。それを踏まえて、わかりにくい例文をわかりやすい文に修正する（練習問題）。書き言葉と話し言葉のそれぞれの特徴を説明し、それに関する練習問題に取り組み。
第3週	新聞記事を読んで感想を書く	新聞記事を読むことのメリットを考え、記事を選択して感想文を書く。（提出）
第4週	鑑賞文を書く①	過去のふれてい劇場を鑑賞する。
第5週	鑑賞文を書く②	過去のふれてい劇場の鑑賞文を作成する。（提出）
第6週	論理的文章の書き方	論理的な文章（レポートや論文）の書き方を説明する。引用の仕方や引用文献の示し方についても確認する。
第7週	資料を読みとく。表やグラフを読む	表やグラフを提示し、そこから読み取れる内容を文章にする。逆に、どのような表やグラフを提示したら、自らの文章がよりわかりやすくなるのかを考える。
第8週	資料を読んで意見文を書く	資料を読み込み、自らの意見をまとめた文章にする。（提出）
第9週	主張文を書く	1つのテーマに対して異なる主張が書かれた文章を読み、自らの考えを整理して文章にする。（提出）
第10週	小論文を書く①	小論文の基本的な文章構成を確認する。課題文型の小論文の書き方を説明する。
第11週	小論文を書く②	課題文を読み込み、小論文を作成する。（提出）
第12週	ブックレポート①	ブックレポートについて説明をし、課題図書の提示をする。
第13週	ブックレポート②	課題図書の読み込みと要約文の作成を行う。
第14週	ブックレポート③	課題図書の読み込みと要約文の作成を行う。
第15週	ブックレポート④	考察・まとめを作成する。（提出）
第16週	論文作成の手順、自分の論文の作成計画を立てる	論文作成の手順を確認する。自らの修士研究の進捗状況を確認し、完成へ向けての計画を検討する。
第17週	課題レポートの書き方の実際①	課題レポートの書き方を説明する。課題を提示し読み込む。
第18週	課題レポートの書き方の実際②	課題レポートを作成するにあたっての資料検索の方法を説明し、資料を収集する。
第19週	課題レポートの書き方の実際③	集めた資料を基に、レポートの構成を考え、課題レポートを作成する。（提出）
第20週	討論・ディベート・会議の相違点	討論・ディベート・会議について、それぞれの特徴を説明する。
第21週	討論の実際①	テーマを決めて、討論を行う。
第22週	討論の実際②	テーマを決めて、討論を行う。
第23週	討論をもとに主張文を書く	討論した内容を踏まえて、自らの主張をまとめて文章にする。（提出）
第24週	スピーチ①	自分の好きなもの（好きなこと）について、メモ書きを作成しスピーチを行う。
第25週	スピーチ②	自分の尊敬する人について、メモ書きを作成しスピーチを行う。
第26週	プレゼンテーションの方法	修士研究の発表に向けて、プレゼンテーションの方法を説明する。
第27週	プレゼンテーションの実際①	修士研究の発表に向けてプレゼンテーションの準備をする。
第28週	プレゼンテーションの実際②	修士研究の発表に向けてプレゼンテーションの準備をする。
第29週	プレゼンテーション発表、相互評価①	プレゼンテーションの発表を行い、相互に評価を行う。
第30週	プレゼンテーション発表、相互評価②	プレゼンテーションの発表を行い、相互に評価を行う。

授業科目	保育人間関係特論Ⅰ						
担当教員	星 信子	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MC-MS 1301			ワケマド科目	
授業概要							
様々な年齢段階の子どもの人間関係の発達について詳しく学び、子どもの人との関わりを育む保育についての知見を広げる。さらに、領域人間関係をめぐる現代の諸課題に触れ、その問題点や改善方を考える。							
到達目標							
①子どもの様々な年齢段階における人間関係の発達に関する知識を身につける。 ②領域人間関係をめぐる現代の諸課題に触れ、自分なりの考えを持つ。							
学科のディプロマ・ポリシー							
<input type="checkbox"/> 1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。 <input type="checkbox"/> 3. 協調性：社会の問題を多角的に見え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。 <input type="checkbox"/> 5. 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。							
成績評価方法・基準							
	内容	割合(%)		内容	割合(%)		
	筆記試験	90%					
	平常点	10%					
教科書・ソフト等							
	書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
	「なし。授業内で適宜、資料を配付します。」						
参考書等							
幼稚園教育要領解説（文部科学省） 保育所保育指針解説（厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府・文部科学省・厚生労働省）							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
	予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間		
	授業の後はノートや資料を見なおして内容を確認しましょう。専門的な用語を自分の言葉で説明できるように、取り組んでみましょう。				2時間から3時間程度/週		
受講時の注意事項							
講義を受けた内容をもとに、自分なりの考えを持つことが大切です。講義内でも積極的に意見交換し、より理解を深めていきましょう。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション：人間関係形成の基礎	①乳児の形態的特徴 ②乳児の知覚的特徴 ③乳児と養育者のコミュニケーション
第2週	乳児期の人間関係の発達	①人間関係の発達の基礎：愛着の発達 ②ヒトの愛着形成における特殊性 ③愛着の分類
第3週	乳児期の人間関係の発達	アタッチメント理論の基本的枠組み
第4週	乳児期の人間関係の発達	アタッチメントの発達を支える内的作業モデル
第5週	幼児期の人間関係の発達	①きょうだい関係の特質 ②きょうだいができること ③きょうだい関係に影響する要因
第6週	幼児期の人間関係の発達	①仲間関係の始まりと広がり ②仲間遊びの発達 ③仲間関係の中で育つもの
第7週	領域人間関係の現代的課題	①乳幼児の自己の発達 ②自己のコントロール ③日本の子どもの自己評価
第8週	児童期の人間関係の発達	①学級集団の特殊性 ②学級集団の機能 ③学級集団の構造
第9週	児童期の人間関係の発達	①教師と子どもの関係 ②学級雰囲気 ③学級集団のアセスメント
第10週	児童期の人間関係の発達	①児童期の親子関係 ②親子関係の影響
第11週	青年期の人間関係の発達	①青年期とは ②青年期の親子関係
第12週	青年期の人間関係の発達	①小中学生の異性とのかかわり ②高校生・大学生の異性とのかかわり ③恋愛の心理
第13週	成人期の人間関係の発達	①結婚の現状 ②結婚に対する意識 ③新婚生活
第14週	領域人間関係に関する現代的課題	①人類の親子 ②親となること ③親としての発達
第15週	まとめと試験	①全体のまとめ ②筆記試験
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	保育人間関係特論Ⅱ						
担当教員	星 信子	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MC-MS 1302			ワデマド科目	
授業概要							
望ましい愛着関係の形成は、発達初期の人間関係形成における最も重要な発達課題であるだけでなく、その人の生涯に渡る対人関係の基礎となる信頼関係の形成を支える大切なものである。愛着関係の発達にかかわる知識は、発達の最初期の子どもに対応する保育者として、特に乳児にかかわる専門家として必須の知識であるといっても過言ではない。本講義では、基本的な愛着の理論に加えて、臨床場面での応用、実践での応用も含め、愛着関係に関する専門書の購読を中心に総合的に学ぶ。							
到達目標							
①愛着関係の形成の理論に関する基本的な知識を身につける。 ②愛着関係の形成の理論の応用について知る。 ③保育の現場における愛着関係の形成の意義を自分なりに考える。							
学科のディプロマ・ポリシー							
1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。							
○ 2. 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。							
3. 協調性：社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。							
4. 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。							
5. 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。							
成績評価方法・基準							
内容	割合 (%)	内容	割合 (%)				
レポート	50%						
分担報告の内容	40%						
平常点	10%						
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』							
参考書等							
数井みゆき・遠藤利彦編著「アタッチメント 生涯にわたる絆」（ミネルヴァ書房）、数井みゆき・遠藤利彦編著「アタッチメントと臨床領域」（ミネルヴァ書房）、数井みゆき他訳「アタッチメントを応用した養育者と子どもの臨床」（ミネルヴァ書房）							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
本講義は、基本的に購読と発表を中心に行います。事前に提示された資料に基づき報告の準備をしっかりと行いましょう。				2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
発表においては、主体的に討議に参加しましょう。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション：愛着とは	①オリエンテーション ②愛着とは
第2週	愛着の個人差	①愛着の個人差と測定 ②愛着の個人差の要因
第3週	乳幼児期・児童期の愛着関係の広がり	①母親以外の家族との愛着 ②仲間関係への影響 ③愛着の連続性
第4週	保育者との愛着関係	①保育者との愛着関係 ②親子の愛着と保育者との愛着の関係性
第5週	青年期以降の愛着関係	①青年期の愛着関係 ②成人期の愛着関係
第6週	愛着の世代間伝達	①養育と愛着関係 ②愛着の世代間伝達
第7週	愛着関係と文化	①様々な文化圏での愛着関係の様相 ②愛着分類の文化的背景
第8週	障害を持つ子どもの愛着関係	①視覚や聴覚に障害を持つ子ども ②発達障害の子ども
第9週	子ども虐待と愛着関係	①虐待の発達への影響 ②未組織型の愛着
第10週	児童福祉ケアと愛着	①児童福祉ケアを受ける子ども ②児童福祉ケアを受ける子どもの愛着関係
第11週	不登校と愛着	①不登校と母子の愛着関係 ②母親への臨床的介入
第12週	DV被害者への支援に対する愛着の応用	①女性に対するDV被害 ②DV被害者への愛着理論の応用
第13週	幼児に対する愛着を基礎とする治療の実際	治療的幼稚園での実践例：安全基地の形成
第14週	幼児に対する愛着を基礎とする治療の実際	治療的幼稚園での実践例：内的作業モデルの変化
第15週	まとめ	①全体のまとめ ②レポート作成
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目							子どもの特別支援と精神保健						
担当教員	今西 良輔	配当年次	2年生	開講期	通年	単位数	4						
		履修人数		必須選択	選択								
		授業形態				授業回数							
		ナンバリング	MC-MS 2401			ワケマド科目							
授業概要													
近年、子育てを取り巻く様々なところの問題への理解が深まるとともに、保育においても、子どもだけでなく保護者も含めた、一体的な保育の重要性が認識されるに至っています。本授業では、本科「子どもの保健」「特別支援教育と保育」等での学習を基礎に、子どもや保護者のところの問題や支援に関する学びを、講義、文献読解及びディスカッションを通して深めます。													
到達目標													
① 児童期に見られるところの問題と支援に関する知識や考えを深める。 ② 保護者のところの問題と支援に関する知識や考えを深める。 ③ 保育者自身のメンタルヘルスに関する知識や考えを深める。													
学科のディプロマ・ポリシー													
1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。													
○ 2. 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門知識を修得している。													
3. 協調性：社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。													
4. 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。													
5. 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。													
成績評価方法・基準													
内容		割合(%)		内容		割合(%)							
授業内試験		50											
中間試験		40											
平常点		10											
教科書・ソフト等													
書籍名		著者名		出版社		出版年		ISBN		備考			
『これならわかる（スツキリ図解）精神保健福祉制度のきほん 第2版』		二本柳 寛、石井 佳実、茂本 由紀		精誠社		2023		4798182918					
参考書等													
授業内で適宜、紹介します。													
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無										実務経験あり			
児童相談所において、子どもや保護者の相談対応や判定業務、子どもの生活支援の経験がある（今西）													
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間													
予習・復習の具体的な内容										予習・復習に必要な時間			
授業前までに指示のあったテキストをよく読むようにしてください。授業後は、テキストや配布資料を復習し、理解を深めてください。										2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項													
授業は基本的な講義形式で行います。授業内容によってグループワークをする機会がありますので積極的に討論してください。授業時にリアクションペーパーを配布し、質問などを受け付け、後日、内容のフィードバックするようにします。授業はテキストや配布資料を用いて行います。授業時に次週で取り上げる内容を指示するので該当するテキストを読むようにしてください。													
アクティブ・ラーニング情報													
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるディスカッションの要素を含む授業となっています。													
備考													

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	障害の理解と歴史)	・ 障害の歴史的な流れを学び、現代の特別支援教育までを理解
第2週	様々な障害の理解と支援	・ 知的障害、聴覚障害、視覚障害、肢体不自由等の理解と支援を学ぶ
第3週	発達障害の理解と支援について	・ 自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害等の理解と支援を学ぶ
第4週	特別支援および合理的配慮を必要とする子どもの理解	・ 合理的配慮について理解 ・ 支援や配慮を必要とする子どもの理解
第5週	特別な支援を必要とする子どもへの指導計画の理解	・ 支援を必要とする子どもの指導計画に向けて、具体的事例を用いて内容を理解
第6週	特別な支援を必要とする子どもへの指導計画の作成と立案	・ 実際に支援を必要とする子どもの指導計画の作成から立案
第7週	専門職者による子どもの支援と連携	・ 子ども支援とは何かを考え、他職種との連携を学ぶ
第8週	支援の必要な子どもの理解	・ グレーゾーンや障害の診断のない子どもの理解
第9週	支援を必要とする子どもの地域活動と社会資源	・ 実際の事例を基に子どもの生活に必要な地域資源を理解
第10週	障害のある人達と共生する地域の創造	・ 障害のある子どもから大人が地域でどのように生活をするのか、できるのかを学ぶ
第11週	特別な支援を必要とする保護者の理解と現状	・ 支援を必要とする子どもの保護者の心情を理解
第12週	障害のある子どもの保護者の意識	・ 障害受容についての理解
第13週	障害のある子どもの保護者への支援	・ 障害のある子どもの自立支援と専門職者の役割を理解
第14週	精神障害の理解と歴史	・ 精神疾患、精神障害者がどのような歴史を辿ってきたのかを理解する
第15週	中間まとめ	・ これまでの特別支援や支援を必要とする子どもとその保護者に関する内容を整理し、子どもと保護者の支援についてまとめる
第16週	精神疾患の理解① 統合失調症	・ 統合失調症となる以前の診断名から歴史的流れを理解
第17週	精神疾患の理解② 人格障害、境界性人格障害	・ 人格障害、パーソナリティ障害について理解
第18週	精神疾患の理解③ 感情障害	・ 感情の理解 ・ 感情障害の症状や治療、対応についての理解
第19週	精神疾患の理解④ 不安障害	・ 不安障害の症状や治療、対応についての理解
第20週	精神疾患の理解⑤ アディクション	・ アディクションの内容理解 ・ アディクションの症状や治療、対応についての理解
第21週	精神疾患の理解⑥ 認知症	・ 認知症の症状や治療、対応についての理解
第22週	精神疾患への対応と関係機関との連携	・ 精神疾患を抱えた人の相談対応と他職種連携を学ぶ
第23週	保護者のメンタルヘルス① ライフサイクルと健康	・ 日常生活における人のメンタルヘルスについての理解
第24週	保護者のメンタルヘルス② 労働と健康	・ 仕事におけるストレスと心の健康についての理解
第25週	保護者のメンタルヘルス③ 子育てと健康	・ 子育てによるストレスと心の健康についての理解
第26週	児童虐待と家族への支援① 虐待の構造	・ 子ども虐待とその対応についての理解
第27週	児童虐待と家族への支援② 子どもの状況	・ 虐待を受けた子どもの育ちと対応についての理解
第28週	児童虐待と家族への支援③ 家族の背景	・ 虐待をする家族の状況と対応についての理解
第29週	児童虐待と家族への支援④ 専門機関との連携	・ 虐待対応に関係する専門機関の理解
第30週	まとめ	・ 精神疾患や精神障害から児童虐待までの内容を整理し、子どもと保護者の支援についてまとめる

授業科目		保育環境特論					
担当教員	柘植 純一	配当年次	2年生	開講期	通年	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MC-MS 2501			ワケマド科目	
授業概要							
<p>本科在学中に学んだ「幼児と環境」をさらに深めて、保育環境としての自然に関して実体験を通して学び、より深く考えることを目的とする。持続可能な社会を構築するための環境問題、必要な生活スタイルについて考察する。特に都市に居住する幼児にとっての身近な自然について、実際に大学周辺の環境を通して学習する。また、子どもの遊び場となる身近な環境の調査、保育施設等の衛生状態の検査等を行う。さらに幼児教育における食育のあり方・食品の安全性についても考察する。Rachel Carson著「The Sense of Wonder」の原書購読を通して子どもとともに自然に向き合う保育者に必要な感性、姿勢について考える。</p>							
到達目標							
<p>①常に子どもの視点に立った保育環境について考えを述べることができる。          ②子どもを細菌性食中毒の危険から守るために必要なことを説明できる。          ③レイチェル・カーソンが「センスオブワンダー」で述べていることについて保育者として子どもと向き合うときの姿勢について考えを述べる          ことができる。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。</p> <p>○ 2. 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。</p> <p>3. 協調性：社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。</p> <p>4. 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。</p> <p>5. 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
授業内レポート		70%					
平常の取組み		30%					
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
『なし、授業内で適宜、資料を配付します。』							
参考書等							
なし、授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
授業で学習したこと、実験したことを保育者としてどう活かすかを常に考える。				2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
常に子どもの目の高さに立ち、子どもにとって最適な環境について考えることを心がける。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業の概要、受講の留意点について説明します。
第2週	幼稚園・保育所における食育①	食育基本法、現代の幼児を取り巻く食環境の問題について考えます。
第3週	幼稚園・保育所における食育②	動画を見て現代の私達の食生活について考えます。
第4週	チンパンジーの子育てで人間の子育ての原点を見る①	人間に最も近い動物であるチンパンジーの子育てから、私達の子育てのあり方について考えます。
第5週	チンパンジーの子育てで人間の子育ての原点を見る②	野生のチンパンジーの母子の記録映像から人間の親子のかかわりについて考えます。
第6週	保育環境における電磁波の調査①	日常生活の中で私達が接している電磁波について勉強します。
第7週	保育環境における電磁波の調査②	電磁波測定装置を使って大学内での電磁波を測定します。
第8週	黄色ブドウ球菌の増殖①培養	子ども達を食中毒の危険から守るための基礎知識を身につけるために黄色ブドウ球菌 (Staphylococcus aureus) を培養して、細菌の増殖を観察します。
第9週	黄色ブドウ球菌の増殖②菌数の測定	増殖した黄色ブドウ球菌 (Staphylococcus aureus) の菌数 (培地1mLあたり) を測定します。
第10週	家庭内における大腸菌群による汚染状況の検査①	家庭内でどのような場所が糞便由来の細菌で汚染されやすいかを大腸菌群を使用して検査します。
第11週	家庭内における大腸菌群による汚染状況の検査②	家庭内でどのような場所が糞便由来の細菌で汚染されやすいかを大腸菌群を使用して検査します。
第12週	児童公園の砂場の細菌の検査①	砂場の糞便による汚染状況を知るために砂を採取して大腸菌群の検査をします。
第13週	児童公園の砂場の細菌の検査②	砂場の糞便による汚染状況を知るために砂を採取して大腸菌群の検査をします。
第14週	外来生物	外来生物には外国から入ってきたものだけではなく、国内外来種も含まれます。身近な自然とのかかわりを指導するために正しい知識を身につけます。
第15週	大学周辺の外来生物調査	大学周辺で観察される身近な動植物を観察しリストにまとめ、北海道ブルーリストを中心に在来種か外来種かを調べます。
第16週	保育における環境教育①身の回りの環境問題	持続可能な社会を担う世代のための教育として重要な身近な環境問題について考えます。
第17週	保育における環境教育②環境配慮した行動についての考察	持続可能な社会を実現するために本当に重要なこと、生活スタイルについて考えます。
第18週	保育における環境教育③こども環境管理士試験の過去問題1	こども環境管理士試験 (日本生態系協会) の過去問題 (2022年) に取組みます。
第19週	保育における環境教育④こども環境管理士試験の過去問題2	こども環境管理士試験 (日本生態系協会) の過去問題 (2023年) に取組みます。
第20週	映画「レイチェル・カーソンの感性の森」	Rachel Carson著「The Sense of Wonder」の原書購読に挑戦することに備えて、「The Sense of Wonder」の舞台となっているメイン州の別荘、レイチェル・カーソンを取り巻く環境について映画を通して学びます。
第21週	Rachel Carson著「The Sense of Wonder」の原書購読①	p15～p17を読んで和訳し保育者としての子どもへの向き合い方について考えます。
第22週	Rachel Carson著「The Sense of Wonder」の原書購読②	p22～p30を読んで和訳し保育者としての子どもへの向き合い方について考えます。
第23週	Rachel Carson著「The Sense of Wonder」の原書購読③	p31～p44を読んで和訳し保育者としての子どもへの向き合い方について考えます。
第24週	Rachel Carson著「The Sense of Wonder」の原書購読④	p45～p55を読んで和訳し保育者としての子どもへの向き合い方について考えます。
第25週	Rachel Carson著「The Sense of Wonder」の原書購読⑤	p56～p67を読んで和訳し保育者としての子どもへの向き合い方について考えます。
第26週	Rachel Carson著「The Sense of Wonder」の原書購読⑥	p67～p76を読んで和訳し保育者としての子どもへの向き合い方について考えます。
第27週	Rachel Carson著「The Sense of Wonder」の原書購読⑦	p77～p85を読んで和訳し保育者としての子どもへの向き合い方について考えます。
第28週	Rachel Carson著「The Sense of Wonder」の原書購読⑧	p90～p92を読んで和訳し保育者としての子どもへの向き合い方について考えます。
第29週	Rachel Carson著「The Sense of Wonder」の原書購読⑨	p92～p94を読んで和訳し保育者としての子どもへの向き合い方について考えます。
第30週	Rachel Carson著「The Sense of Wonder」の原書購読⑩	p100～p106を読んで和訳し保育者としての子どもへの向き合い方について考えます。

授業科目	保育音楽特論						
担当教員	浅沼 恵輔	配当年次	2年生	開講期	通年	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MC-MS 2703			ワケマド科目	
授業概要							
<p>・楽器制作やサウンドスケープの学習、リトミック体験を通し、様々な音楽表現について学習します</p> <p>・本科で習得したピアノ演奏技術を活かし、弾き歌い曲や連弾曲を学習します。</p> <p>・弾き歌いの学習により、子どもの表現力育成のための伴奏技術や歌唱技術を習得します。</p> <p>・連弾の学習により、より高度な演奏技術や他の人と演奏を合わせる技術を習得します。</p>							
到達目標							
<p>① 楽器制作を通し、音階の仕組みを知り、自分の表現活動に活かすことができる。</p> <p>② リトミック体験を通し、音楽表現と音楽教育についての見識を深めることができる。</p> <p>③ 身近な音に興味を持ち、自分たちの生活との関わりを考察し相手に伝えることができる。</p> <p>④ 曲に応じたピアノ技術、歌唱技術を習得し、より豊かな表現のために演奏の工夫をすることができる。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。</p> <p>2. 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。</p> <p>3. 協調性：社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。</p> <p>4. 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。</p> <p>5. 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
授業への意欲		40%					
発表		60%					
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』							
参考書等							
小林美実編『こどものうた200』『続 こどものうた200』チャイルド本社、『ほどよいレベルで弾ける保育者のためのピアノ&童謡曲60』圭文社							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
弾き歌いや連弾の際はしっかりと自己練習を行ってください。				1～2時間程度/週			
受講時の注意事項							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション、楽器製作①	授業内容とねらい パンジーチャイムについて学ぶ
第2週	楽器製作②	グループ分け、パンジーチャイムの制作
第3週	楽器製作③	パンジーチャイムの完成、発表
第4週	リトミック体験①	リトミックの知識を深める
第5週	リトミック体験②	リトミックの模擬授業
第6週	サウンドスケープ①	身近な音について考える
第7週	サウンドスケープ②	身近な音の採集
第8週	サウンドスケープ③	サウンドスケープマップを作る
第9週	季節の歌①	選曲、譜読み
第10週	季節の歌②	伴奏の練習
第11週	季節の歌③	伴奏の表現を工夫する
第12週	季節の歌④	歌の練習
第13週	季節の歌⑤	歌の表現を工夫する
第14週	季節の歌⑥	発表に向けての仕上げ
第15週	季節の歌⑦	発表と前期のまとめ
第16週	連弾の楽しみ①	連弾曲に親しむ
第17週	連弾の楽しみ②	グループ分け、選曲
第18週	連弾の楽しみ③	個人での譜読み
第19週	連弾の楽しみ④	二人で合わせて練習
第20週	連弾の楽しみ⑤	二人の表現を合わせる
第21週	連弾の楽しみ⑥	表現の工夫を考える
第22週	連弾の楽しみ⑦	発表に向けての仕上げ
第23週	連弾の楽しみ⑧	発表
第24週	行事の歌①	選曲、譜読み
第25週	行事の歌②	伴奏の練習
第26週	行事の歌③	伴奏の表現を工夫する
第27週	行事の歌④	歌の練習
第28週	行事の歌⑤	歌の表現を工夫する
第29週	行事の歌⑥	発表に向けての仕上げ
第30週	行事の歌⑦	発表、1年間のまとめ



授業科目		保育美術特論					
担当教員	山崎 正明	配当年次	2年生	開講期	通年	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MC-MS 2701			ワケマド 科目	
授業概要							
保育において造形・美術の果たす役割は大きい。保育現場で実際に活かせるために、幼児への提案の仕方、関わり方、材料や用具について実践的な内容。子どもが自分のよさや可能性を存分に発揮できるための造形美術による保育を目指す。							
到達目標							
幼児を取り巻く環境の中で美術の役割を広く捉えることができる。子どもの遊びや文化的な環境に対する適切な考えや知識・技術を身に付け、実践に生かすことができる。							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身に付けている。</p> <p>○ 2. 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。</p> <p>3. 協調性：社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身に付けている。</p> <p>4. 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。</p> <p>5. 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
実技への取り組み		30%					
模擬保育園への取り組み		30%					
レポート		30%					
受講態度		10%					
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
『幼稚園教育要領解説』		文部科学省	フレーベル館	平成30	ISBN978-4-577-81447-5C3037	本体240円＋税 前記内容のものが、文	
<p>季刊誌「美育文化ポケット」公益財団法人美育文化          WEBサイト「そだったのか！こどもの造形表現」<a href="https://kodomonoe.exblog.jp/">https://kodomonoe.exblog.jp/</a>          図画工作で扱う材料・用具 <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zukou/index.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zukou/index.htm</a></p>							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験あり			
保育園や幼稚園での設定保育、小学校・中学校の図工美術の授業、市民対象の造形や鑑賞のWS							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
参考資料で示した書籍やWEBサイトなどを参照してください 講義の内容は毎時間レポートとしてまとめる。				1.5時間程度/週			
受講時の注意事項							
実技の時は、汚れることなどを考慮した服装としてください。エプロンの着用もいいでしょ。図工や美術の得意・不得意は関係ありません。子どもの幸せのためにどうすべきかを学びます。根底は面白さです。就職後は、様々な経験、様々な価値観を持った方々と一緒に子供を育てていきます。自分がチームの一員として力を発揮するためにも、自分							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	保育美術特論の全体の構成について	保育美術特論の中でどのように学ぶかを理解する。実技や模擬保育等を中心にその実践力を高めるために記録や考察の大切さを理解する。子どもの表現をどう捉えるか、山崎のアプローチを通して理解を深める。
第2週	レジオエミリアの教育	世界でも注目されているレジオエミリアについて学び、その中で取り組まれているドキュメンテーションの価値について理解を深める。
第3週	対話による鑑賞	美術鑑賞の世界的な潮流は対話型の鑑賞である。そもそも美術とは何か、その本質を理解するために対話による鑑賞に取り組む。大事なキーワードとして、対話的な深い学び、意味や価値を作り出す、ファシリテーションがあげられる。
第4週	映画「トントンゴキゴキ図工の時間」	そもそも描いたり、作ったりすることの意味は？映画に登場している小学生の思いや学びについて考察する。
第5週	幼小連携	幼小連携と「幼稚園教育要領の解説」「学習指導要領図画工作」 図画工作の教科書・アートカード等を使用
第6週	実技1 絵の具 (1)	実技1～10は、全て、写真等も使って記録をとり、実際の保育現場で活用できるようにする。実技1では、いわゆるフィンガーペインティングを行う。1歳児や3歳児を想定した活動とする。(実技を通して、学んだことを記録化することを重視する。)
第7週	実技2 絵の具 (2)	実技2では、筆を使って気持ちよく描くことを重点にするが、そのための材料や用具、あるいは人的なことも含めた環境の構成にも着目する。
第8週	実技3 クレヨン・パス・フェルトペン	実技3は、「最も一般的な画材としてクレヨン・パス・フェルトペンを取り上げる。描く喜びを原点とした活動の他、「絵の手紙」などの実践にも触れる。
第9週	実技4 墨・チョーク・砂	実技4は、墨・チョーク・砂など比較的身近な材料を使った活動である。実技1～10は、全て、写真等も使って記録をとり、実際の保育現場で活用できるようにする。
第10週	実技5 造形遊び	実技5は小学校の「造形遊び」を理解した上で、紙コップを使った造形遊びを行う。近年、幼児教育の現場でも取り上げられることも多くなってきた。領域「人間関係」や「環境」との関連も深め、図工と教育との関連も考察する。
第11週	実技6 絵の具 (3)	ローラーをはじめ、絵の具によるさまざまな表現に取り組む。一般的にはモダンテクニックと呼ばれるものに近いが、大事なことはそれらの技法を理解することではなく、絵の具の表現の可能性を実感するためのものである。なお、ローラー遊びで使用した紙は、実技7で使用。
第12週	実技7 絵の具等	共同制作として、取り組む。ただし、共同の名の下、一人一人が役割を担う活動ではない。
第13週	実技8 はさみ 新聞紙	はさみの魅力や面白さを味わうための活動である。また新聞紙を用いた活動についても考える。実技1～10は、全て、写真等も使って記録をとり、実際の保育現場で活用できるようにする。
第14週	実技9 のり・木工ボンド・さまざまな材料	接着は表現の幅を広げるための重要な材料である。実技1～10は、全て、写真等も使って記録をとり、実際の保育現場で活用できるようにする。
第15週	実技10 ダンボール	ダンボールは、大きなものは、子ども自身が作る部屋や乗り物にも変身する。段ボールカッターの使用がポイントである。
第16週	動画視聴「子どもと造形表現」	「子どもと造形表現」動画から学ぶ。要点をまとめる。
第17週	幼稚園・保育園の実践から学ぶ	幼稚園・保育園の実践から造形活動が子どもの育ちにどうつながっていくか、幼稚園教育要領との関連から考える。
第18週	模擬保育について	教育的実践力をつけるために模擬保育を行う。前半はグループで一つの模擬保育を行う。今回は、グループづくりと指導案作成等
第19週	模擬保育(グループで)1	模擬保育は導入部分を中心に行う。保育者以外の学生は幼児として参加。模擬保育後は、グループでの活動への評価、講義後、写真を用いて模擬保育の記録としてまとめる。
第20週	模擬保育(グループで)2	模擬保育は導入部分を中心に行う。保育者以外の学生は幼児として参加。模擬保育後は、グループでの活動への評価、講義後、写真を用いて模擬保育の記録としてまとめる。
第21週	模擬保育(グループで)3	模擬保育は導入部分を中心に行う。保育者以外の学生は幼児として参加。模擬保育後は、グループでの活動への評価、講義後、写真を用いて模擬保育の記録としてまとめる。
第22週	模擬保育(グループで)4 振り返り	模擬保育は導入部分を中心に行う。保育者以外の学生は幼児として参加。模擬保育後は、グループでの活動への評価、講義後、写真を用いて模擬保育の記録としてまとめる。模擬保育1～4のまとめをする。
第23週	落ち葉を素材に	自然の恵みとしての落ち葉を用いた活動。落ち葉を利用して何かを作らせるような活動ではなく、落ち葉を用いた活動を通して、自然の魅力に気づくようにする。そのための造形遊びや製作をする。
第24週	模擬保育(個人)について	教育的実践力をつけるために模擬保育を行う。後半は個人で一つの模擬保育を行う。今回は、発表順序の決定と指導案作成等 指導案づくり・教材研究
第25週	模擬保育(個人)1	模擬保育は導入部分を中心に行う。保育者以外の学生は幼児として参加。模擬保育後は、グループでの活動への評価、講義後、写真を用いて模擬保育の記録としてまとめる。
第26週	模擬保育(個人)2	模擬保育は導入部分を中心に行う。保育者以外の学生は幼児として参加。模擬保育後は、グループでの活動への評価、講義後、写真を用いて模擬保育の記録としてまとめる。
第27週	模擬保育(個人)3	模擬保育は導入部分を中心に行う。保育者以外の学生は幼児として参加。模擬保育後は、グループでの活動への評価、講義後、写真を用いて模擬保育の記録としてまとめる。
第28週	模擬保育(個人)4	模擬保育は導入部分を中心に行う。保育者以外の学生は幼児として参加。模擬保育後は、グループでの活動への評価、講義後、写真を用いて模擬保育の記録としてまとめる。
第29週	模擬保育(個人)5	模擬保育は導入部分を中心に行う。保育者以外の学生は幼児として参加。模擬保育後は、グループでの活動への評価、講義後、写真を用いて模擬保育の記録としてまとめる。
第30週	模擬保育(個人)6 振り返り	模擬保育は導入部分を中心に行う。保育者以外の学生は幼児として参加。模擬保育後は、グループでの活動への評価、講義後、写真を用いて模擬保育の記録としてまとめる。最後は、後期の活動の記録を整理して、提出する。

授業科目 基礎ゼミナールa							
担当教員	大澤 亜里/遠山 景広/星 信子	配当年次	1年生	開講期	通年	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MC-MS 1801			ワケマド科目	
授業概要							
<p>授業は、2年生の修了研究と同様、保育内容「健康・環境」系、保育内容「表現」系、基礎理論系の3つの講座に分かれ、ゼミナール形式で実施する。修了研究のゼミナールに参加する他、保育に関する研究の論文を読んで発表し、検討を行う中で、研究の方法を学ぶ。広範囲にわたる保育の研究の中から、自分の関心のある領域を選び、2年生の修了研究に向けて、テーマの選定などを行う。</p>							
到達目標							
<p>① 保育に関わる様々な研究の方法を理解する。          ② 保育に関わる文献を読み、理解できる。          ③ 自分なりに関心のある保育の領域・研究テーマを選定する。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。          2. 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。          3. 協調性：社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。          4. 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。  <input type="checkbox"/> 5. 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
文献講読の発表の内容		50%					
研究テーマの選定の状況		50%					
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
「なし。授業内で適宜、資料を配付します。」							
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
論文の講読、発表内容の要約、各回でのディスカッションの内容の記録、整理などを行なってください。				2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
関心のある領域、テーマの選定に向けて、図書館や論文検索システム等を利用し、積極的に多くの文献にふれてください。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス①	3つの講座を順にまわりそれぞれの分野の研究テーマについて知る。
第2週	ガイダンス②	3つの講座を順にまわりそれぞれの分野の研究テーマについて知る。
第3週	ガイダンス③	3つの講座を順にまわりそれぞれの分野の研究テーマについて知る。
第4週	文献の講読①	保育に関わる文献を読み、ディスカッションを行う（発表者は、論文の要約をレジュメとしてまとめ発表する）。
第5週	文献の講読②	保育に関わる文献を読み、ディスカッションを行う（発表者は、論文の要約をレジュメとしてまとめ発表する）。
第6週	文献の講読③	保育に関わる文献を読み、ディスカッションを行う（発表者は、論文の要約をレジュメとしてまとめ発表する）。
第7週	文献の講読④	保育に関わる文献を読み、ディスカッションを行う（発表者は、論文の要約をレジュメとしてまとめ発表する）。
第8週	文献の講読⑤	保育に関わる文献を読み、ディスカッションを行う（発表者は、論文の要約をレジュメとしてまとめ発表する）。
第9週	文献の講読⑥	保育に関わる文献を読み、ディスカッションを行う（発表者は、論文の要約をレジュメとしてまとめ発表する）。
第10週	文献の講読⑦	保育に関わる文献を読み、ディスカッションを行う（発表者は、論文の要約をレジュメとしてまとめ発表する）。
第11週	文献の講読⑧	保育に関わる文献を読み、ディスカッションを行う（発表者は、論文の要約をレジュメとしてまとめ発表する）。
第12週	文献の講読⑨	保育に関わる文献を読み、ディスカッションを行う（発表者は、論文の要約をレジュメとしてまとめ発表する）。
第13週	文献の講読⑩	保育に関わる文献を読み、ディスカッションを行う（発表者は、論文の要約をレジュメとしてまとめ発表する）。
第14週	修了研究経過報告会への参加	修了研究経過報告会に参加する。
第15週	修了研究経過報告会の振り返り	修了研究経過報告会の発表内容について、ディスカッションを行う。
第16週	文献の講読⑪	保育に関わる文献を読み、ディスカッションを行う（発表者は、論文の要約をレジュメとしてまとめ発表する）。
第17週	文献の講読⑫	保育に関わる文献を読み、ディスカッションを行う（発表者は、論文の要約をレジュメとしてまとめ発表する）。
第18週	文献の講読⑬	保育に関わる文献を読み、ディスカッションを行う（発表者は、論文の要約をレジュメとしてまとめ発表する）。
第19週	文献の講読⑭	保育に関わる文献を読み、ディスカッションを行う（発表者は、論文の要約をレジュメとしてまとめ発表する）。
第20週	文献の講読⑮	保育に関わる文献を読み、ディスカッションを行う（発表者は、論文の要約をレジュメとしてまとめ発表する）。
第21週	文献の講読⑯	保育に関わる文献を読み、ディスカッションを行う（発表者は、論文の要約をレジュメとしてまとめ発表する）。
第22週	文献の講読⑰	保育に関わる文献を読み、ディスカッションを行う（発表者は、論文の要約をレジュメとしてまとめ発表する）。
第23週	文献の講読⑱	保育に関わる文献を読み、ディスカッションを行う（発表者は、論文の要約をレジュメとしてまとめ発表する）。
第24週	文献の講読⑲	保育に関わる文献を読み、ディスカッションを行う（発表者は、論文の要約をレジュメとしてまとめ発表する）。
第25週	文献の講読⑳	保育に関わる文献を読み、ディスカッションを行う（発表者は、論文の要約をレジュメとしてまとめ発表する）。
第26週	文献の講読㉑	保育に関わる文献を読み、ディスカッションを行う（発表者は、論文の要約をレジュメとしてまとめ発表する）。
第27週	文献の講読㉒	保育に関わる文献を読み、ディスカッションを行う（発表者は、論文の要約をレジュメとしてまとめ発表する）。
第28週	文献の講読㉓	保育に関わる文献を読み、ディスカッションを行う（発表者は、論文の要約をレジュメとしてまとめ発表する）。
第29週	修了研究成果報告会への参加	修了研究成果報告会に参加する。
第30週	修了研究成果報告会の振り返り	修了研究成果報告会の発表内容について、ディスカッションを行う。

授業科目		修了研究a					
担当教員	大澤 亜里/遠山 景広/星 信子	配当年次	2年生	開講期	通年	単位数	4
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MC-MS 2802			ワケマド科目	
授業概要							
受講学生は、保育の基礎理論に関連して、これまでの授業、実習等を通して生じた興味・関心を基に、各自の研究テーマを設定し、担当教員の指導のもと研究に取り組む。テーマとしては、子どもの心理発達に関わるもの、特別な支援を要する子どもの発達支援に関するもの、保育の中での子どもの理解とその援助に関わるもの、保護者支援に関わるものなどを扱う。研究の経過については、授業内で随時発表し、複数の教員からの指導と学生同士の質疑応答を通して、随時省察を行う。研究を通しての学修成果については、研究経過発表会、研究成果発表会を経て、論文として提出する。							
到達目標							
① 教育学または心理学の方法に基づき調査・研究を行った上で、客観的に結果を把握し、論考することができる。 ② 自らの研究成果を他者に伝えるためのプレゼンテーション能力を身につける。 ③ 調査・研究の実践の中で、教育学または心理学の理論に基づいた子ども理解の方法を身につける。 ④ 保育における子どもの発達支援・保護者支援の在り方について自分なりの考えをもつことができる。							
学科のディプロマ・ポリシー							
1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。 2. 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。 3. 協調性：社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。 4. 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。 <input type="checkbox"/> 5. 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。							
成績評価方法・基準							
内容		割合(%)	内容		割合(%)		
論文の構成 (1. 問題と目的、2. 方法、3. 結果、4.							
論文の内容		40%					
経過報告会及び成果報告会での口頭発表と質疑応答の		30%					
学修の過程での取り組み状況		30%					
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
「なし。授業内で適宜、資料を配付します。」							
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無						実務経験なし	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
教員の指導に基づいて研究及び論文作成を進めるが、内容の深度は各自の学修意欲に負うところが大きい。研究テ				2時間から3時間程度/週一			
マに関して自分なりにしっかりと考え、自発的に研究に取り組むこと。							
受講時の注意事項							
基礎ゼミナールでの学習をふまえて実施します。 ※上記のゼミナールと並行して、指導教員による研究の個別指導を行う。 個別指導では、研究テーマの決定、実施方法の検討、結果の考察および論文作成、プレゼンテーションの準備等を行います。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。							
備考							
この科目は主要授業科目です。							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	先行研究の検討	各自が興味あるテーマに関する先行研究をレビューし、全体でディスカッションを行う。
第2週	先行研究の検討	各自が興味あるテーマに関する先行研究をレビューし、全体でディスカッションを行う。
第3週	先行研究の検討	各自が興味あるテーマに関する先行研究をレビューし、全体でディスカッションを行う。
第4週	先行研究の検討	各自が興味あるテーマに関する先行研究をレビューし、全体でディスカッションを行う。
第5週	先行研究の検討	各自が興味あるテーマに関する先行研究をレビューし、全体でディスカッションを行う。
第6週	先行研究の検討	各自が興味あるテーマに関する先行研究をレビューし、全体でディスカッションを行う。
第7週	研究の立案と中間発表	先行研究の検討結果をふまえて、各自の研究の目的、方法等を検討して立てた研究計画について、ディスカッションを行う。さらに、その立案内容を履修計画書にまとめ、研究経過発表会で発表する。経過発表後は、より質の高い論文作成に向け、研究計画を再考する。
第8週	研究の立案と中間発表	先行研究の検討結果をふまえて、各自の研究の目的、方法等を検討して立てた研究計画について、ディスカッションを行う。さらに、その立案内容を履修計画書にまとめ、研究経過発表会で発表する。経過発表後は、より質の高い論文作成に向け、研究計画を再考する。
第9週	研究の立案と中間発表	先行研究の検討結果をふまえて、各自の研究の目的、方法等を検討して立てた研究計画について、ディスカッションを行う。さらに、その立案内容を履修計画書にまとめ、研究経過発表会で発表する。経過発表後は、より質の高い論文作成に向け、研究計画を再考する。
第10週	研究の立案と中間発表	先行研究の検討結果をふまえて、各自の研究の目的、方法等を検討して立てた研究計画について、ディスカッションを行う。さらに、その立案内容を履修計画書にまとめ、研究経過発表会で発表する。経過発表後は、より質の高い論文作成に向け、研究計画を再考する。
第11週	研究の立案と中間発表	先行研究の検討結果をふまえて、各自の研究の目的、方法等を検討して立てた研究計画について、ディスカッションを行う。さらに、その立案内容を履修計画書にまとめ、研究経過発表会で発表する。経過発表後は、より質の高い論文作成に向け、研究計画を再考する。
第12週	研究の立案と中間発表	先行研究の検討結果をふまえて、各自の研究の目的、方法等を検討して立てた研究計画について、ディスカッションを行う。さらに、その立案内容を履修計画書にまとめ、研究経過発表会で発表する。経過発表後は、より質の高い論文作成に向け、研究計画を再考する。
第13週	研究の立案と中間発表	先行研究の検討結果をふまえて、各自の研究の目的、方法等を検討して立てた研究計画について、ディスカッションを行う。さらに、その立案内容を履修計画書にまとめ、研究経過発表会で発表する。経過発表後は、より質の高い論文作成に向け、研究計画を再考する。
第14週	研究の立案と中間発表	先行研究の検討結果をふまえて、各自の研究の目的、方法等を検討して立てた研究計画について、ディスカッションを行う。さらに、その立案内容を履修計画書にまとめ、研究経過発表会で発表する。経過発表後は、より質の高い論文作成に向け、研究計画を再考する。
第15週	研究の立案と中間発表	先行研究の検討結果をふまえて、各自の研究の目的、方法等を検討して立てた研究計画について、ディスカッションを行う。さらに、その立案内容を履修計画書にまとめ、研究経過発表会で発表する。経過発表後は、より質の高い論文作成に向け、研究計画を再考する。
第16週	研究の実施と報告	各自が研究計画に基づいて研究を実施するとともに、フィールドで得たデータを分析した結果について発表し、全体でディスカッションを行う。
第17週	研究の実施と報告	各自が研究計画に基づいて研究を実施するとともに、フィールドで得たデータを分析した結果について発表し、全体でディスカッションを行う。
第18週	研究の実施と報告	各自が研究計画に基づいて研究を実施するとともに、フィールドで得たデータを分析した結果について発表し、全体でディスカッションを行う。
第19週	研究の実施と報告	各自が研究計画に基づいて研究を実施するとともに、フィールドで得たデータを分析した結果について発表し、全体でディスカッションを行う。
第20週	研究の実施と報告	各自が研究計画に基づいて研究を実施するとともに、フィールドで得たデータを分析した結果について発表し、全体でディスカッションを行う。
第21週	研究の実施と報告	各自が研究計画に基づいて研究を実施するとともに、フィールドで得たデータを分析した結果について発表し、全体でディスカッションを行う。
第22週	研究の実施と報告	各自が研究計画に基づいて研究を実施するとともに、フィールドで得たデータを分析した結果について発表し、全体でディスカッションを行う。
第23週	研究の実施と報告	各自が研究計画に基づいて研究を実施するとともに、フィールドで得たデータを分析した結果について発表し、全体でディスカッションを行う。
第24週	論文の作成とプレゼンテーション	各自で研究結果を論文にまとめる経過を報告し、全体でディスカッションを行う。さらに研究成果発表会で質の高いプレゼンテーションを行えるよう準備する。
第25週	論文の作成とプレゼンテーション	各自で研究結果を論文にまとめる経過を報告し、全体でディスカッションを行う。さらに研究成果発表会で質の高いプレゼンテーションを行えるよう準備する。
第26週	論文の作成とプレゼンテーション	各自で研究結果を論文にまとめる経過を報告し、全体でディスカッションを行う。さらに研究成果発表会で質の高いプレゼンテーションを行えるよう準備する。
第27週	論文の作成とプレゼンテーション	各自で研究結果を論文にまとめる経過を報告し、全体でディスカッションを行う。さらに研究成果発表会で質の高いプレゼンテーションを行えるよう準備する。
第28週	論文の作成とプレゼンテーション	各自で研究結果を論文にまとめる経過を報告し、全体でディスカッションを行う。さらに研究成果発表会で質の高いプレゼンテーションを行えるよう準備する。
第29週	論文の作成とプレゼンテーション	各自で研究結果を論文にまとめる経過を報告し、全体でディスカッションを行う。さらに研究成果発表会で質の高いプレゼンテーションを行えるよう準備する。
第30週	論文の作成とプレゼンテーション	各自で研究結果を論文にまとめる経過を報告し、全体でディスカッションを行う。さらに研究成果発表会で質の高いプレゼンテーションを行えるよう準備する。

授業科目	幼稚園実習						
担当教員	大澤 亜里／清和 友美	配当年次	1年生	開講期	前期集中	単位数	3
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MC-MS 1604			ワケマド科目	
授業概要							
主に札幌市立幼稚園において実習を行い、本科での学びや経験を通して築いた保育観をさらに深めます。実習は8月後半から9月前半までの3週間行い、その内容は実習園に委ねます。事前指導では、札幌市立幼稚園の特色（自由保育の保育形態や障害児の積極的な受け入れなど）について学び、そこでの教師の保育観や子ども観、教育課程や指導計画、環境構成等について実習を通して学び取ることができるように準備をします。実習後は自身の課題の整理や考察を行います。この科目は、実習を中心に位置づけている実践的教育を行っています。							
到達目標							
① 子どもの自発性を引き出す教師の関わり方について自分の意見を述べるができる。 ② チーム保育の在り方について自分の意見を述べるができる。 ③ 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本がどのように実践されているか理解し、説明することができる。 ④ 自身の課題を発見し、その解決に向けての道筋を立てることができる。							
学科のディプロマ・ポリシー							
1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。 2. 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門知識を修得している。 3. 協調性：社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。 4. 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。 5. 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。							
成績評価方法・基準							
内容	割合 (%)	内容	割合 (%)				
実習園の評価	50%						
実習日誌	25%						
実習報告書・報告会への参加	25%						
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
「なし。授業内で適宜、資料を配布します。」							
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
本科での実習の振り返りや事前指導から自己の課題を明確にして実習に臨んでください。また実習後はその課題に				2時間から3時間程度/週 対する反省を行ってください。			
受講時の注意事項							
授業計画の実施に当たっては、幼児教育課程特論との連携で実施します（事前事後指導について）。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習の要素を含む授業です。							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	事前指導	札幌市立幼稚園の特色と実習の心得について学ぶ。
第2週	実習園との事前打ち合わせ	実習園と調整のうえ事前に訪問し、実習内容や準備物等について知る。
第3週	見学・観察・参加実習	実習園の指導のもと以下の実習を行う。 ① 実習園の人的環境、物的環境、地域環境などを把握する。 ② 観察、参加、記録、反省を通して、子ども理解や教師の関わり方について実習する。
第4週	部分実習・全日実習	① 担当教諭の指導のもとに指導計画を作成し指導実習を行う ② 保育後は指導計画に沿った評価・反省をし、記録をとる ③ その他各実習園の指導に従い必要な活動を行う
第5週	保育科教員による研究保育日の巡回指導	研究保育日の日に教員の巡回指導を受ける。
第6週	事後指導	実習報告書を作成し、自身の課題を整理する。 実習報告会に参加する。
第7週		
第8週		
第9週		
第10週		
第11週		
第12週		
第13週		
第14週		
第15週		
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	保育所実習						
担当教員	大澤 亜里/清和 友美	配当年次	1年生	開講期	後期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MC-MS 1601			ワケマド 科目	
授業概要							
<p>保育所にて実習を行い、これまで学んだ保育の理論が実際の子どもの関わりや保育者との関わりを通して、より理解を深めます。実習園との調整により2月に10日間行い、その内容は実習園にゆだねます。事前指導では保育所・認定こども園の目的や役割について、また保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領について理解を深めます。またこれまでの実習を踏まえて自身の実習課題を決め、実習に向け準備をします。実習後は自身の課題の整理や考察を行います。この科目は、実習を中心に位置づけている実践的教育を行っています。</p>							
到達目標							
<p>① 保育所や認定こども園の役割について説明できる。      ② 実習計画、課題を明確にし、説明できる。      ③ 保育者の役割を理解し、自分なりに実践することができる。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。      2. 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。      ○ 3. 協調性：社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。      4. 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。      5. 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容	割合 (%)	内容	割合 (%)				
実習園の評価	50%						
実習日誌	25%						
実習報告書の作成	25%						
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
「なし。授業内で適宜、資料を配布します。」							
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
本科での実習の振り返りや事前指導から自己の課題を明確にして実習に臨んでください。また実習後はその課題に				2時間から3時間程度/週 対する反省を行ってください。			
受講時の注意事項							
各自で実習課題を立て、実習園の保育方針に合わせて検討を行っていきます。選択する学生は実習に対する目的意識を持って準備してください。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習の要素を含む授業です。							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	事前指導	保育所・認定こども園の目的と役割について学ぶ。 保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領について学ぶ。 これまでの実習の評価・反省をし、自らの実習課題を決める。
第2週	実習園との事前打ち合わせ	実習園と日程を調整し事前に訪問し、実習内容や準備物等について知る。
第3週	観察・参加実習	実習園の指導のもと、以下の実習を行う。 ① 実習園の人的環境、物的環境、地域環境などを把握する。 ② 観察、参加、記録、反省を通して、子ども理解や教師の関わり方について実習する。
第4週	指導実習	① 担当教諭の指導のもとに指導計画を作成し指導実習を行う。 ② 保育後は指導計画に沿った評価・反省をし、記録をとる。 ③ その他各実習園の指導に従い必要な活動を行う。
第5週	保育科教員による巡回指導	実習期間中に保育科教員による巡回指導を受ける。
第6週	事後指導	実習報告書を作成し、課題の整理を行う。 実習報告会に参加する。
第7週		
第8週		
第9週		
第10週		
第11週		
第12週		
第13週		
第14週		
第15週		
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	施設実習						
担当教員	清和 友美/遠山 景広	配当年次	1 年生	開講期	後期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MC-MS 1602			ワケマド 科目	
授業概要							
<p>本科での保育実習や関連科目で学習した知識と経験を活かし、さらなる実践力を磨くことを目的とします。受講生は各自、実習における課題を事前指導の中で設定し、課題に基づいて実習に取り組みます。そして、実習課題に基づいた実践と結果の関連性を考察し、自分の実践の意味をより深く考えることで、実践力を向上させることを目指します。この科目は、実習を中心に位置づけている実践的教育を行っています。</p>							
到達目標							
<p>① 課題を踏まえた実習を通して、自己の実践の意味に関してより深く理解する      ② 利用者個々のニーズに応じた援助方法について実践を通してより深く理解する      ③ 課題を踏まえた実習を通して、保育者としての自己の課題をより明確化する</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。      2. 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門知識を修得している。      3. 協調性：社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。      4. 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。      5. 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
実習園の評価		50%					
実習日誌		25%					
実習報告書		25%					
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
『なし。授業内で適宜、資料を配付します』							
参考書等							
なし。授業内で指示します							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
本科での実習の振り返りを通して、さらに学びたい課題を明確にして、事前指導及び実習に臨むようにしてください				2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
各自で実習課題を立案し、実習施設の形態に合わせて検討を行います。選択する学生は実習に対する目的意識を持つようになしてください							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習の要素を含む授業です。							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	1. 事前指導 本科実習の振り返りと施設の概要	これまでの実習を振り返り自己評価を行いつつ、実習を行う施設の概要について学ぶ
第2週	1. 事前指導 実習課題の設定	自己評価の中で特に今回の実習で重視したい課題について整理し、その課題にかかわる学びを深める
第3週	1. 事前指導 実習計画書の作成と検討①	実習計画書の作成方法を確認し、計画書の作成準備を行う
第4週	1. 事前指導 実習計画書の作成と検討②	自己評価と課題、実習計画作成の注意点を踏まえ、実習計画書を作成する
第5週	2. 事前打ち合わせ①	事前打ち合わせの際に確認が必要となる内容、注意事項を確認する
第6週	2. 事前打ち合わせ②	確認した内容を踏まえて打ち合わせを行い、実習の具体的なイメージを作り実習に臨む準備を進める
第7週	3. 実習内容 1) 見学・観察・参加実習①	実習施設の人的環境、物的環境、地域環境を知る
第8週	3. 実習内容 1) 見学・観察・参加実習②	利用者の一日の生活の流れを知り、利用者の活動と職員の援助を観察する
第9週	3. 実習内容 1) 見学・観察・参加実習③	実習担当職員の指導を受けながら、利用者との活動を共にし、利用者へ援助補助をする
第10週	3. 実習内容 2) 援助実習①	担当職員の指導を受けながら、実習施設の援助計画に合わせて実習する
第11週	3. 実習内容 2) 援助実習②	各自課題を設定し、援助計画を立てて実習する
第12週	3. 実習内容 2) 援助実習③	その他、利用者との活動や生活上必要となる援助について学び、職員とともに必要な活動を行う
第13週	4. 事後指導①	実習前に設定した課題について確認し、達成状況や反省点を整理する
第14週	4. 事後指導②	実習を通して得られた課題を整理し、今後保育者としてどのように活かすか、改善したいかを考える
第15週	4. 事後指導③	実習報告会に参加し、課題や解決方法について意見交換を通して課題を多角的に理解し、解決方法の検討を行う
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	仏教思想史特論Ⅰ						
担当教員	宮本 浩尊	配当年次	1年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MC-IE 1101			ワケマド科目	
授業概要							
日本は東アジアに位置する島国として、古くから中国文化圏の中で発展してきました。中国から輸入した数多くの文物のひとつに仏教があり日本人の精神史・文化史の形成に際して最も大きな影響を与えました。この授業では、仏教の思想と、歴史的な展開について詳しく学ぶことを通して、私たちが住む日本の文化の基底にあるものに触れることを目指します。							
到達目標							
①古典を読むことを通して、人類の叢智に触れることができる。 ②仏教思想の内容と、仏教がどのように伝播していったのかを知ることができる。 ③「情操教育」についての知見を持つことができる。							
学科のディプロマ・ポリシー							
○ 1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。 2. 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。 3. 協調性：社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。 4. 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。 5. 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
平常点（出席・課題の提出等）		50%					
授業内試験		50%					
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
『仏教入門』	高崎直道	東京大学出版会	1983	978-4-13-013011-0			
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無						実務経験あり	
この科目は、真宗大谷派僧侶として実務経験のある教員が実践的教育を行っています。							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
講義ノートの内容を整理して、復習ノートを作成する。				2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
考える姿勢を身につける。単に「わからない」で終わらせるのではなく、「何がわからないのか」を考える習慣を身につけ、それを表現できるようにしてほしい。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業内容、目的、計画、評価方法の確認等。
第2週	仏教とは何か（1）	仏教という思想の特徴について講義する。
第3週	仏教とは何か（2）	仏教という思想の特徴について講義する。
第4週	ブッダの生涯（1）	仏教の開祖ブッダの生涯について講義する。
第5週	ブッダの生涯（2）	仏教の開祖ブッダの生涯について講義する。
第6週	ブッダの生涯（3）	仏教の開祖ブッダの生涯について講義する。
第7週	仏の本質（1）	「ブッダ」という言葉が意味するものについて講義する。
第8週	仏の本質（2）	「ブッダ」という言葉が意味するものについて講義する。
第9週	法について（1）	仏教の特徴的な思想について講義する。
第10週	法について（2）	仏教の特徴的な思想について講義する。
第11週	法について（3）	仏教の特徴的な思想について講義する。
第12週	存在について（1）	仏教が人間存在をどのように扱うのかについて講義する。
第13週	存在について（2）	仏教が人間存在をどのように扱うのかについて講義する。
第14週	存在について（3）	仏教が人間存在をどのように扱うのかについて講義する。
第15週	まとめと授業内試験	講義のまとめを行い、授業内試験を行う。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	仏教思想史特論Ⅱ						
担当教員	宮本 浩尊	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MC-IE 1102			ワケマド科目	
授業概要							
この授業では、「仏教思想史特論Ⅰ」から継続して仏教思想について学びます。日本では東アジアに位置する島国として、古くから中国文化圏の中で発展してきました。中国から輸入した数多くの文物のひとつに仏教があり、それは日本人の精神史・文化史の形成に際して最も大きな影響を与えました。この授業では、仏教の思想と、歴史的な展開について詳しく学ぶことを通じて、私たちが住む日本の文化の基底にあるものに触れることを目指します。							
到達目標							
①古典を読むことを通じて、人類の叡智に触れることができる。 ②仏教思想の内容と、仏教がどのように伝播していったのかを知ることができる。 ③「情操教育」についての知見を持つことができる。							
学科のディプロマ・ポリシー							
○ 1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。 2. 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。 3. 協調性：社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。 4. 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。 5. 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
平常点（出席・課題の提出等）		50%					
授業内試験		50%					
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
『仏教入門』	高崎源通	東京大学出版会	1983	978-4-13-01311-0			
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験あり			
この科目は、真宗大谷派僧侶として実務経験のある教員が実践的教育を行っています。							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
講義ノートの内容を整理して、復習ノートを作成する。				2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
講義の内容が「仏教思想史特論Ⅰ」から継続したものであるため、この授業を受講する学生は必ず「仏教思想史特論Ⅰ」を併せて受講すること。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業内容、目的、計画、評価方法の確認等を行う。
第2週	輪廻・業・煩惱（1）	仏教の死生観について講義する。
第3週	輪廻・業・煩惱（2）	仏教の死生観について講義する。
第4週	悟りへの道（1）	仏教における救済論について講義する。
第5週	悟りへの道（2）	仏教における救済論について講義する。
第6週	悟りへの道（3）	仏教における救済論について講義する。
第7週	悟りへの道（4）	仏教における救済論について講義する。
第8週	心について（1）	仏教が人間の心をどのように捉えているかについて講義する。
第9週	心について（2）	仏教が人間の心をどのように捉えているかについて講義する。
第10週	理想的存在（1）	仏教における理想像について講義する。
第11週	理想的存在（2）	仏教における理想像について講義する。
第12週	戒律と組織（1）	仏教の規則と組織論について講義する。
第13週	戒律と組織（2）	仏教の規則と組織論について講義する。
第14週	戒律と組織（3）	仏教の規則と組織論について講義する。
第15週	まとめと授業内試験	講義のまとめを行い、授業内試験を実施する。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		



授業科目	実用英語						
担当教員	サイモンズ クリストファー	配当年次	1年生	開講期	通年	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MC-IE 1201			ワケマド科目	
授業概要							
基本語彙や表現を復習しながら、日常生活で必要とされる英語の語彙・表現とそれを扱う英語文化圏の背景を学習する。自己表現力の幅を広げ、基本的な表現をアウトプットできるように英語の4技能全般に渡り授業を展開する。							
到達目標							
① 日常生活に関する基本的な語彙・表現を使って簡単な英会話ができる。 ② 英語を繰り返し練習し、正確な発音、イントネーションなどを身につけることができる。 ③ 児童向けの絵本や歌に親しみ、英語圏の社会や文化の理解を深めることができる。							
学科のディプロマ・ポリシー							
○	1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。						
	2. 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。						
	3. 協調性：社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。						
	4. 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。						
	5. 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。						
成績評価方法・基準							
	内容	割合 (%)		内容		割合 (%)	
	試験	40					
	小テスト	20					
	グループ活動	20					
	授業参加度	20					
教科書・ソフト等							
	書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
	『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』						
参考書等							
Kazuko Morita 『新 保育の英語』 SANSYUSHA 2018. 2. 10 第3版 アルクキッズ英語編集部編 『英語の歌&アクティビティ集』 アルク 2005年							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無				実務経験なし			
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
配布された教材をもとに、重要事項と表現を何度も反復すること。				2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
辞書（辞書アプリ可）を持参してください。グループ活動のフィードバックは前後期のまとめ時間に行う。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション、ホームステイ初日① 理解&実践	挨拶をする
第2週	ホームステイ初日② 演習&応用	自己紹介をする
第3週	キャンパスで① 理解&実践	感想を言う
第4週	キャンパスで② 演習&応用	道を探る
第5週	カフェで① 理解&実践	注文をする
第6週	カフェで② 演習&応用	勤める
第7週	ベンチで① 理解&実践	お願いする
第8週	ベンチで② 演習&応用	丁寧な依頼をする
第9週	街で① 理解&実践	場所を説明する
第10週	街で②演習&応用	所要時間を聞く
第11週	授業の前に① 理解&実践	人を描写する
第12週	授業の前に② 演習&応用	出来事を話す
第13週	体調が悪い日① 理解&実践	体調を言う
第14週	体調が悪い日② 演習&応用	回復の助言をする
第15週	前期のまとめと到達度チェック	
第16週	オリエンテーション、インターネットを調べて① 理解&実践	誘う
第17週	インターネットを調べて② 演習&応用	誘いを受ける
第18週	食料品店で① 理解&実践	誘いを断る
第19週	食料品店で② 演習&応用	料理を説明する
第20週	週末の予定① 理解&実践	聞きなおす
第21週	週末の予定② 演習&応用	丁寧に尋ねる
第22週	独立記念日に① 理解&実践	予定を尋ねる
第23週	独立記念日に② 演習&応用	予定を述べる
第24週	広場で① 理解&実践	提案をする
第25週	広場で② 演習&応用	覚えていないことを言う
第26週	二人きりで① 理解&実践	会話を切り出す
第27週	二人きりで② 演習&応用	どちらが好きかを言う
第28週	帰国の日① 理解&実践	確かめる
第29週	帰国の日② 演習&応用	今していることを述べる
第30週	後期のまとめと到達度チェック	

授業科目		情報処理演習					
担当教員	常見 裕子	配当年次	1 年生	開講期	通年	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MC-IE 1202			ワデマド科目	
授業概要							
短期大学部保育科共通科目である「情報処理」の応用授業。Wordの応用演習の他、「Microsoft Excel」の基礎から応用、さらにはWordやExcelで作成した文書やデータを元に「Microsoft PowerPoint」でのプレゼンテーションなどを学習する。また、それぞれのソフトの操作方法を理解するだけではなく、学習したソフトを1つのツールとして活用し、調べたこと、自分の考えを表現することができるようになることを目標としている。							
到達目標							
① 文書デザイン上級資格取得を目指す。 ② Excel表計算検定試験取得を目指す。 ③ 卒業論文に必要なパソコンの知識（Excelでのデータ統計、PowerPointでの発表など）を習得する。							
学科のディプロマ・ポリシー							
○ 1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。 2. 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門知識を修得している。 3. 協調性：社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。 4. 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。 5. 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
平常点		30%					
課題提出		50%					
検定試験結果（またはその取り組み姿勢）		20%					
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
『初歩から実用まで 100題で学ぶ表計算（第4版）』		森 夏樹・常見 ひろこ	日経BP社				
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無						実務経験あり	
会社や学校教務事務でのPC業務（Officeソフトを使用して様々な文書作成、会計ソフトの使用など） 幼稚園教諭対象のPCセミナーなど担当経験有り 幼稚園教諭からの依頼により様々な文書作成業務、アンケート集計、作成のための指導など							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
基本操作でわからないことがあれば復習しておく。授業後、新しく学習したことを復習し、理解を深める。 入力速度をあげるため、タイピング練習（ブラインドタッチ）を継続練習する。				2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
短期大学部保育科共通科目である「情報処理」で学習した「Microsoft Word」の基本操作が概ね理解できていることを前提としています							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション Word機能の確認と練習課題①	短大1年次「情報処理」の復習を兼ね、Word機能を確認しながら練習課題を作成
第2週	Word機能の確認と練習課題②	短大1年次「情報処理」の復習を兼ね、Word機能を確認しながら練習課題を作成
第3週	Word機能の確認と練習課題③	短大1年次「情報処理」の復習を兼ね、Word機能を確認しながら練習課題を作成
第4週	レポート・論文などで必要な様々な機能学習	ページ設定とヘッダーフッターなどの知識（ページ番号の挿入）、スタイルの設定など
第5週	ビジネス文書作成①	ビジネス文書（社外文書と社内文書）のレイアウトと作成のポイント
第6週	ビジネス文書作成②	地図入りビジネス文書の作成
第7週	文書デザイン検定試験対策①	検定試験問題を使用して課題作成 画像処理、図形機能など
第8週	文書デザイン検定試験対策②	検定試験問題を使用して課題作成 ドロップキャップ、行間変更、ワードアートなど
第9週	文書デザイン検定試験対策③	検定試験問題を使用して課題作成 レイアウトのとりかたなど
第10週	ビジネスメールについて	ビジネスメールのマナーと形式 PDFファイル変換など
第11週	Power Pointでプレゼンテーション①	Power Pointの基本操作について
第12週	Power Pointでプレゼンテーション②	プレゼンテーションとは？ プレゼンテーションでの注意事項など
第13週	Power Pointでプレゼンテーション③	テーマに従いプレゼンテーションをするための画面を作成
第14週	Excelの基本操作①	Excelの画面構成について 四則演算と簡単な関数
第15週	Excelの基本操作②	書式設定と行列の作成
第16週	Excelの基本操作③	ふりがな機能、絶対参照と相対参照
第17週	Excelの関数Ⅱ	数学関数、絶対参照を使用した関数など
第18週	データベース機能①	並べ替え、抽出
第19週	データベース機能②	抽出の応用 ピックデータを使用しての抽出など
第20週	Excelの関数Ⅲ	IF、VLOOKUP関数他
第21週	グラフの作成	グラフの種類と用途について 棒グラフ・折れ線グラフ・円グラフの作成
第22週	データベース集計①	COUNTIF、SUMIF、データベース関数を使用して集計表を作成
第23週	データベース集計②	ピボットテーブル
第24週	データベース集計③	課題を使用して総合練習 EXCELの印刷設定など
第25週	Word & Excel 複合文書作成①	幼稚園名簿から様々な集計表を作成→Wordで報告書を作成
第26週	Word & Excel 複合文書作成②	課題を使用して総合練習
第27週	実務練習課題と検定試験対策①	検定試験問題を使用して総合的な復習
第28週	実務練習課題と検定試験対策②	検定試験問題を使用して総合的な復習
第29週	実務練習課題と検定試験対策③	検定試験問題を使用して総合的な復習
第30週	実務練習課題と検定試験対策④	検定試験問題を使用して総合的な復習

授業科目	職業論						
担当教員	藪 淳一	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MC-IE 2202			ワケマド科目	
授業概要							
<p>最近の若い保育者は、「社会人としての自覚が欠けている」と指摘されることが少なくありません。学生と社会人の違いは何だろうか。「働く」とはどういうことだろうか？このようなテーマを常に問い続けながら、幼稚園・保育所・認定こども園等の労働条件や勤務実態について学ぶと同時に、職場での実践力を身につけます。また、保育者としての生き方を設計し、社会人に向けた準備を整えることを目的とします。</p>							
到達目標							
<p>① 「働くこと」について考え、保育という専門職に対する視野を広げる。          ② 「社会人になること」への意識を高め、就業力を向上させる。          ③ 社会人として適切なふるまいができる。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>○ 1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。          2. 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。          3. 協調性：社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。          4. 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。          5. 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
授業内試験		30%					
授業課題		30%					
授業内での発言		20%					
授業への態度		20%					
教科書・ソフト等							
書籍名		著者名	出版社	出版年	ISBN	備考	
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』							
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無						実務経験あり	
この科目は、幼稚園理事・園長として実務経験のある教員が実践的教育を行います。							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容				予習・復習に必要な時間			
何事においても、「考える」習慣を身につけておくこと。幼稚園や保育所の実態、保育者の仕事内容について、積極的に情報収集すること。				2時間から3時間程度/週			
受講時の注意事項							
主に対話型の授業を行います。思いや考えを伝え合い、課題を解決していくプロセスを大切にしますので、主体的に授業に参加してください。							
アクティブ・ラーニング情報							
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるディスカッションの要素を含む授業です。							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業全体の概要について説明します。
第2週	自分を知る	進路選択に向けて自己理解を深めます。
第3週	働くことの意味と価値観	働くことの意味について考えます。
第4週	プロフェッショナル	動画を見ながら、プロフェッショナルについて考えます。
第5週	労働時間と賃金	労働基準法に定められている労働時間や、給与の仕組み等について学びます。
第6週	コミュニケーション	保育の仕事に特化してコミュニケーションスキルを高めます。
第7週	マナーと言葉づかい	社会人として必要なマナーや敬語について、実践を行います。
第8週	チームワークとリーダーシップ	グループワークを通して、チームワークにおける自分の役割を考えます。
第9週	問題解決能力と論理的思考力	ロジカルシンキングを中心に、問題を解決する方法を学びます。
第10週	学外授業（園見学）	教員が園長を務める幼稚園を見学し、就職への意識や保育者になることへの意欲を高めます。
第11週	保育の魅力	保育者という仕事の魅力について整理します。
第12週	就職活動の現状と採用試験	就職活動の現状や採用試験の実態について学び、就職活動に向けて何をすべきか考えます。
第13週	キャリアデザイン	職業を中心に人生設計をします。
第14週	進路選択に向けて	進路選択に向けて、自分の軸を探します。
第15週	授業内試験（筆記）とまとめ	筆記試験を行います。また、授業全体を振り返ります。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	仏教文化史						
担当教員	宮本 浩尊	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MC-IE 2101			ワケマド科目	
授業概要							
<p>文化を構成する要素に「ことば」があります。「ことば」は、他者と意思疎通するために必須の道具ですが、使い方を誤れば争いの原因にもなる語彙の剣です。仏教は、その最初期から「ことば」を大切に扱ってきました。仏教はインドで誕生した宗教ですが、アジア各地の文化形成に強い影響を与えました。このことは仏教の思想が、地域性、時代性、そして「ことば」の壁を超えて、人間にとって大切なことを伝える思想であることを証明しています。この授業では、「ことば」という概念を手がかりとして仏教思想を学び、「ことば」の持つ可能性を考えます。</p>							
到達目標							
<p>① 古典を読むことを通して、人類の叡智に触れることができる。      ② 仏教思想の内容と、仏教の伝播について知ることができる。      ③ 「情操教育」についての知見を持つことができる。</p>							
学科のディプロマ・ポリシー							
<p>○ 1. 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。      2. 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門知識を修得している。      3. 協調性：社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。      4. 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。      5. 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。</p>							
成績評価方法・基準							
内容		割合 (%)	内容		割合 (%)		
平常点（出席・課題の提出等）		50%					
授業内試験		50%					
教科書・ソフト等							
書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考		
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』							
参考書等							
なし。授業内で指示します。							
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無					実務経験あり		
この科目は、真宗大谷派僧侶として実務経験のある教員が実践的教育を行っています。							
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間							
予習・復習の具体的な内容					予習・復習に必要な時間		
講義ノートの内容を整理して、復習ノートを作成する。					2時間から3時間程度/週		
受講時の注意事項							
考える姿勢を身につける。単に「わからない」で終わらせるのではなく、「何がわからないのか」を考える習慣を身につけ、それを表現できるようにしてほしい。							
アクティブ・ラーニング情報							
備考							

授業計画		
回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業内容、目的、計画、評価方法の確認等を行う。
第2週	釈尊の生涯と思想①	釈尊の生涯と思想の概要を講義する。
第3週	釈尊の生涯と思想②	釈尊の生涯と思想の概要を講義する。
第4週	経典を読む①	経典の現代語訳を読むことによって釈尊の言葉に直接的に触れる。
第5週	経典を読む②	経典の現代語訳を読むことによって釈尊の言葉に直接的に触れる。
第6週	経典を読む③	経典の現代語訳を読むことによって釈尊の言葉に直接的に触れる。
第7週	経典を読む④	経典の現代語訳を読むことによって釈尊の言葉に直接的に触れる。
第8週	経典を読む⑤	経典の現代語訳を読むことによって釈尊の言葉に直接的に触れる。
第9週	親鸞の生涯と思想	親鸞の生涯と思想の概要を講義する。
第10週	親鸞の著作を読む①	『歎異抄』を読むことによって親鸞の言葉に直接的に触れる。
第11週	親鸞の著作を読む②	『歎異抄』を読むことによって親鸞の言葉に直接的に触れる。
第12週	親鸞の著作を読む③	『歎異抄』を読むことによって親鸞の言葉に直接的に触れる。
第13週	親鸞の著作を読む④	『歎異抄』を読むことによって親鸞の言葉に直接的に触れる。
第14週	親鸞の著作を読む⑤	『歎異抄』を読むことによって親鸞の言葉に直接的に触れる。
第15週	まとめと授業内試験	講義のまとめを行い、授業内試験を行う。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		